S-Class

取扱説明書

表記と記載内容について

マーク	内容
*	オプションや仕様により異なる装備には * マークが付いています。
⚠	**警告** 重大事故や命にかかわるけがを未然に防ぐために必ず守っていただきたいことです。
	環境 環境保護のためのアドバイスや守っていただきたいことです。
!	**注意** けがや事故、車の損傷を未然に防ぐため、必ず守っていただきたいことです。
i	**知識** 知っていると便利なことや、知っておいていただきたいことです。
▶	操作手順などを示しています。
(▷ ページ)	関連する内容が他のページにもあることを示しています。

お客様へ

このたびはメルセデス・ベンツ車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書は、車の取り扱い方法をはじめ、機能を十分に発揮させるための情報や、危険な状況を回避するための情報、万一のときの処置などを記載しています。

S クラス HYBRID ロングについては、必ず別冊「S-Class HYBRID long 取扱説明書 補足版」をご覧ください。

車をご使用になる前に、本書を必ずお読みください。

- 取扱説明書は、いつでも読めるように必ず車内に保管してください。
- この取扱説明書には、日本仕様とは異なる記述やイラスト、操作方法などが含まれている場合があります。
- 表紙の画像はイメージであり、日本仕様とは異なる場合があります。
- この取扱説明書には、日本仕様には設定されない装備の記述が含まれている場合があります。
- この取扱説明書には、走行速度が100km/h を超えたときの車両機能や状態についての記述がありますが、公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。
- 装備や仕様の違いなどにより、一部の記述やイラストが、お買い上げいただいた車とは異なることがあります。
- スイッチなどの形状や装備、操作方法などは予告なく変更されることがあります。
- オーディオやナビゲーションに関しては、別冊の「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。
- 車を次のオーナーにお譲りになる場合は、車と一緒にすべての取扱説明書と整備手帳をお渡しください。
- ご不明な点は、お買い上げの販売店またはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ メルセデス･ベンツ日本㈱ 公式サイト
http://www.mercedes-benz.co.jp/

メルセデス・ベンツ日本株式会社

ア

カ

サ

タ

ナ

ハ

マ

ヤ

ラ

ワ

A

B

C

E

N

P

S

V

数字

環境保護について

Daimler AG では、大気汚染の抑制、資源の有効利用をはじめとする環境保護対策に取り組んでいます。環境保護のため、お車をご使用になるときは以下の点にご協力ください。

- 短距離短時間の走行を控えることで、燃料の余分な消費を抑えられます。
- タイヤの空気圧が適正であることを確認してください。
- 停車したままの暖機運転は必要ありません。
- 急発進や急加速は避けてください。
- エンジン回転数がその車の許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- 不必要な荷物を載せたままにしないでください。
- スキーラックやルーフラックが必要でないときは、車から取り外してください。
- 長時間の停車時は、エンジンを停止してください。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場で適切な時期に点検整備を受けてください。
- エンジン始動後は、アクセルペダルを踏み込まないでください。
- 慎重に運転をし、前車との車間距離を適切に保ってください。

環 境

Daimler AG は、資源を有効活用するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

安全のために

⚠ 警 告

S クラス HYBRID/HYBRID ロングについては、必ず別冊「S-Class HYBRID/HYBRID long 取扱説明書 補足版」をご覧ください。

セレクターレバーを操作するときの注意

右ハンドル車

セレクターレバーの位置

オートマチックトランスミッションのセレクターレバーは、センターコンソールではなく、ステアリングの右側にあります。

セレクターレバーの操作方法

方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こすおそれがあります。

また、センターコンソールにセレクターレバーがある車両と比べると、セレクターレバーの操作方法が大きく異なります。詳しくは（▷188 ページ）をご覧ください。

レーダーセンサーシステム * 操作時の注意

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。詳しくは（▷478 ページ）をご覧ください。

警告ラベル

車両には警告ラベルが貼付されています。警告ラベルには危険な状況を回避するための情報や、車を安全に使用するための情報などが記されています。警告ラベルは絶対にはがさないでください。

診断ソケット

診断ソケットはメルセデス・ベンツ指定サービス工場での診断機器の接続のために装備されています。

診断ソケットに機器を接続すると、排出ガスのモニター情報がリセットされるおそれがあります。これにより、次回の車両検査時に排出ガス基準に適合しなくなることがあります。

⚠ 警告

診断ソケットに機器を接続すると、車両システムの作動に影響を及ぼすおそれがあります。これにより、車両の安全性が損なわれます。また、事故の危険性があります。

診断ソケットには、いかなる機器も接続しないでください。

⚠ 警告

診断機器や機器のケーブルを診断ソケットに接続すると、ペダル操作の障害になります。突然のブレーキ操作やアクセル操作の際に機器やケーブルがペダルの間に挟まることがあります。その結果、ペダルの動きが妨げられ、事故を起こすおそれがあります。

運転席の足元にはいかなる機器やケーブルも接続しないでください。

! エンジンが停止している状態で診断ソケットに機器を接続すると、バッテリーを消耗します。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場

メルセデス・ベンツ指定サービス工場には、車両に適切な作業を行なうために必要な専門知識と専用工具、ならびに設備が備わっています。上記の内容は、特に安全に関わる作業について該当します。

以下の作業については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

- 安全に関わる作業
- 点検および整備
- 修理作業
- 装備などの変更や装着、加工作業
- 電気装備に関わる作業

点検整備は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

保証の適用

車両の操作を行なうときや車両に損傷が発生したときは、必ず本書に記載されている指示に従ってください。指示に従わないで発生した車両の損傷については、保証の対象外になります。

クロージングサポーターについての注意

車種や仕様により、ドアとトランクにはクロージングサポーターが装備されています。

ドアやトランクをロックがかみ合う位置まで閉じると、クロージングサポーターが作動してドアやトランクを自動で閉じます。ドアやトランクを閉じるときは身体を挟まないように注意してください。

詳しくは（▷102 ページ）をご覧ください。

走行する前に

点検と整備

日常点検や定期点検は、使用者自身の責任において実施することが法律で義務付けられています。これらの点検項目については、別冊の「整備手帳」をお読みください。

夏季の取り扱い

- 夏を迎える前にエアコンディショナーの冷媒に不足がないか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- オーバーヒートの予防策として、いつもより頻繁に冷却水量を点検してください。

日ごろの状態と異なるとき

エンジンをかけたとき、いつもと異なる音やにおいを感じたり、駐車していた場所に水やオイルの跡が残っているときは、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ドアを開くと

ドアを開くと、一部の装置が自動的に動き始め、作動音などが聞こえることがありますが、異常ではありません。

タイヤの点検

タイヤの空気圧や溝の深さが十分あり、タイヤに損傷や異常な摩耗がないことを点検してください。タイヤの空気圧が低かったり、損傷したタイヤで走行すると、タイヤが破裂したり、火災が発生するなど、事故を起こすおそれがあります。

運転席足元に注意

- 運転席の足元には、物を置かないでください。ペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。
- フロアマットは純正品のみを正しく使用してください。車に合ったものを使用しないと、ペダル操作ができなくなるおそれがあります。

シートベルトは必ず着用

走行を開始する前に、すべての乗員がシートベルトを着用してください。

車庫内では

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

ウォーミングアップ（暖機運転）

エンジンが冷えているときでも、停車したままでの暖機運転は必要ありません。エンジンの始動後は、急加速を避けて車をウォーミングアップしてください。

荷物を積むとき

- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 車内に荷物を積むときは、動かないように確実に固定してください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 後席ヘッドレストの後方に荷物を置かないでください。急ブレーキ時などに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。
- 鋭い角のあるものは、角の部分に必ずカバーをしてください。
- 荷物をシートのバックレストよりも高く積み上げないでください。

燃えるものは積まない

燃料を入れた容器や可燃性のスプレー缶などを積まないでください。万一のときに引火や爆発のおそれがあります。

子供を乗せるとき

子供にも必ずシートベルトを着用

- 子供であっても、シートベルトを正しく着用し、シートやヘッドレストが正しい位置になっていることを大人が確認してください。正しくシートベルトが着用できない小さな子供は、チャイルドセーフティシートを使用してください。
- 乳児や子供を抱いたり、膝の上に乗せて走行しないでください。急ブレーキ時や事故のとき、大人と車の間に挟まれて重大なけがをするおそれがあります。

小さな子供にはチャイルドセーフティシート

6 歳未満の子供にはチャイルドセーフティシート（▷47 ページ）を使用することが法律で義務付けられています。

子供は後席に

- 子供はできるだけ後席に乗せてください。助手席では、子供の動きが気になったり、子供が運転装置を触れるなど、運転の妨げになることがあります。
- チャイルドセーフティシートは、必ず後席の左右いずれかに装着してください。やむを得ず助手席に装着するときは、車の進行方向に向けてチャイルドセーフティシートを装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストの高さをもっとも高い位置にしてください。

- 子供を助手席に座らせるときは、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にしてヘッドレストの高さをもっとも高い位置にし、正しく座らせてください。エアバッグの作動時に大きな衝撃を受けるおそれがあります。

子供には操作させない

- ドアやドアウインドウは大人が開閉してください。子供が操作すると、身体を挟んだり、けがをするおそれがあります。
- チャイルドプルーフロック（▷56ページ）を活用してください。

ドアウインドウやスライディングルーフ＊の開口部から身体を出さない

子供がドアウインドウやスライディングルーフの開口部から身体を出さないように注意してください。けがをするおそれがあります。

車から離れるとき

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

また、炎天下では車内が高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

オートマチック車の取り扱い

運転する前に、オートマチック車の特性や操作上の注意を理解し、正しく操作してください。

オートマチック車の特性

クリープ現象：エンジンがかかっているとき、シフトポジションが P、N 以外になっていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏み込まなくても車がゆっくり動き出します。これをクリープ現象といいます。

キックダウン：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

エンジンの始動前

- ブレーキペダルは必ず右足で操作してください。不慣れな左足で操作すると、事故を起こすおそれがあります。
- ブレーキペダルを踏み込んだときに、ペダルが一定のところで停止することやペダルの踏みしろの量を確認してください。

エンジンの始動

シフトポジションが P になっていることを確認し、ブレーキペダルを確実に踏んでエンジンを始動します。アクセルペダルを踏む必要はありません。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

- エンジンが適正なアイドリング回転数になっていることを確認してください。
- シフトポジションを D、R にするときは、必ずブレーキペダルを十分に踏み込んでください。
- アクセルペダルを踏んだまま、セレクターレバーを動かさないでください。車が急発進するおそれがあります。
- S 63 AMG、S 65 AMG では、エンジン冷却水が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためエンジン回転数が制限されます。

  エンジンが暖まるまでは、急加速を避けてください。

走行中

- 走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキがまったく効かないため事故につながったり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。
- 滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせると、スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。
- 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。また、安全装備が作動しなくなるおそれがあります。

停車

- 停車中はエンジンの空ぶかしをしないでください。万一、シフトポジションが走行位置になると、車が急発進して事故を起こすおそれがあります。
- 急な上り坂などでは、アクセルペダルの踏み加減によって停止状態を保たないでください。トランスミッションに負担がかかり、過熱や故障の原因になります。
- 完全に停車する前に、シフトポジションを P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

駐車

- 駐車時や車から離れるときは、必ずシフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせて、エンジンを停止してください。
- 後退したあとは、すぐにシフトポジションを P か N にするように心がけてください。R になっていることを忘れてアクセルペダルを踏み込み、車が後退して事故を起こすおそれがあります。

こんなことにも注意

運転するときの注意事項

- 服用後の運転が禁止されている薬や、酒類を飲んだ後は絶対に運転しないでください。
- ペダル操作の妨げになるような靴（厚底靴など）やサンダル履きで運転しないでください。

日射に関する注意事項

- ウインドウなどに吸盤を貼り付けないでください。吸盤がレンズの働きをして、火災が発生するおそれがあります。
- メガネやサングラスを車内に放置しないでください。炎天下では車内が高温になるため、レンズやフレームが変形したり、ひび割れするおそれがあります。

ライターに関する注意事項

- ライターを車内に放置しないでください。炎天下の車内は非常に高温になるため、ライターが発火したり爆発するおそれがあります。
- ライターをグローブボックスや小物入れなどに入れたままにしたり、車内に落としたままにしないでください。

  荷物を押し込んだときやシートを操作したときにライターの操作部に触れてライターが誤作動し、火災が発生するおそれがあります。

給油に関する注意事項

給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

違法改造はしない

- 違法改造はしないでください。違法改造や純正でない部品の使用は、保証の適用外になるだけでなく、事故の原因になります。
- 定期交換部品などは純正品だけを使用して、燃料や油脂類などは指定品を使用してください。
- エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の対象外になります。
- 無線機やオーディオなどの電装品を取り付けたり取り外すときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

自動車電話、携帯電話の使用

運転者は、走行中に自動車電話や携帯電話を使用しないでください。道路交通法違反になります。なお、ハンズフリー機能は使用できますが、注意力が散漫になり事故の原因になります。安全な場所に停車してから使用してください。

COMAND システムの操作

COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

きびしい条件下での運転

発進、停止を繰り返す市街地走行、山間部や路面の悪い道路などきびしい条件下での走行が多いときは、タイヤやエアクリーナー、エンジンオイル、エンジンオイルフィルター類の点検整備や交換を、定期的な交換時期よりも早く行なうことが必要になります。

車両に保存されるデータ

故障データ

車両には、故障時や異常時のデータを保存する機能があります。

保存されたデータは、安全装備などが作動するとき、または故障や異常の原因の特定、車両開発などに使用されます。データを使用して、車両の過去の移動経路を調べることはできません。

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、故障診断機によって読み取られたデータは、使用後に消去されます。

データが保存されるその他の装備

COMAND システムでは、ナビゲーションや電話などでデータを保存したり、編集することができます。詳しくは、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

インストルメントパネル

左ハンドル車

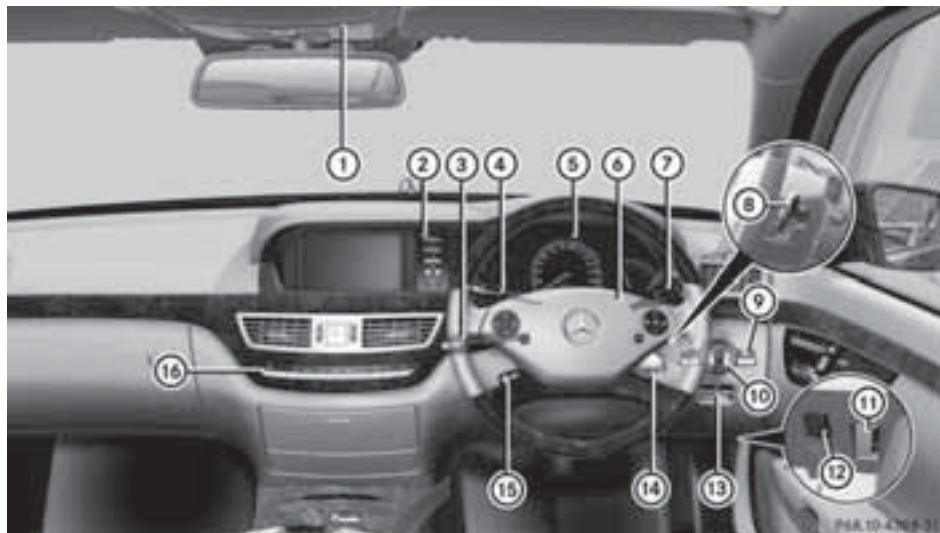
	名称	ページ
①	パドル	193
②	コンビネーションレバー • 方向指示 • ヘッドライト • ワイパー	 149 149 164
③	操作レバー • クルーズコントロール • 可変スピードリミッター • ディストロニック・プラス *	 227 231 234
④	ホーン	
⑤	メーターパネル	199
⑥	セレクターレバー	188

	名称	ページ
⑦	助手席エアバッグオフ表示灯 車高調整スイッチ サスペンションモード選択スイッチ パークトロニックオフスイッチ *	51 249 251 250 252 256
⑧	前席上方の操作部	31
⑨	エアコンディショナーコントロールパネル	283
⑩	エンジンスイッチ キーレスゴースイッチ	109 109
⑪	ステアリング調整レバー ステアリングヒータースイッチ *	128 129

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	名称	ページ
⑫	パーキングブレーキスイッチ	183
⑬	診断ソケット	16
⑭	ボンネットロック解除レバー	344

	名称	ページ
⑮	ナイトビューアシストプラススイッチ *	269
⑯	ライトスイッチ	146

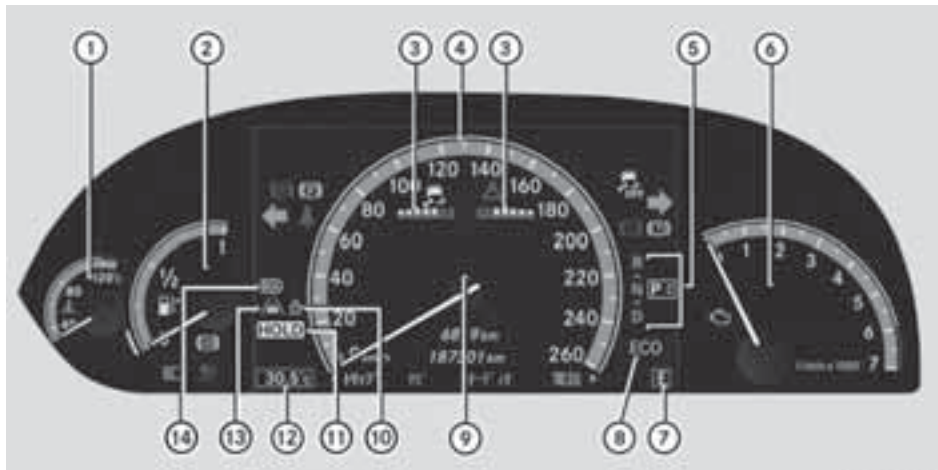
右ハンドル車

	名称	ページ
①	前席上方の操作部	31
②	助手席エアバッグオフ表示灯	51
	車高調整スイッチ	249 251
	サスペンションモード選択スイッチ	250 252
	パークトロニックオフスイッチ *	256

	名称	ページ
③	コンビネーションレバー	
	• 方向指示	149
	• ヘッドライト	149
	• ワイパー	164
④	操作レバー	
	• クルーズコントロール	227
	• 可変スピードリミッター	231
	• ディストロニック・プラス *	234

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	名称	ページ
⑤	メーターパネル	199
⑥	ホーン	
⑦	セレクターレバー	188
⑧	パドル	193
⑨	ナイトビューアシストプラススイッチ *	269
⑩	ライトスイッチ	146
⑪	ボンネットロック解除レバー	344
⑫	診断ソケット	16
⑬	パーキングブレーキスイッチ	183
⑭	エンジンスイッチ	109
	キーレスゴースイッチ	109
⑮	ステアリング調整レバー	128
	ステアリングヒータースイッチ *	129
⑯	エアコンディショナーコントロールパネル	283

* オプションや仕様により、異なる装備です。

メーターパネル

	名称	ページ
①	エンジン冷却水温度計	200
②	燃料計	200
③	パークトロニックインジケーター / 作動表示灯 *	255
④	スピードメーター	200
⑤	シフトポジション表示 ギアレンジ表示 ギア表示	191 194 196
⑥	タコメーター	200
⑦	走行モード表示	192
⑧	ECO インジケーター *	179

	名称	ページ
⑨	マルチファンクションディスプレイ	202
⑩	アテンションアシストインジケーター *	267
⑪	ホールド機能表示灯 PRE-SAFE® ブレーキ表示灯 *	247 66
⑫	外気温度表示	201
⑬	アクティブレーンキーピングアシストインジケーター *	281
⑭	アダプティブハイビームアシストインジケーター	153

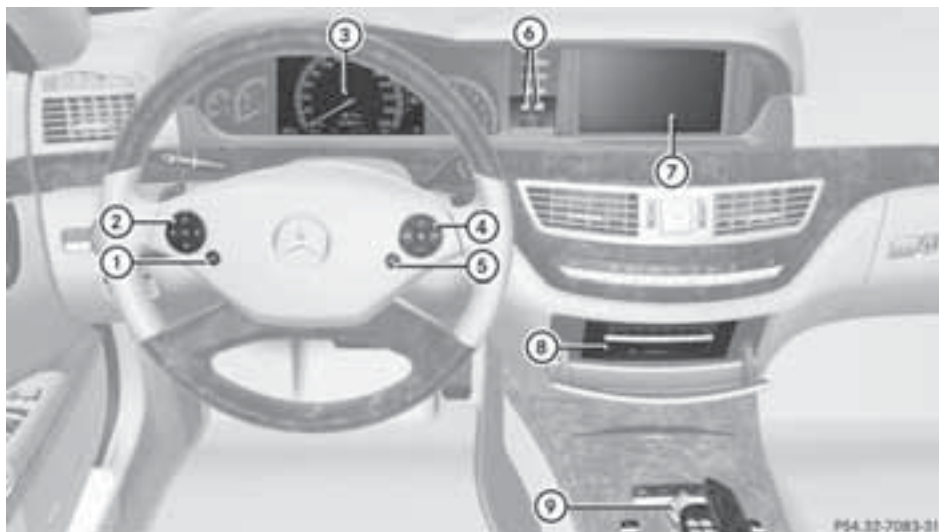
* オプションや仕様により、異なる装備です。

表示灯 / 警告灯

	名称	ページ
①	方向指示表示灯（左）	149
②	パーキングブレーキ表示灯	422
③	パーキングブレーキ警告灯	422
④	シートベルト警告灯	419
⑤	ESP® 表示灯	421 422
⑥	車間距離警告灯	423
⑦	ブレーキ警告灯	420 421
⑧	ESP® オフ表示灯	421 422

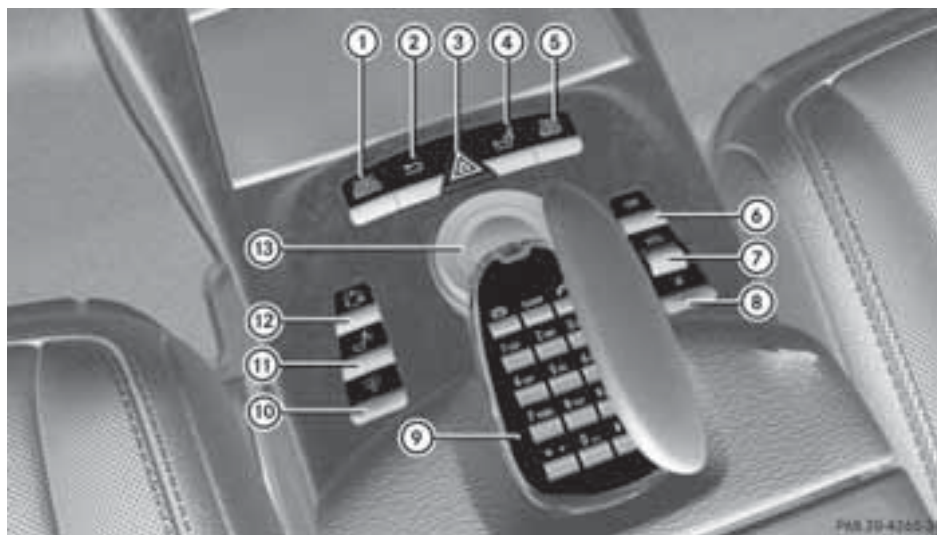
	名称	ページ
⑨	方向指示表示灯（右）	149
⑩	回生ブレーキシステム警告灯	
⑪	エンジン警告灯	423
⑫	ABS 警告灯	420 421
⑬	SRS 警告灯	423
⑭	ハイビーム表示灯	150
⑮	燃料残量警告灯	423

※回生ブレーキシステム ⑩ は S クラス HYBRID のみ機能します。

マルチファンクションディスプレイ /COMAND システム

左ハンドル車

	名称	ページ
①	[⮌] リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ	203
②	スクロールスイッチ	203
	[▲] 上にスクロールする	
	[▼] 下にスクロールする	
	[▶] 右にスクロールする	
	[◀] 左にスクロールする	
	[OK] 確定する	
③	マルチファンクションディスプレイ	202
④	電話 / 音量スイッチ	203
	[受話器] 電話を受信する	
	[受話器] 電話を切断する	
	[＋] 音量を上げる	
	[－] 音量を下げる	
	[消音] 消音する	

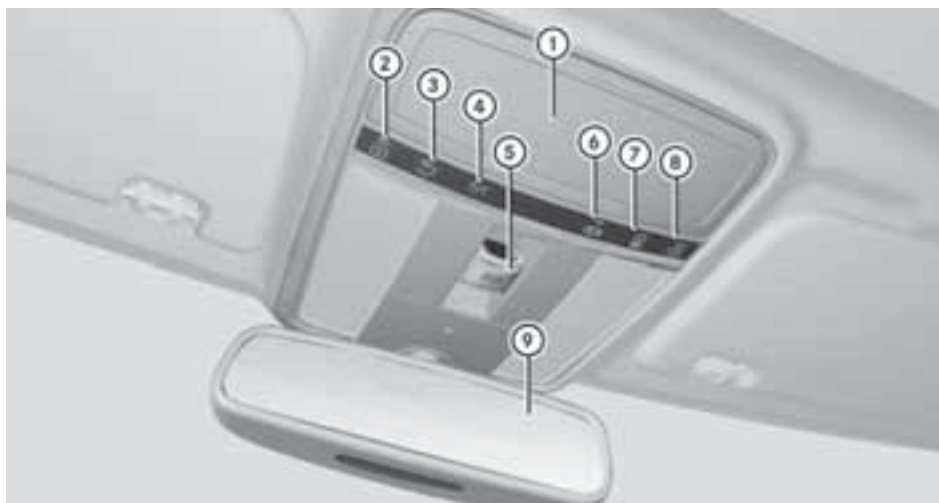
	名称	ページ
⑤	[音声] 音声認識スイッチ	203
⑥	COMAND ディスプレイ角度調整スイッチ	81
	COMAND ディスプレイ照度調整ノブ	81
	メーターパネル照度調整ノブ	199
⑦	COMAND ディスプレイ	80
⑧	CD/DVD チェンジャー	別冊
⑨	COMAND コントローラー	78

センターコンソール

左ハンドル車

	名称	ページ
①	オーディオスイッチ	79
②	リターンスイッチ	79
③	非常点滅灯スイッチ	150
④	ランバーサポートスイッチ マルチコントロールシートバック * スイッチ	118 119
⑤	電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ	79
⑥	COMAND システム ON/OFF スイッチ	79
⑦	音量調整ダイヤル	80
⑧	ユーザー定義スイッチ	80
⑨	テレフォンキーパッド	別冊

	名称	ページ
⑩	電動ブラインド（リアウインドウ）スイッチ	328
⑪	ヘッドレストスイッチ	116
⑫	走行モード選択スイッチ	192
⑬	COMAND コントローラー	78

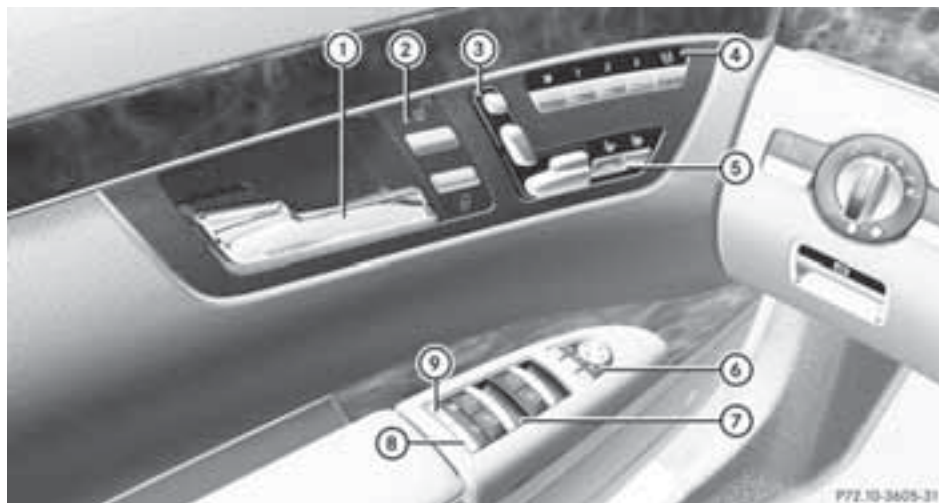
* オプションや仕様により、異なる装備です。

前席上方の操作部

	名称	ページ
①	サングラスケース	316
②	フロント読書灯（左側）スイッチ	157
③	リアルームランプスイッチ	157
④	フロントルームランプスイッチ	157
⑤	スライディングルーフスイッチ *	307 309

	名称	ページ
⑥	点灯モード選択スイッチ	157
⑦	リアサンシェードスイッチ *	312
⑧	フロント読書灯（右側）スイッチ	157
⑨	ルームミラー	132

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ドアの操作部

フロント

左ハンドル車

	名称	ページ
①	ドアレバー	100
②	ドアロックスイッチ	100
③	シート調整スイッチ	112
④	助手席コントロールスイッチ	114
	ポジションスイッチ	140
	メモリースイッチ	140
⑤	シートベンチレータースイッチ *	126
	シートヒータースイッチ *	125

	名称	ページ
⑥	ドアミラー調整スイッチ	133
	ドアミラー格納 / 展開スイッチ	133
	ドアミラー選択スイッチ	133
⑦	ドアウインドウスイッチ	168
	リアドアウインドウ・ブラインドスイッチ *	170
⑧	トランクオープナースイッチ	105
	トランクスイッチ *	106
⑨	セーフティスイッチ	57

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リア

	名称	ページ
①	助手席シート / 助手席側リアシート選択スイッチ *	115
②	ポジションスイッチ *	140
	メモリースイッチ *	140
③	シート調整スイッチ *	112
④	ドアレバー	100
⑤	電動ブラインド（リアウインドウ）スイッチ	329

	名称	ページ
⑥	リアサンシェードスイッチ *	313
⑦	リアドアウインドウスイッチ	168
	リアドアウインドウ・ブラインドスイッチ *	170
⑧	シートベンチレータースイッチ *	126
	シートヒータースイッチ *	125

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアシート

	名称	ページ
①	カップホルダー リアエンターテインメント操作部 *	325 別冊
②	マルチコントロールシートバック操作部 *	124
③	音量調整スイッチ *	別冊
④	後席アームレストの小物入れ *	319
⑤	後席中央の小物入れ	320
⑥	選局・選曲スイッチ *	別冊

* オプションや仕様により、異なる装備です。

乗員安全装備

乗員保護装置

シートベルトやSRS（乗員保護補助装置）は、効果を高めるために補い合い、連携する乗員保護装置です。

これらは、想定される事故の状況において、乗員が負傷する可能性を最小限に抑えて安全性を高めます。

シートベルトとエアバッグは、物が外部から車内に入り込んだときの衝撃から乗員を保護する効果はありません。

乗員保護装置を適切に機能させるため、以下のことに注意してください。

- シートやヘッドレストは正しい位置に調整してください（▷112、113ページ）。
- シートベルトを正しく着用してください（▷141ページ）。
- エアバッグの作動が妨げられていないことを確認してください（▷39ページ）。
- ステアリングを正しい位置に調整してください。
- 乗員保護装置を改造しないでください。

ⓘ エアバッグはシートベルトを正しく着用しているときのみ、乗員保護機能を高めることができます。しかし、エアバッグは組み合わされることで効果を発揮する付加的な保護補助装置で、シートベルトの代わりになるものではありません。エアバッグが装備されていても、必ず乗員全員がシートベルトを正しく着用してください。

また、エアバッグは、あらゆる種類の事故で作動するわけではありません。状況によっては、乗員が正しくシートベルトを着用している場合は、エアバッグが作動しても乗員保護効果が高まらないことがあります。

以下の理由から、エアバッグはシートベルトを正しく着用している場合にのみ、シートベルトの保護機能を高めることができます。

- シートベルトを着用することで、乗員とエアバッグの適切な位置関係を保つことができます。
- シートベルトを着用することで、正面からの衝突のときなどに乗員が前方に投げ出されるのを防ぐことができます。これにより、けがの危険性を減らすことができます。

したがって、衝突時にエアバッグが作動したときは、エアバッグは正しく着用されたシートベルトの保護効果に加えて効果を発揮します。

⚠ **警告**

不適切な作業を行なうと、車両の走行安全性が損なわれる可能性があります。その結果、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、安全装備が正常に作動しなくなり、乗員保護効果が得られないおそれがあります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具ならびに設備を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

⚠ **警告**

乗員保護装置の以下の構成部品を改造したり、不適切な作業を行なわないでください。正常に作動しなくなるおそれがあります。

- シートベルトとベルトアンカー、シートベルトテンショナー、ベルトフォースリミッター、エアバッグを含む乗員保護装置
- 配線
- 車載ネットワークで接続された電子制御部品

衝突時の衝撃の強さが乗員保護装置が作動するレベルに達していても、エアバッグとシートベルトテンショナーが作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。決して乗員保護装置を改造しないでください。

また、絶対に車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。

SRS（乗員保護補助装置）

SRSは以下の装備により構成されます。

- SRS 警告灯
- エアバッグ
- エアバッグコントロールユニット（クラッシュセンサーを含む）
- シートベルトテンショナー
- ベルトフォースリミッター

SRS 警告灯

イグニッション位置を **1** にすると点灯し、数秒後に消灯します。

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときは、一定間隔で自己診断を行ない、SRS の異常を検出します。

⚠ **警告**

以下のようなときは、SRS に異常が発生しています。衝撃を受けてもエアバッグやシートベルトテンショナーが作動しないおそれや、不意に作動するおそれがあります。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯しないとき
- イグニッション位置を **1** にしたときは数秒後に、イグニッション位置を **2** にしたときはエンジン始動後に SRS 警告灯が消灯しないとき
- エンジンがかかっているときなどに SRS 警告灯が点灯したとき

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シートベルトテンショナーと運転席 / 助手席エアバッグの作動

シートベルトテンショナーとエアバッグの作動は、衝撃の強さによって変わります。

衝突などで衝撃が発生した際、センサーは衝撃の強さや方向などを検知し、シートベルトテンショナーを作動させる必要があるか判断します。

さらに車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知したときに、運転席 / 助手席エアバッグが作動します。

i 事故の状況によってはエアバッグが作動しない場合があります。

事故の際にすべてのエアバッグが作動するわけではありません。

各エアバッグの作動条件はそれぞれ異なります。

いずれのエアバッグも、衝突の最初の段階において検知された衝撃の強さや方向、および以下のような事故の種類に基づいて作動します。

- 前方からの衝突
- 側面からの衝突
- 横転

i センサーが検知する衝撃の強さや方向は、以下の要素によって決まります。

- 衝撃の集中度 / 分散度
- 衝撃の角度
- 車体の変形度合い
- 衝突物の特性

シートベルトテンショナー / ベルトフォースリミッター

シートベルトテンショナー

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトにはシートベルトテンショナーが装備されています。

シートベルトテンショナーは、車の縦方向に大きな衝撃を受けたときにシートベルトを引き込み、シートベルトの効果を高める装置です。

シートベルトテンショナーは、シート位置が不適切なときや、シートベルトが正しく着用されていないときは、効果を発揮できません。

シートベルトテンショナーは、バックレストに乗員の身体を密着させるためのものではありません。

シートベルトテンショナーは、以下のときに作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- SRS に異常がないとき
- フロントのシートベルトテンショナーは、シートベルトが正しくバックルに差し込まれているとき

左右リアシートのシートベルトテンショナーは、シートベルトの着用に関わらず作動します。

シートベルトテンショナーは、事故の状況や衝撃の強さが以下のようなときに作動します。

- 前方または後方からの衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 側面衝突の際に、衝撃を受けた最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 車両が横転するような特定の状況で、シートベルトテンショナーの作動が乗員保護効果を高めるとシステムが判断したとき

シートベルトテンショナーの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

シートベルトテンショナーが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ **警 告**

- シートベルトテンショナーの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

  ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。
- 作動したシートベルトテンショナーは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。

  未作動のシートベルトテンショナーを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

! 助手席に乗車していないときは、シートベルトのプレートをバックルに差し込まないでください。衝突時などに、シートベルトテンショナーが作動することがあります。

ベルトフォースリミッター

フロントシートベルトと左右のリアシートベルトにはベルトフォースリミッターが装備されています。

ベルトフォースリミッターは、シートベルトに一定以上の荷重がかかったときに作動し、乗員の胸にかかる力を分散・軽減します。

フロントシートのベルトフォースリミッターは、運転席 / 助手席エアバッグと連動しており、乗員にかかる力を分散・軽減します。

エアバッグ

車が一定以上の衝撃を受けると、高温のガスが排出されて、収納されているエアバッグが瞬時にふくらみます。これにより、乗員の身体への衝撃を分散・軽減します。

エアバッグは高温のガスによりふくらむため、すり傷や火傷、打撲などをすることがあります。エアバッグの作動時に聞こえる作動音は、ごくまれに聴力に影響することがあります。

エアバッグが作動すると、SRS 警告灯が点灯します。

⚠ 警告

エアバッグの乗員保護機能を正しく発揮するため、以下の点に注意してください。

- 乗員全員がシートベルトを正しく着用し、バックレストをできるだけ垂直の位置にしてください。

  ヘッドレストが目の高さにあり、後頭部が支えられるように調整してください。
- 身長150cm未満および12歳未満の子供はチャイルドセーフティシートを使用して確実に身体を固定してください。
- 運転席シートは正しい位置に調整し、助手席シートはできるだけ後部に動かし、エアバッグとの間隔を確保してください。間隔が狭すぎると、エアバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- 助手席エアバッグの機能が解除されている * 場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。やむを得ず、助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着して、助手席シートをもっとも後ろの位置にしてください。
- 運転中はステアリングのパッド部を持ったり、身体をステアリングやダッシュボードにのせないでください。エアバッグの作動が妨げられるおそれや、エアバッグが作動したときにけがをするおそれがあります。
- 頭部をドアウインドウに寄りかけないでください。サイドバッグやウインドウバッグが作動する衝撃でけがをするおそれがあります。
- ドアなどの内張りに寄りかからないでください。
- 衣服のポケットなどに重い物や鋭利な物を入れないでください。
- エアバッグ作動範囲と乗員の間にペットや荷物を置かないでください。
- シートのバックレストとドアの間に物を入れないでください。
- アシストグリップやコートフックにかたい物や鋭利な物をかけないでください。
- カップホルダーなどのアクセサリーをドアに取り付けないでください。
- ルームミラーに市販のワイドミラーなどを取り付けないでください。
- エアバッグを取り外したり、関連部品や配線などを改造しないでください。誤作動でけがをしたり、正しく作動しなくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

以下のエアバッグ収納部には、バッジ、ステッカー、リモコンなどを貼付したり、市販のカップホルダーやアクセサリーなどを取り付けないでください。

- ステアリングパッド部
- ステアリングコラム下部のパネル部
- 助手席側のダッシュボードパネル部
- フロントシートのバックレスト外側
- リアシートの左右端部
- フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

⚠ **警 告**

エアバッグの作動時にわずかに白煙が発生することがありますが、火災の心配はありません。

ただし、ぜんそくなどの呼吸疾患のある方は一時的に呼吸障害を起こすおそれがありますので、安全を確認のうえ車外へ出るか、ドアやドアウインドウを開き換気を行なってください。

⚠ **警 告**

関連部品に身体を触れないでください。部品が熱くなっており、火傷をするおそれがあります。

作動したエアバッグは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換してください。次に事故が発生した場合は、エアバッグによる乗員保護効果が得られません。

⚠ **警 告**

未作動のエアバッグを廃棄するときは、廃棄専用の処置が必要です。メルセデス・ベンツ指定サービス工場、または専門業者に依頼してください。

エアバッグの種類と収納場所

エアバッグ名	収納場所
運転席エアバッグ	ステアリングパッド部
助手席エアバッグ	助手席ダッシュボードパネル部
運転席ニーバッグ	運転席足元
フロントサイドバッグ	フロントシートのバックレスト側面
リアサイドバッグ	リアシートの左右端部
ウインドウバッグ	フロントピラーとリアピラー間のルーフライニング部

運転席 / 助手席エアバッグ

左ハンドル車

運転席エアバッグ ①/ 助手席エアバッグ ② は、縦方向からの強い衝撃を受けると作動し、運転席 / 助手席乗員の頭部や胸部への衝撃を分散・軽減します。

運転席エアバッグ / 助手席エアバッグは、他のエアバッグの作動に関わらず、以下のときに作動します。

- 衝突の最初の段階で、車両の縦方向に急激に一定以上の衝撃を検知したとき
- 運転席 / 助手席エアバッグの作動が、シートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断したとき
- シートベルトを正しく着用しているとき

車両が横転したときは、車両の縦方向に一定以上の衝撃を検知しない限り、運転席 / 助手席エアバッグは基本的に作動しません。

助手席エアバッグ ② は、助手席に乗員が乗車しているか、エアバッグオフ表示灯 * が消灯しているときにのみ作動します。これにより、チャイルドセーフティシート検知システム装備車では、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないチャイルドセーフティシートが装着されているか、あるいはチャイルドセーフティシートが不適切な方法で装着されていないかを確認できます。

! 助手席に重い荷物を置かないでください。システムが助手席に乗員がいると判断し、事故のときに助手席エアバッグが作動することがあります。作動したエアバッグは交換する必要があります。

i 縦方向からの衝撃が弱いときはシートベルトテンショナーだけが作動し、運転席 / 助手席エアバッグは作動しないことがあります。

運転席ニーバッグ

左ハンドル車

運転席ニーバッグ ① は、運転席エアバッグに連動してステアリングの下方で作動し、運転席乗員の膝から下への衝撃を分散・軽減します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

サイドバッグ

⚠ **警 告**

シートに市販のシートカバーを使用しないでください。サイドバッグの作動が妨げられるおそれがあります。

⚠ **警 告**

エアバッグのセンサーがドアの内部にあります。ドアやドアトリムにオーディオや電装品を追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、エアバッグの作動に悪影響を与えるおそれがあります。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のフロントサイドバッグ①/ リアサイドバッグ ② が作動し、乗員の胸部への衝撃を分散・軽減します。

サイドバッグは、シートベルトの着用や運転席 / 助手席エアバッグの作動、シートベルトテンショナーの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、車両の横方向に一定以上の衝撃を検知し、サイドバッグの作動がシートベルトによる乗員保護機能を高めるとシステムが判断しない限り、基本的に作動しません。

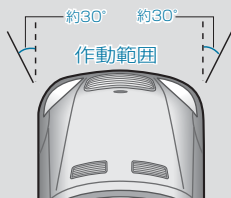
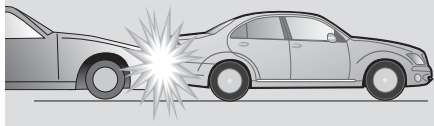
ウインドウバッグ

横方向からの強い衝撃を受けると、衝撃を受けた側のウインドウバッグ ① が作動し、乗員の頭部への衝撃を分散・軽減します。

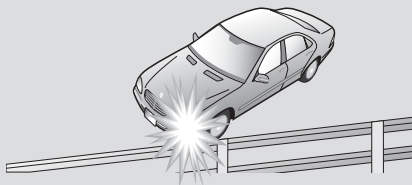
ウインドウバッグは、助手席乗員の有無、シートベルトの着用、運転席 / 助手席エアバッグの作動に関わらず、衝突の最初の段階で、車両の横方向に急激に一定以上の衝撃を検知したときに作動します。

車両が横転したときは、ウインドウバッグの作動がシートベルトによる乗員保護効果を高めるとシステムが判断したときに作動します。

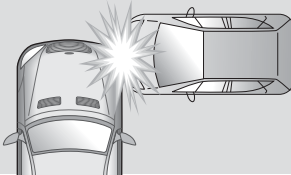
エアバッグの作動条件

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動するとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しないとき

運転席 / 助手席エアバッグ、運転席ニーバッグが作動しない場合があるとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動するとき

サイドバッグ / ウインドウバッグが作動しない場合があるとき

客室以外の側面に衝撃を受けたとき

いずれかのエアバッグが作動する場合があるとき

PRE-SAFE®

PRE-SAFE® は、車が危険な状態にあることを感知したときに、乗員保護機能を高める装置です。

PRE-SAFE® は、以下のときに作動します。

- ディストロニック･プラス装備車は、BAS プラスが強く作動したとき
- ディストロニック・プラス装備車は、レーダーセンサーシステムが差し迫った衝突の危険性がある特定の状況を検知したとき
- 車が物理的な限界を超えて強いアンダーステア状態やオーバーステア状態になったときなど、車の姿勢が危険な状態になったとき

PRE-SAFE® の作動

PRE-SAFE® は、以下のように作動します。

- フロントシートベルトを引き込み、シートベルトの張力を高めます。
- 助手席や左右のリアシート * が、エアバッグの作動に対し不適切な位置にある場合は、シートを適正な位置に自動的に調整します。
- マルチコントロールシートバック装備車は、フロントシートのシートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧を高くします。
- 車が横滑りをすると、ドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が少し開いた状態まで自動的に閉じます。

車が不安定な状態から脱すると、引き込まれたシートベルトの張力が緩みます。また､フロントのマルチコントロールシートバックのサイドサポートの空気圧が元の設定に戻ります。

助手席や左右のリアシートの位置、ドアウインドウやスライディングルーフの開き具合などを再度調整することができます。

前席シートベルトの引き込みが解除されないとき

▶ 停車しているときに、シートベルトの張力が緩むまで、バックレストの角度やシートの前後位置を後方に動かします。

シートベルトの張力が緩み、ロック機構が解除されます。

⚠ 警 告

シートを調整するときは、後席の乗員がけがをしないように注意してください。

! シート下部や後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

NECK PRO アクティブヘッドレスト

NECK PRO アクティブヘッドレストは、追突など後方からの衝撃を受けたときに、フロントシートのヘッドレストが前方および上方に動くことにより、運転席と助手席乗員の頭部をより効果的に支持し、頭部・頸部の保護度合いを高めます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

衝撃の大きさや衝撃を受けた方向によっては、NECK PRO アクティブヘッドレストが作動しないことがあります。

⚠ 警 告

シートには、必ず純正のシートカバーだけを使用してください。市販のシートカバーを使用すると、NECK PRO アクティブヘッドレストの作動が妨げられるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

事故の際に NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合は、ヘッドレストが前方に動いた状態のままになります。このときは、運転席と助手席のヘッドレストをリセットしてください（▷426 ページ）。

リセットをしないと次に衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このリセット作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

子供を乗せるとき

チャイルドセーフティシート

⚠ 警 告

急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに、子供が重大なけがや致命的なけがをするのを防ぐため、以下の点に注意してください。

- 6 歳未満の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを使用することが法律で義務付けられています。
- 身長 150cm 未満および 12 歳未満の子供は、適切なシートに装着したチャイルドセーフティシートに乗車させ、確実に身体を固定してください。シートベルトは子供向けに設計されていないため、チャイルドセーフティシートの使用が必要になります。
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車にセンサー付純正チャイルドセーフティシートを装着して助手席エアバッグの機能が解除されている場合を除き、助手席には後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを装着しないでください。また、タイプにかかわらず、助手席にはチャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着しないでください。エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをするおそれがあります。
- やむを得ず助手席にチャイルドセーフティシートを装着するときは、必ず前向きに装着してください。

  また、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてください。
- 絶対に子供を膝の上に乗せて走行しないでください。急な進路変更時や急ブレーキ時、衝突時などに子供を保護することができなくなり、子供が車内の部品に激しくぶつかったり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- チャイルドセーフティシートは、リアシートに装着してください。子供の安全性が高くなります。電動シートバック装備車に装着するときは、バックレストをもっとも起こした状態にして、シートクッション前部の高さをもっとも低い位置にしてください。
- チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。そのため、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。
- チャイルドセーフティシートのクッションカバーが損傷したときは、純正品と交換してください。
- チャイルドセーフティシートが損傷しているときは新品と交換してください。大きな衝撃を受けたり、損傷したものは子供を保護できません。

子供を乗車させるときは、子供の体格や年齢、体重に合ったチャイルドセーフティシートを使用して、身体を固定してください。

チャイルドセーフティシートはリアシートに装着し、走行している間は、チャイルドセーフティシートにより子供の身体を固定してください。

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています（▷49 ページ）。

⚠ 警告

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートを使用しないときは、車から取り外すか、確実に固定してください。

⚠ 警 告

荷物が固定されていなかったり適切な位置に置かれていないと、以下のような場合に子供や周囲の人がけがをする危険性が増加します。

- 事故のとき
- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時

車内に重い物や硬い物を積むときは、確実に固定してください。荷物を積むときの注意点について、詳しくは（▷314 ページ）をご覧ください。

純正チャイルドセーフティシート

Daimler AG では、子供の体重や年齢に応じた純正チャイルドセーフティシートを用意しています。

選択の目安

シート名	体　重	年　齢
ベビーセーフプラス	約 13kg 以下	新生児〜15 カ月位
デュオプラス	9 〜 18kg	8 カ月〜4 歳位
キッド	15 〜 36kg	3 歳半〜12 歳位

※ チャイルドセーフティシートの種類や名称は予告なく変更されることがあります。詳しくは販売店におたずねください。

助手席へのチャイルドセーフティシートの装着

助手席サンバイザーに貼付された警告ステッカー

チャイルドセーフティシートを後ろ向きに装着することを禁止する警告ステッカー

後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを、助手席に装着して使用しないでください。

⚠ 警 告

助手席エアバッグの機能が解除されていないときは、以下のように対処してください。

- 助手席エアバッグが作動すると、助手席に装着したチャイルドセーフティシートに乗車している子供が致命的なけがをするおそれがあります。特に子供が助手席エアバッグのすぐそばに着座している場合は、エアバッグが作動する衝撃で致命的なけがをする危険性が高くなります。
- 絶対に後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して、子供を乗せないでください。後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席にのみ装着してください。
- やむを得ず前向きのチャイルドセーフティシートを助手席に装着して子供を乗せるときは、必ず助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてださい。

以下のような場合は、助手席エアバッグの機能は解除されません。

- チャイルドセーフティシート検知システム非装備車
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席に、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプの純正チャイルドセーフティシートを装着したとき
- チャイルドセーフティシート検知システム装備車は、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないとき

チャイルドセーフティシートに関する注意事項を記載したステッカーが、ダッシュボードと助手席側サンバイザーの両面に貼付されています。

純正チャイルドセーフティシートについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

チャイルドセーフティシート検知システム *

助手席シートの座面に検知システムが装備されており、センサー付き純正チャイルドセーフティシートとの間で自動的に信号の送信 / 受信を行なってチャイルドセーフティシートの有無を判断し、助手席エアバッグの機能を解除するシステムです。

助手席エアバッグの機能が解除されると、助手席エアバッグオフ表示灯が点灯します。

車種や仕様により、チャイルドセーフティシート検知システムの装備の有無は異なります。詳しくは、お買い上げの販売店におたずねください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

助手席エアバッグオフ表示灯 *

左ハンドル車

チャイルドセーフティシート検知システム装備車の助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しているときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯し、助手席エアバッグの機能が解除されます。

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず助手席エアバッグオフ表示灯が点灯することを確認してください。

チャイルドセーフティシート検知システム非装備車は、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、助手席エアバッグオフ表示灯 ① が点灯し、数秒後に消灯しますが、これは助手席エアバッグの作動状態を示すものではありません。センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても、助手席エアバッグの機能は解除されません。

⚠ 警 告

センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着しても助手席エアバッグオフ表示灯が点灯しないときは、助手席エアバッグの機能は解除されていません。助手席エアバッグが作動するときの衝撃で、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

以下のように対処してください。

- 後ろ向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートを助手席に装着しないでください。
- 後ろ向きで装着するタイプのチャイルドセーフティシートは、後席に装着してください。

または

- 助手席には前向きに装着するタイプのチャイルドセーフティシートのみを装着し、助手席シートをもっとも後ろおよび高い位置にして、ヘッドレストをもっとも高い位置にしてださい。
- メルセデス・ベンツ指定サービス工場でチャイルドセーフティシート検知システムの点検を受けてください。

チャイルドセーフティシート検知システムが正しく機能し、検知することができるように、チャイルドセーフティシートの下にクッションなどを置かないでください。チャイルドセーフティシートの底面全体がシートクッションに接している必要があります。チャイルドセーフティシートが正しく装着されていないと、事故のときに保護機能を発揮することができなくなり、けがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ センサー付き純正チャイルドセーフティシートを装着して、助手席エアバッグの機能が解除されていても、助手席の以下の装置は作動します。

- サイドバッグ
- ウインドウバッグ
- シートベルトテンショナー

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、チャイルドセーフティシート検知システムに対応していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

⚠ 警告

助手席シートには、以下のような電子機器を置かないでください。

- 電源の入ったノートパソコン
- 携帯電話
- 磁気カードや IC カード

電子機器からの信号がチャイルドセーフティシート検知システムに干渉することがあるため、システムが誤作動するおそれがあります。その結果、センサー付き純正チャイルドシートを装着していない状態で助手席エアバッグオフ表示灯が点灯し、事故のときに助手席エアバッグが作動しなくなります。また、イグニッション位置を **2** にしたときに SRS 警告灯が点灯したり、エアバッグオフ表示灯が短時間しか点灯しなくなることがあります。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート固定装置

左右のリアシートに、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシート用の固定装置を装備しています。

⚠ 警告

この固定装置は、体重 22kg 以下の子供を乗車させるときに使用してください。体重 22kg 以上の子供を乗車させるときは、チャイルドセーフティシートを後席のシートベルトで装着してください。

⚠ 警告

- チャイルドセーフティシートは、適切なシートに正しく装着されることにより保護機能を発揮します。正しく装着されていないと、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に子供の身体を固定することができず、子供が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に付属の取扱説明書の指示およびチャイルドセーフティシートの正しい使用方法に従ってください。
- 安全のため、ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートは必ず後席左右の固定装置に装着してください。
- 正しく装着されていないと、チャイルドセーフティシートが外れ、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。チャイルドセーフティシートを装着したときは、必ず左右の固定装置に確実に装着されていることを確認してください。

⚠ **警告**

チャイルドセーフティシートや固定装置が事故で損傷したり強い負荷を受けた場合は、保護効果が得られなくなるおそれがあります。その結果、衝突時や急ブレーキ時、急な進路変更時に、子供が致命的なけがをするおそれがあります。

そのため、事故で損傷したり強い負荷を受けたチャイルドセーフティシートや固定装置は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! チャイルドセーフティシートを装着するときは、中央後席のシートベルト * を挟み込まないように注意してください。

チャイルドセーフティシートを固定装置に装着する

▶ カバー ① を上方に開きます。

▶ 固定装置 ② にチャイルドセーフティシートを装着します。

テザーアンカー

左右リアヘッドレストの収納部にテザーアンカーを装備しています。

ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートの上部を固定することにより、事故などのときにチャイルドセーフティシートの前方への移動を抑えることができます。

▶ 電動シートバック装備車は、バックレストの角度をいっぱいまで起こします。

▶ ヘッドレストを起こします。

▶ テザーアンカーのカバー ① を取り外します。

▶ 取り外したカバー ① を、グローブボックスなどに保管します。

▶ ヘッドレストの 2 本の支柱の間にテザーベルト ④ を通します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ テザーフック ③ をテザーアンカー ② にかけます。

▶ 以下のことを確認します。

- 図のようにテザーフック ③ がテザーアンカー ② にかかっていること
- テザーベルト ④ がねじれていないこと
- テザーベルト ④ がリアシートバックレストとヘッドレストの間で自由に動くこと

▶ 製品に付属の取扱説明書の指示に従い、テザーベルトと ISO-FIX 対応チャイルドセーフティシートを取り付けます。また、テザーベルト ④ が締め付けられていることを確認します。

チャイルドセーフティシートを装着していないときは、カバー ① をテザーアンカー ② に取り付けてください。

⚠ **警 告**

電動シートバック装備車は、チャイルドセーフティシートを装着しているときに、シート位置の調整を行なわないでください。以下のおそれがあります。

- チャイルドセーフティシートの損傷
- ベルトの緩みや締め付け
- チャイルドセーフティシートの緩み
- 不適切な位置へのチャイルドセーフティシートの移動

これらによりチャイルドセーフティシートの乗員保護性能が低下し、事故のときにけがをする危険性が高まります。

ℹ 純正チャイルドセーフティシートには、テザーベルトを装備していないタイプがあります。詳しくは販売店におたずねください。

ℹ チャイルドセーフティシートの取り扱いや装着方法については、チャイルドセーフティシートに添付されている取扱説明書をお読みください。

チャイルドセーフティシート検知システムのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
センターコンソールの助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯している。	助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されているため、助手席エアバッグが作動しない状態になっている。
	⚠ けがのおそれがあります 助手席にセンサー付き純正チャイルドセーフティシートが装着されていない場合は、チャイルドセーフティシート検知システムが故障している。 イグニッション位置を **2** にしたときに、SRS 警告灯 [警告灯] が点灯するか、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が短時間点灯しない。あるいは、SRS 警告灯 [警告灯] が点灯し、助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が短時間点灯しない。 ▶ 助手席シートに以下のものを置いているときは取り除いてください。 • ノートパソコン • 携帯電話 • 磁気カードや IC カード 電子機器やカードを取り除いても助手席エアバッグオフ表示灯 [表示灯] が点灯しているとき： ▶ メルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

チャイルドプルーフロック

⚠ 警告

- 子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供が車内の各部に触れてけがをするおそれがあります。また、炎天下では車内が高温になるため熱中症を起こしたり、寒冷時には車内が低温になるため命にかかわるおそれがあります。
- チャイルドセーフティシートは直射日光に当てないでください。炎天下では車内に置いたチャイルドセーフティシートが高温になり、子供が火傷をするおそれがあります。
- 子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供が後席に乗車するときは、以下のチャイルドプルーフロックを使用してください。

- リアドアのチャイルドプルーフロック
- リアドアウインドウのチャイルドプルーフロック

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアのチャイルドプルーフロックを設定すると、車内のドアレバーを引いてもリアドアが開かなくなります。

▶ レバーを設定側 ① に操作します。

▶ 車内のドアレバーを引いて、ドアが開かないことを確認します。

解除するときは、レバーを解除側 ② に操作します。

ℹ ドアロックスイッチの解錠スイッチ（▷100 ページ）を押すと、リアドアのチャイルドプルーフロックを設定しているときも、一時的にチャイルドプルーフロックが解除され、その間車内のドアレバーを引いてリアドアを開くことができます。

⚠ 警告

ドアロックスイッチの解錠スイッチを押すと、左右のリアドアのロックが一時的に解除されます。その間は車内からリアドアを開くことができます。

子供が誤ってドアを開くと、以下のおそれがあります。

- 子供や周囲の人がけがをする
- 子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをする

子供だけを車内に残して車から離れないでください。子供がドアロックスイッチを操作して、チャイルドプルーフロックを解除するおそれがあります。誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定する

リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを設定すると、後席での以下の操作ができなくなります。

- リアドアウインドウ
- 後席センターコンソールのライター
- 後席からの助手席シートの調整 *
- リアサンシェード *
- 電動ブラインド（後席左右） *
- 電動ブラインド（リアウインドウ）

左ハンドル車

▶ セーフティスイッチ ① を押します。

表示灯 ② が点灯 / 消灯します。

表示灯 ② が点灯しているときは、リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックが設定されています。

ℹ リアドアウインドウのチャイルドプルーフロックの設定 / 解除にかかわらず、フロントのスイッチによるリアドアウインドウおよび電動ブラインド（後席左右）、リアサンシェードの開閉、COMAND システムによる電動ブラインド（リアウインドウ）の開閉はできます。

安全装備

* オプションや仕様により、異なる装備です。

走行安全装備

走行安全装備には、以下のものがあります。

- ABS（アンチロック·ブレーキング·システム）
- BAS（ブレーキアシスト）
- BAS プラス *（ブレーキアシスト・プラス）
- アダプティブブレーキランプ
- ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）
- EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）
- アダプティブブレーキ
- PRE-SAFE® ブレーキ *

安全上の重要事項

⚠ 警告

スピードの出しすぎなどの無謀な運転をすると、事故の危険性が非常に高まります。カーブを走行するときや、濡れた路面または滑りやすい路面を走行するとき、先行車への車間距離が短すぎるときなどは、特に危険です。

本書に記載されている走行安全装備は事故の危険性を低減するものではありません。また、各システムの機能には物理的な限界があります。

運転者は、路面や天候の状況に合わせて常に慎重に運転してください。周囲の交通状況に注意しながら、十分な車間距離を確保してください。

⚠ 警告

S クラス HYBRID/HYBRID ロングについては、必ず別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書 補足版」をご覧ください。

ℹ 走行安全装備は、タイヤが路面に十分接地しているときにのみ、十分な効果を発揮します。タイヤに関する情報やタイヤの摩耗については「タイヤとホイール」をご覧ください（▷359 ページ）。

雪道や凍結路を走行するときは、ウィンタータイヤやスノーチェーンの装着をお勧めします。このような路面状況では、ウィンタータイヤやスノーチェーンを装着することで、走行安全装備の効果が発揮されます。

ABS

ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）は、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時など、車が不安定な状況になったときに、タイヤのロックを防ぎ、ステアリングでの車両操縦性を確保する装置です。

ABS は路面の状態に関わらず、走行速度が約 8km/h を超えると作動できるようになります。

滑りやすい路面では、軽くブレーキペダルを踏み込んだだけでも ABS は作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

> ⚠ **警 告**
>
> - ABS はブレーキ操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。
>
>   ABS が適切に作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。常に道路や天候の状況に注意し、十分な車間距離を保って運転してください。
>
>   また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
> - ABS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

> ⚠ **警 告**
>
> ABS に異常があるときは、ブレーキペダルを強く踏み込むとタイヤはロックします。その結果、ステアリングでの車両操縦性が制限され、制動距離が長くなるおそれがあります。
>
> 故障により、ABS の機能が解除されたときは、BAS と ESP® の機能も解除されます。特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。
>
> 路面や天候の状況に注意し、十分な車間距離を確保して運転してください。

ブレーキ操作をする

ABS が作動すると、ブレーキペダルに脈動を感じたり車体が振動することがありますが、異常ではありません。

ABS が作動したとき

▶ 必要なだけ、そのままブレーキペダルを踏み続けてください。

強い制動力が必要なとき

▶ ブレーキペダルをいっぱいまで踏み込んでください。

> ⚠ **警 告**
>
> ブレーキ操作をするときは、ブレーキペダルをしっかりと踏み込んでください。ポンピングブレーキを行なうと制動距離が長くなるおそれがあります。

! ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下のような路面が滑りやすい状況では、ABS を装備していない車と比べ制動距離が長くなることがあります。

- 雪の積もった路面や凍結した路面
- 砂利道などの荒れた路面
- 石だたみのように摩擦係数が連続して変化する路面
- スノーチェーン装着時

i エンジン始動後や発進直後にブレーキペダルを踏み込むと、ペダルがわずかに振動したりモーターの音が聞こえることがありますが、これは、システムが自己診断をしているときの音で異常ではありません。

i バッテリー電圧が低下すると ABS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると、機能も元に戻ります。

ABS 警告灯

イグニッション位置を **2** にしたときに点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯したときは、ABS に異常があります。

ブレーキは通常通り作動しますが、ABS、ESP®、BAS、ETS、PRE-SAFE® などは作動しません。

いつもより慎重に運転し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

BAS

BAS（ブレーキアシスト）は、緊急ブレーキの操作時に、短い時間で大きな制動力を確保するブレーキの補助装置です。

BAS の操作は、通常のブレーキ操作と同じですが、ブレーキペダルを踏み込む速さなどをセンサーが検知して、緊急ブレーキと判断したときに自動的に作動します。

▶ 緊急ブレーキ状態から脱するまで、ブレーキペダルをしっかり踏み続けてください。

ABS により、車輪のロックが抑えられます。

BAS はブレーキペダルから足を放せば自動的に解除されます。

⚠ 警 告

- BAS は緊急ブレーキの操作を補助する装置で、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。BAS が作動しても制動距離の短縮には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。
- BAS に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、緊急ブレーキ時には制動距離が長くなるおそれがあります。
- BAS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ℹ BAS に異常があると、ABS も正しく作動しなくなることがあります。

ℹ バッテリー電圧が低下すると BAS が一時的に機能を停止します。電圧が回復すると機能も元に戻ります。

BAS プラス（ブレーキアシスト・プラス）*

⚠ 警 告

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

BAS プラスは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

ℹ「安全上の重要事項」の項目をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

BAS プラスは、7km/h 以上の速度での危険な状況で、レーダーセンサー技術を使用して交通状況を判断し、ブレーキ操作の補助を行ないます。

レーダーセンサーシステムの補助により、BAS プラスは一定時間車両の進路上にある障害物を検知することができます。

約 70km/h 以下の速度では、BAS プラスは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知します。

障害物に接近していて、BAS プラスが衝突の危険性を検知したとき、BAS プラスは追突を防ぐために必要な制動力を算出します。

・**30km/h 以上の速度で走行しているとき：**急激にブレーキペダルを踏むと、BAS プラスは交通状況に合わせて制動圧力を上げます。

・**30km/h 以下の速度で走行しているとき：**ブレーキペダルを踏むと、BAS プラスが作動し、ブレーキは効き続けます。

特に高い制動力が必要と BAS プラスが判断したときは、PRE-SAFE® も同時に作動します。

▶ 緊急ブレーキの必要性がなくなるまでブレーキペダルを踏み続けます。

ABS が車輪のロックを防ぎます。

以下のときは、ブレーキは再度通常通り作動するようになります。

- ブレーキペダルから足を放したとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 車両前方に障害物が検知されなくなったとき

その後、BAS プラスは解除されます。

走行中の BAS プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムが設定されていなければなりません。詳しくは（▷226 ページ）をご覧ください。

⚠ **警 告**

BAS プラスは常に障害物や複雑な交通状況を認識できるわけではありません。状況によっては、BAS プラスは介入することができません。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- センサーに汚れがあるときやカバーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなど、幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

⚠ **警 告**

BAS プラスは以下には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況でも BAS プラスが介入を行なわないことがあります。事故の危険性があります。常に交通状況に十分注意し、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

レーダーセンサーシステムの故障で BAS プラスが使用できないときも、ブレーキシステムは、最大制動力まで BAS とともに使用できます。

アダプティブブレーキランプ

約 50km/h 以上からの急ブレーキ時に BAS が作動すると、ブレーキランプが点滅し、後方の車両に注意を促します。停車すると、ブレーキランプは点灯に変わります。

また、約 70km/h 以上からの急ブレーキ時には、ブレーキランプの点滅に加えて、停車すると非常点滅灯が自動的に点滅します。

自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、再度走行を開始して走行速度が約 10km/h 以上になると、自動的に消灯します。

ESP®

ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）は、タイヤの空転時や横滑り時など、車が不安定な状況になったときに、車両操縦性や走行安定性を確保しようとするシステムです。

発進時または走行中に ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅したときは、ESP® が作動しています。

[ESP表示灯] ESP® 表示灯

イグニッション位置を **2** にしたときに点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

⚠ **警 告**

ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅したときは、以下のようにしてください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

車輪が空転したり、車が横滑りするおそれがあります。

⚠ 警告

ESP® は車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。また、タイヤのグリップが失われた状況では効果を発揮しません。

ESP® 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 前輪または後輪を上げてけん引されるときは、イグニッション位置を **2** にしないでください。ESP® が作動して、ブレーキシステムや駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! 4MATIC 装備車は、前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! ESP® が故障すると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示され、エンジンの出力が低下することがあります。走行が困難なときは、すみやかに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ⓘ エンジンがかかっている状態で、駐車場などのターンテーブルで回転させたり、駐車場のらせん状のアプローチを走行しているときなどに、マルチファンクションディスプレイに ESP® に関する故障 / 警告メッセージが表示されたり、ESP® 表示灯 や ESP® オフ表示灯 、ABS 警告灯 が点灯することがあります。
このようなときは、安全な場所に停車してからイグニッション位置を **0** にして、エンジンを再始動してください。しばらく走行すると、故障 / 警告メッセージや表示灯・警告灯は消灯します。

ⓘ ABS が故障して ABS 警告灯 が点灯しているときは、ESP® の機能も解除されています。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ⓘ 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、ESP® が作動することがあります（走行中に ESP® 表示灯 が点滅したままになります）。

ETS

ETS は、ESP® の機能の一部です。

ETS は、滑りやすい路面などで車輪が空転したときに、駆動輪にブレーキを効かせて発進時や加速時の駆動力を確保しようとするシステムです。

ESP® の機能が解除されている場合でも、ETS の機能は解除されません。

⚠ 警告

ETS は駆動力を確保し車両操縦性や走行安定性を高めるシステムで、無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ETS が適切に作動しても、駆動力の確保には限界があります。

ETS 作動時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

ESP® の機能の解除

エンジンを始動したとき、ESP® は常に待機状態になります。

ℹ ECO スタート / ストップ装備車は、作動条件が揃っている場合は車両が停止したときに自動的にエンジンを停止し、発進時には再始動します。このとき、ESP® の機能はエンジン停止前の状態が維持されます。例えば、ECO スタート / ストップによりエンジンが停止する前に ESP® の機能を解除していたときは、再始動しても ESP® の機能は解除されたままになります。

次のような状況では、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

- スノーチェーンを装着して走行しているとき
- 深い雪の上を走行するとき
- 砂や砂利の上を走行するとき

このときは ESP® の機能を解除します。

S 63 AMG は、サーキットコースなどを走行するとき以外は、ESP® の機能を解除しないでください。

> ⚠ **警 告**
>
> ESP® の機能を解除する必要がなくなったときは、ESP® を待機状態にしてください。車が不安定な状況になったときに、操縦安定性や走行安定性を高めることができません。

ESP® の機能が解除されると、以下の状態になります。

- ESP® は作動せず、車両操縦性や走行安定性を確保しようとすることができなくなります。
- エンジン出力の制御は行なわれず、駆動輪が空転することがあります。
- トラクションコントロールシステムによる駆動力の確保は行なわれます。
- ブレーキを効かせたときは ESP® は自動的に作動します。

ESP® の機能を解除しているときにタイヤの空転や横滑りを感知すると、ESP® 表示灯 [ESP表示灯] が点滅しますが、ESP® は作動しません。

> ⚠ **警 告**
>
> ESP® の機能を解除したときは、必ず路面の状況に応じた速度で慎重に運転するとともに、以下の操作は絶対に行なわないようにしてください。
>
> - 急ハンドル
> - 急ブレーキ
> - 急発進、急加速
> - 急激なエンジンブレーキ

ESP® の機能を解除する

エンジンがかかっているときに操作できます。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、マルチファンクションディスプレイのメインメニューで " アシスト " を選択します。

▶ ステアリングスイッチの OK を押します。

ESP® の機能が解除されると、ESP® オフ表示灯が点灯します。

OK を押すたびに、" オン " と " オフ " が切り替わります。

ESP® オフ表示灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは表示灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

> ⚠ **警 告**
>
> エンジンがかかっているときに ESP® オフ表示灯 が点灯しているときは、ESP® の機能が解除されています。ESP® 表示灯 と ESP® オフ表示灯 が点灯しているときは、故障のため、ESP® の機能が解除されています。
>
> 特定の状況では、車が横滑りするおそれがあります。
>
> 路面と天候の状況に合わせて運転してください。

EBD

EBD（エレクトロニック・ブレーキパワー・ディストリビューション）は、後輪のブレーキ圧を検知・制御し、ブレーキ時の車両操縦性と走行安定性を確保しようとするシステムです。

> ⚠ **警 告**
>
> EBD に異常があるときもブレーキは通常通り作動しますが、急ブレーキ時などには後輪がロックするため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。車両操縦性の変化に注意して慎重に運転してください。

アダプティブブレーキ

アダプティブブレーキは、ブレーキ時の利便性と安全性を高めるシステムです。

アダプティブブレーキには、ホールド機能（▷246 ページ）とヒルスタートアシスト機能（▷178 ページ）も含まれます。

PRE-SAFE® ブレーキ *

⚠ **警 告**

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラスを装備した車両でのみ使用可能です。

ℹ「安全上の重要事項」の項目をご覧ください。

PRE-SAFE® ブレーキは、前方にいる車両へ衝突する危険性を最小限にしたり、衝突の際の影響を減らすための補助を行ないます。PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、自動ブレーキの作動とともに、警告灯および警告音により運転者に警告します。PRE-SAFE® ブレーキは、自動的に衝突を防ぐシステムではありません。

本機能は以下のような警告を行ないます。

- 速度が約 30km/h 以上で、前方を走行している車両との距離が数秒間にわたって不十分なままのとき

  このときは、メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。
- 速度が約 7km/h 以上で、前方にいる車両に急速に接近しているとき

  このときは、断続的な警告音が鳴り、メーターパネルの距離警告灯 [⚠] が点灯します。

▶ 前方の車両との車間距離を増やすため、ただちにブレーキを効かせてください。

または

▶ 安全な状況であれば、回避操作を行なってください。

速度が約 7km/h 以上で、運転者および助手席の乗員がシートベルトを着用しているときは、約 200km/h までの速度で、PRE-SAFE® ブレーキは自動的に車両にブレーキを効かせます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

特に複雑な走行状況では、不必要な PRE-SAFE® ブレーキの警告や介入が発生する可能性があります。その場合、アクセルペダルを踏み込みキックダウンさせるか、ブレーキペダルから足を放すことで不必要な警告や介入を解除することができます。

PRE-SAFE® ブレーキのブレーキ操作は、以下のときに終了します。

- 障害物を回避する操作を行なったとき
- 追突の危険性がなくなったとき
- 自車の前方に障害物が検知されなくなったとき

レーダーシステムの補助により、PRE-SAFE® ブレーキは、一定時間自車の前方にある障害物を検知することができます。

約 70km/h までの速度では、PRE-SAFE® ブレーキは停車または駐車している車両など、静止している障害物も検知できます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

障害物に接近していて、PRE-SAFE® ブレーキが衝突の危険性を検知したときは、まず警告灯および警告音により運転者に警告します。運転者がブレーキや回避操作を行なわなかったときは、システムは車両に自動的に軽くブレーキを効かせることで、運転者に警告を行ないます。衝突の危険性が高まったときは、PRE-SAFE® が作動します。衝突の危険性が残り、運転者がブレーキや回避操作、または急加速を行なわないときは、自動緊急ブレーキの強さまでのブレーキ操作が自動で行なわれます。可避できない事故の直前までは、自動緊急ブレーキは行なわれません。

⚠ 警 告

差し迫った衝突の前に PRE-SAFE® ブレーキが車両の速度を下げたときでも、運転者が回避操作を行なわないときは、システムでは衝突を回避することはできません。事故の危険性があります。状況に応じてブレーキを効かせるか、回避操作を行なってください。運転者の回避操作が遅れたときは、事故につながります。

⚠ 警 告

PRE-SAFE® ブレーキは常に障害物や複雑な交通状況を明確に認識できるわけではありません。

そのようなとき、PRE-SAFE® ブレーキは：

- 不必要な警告と自動ブレーキを作動させる場合があります。
- 警告と自動ブレーキを作動させない場合があります。

事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、特に PRE-SAFE® ブレーキが警告を行なったときは、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。危険な状況でない場合には、自動ブレーキの作動を解除してください。

以下のときは特に、障害物の検知が行なわれないことがあります。

- カバーが汚れているときやセンサーが覆われているとき
- 雪や激しい雨が降っているとき
- 他の電波の発生源と干渉しているとき
- 自走式タワー駐車場の内部など、電波の強い反射が起きているとき
- バイクなどの幅の狭い車両が前方を走行しているとき
- 前方を走行している車両の位置が右または左にずれているとき

⚠ **警告**

PRE-SAFE® ブレーキは、以下の物には反応しません。

- 人間や動物
- 対向車
- 横切る車
- カーブを走行しているとき

結果として、危険な状況で PRE-SAFE® ブレーキが警告や自動ブレーキを作動させないことがあります。事故の危険性があります。常に交通状況に注意して、運転者自身でブレーキ操作を行なってください。

前方の車両との適切な距離を維持し、衝突を防ぐために、運転者自身がブレーキを効かせてください。

PRE-SAFE® ブレーキを設定する / 解除する

▶ マルチファンクションディスプレイで PRE-SAFE® ブレーキの設定 / 解除を行ないます。

設定すると、メーターパネル左側に マークが表示されます。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

走行中の PRE-SAFE® ブレーキの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

フロントバンパーを損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの設定と作動の点検を行なってください。低速で衝突し、フロントバンパーに外見上の損傷がないときも、このことに該当しますので注意してください。

盗難防止システム

イモビライザー

イモビライザーは、正規のキー以外ではエンジンを始動させないようにする機能です。

キーによりイモビライザーを作動させる

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

キーレスゴーによりイモビライザーを作動させる

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

イモビライザーを解除する

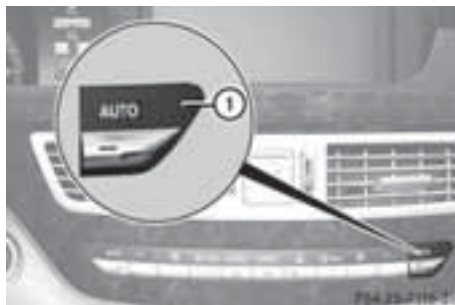
▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

ℹ イモビライザーは、エンジンを始動すると解除されます。

盗難防止警報システム

盗難防止警報システムが待機状態のときに以下の状況を検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

- ドアやトランクが開けられたとき
- ボンネットのロックが解除されたとき

盗難防止警報システムは、リモコン操作またはキーレスゴー操作により施錠した後、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠し、開いたときも作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠します。

表示灯 ① が点滅し、約 10 秒後に待機状態になります。

システムが待機状態のときは、表示灯 ① が点滅を続けます。

システムの待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠します。

表示灯 ① が消灯します。

警報を停止する

▶ エンジンスイッチにキーを差します。

または

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーレスゴーによる操作

▶ キーが左右側アンテナの検知範囲（▷92 ページ）にあるときは、キーがある側のドアハンドルの裏側に触れます。

または

▶ キーがトランク側アンテナの検知範囲（▷92 ページ）にあるときは、トランクのハンドルを引きます。

または

▶ キーが車室内アンテナの検知範囲（▷92 ページ）にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

ℹ ドアやトランクが開けられたり、ボンネットのロックが解除されて警報が作動したときは、それらをすぐに閉じても、警報は停止しません。

ℹ システムを待機状態にするときはボンネットが確実に閉じていることを確認してください。ボンネットのロックが解除された状態でシステムを待機状態にすると、ボンネットが開けられても警報は作動しません。

ℹ システムが待機状態のときに車内からドアを開いたり、ボンネットロック解除レバーでボンネットのロックを解除すると警報が作動します。車内に人がいるときは待機状態にしないでください。

けん引防止機能

車を施錠して、けん引防止機能を待機状態にしたときは、車両の傾きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、けん引やジャッキアップなどにより車両が持ち上げられたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

けん引防止機能が自動的に解除されます。

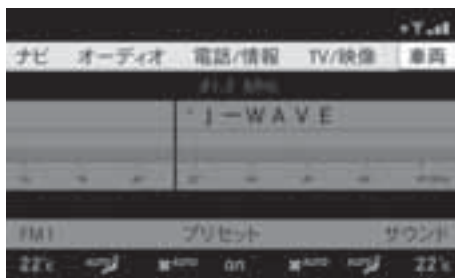
けん引防止機能を解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、けん引防止機能を解除してください。

- けん引されるとき
- カーフェリーや車両運搬車に載せて移動するとき
- 機械式駐車場などに駐車するとき

ⓘ けん引防止機能を解除すると、同時に室内センサー（▷72 ページ）も解除されます。

ⓘ けん引防止機能の設定と解除の操作を、ファンクションスイッチのユーザー定義スイッチに登録することができます。詳しくは（▷84 ページ）をご覧ください。

けん引防止機能と室内センサーの設定 / 解除 ①

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ メインエリアに " けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

コントローラーを押すたびに、" けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 ON" と " けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 OFF" が切り替わります。

" けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 ON"

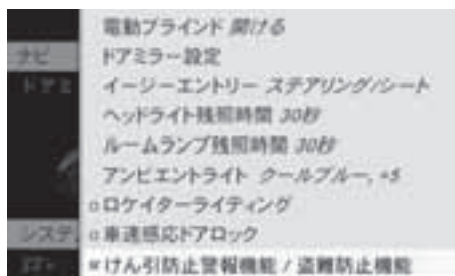
リモコン操作で施錠すると、けん引防止機能と室内センサーは待機状態になります。

" けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 OFF"

リモコン操作で施錠しても、けん引防止機能と室内センサーは待機状態になりません。

けん引防止機能と室内センサーの設定 / 解除 ②

▶ メインエリアが車両設定画面のときに、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " けん引防止警報機能 / 盗難防止機能 " を選択して ⦅◎⦆・←◎→、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

けん引防止機能と室内センサーが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

けん引防止機能と室内センサーの設定 / 解除 ③

けん引防止機能と室内センサーを解除する

▶ ステアリングの音声認識ボタンを押します。

▶ " ピッ " と鳴ってから約 6 秒以内に " ケンインボウシケイホウキノウオフ " と発声します。

" けん引防止警報機能を OFF にします " と返答があります。

けん引防止機能と室内センサーを設定する

▶ ステアリングの音声認識ボタンを押します。

▶ " ピッ " と鳴ってから約 6 秒以内に " ケンインボウシケイホウキノウオン " と発声します。

" けん引防止警報機能を ON にします " と返答があります。

! 返答がないときは、設定 / 解除が行なわれていません。再度操作を行なってください。

ⓘ 音声認識については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。

室内センサー

車を施錠して、室内センサーを待機状態にしたときは、車内で物体の動きを検知すると、サイレンが約 30 秒間鳴り、非常点滅灯が通常の 2 倍の速さで約 5 分間点滅します。また、ルームランプが約 5 分間点灯します。

例えば、ウインドウが割られたり、車内に腕を伸ばしたときなどに警報が作動します。

システムを待機状態にする

▶ システムを待機状態にする前に、室内センサーの誤作動を防止するために以下のことを確認してください。

- ドアウインドウが完全に閉じていること
- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * が完全に閉じていること
- ルームミラーやアシストグリップにマスコットなどをかけていないこと

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を施錠します。

約 30 秒後に待機状態になります。

待機状態を解除する

▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で車を解錠します。

室内センサーが自動的に解除されます。

室内センサーを解除する

誤作動を防止するために、以下のような状況で車を施錠する場合は、室内センサーを解除してください。

- 車内に人や動物が残るとき
- ドアウインドウを少し開いた状態で車から離れるとき
- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディンググルーフ * を少し開いた状態で車から離れるとき

室内センサーの設定 / 解除

室内センサーの設定 / 解除は、けん引防止機能の設定 / 解除と連動します。

設定 / 解除操作については（▷71、72 ページ）をご覧ください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

OK

はじめに

COMAND システムは、ナビゲーションやオーディオ、エアコンディショナーや車両設定などの各機能を一体化したシステムです。

安全のために

⚠ **警告**

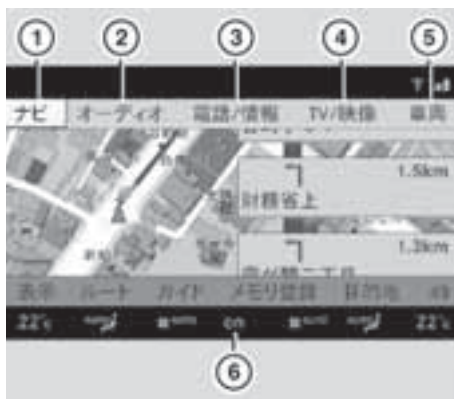
- 走行中に COMAND システムを操作するときは、常に周囲の状況に注意してください。
- 車両が約 50km/h で走行しているときは、1 秒間に約 14m も走行してしまうことを常に念頭において走行してください。
- COMAND システムの操作は、できるだけ走行中を避け、安全な場所に停車してから操作してください。走行中に COMAND ディスプレイを見るときは、必要最小限（約 1 秒以内）にとどめてください。

ℹ 安全のため、COMAND システムには、走行中に操作できない機能や表示されない項目があります。

COMAND システムの機能

COMAND システムで操作できる機能は右表のように大別されます。

それらの機能は、COMAND ディスプレイ（▷80 ページ）のアプリケーションエリアおよびエアコンディショナーエリアを選択することで操作できます。

また、ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバックスイッチを押すことで、前席のランバーサポート（▷118 ページ）/ マルチコントロールシートバック *（▷119 ページ）の設定が行なえます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

	機能	ページ
①	ナビ（ナビゲーション）	別冊「COMAND システム 取扱説明書」をご覧ください。
②	オーディオ	
③	電話 / 情報	
④	TV / 映像	
⑤	車両	
	• 電動ブラインド（リアウインドウ）の開閉	328
	• ドアミラー設定 *	134、138
	• イージーエントリー *	130
	• 車外ライト残照機能	155
	• ルームランプ残照機能	159
	• アンビエントライト色調 / 照度設定	161
	• ロケイターライティング	91
	• 車速感応ドアロック	102
	• けん引防止機能 / 室内センサー	71
	• トランクリッドの開口角度設定 *	108
⑥	エアコンディショナー	284
ランバーサポート（前席）		118
マルチコントロールシートバック（前席） *		119

* オプションや仕様により、異なる装備です。

COMAND システムの構成

COMAND システムは、

- COMAND コントローラー
- ファンクションスイッチ
- COMAND ディスプレイ

から構成されています。

ⓘ 電話の発信操作をするためのキーパッドが装備されています。

詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ オーディオや電話などの操作の一部は、ステアリングスイッチで行なうことができます。

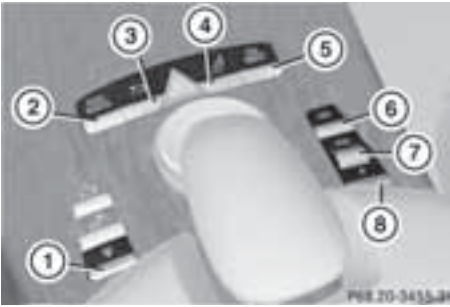
詳しくは、（▷202 ページ）か、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

COMAND コントローラー

COMAND コントローラーを操作することにより、COMAND システムの様々な機能を選択したり、設定することができます。

操作の方向	本書中の表記
押す 押して保持する	(押す記号)
まわす	(まわす記号)
上下にスライドする スライドして保持する	↑◎↓
左右にスライドする スライドして保持する	←◎→
上下左右斜めにスライドする スライドして保持する	(8方向記号)

ⓘ それ以上項目を選択できないときなどは、コントローラーの作動が電気的にロックされ、まわすことができなくなります。

ファンクションスイッチ

	スイッチ名称
①	[ ] 電動ブラインド（リアウインドウ）スイッチ
②	[DISC RADIO] オーディオスイッチ
③	[ ] リターンスイッチ
④	[ ] ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバックスイッチ
⑤	[TEL NAVI] 電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ
⑥	[ON] ON/OFF スイッチ
⑦	音量調整ダイヤル
⑧	[＊] ユーザー定義スイッチ

① [ ] 電動ブラインド（リアウインドウ）スイッチ

電動ブラインド（リアウインドウ）を開閉するときに押します。詳しくは、（▷327 ページ）をご覧ください。

② [DISC RADIO] オーディオスイッチ

COMAND システムをラジオや CD などのオーディオモードにするときに押します。

③ [ ] リターンスイッチ

ひとつ前の画面に戻るときに押します。

④ [ ] ランバーサポートスイッチ / マルチコントロールシートバック * スイッチ

ランバーサポート / マルチコントロールシートバックを調整するときに押します。

COMAND ディスプレイがランバーサポート / マルチコントロールシートバックの調整画面になります。

⑤ [TEL NAVI] 電話 / 情報、ナビゲーションスイッチ

COMAND システムを電話や E メール、ナビゲーションモードなどにするときに押します。

⑥ [ON] ON/OFF スイッチ

COMAND システムをオン / オフするときに押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⑦ 音量調整ダイヤル

オーディオやナビゲーションの音声案内などの音量を調整します。

音量を大きくする

▶ 音量調整ダイヤルを前方にまわします。

音量を小さくする

▶ 音量調整ダイヤルを後方にまわします。

⑧ [＊] ユーザー定義スイッチ

使用頻度の高い以下の機能をこのスイッチに登録できます。

- COMAND ディスプレイのオン / オフ
- けん引防止警報機能および室内センサーのオン / オフ

登録の操作については、（▷84 ページ）をご覧ください。

以下の機能についてもこのスイッチに登録できます。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

- ルート案内時の音声案内のオン / オフ（ナビゲーション）
- 地図表示の現在地への復帰（ナビゲーション）
- ルート案内時の音声案内のオン / オフと、地図表示の現在地への復帰（ナビゲーション）

COMAND ディスプレイ

	名称
①	ステータスエリア
②	アプリケーションエリア
③	メインエリア
④	サブメニューエリア
⑤	エアコンディショナーエリア

COMAND ディスプレイの各エリア

COMAND ディスプレイは、選択した機能とそれに関連するメニューを表示します。

画面内は、上段から下段にかけて 5 つのエリアに分かれています。

選択されているエリアは明るく表示されます。

ステータスエリアは選択できません。

① ステータスエリア

接続されている携帯電話の電波受信状況や、ミュート（消音）にしたときのインジケーターなどが表示されます。

② アプリケーションエリア

COMAND システムの各アプリケーションが表示されます。このエリアから、各アプリケーションを選択します。

③ メインエリア

選択されたアプリケーションに応じた画面が表示されます。

また、アプリケーションエリアやサブメニューエリアからのポップアップメニューが表示されます。

④ サブメニューエリア

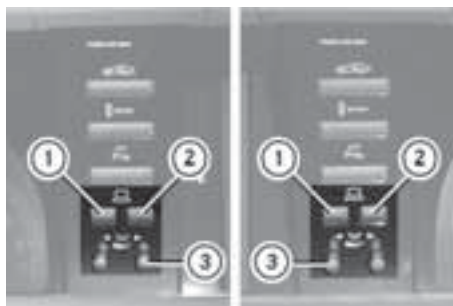
選択されているアプリケーションに応じた設定項目が表示されます。

⑤ エアコンディショナーエリア

エアコンディショナーの作動状況が表示されます。

各項目を選択することにより、エアコンディショナーの設定を行ないます。

ℹ ON / OFF スイッチで COMAND ディスプレイをオフにしても、エアコンディショナーエリア ⑤ は表示されます。

COMAND ディスプレイの角度 / 照度調整

左ハンドル車　右ハンドル車

① 角度調整スイッチ（左向き）
② 角度調整スイッチ（右向き）
③ 照度調整ノブ

COMAND ディスプレイの角度を左向きにする

▶ 角度調整スイッチ（左向き）① を押します。

COMAND ディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）① を 2 度押します。

COMAND ディスプレイの角度を右向きにする

▶ 角度調整スイッチ（右向き）② を押します。

COMAND ディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）② を 2 度押します。

COMAND ディスプレイの角度を中央にする

▶ COMAND ディスプレイが左向きのときは、角度調整スイッチ（右向き）② を押します。

COMAND ディスプレイが右向きのときは、角度調整スイッチ（左向き）① を押します。

COMAND ディスプレイの照度を明るくする

▶ 照度調整ノブ ③ を時計回りにまわします。

COMAND ディスプレイの照度を暗くする

▶ 照度調整ノブ ③ を反時計回りにまわします。

各種設定

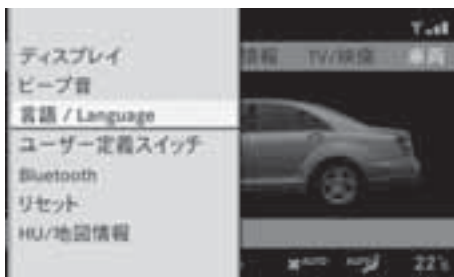
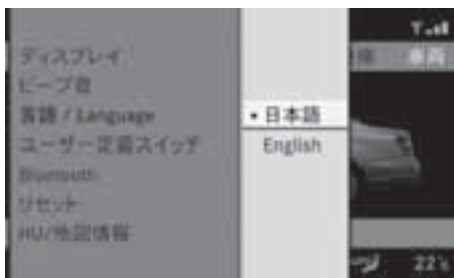
COMAND ディスプレイの表示言語設定

COMAND ディスプレイの表示言語を、日本語または英語に設定できます。

ℹ COMAND システムの言語設定に連動して、マルチファンクションディスプレイの表示言語も変更されます。

▶ アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで " システム設定 " を選択して、コントローラーを押します ⓢ。

▶ " 言語 /Language" を選択して 《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します ⓢ。

現在選択されている表示言語の左側には、" • " が表示されています。

表示言語を日本語にする

▶ " 日本語 " を選択して 《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します ⓢ。

表示言語を英語にする

▶ "English" を選択して 《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します ⓢ。

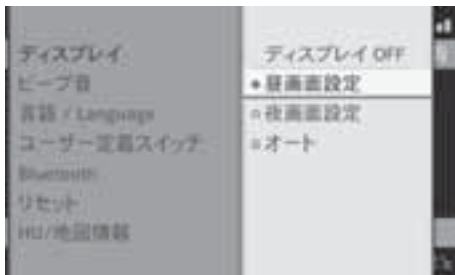
COMAND ディスプレイの色調設定

COMAND ディスプレイの色調を、昼画面や夜画面にできます。また、周囲の明るさに連動して自動的に昼画面と夜画面を切り替えることもできます。

▶ アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 《◎》・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで " システム設定 " を選択して、コントローラーを押します ◎。

▶ " ディスプレイ " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

現在選択されている色調設定の左側の " ○ " の中には、" • " が表示されています。

昼画面に設定する

▶ " 昼画面設定 " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

夜画面に設定する

▶ " 夜画面設定 " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

周囲の明るさに連動させる

▶ " オート " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ⓘ " ディスプレイ OFF" を選択すると、COMAND ディスプレイがオフになります。

再度表示するにはコントローラーを押すか ◎、いずれかの方向にスライドします ◎。

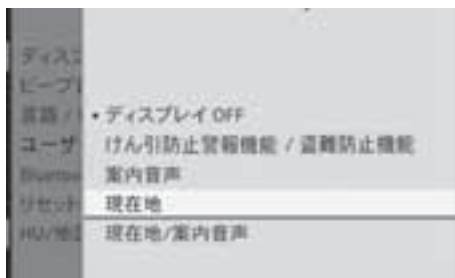
ユーザー定義スイッチの登録

ユーザー定義スイッチに機能を登録する

▶ アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで " システム設定 " を選択して、コントローラーを押します ⊛。

▶ " ユーザー定義スイッチ " を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ⊛。

現在登録されている機能の左側には、" • " が表示されています。

▶ 登録する機能を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ⊛。

COMAND システムのリセット

COMAND システムの設定内容を、工場出荷時の状態に戻すことができます。

▶ アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ⟲◎⟳・←◎→、コントローラーを押します ⊛。

メインエリアが車両設定画面になります。

▶ サブメニューエリアで " システム設定 " を選択して、コントローラーを押します ⊛。

▶ " リセット " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

▶ " はい " を選択して 〔◎〕・←◎、コントローラーを押します ◎。

COMAND ディスプレイに、確認メッセージが再度表示されます。

▶ " はい " を選択して 〔◎〕・←◎、コントローラーを押します ◎。

この作業を実行すると、COMAND システムの設定内容が工場出荷時の状態に戻るとともに、以下のデータが削除されます。

- ナビゲーションの設定
- ラジオのプリセット内容
- ミュージックレジスターのデータ
- 登録している Bluetooth® 対応携帯電話の設定
- アドレス帳のデータ
- E メールのデータ
- インターネットのデータ

キー

リモコン機能付きのキーが 2 本付属しています。

エンジンの始動および車の解錠 / 施錠に使用します。

また、それぞれのキーにはエマージェンシーキー（▷424 ページ）を収納しています。

⚠ 警 告

- 子供だけを残して車から離れないでください。車が施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、キーが車室内またはドア付近などの車外にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことにより、エンジンが始動し、事故の原因になります。
- 短時間でも、車内にキーを残したまま車から離れないでください。事故や盗難のおそれがあります。
- エンジンスイッチにキーを差し込むときは、重い物や必要以上に大きな物、ステアリングなどの操作部に接触する物をキーホルダーとして使用しないでください。

  キーホルダー自体の重みや、キーホルダーがステアリングなどに接触することでキーがまわると、エンジンが停止して事故を起こすおそれがあります。

! キーを紛失したときは、盗難や事故を防ぐため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! キーを強い電磁波にさらすと、リモコン機能に障害が発生するおそれがあります。

! キーは強い衝撃や水から避けてください。故障の原因になります。

! キーの先端部を汚したり覆ったりしないでください。故障や誤作動の原因になります。

! 盗難や事故を防ぐため、車から離れるときは必ず車を施錠してください。

! 貴重品は絶対に車内に置いたままにしないでください。盗難のおそれがあります。

! 車を操作するときは、運転者は常にキーを携帯してください。

! キーを携帯電話などの電子機器や硬貨などの金属製のものと一緒に持ち運ばないでください。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作やキーレスゴー操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動するおそれがあります。

! 磁気を発生する電化製品の近くにキーを置かないでください。

ℹ 新たにキーをつくる場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ⓘ キーの電池が消耗するとキーの表示灯が点灯せず、リモコン操作やキーレスゴー操作ができなくなりますが、エンジンスイッチにキーを差し込むことによるイグニッション位置の選択とエンジンの始動はできます。

リモコン機能

① 施錠ボタン
② トランクオープナーボタン
③ 解錠ボタン

イグニッション位置が **0** でエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに以下の操作ができます。

- ドア、トランク、燃料給油フラップの解錠 / 施錠
- トランクを開く
- コンビニエンスオープニング機能とコンビニエンスクロージング機能の操作（▷171、172 ページ）

操作時にキーの表示灯が 1 回点滅します。

ⓘ 車両のバッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもリモコン操作はできません。

解錠する

▶ 解錠ボタン ③ を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷69 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

トランクが独立施錠（▷107 ページ）されているときは、解錠ボタン ③ を押してもトランクは解錠されません。

施錠する

▶ 施錠ボタン ① を押します。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷69 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

! リモコン操作で施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクオープナーボタン ② を押し続けます。

トランクが独立施錠（▷107 ページ）されているときは、トランクオープナーボタン ② を押してもトランクは開きません。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

リモコン機能の切り替え

リモコン操作での解錠時に、運転席ドアと燃料給油フラップのみを解錠するように設定できます。

▶ 解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

- 解錠ボタン ③ を 1 回押すと、運転席ドアと燃料給油フラップのみが解錠され、盗難防止警報システム(▷69 ページ)が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

- 続けて約 40 秒以内に解錠ボタン ③ を押すと、助手席ドア、リアドア、トランクが解錠され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

  また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、解錠ボタン ③ と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

ℹ リモコン操作での解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す

ロケイターライティング

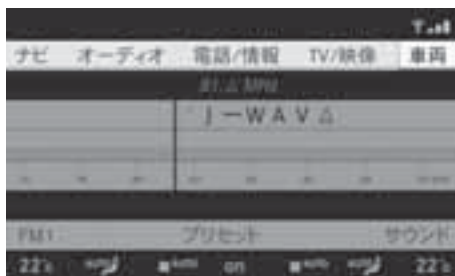
周囲が暗いとき、リモコン操作で車を解錠すると、以下のライトが点灯します。

- 車幅灯
- ヘッドライト
- LED ドライビングライト
- テールランプ
- ライセンスライト
- ドアミラー下部のライト

点灯したライトは以下のときに消灯します。

- 運転席ドアを開いたとき
- 点灯してから約 40 秒経過したとき
- エンジンスイッチにキーを差し込んだとき
- キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **1** にしたとき

COMAND システムで設定を行ないます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

ロケイターライティングの設定 ①

▶ メインエリアに " ロケイターライティング " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

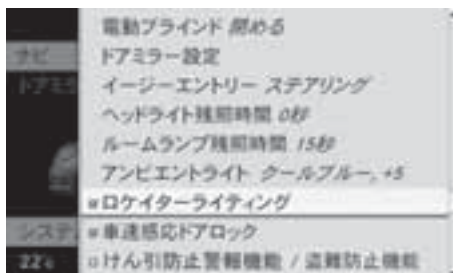
コントローラーを押すたびに " *ロケイターライティング ON*" と " *ロケイターライティング OFF*" が切り替わります。

" *ロケイターライティング ON*"
ロケイターライティングが設定されています。

" *ロケイターライティング OFF*"
ロケイターライティングは設定されていません。

ロケイターライティングの設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " ロケイターライティング " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

ロケイターライティングが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

キーレスゴー

キーレスゴー操作時の注意事項

⚠ 警 告

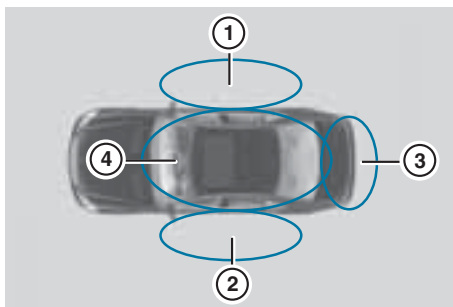
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方や、それ以外の医療用電子機器を使用されている方は、車を使用する前に、あらかじめ医師や医療用電子機器メーカーなどにキーレスゴーによる電波の影響についてご相談ください。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器を装着されている方は、キーレスゴーアンテナから約 22cm 以内に近付かないようにしてください。キーレスゴー操作を行なうときは、キーとアンテナの間で電波が送受信されるため、埋め込み型心臓ペースメーカーおよび埋め込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。
- 子供だけを残して車から離れないでください。施錠されていても、誤って車内からドアを開いたり運転装置に触れて、事故やけがをするおそれがあります。

  また、ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、キーレスゴースイッチを押すことによりエンジンが始動することがあり、事故の原因になります。
- 短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

キーは以下のものと一緒に持ち運ばないでください。

- 携帯電話や別のリモコンキーなどの電子機器
- 硬貨やアルミホイルなどの金属類

キーレスゴーの操作に悪影響を及ぼすおそれがあります。

キーが車内にあるときは、キーを携帯していない乗員でもエンジンを始動できるため、注意してください。

① 右側アンテナの検知範囲
② 左側アンテナの検知範囲
③ トランク側アンテナの検知範囲
④ 車室内アンテナの検知範囲

キーの位置により、キーレスゴー操作で行なうことができる操作が以下のように異なります。

キーが左右側アンテナの検知範囲にあるとき

- キーがある側のドアハンドルに触れると、車の施錠 / 解錠ができます。

ℹ キーの位置によっては、キーが検知範囲にある側と反対側のドアハンドルに触れることで、車が施錠 / 解錠されることがあります。

- キーが運転席側アンテナの検知範囲にあるときにトランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。
- キーが運転席側アンテナの検知範囲にあるときにトランクのキーレスゴースイッチ * を押して、車を施錠することができます。

キーがトランク側アンテナの検知範囲にあるとき

- トランクハンドルを引くと、トランクのみを解錠して開くことができます。
- トランクのキーレスゴースイッチ * を押して、車を施錠することができます。

i キーの位置によっては、キーがトランク側アンテナの検知範囲にないときも、トランクハンドルを引くことでトランクのみが解錠して開くことがあります。

キーが車室内アンテナの検知範囲にあるとき

- イグニッション位置の選択ができます（▷109 ページ）。
- エンジンの始動ができます（▷110、177 ページ）。

i ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときも、車室内アンテナにキーが検知されることがあります。

! 手袋を着用したままドアハンドルに触れたときは、施錠 / 解錠しないことがあります。

! キーが左右側アンテナの検知範囲にあるときに、ドアハンドルを清掃したり、ドアハンドルに雨粒や水しぶきがかかったり、物などが触れると、車が施錠 / 解錠されることがありますので注意してください。

i エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、キーレスゴー操作を行なうことはできません。

i エンジンスイッチにキーが差し込まれていないときも、エンジンがかかっているときやイグニッション位置が **2** のときは、キーレスゴー操作で施錠できません。

i 車を長期間使用しなかったときは、ドアハンドルを引き、イグニッション位置を **2** にしてからキーレスゴー操作を行なってください。

i 車両のバッテリーの電圧が低下したときは、キーの電池が正常でもキーレスゴー操作はできません。

キーレスゴーによる解錠 / 施錠

キーレスゴー操作で、車の解錠 / 施錠やエンジンの始動を行なうことができます。そのためには常にキーを携帯する必要があります。キーレスゴー操作と従来のキーによる操作を組み合わせることができます。例えば、キーレスゴー操作で車を解錠し、リモコンの施錠ボタンを押して施錠することができます。

キーレスゴー操作で車を解錠 / 施錠するときは、キーとドアハンドルまたはトランクとの距離は約 1m 以内にしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーレスゴーは、車両とキーの間で定期的に通信を行ない、車内に有効なキーがあるか確認します。キーの照合は以下のときに行なわれます。

- 車外のドアハンドルに触れたとき
- エンジン始動時
- 車両の走行中

解錠する（初期設定時）

▶ ドアハンドルの裏側に触れます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム（▷69 ページ）が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

トランクが独立施錠（▷107 ページ）されているときは、ドアハンドルの裏側に触れてもトランクは解錠されません。

ⓘ 解錠後約 40 秒以内に、以下のいずれかの操作をしないと、再び施錠されます。

- ドアを開く
- トランクを開く
- エンジンスイッチにキーを差し込む
- ドアロックスイッチ（解錠）を押す
- キーが車室内にあるときに、キーレスゴースイッチを押す

施錠する

左側フロントドア

▶ ドアハンドルの施錠操作部 ① に触れます。

または

▶ トランクのキーレスゴースイッチ *② を押します。

トランクが閉じます。

ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷69 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

! 車を施錠したときは、非常点滅灯が 3 回点滅したことを確認してください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トランクを解錠して開く

▶ トランクハンドルを引きます。

トランクのみが解錠されて開きます。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

ⓘ キーが車室内やトランク内にあるときは、ドアハンドルやトランクのキーレスゴースイッチで施錠できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに "キーが 車内に あります " と表示されます。

ただし、以下の場合は施錠することができます。

- キーが左右側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内にあるときに、ドアハンドルの施錠操作部に触れる
- キーがトランク側アンテナの検知範囲にあり、もう 1 本のキーが車室内やトランク内にあるときに、トランクのキーレスゴースイッチを押す

ⓘ キーがアンテナの検知範囲にないときに解錠しようとしたときや、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押したときは、マルチファンクションディスプレイに "キー を 認識 できません " と表示されます。

解錠時の設定の切り替え

① 施錠ボタン
② 解錠ボタン

運転席ドアハンドルの裏側に触れて解錠したときの作動内容を切り替えることができます。

▶ 解錠ボタン ② と施錠ボタン ① を同時に約 6 秒間押し続けます。

キーの表示灯が 2 回点滅し、設定が切り替わります。

この状態では以下のように作動します。

▶ 運転席ドアハンドルの裏側に触れます。

運転席ドア、燃料給油フラップが解錠され、盗難防止警報システム (▷69 ページ) が解除され、非常点滅灯が 1 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります (▷96 ページ)。

初期設定に戻す

▶ キーの表示灯が 2 回点滅するまで、約 6 秒間施錠ボタン ① と解錠ボタン ② を同時に押し続けます。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

ℹ 設定を切り替えたときも、運転席ドア以外のドアのドアハンドルの裏側に触れたり、トランクハンドルを引くことで、ドアやトランクを解錠することができます。

アンサーバック機能 *

アンサーバック機能を設定しているときは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解錠 / 施錠したときに、仕様により以下のように確認音が鳴ります。

- 車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

または

- 車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴ります。

この機能の設定と解除については（▷226 ページ）をご覧ください。

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
リモコン操作で解錠 / 施錠できない。	キーの電池が消耗している。 ▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から再度リモコン操作をしてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷424 ページ）。施錠するときは「車両の施錠」をご覧ください（▷425 ページ）。
	キーが故障している。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷424 ページ）。施錠するときは「車両の施錠」をご覧ください（▷425 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。
キーレスゴー操作で解錠 / 施錠できない。	長い時間キーレスゴーで解錠しなかったため、キーレスゴーの機能が停止している。 ▶ ドアハンドルを 2 回引いて、キーをエンジンスイッチに差し込んでください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。
	キーレスゴーが故障している。 ▶ リモコン機能で車を施錠 / 解錠してください。キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向け、至近距離から操作してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でキーの点検を受けてください。 リモコン操作ができないとき： ▶ キーの電池を点検し、必要であれば交換してください。 ▶ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠してください（▷424 ページ）。施錠するときは「車両の施錠」をご覧ください（▷425 ページ）。
キーを紛失した。	▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、紛失したキーを無効にしてください。 ▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。
エマージェンシーキーを紛失した。	▶ ただちに自動車保険会社へキー紛失の事実を報告してください。 ▶ 必要であればキーシリンダーも交換してください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーによるエンジン始動ができない。	バッテリーの電圧が低下している。 ▶ エンジンスイッチからキーを抜き、再度差し込んでください。 ▶ キーを差し込んでから約 30 秒以内にエンジンを始動してください。 ▶ エンジン始動操作を繰り返してください。 それでもエンジンが始動しないとき： ▶ バッテリーを点検し、必要であれば充電してください。 または ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷450 ページ）。 または ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
キーが車内にある状態で、キーレスゴースイッチを押しても、エンジンが始動しない。	ドアが開いているため、キーが認識されにくくなっている。 ▶ ドアを閉じてから、再度始動操作を行なってください。
	強い電波や超音波などの干渉を受けている。 ▶ エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外し、エンジンスイッチにキーを差し込んで、始動操作を行なってください。

ドア

⚠ 警告

- ドアは確実に閉じてください。ドアの閉じ方が不完全（半ドア）な場合、走行中にドアが開くおそれがあります。
- ドアを開くときは、周囲の安全を十分確認してください。
- 同乗者がドアを開くときは、危険がないことを運転者が確認してください。

⚠ 警告

子供だけを残して車から離れないでください。

- 施錠されていても、車内からドアを開くおそれがあります。
- 車内に残されたキーでエンジンを始動するおそれがあります。
- パーキングブレーキを解除するおそれがあります。

子供だけでなく、周りの人もけがをするおそれがあります。子供だけを車内に残さないでください。ごく短時間でも、車から離れるときは必ずキーを携帯してください。

車外からのドアの開閉

① ドアハンドル

開く

▶ ドアハンドル ① を引きます。

閉じる

▶ ドアハンドル ① を持って確実に閉じます。

ℹ 助手席ドアとリアドアは、開いているときにロックノブを押し込んでから閉じると施錠されます。

ℹ ドアが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

車内からのドアの開閉

開く

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

ドアが開きます。

ドアが施錠されているときは、ロックノブ ④ が上がって解錠され、ドアが開きます。

閉じる

▶ インナーグリップ ③ を持って確実に閉じます。

ℹ 車が施錠されているときも、車内のドアレバーを引くとドアを開くことができます。

ℹ シフトポジションが N のときに運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに "セレクタが走行位置" と表示されます。

車内からの解錠 / 施錠

⚠ **警 告**

ロックノブが下がっていても、車内のドアレバーを引くとドアは開きます。子供を乗せているときは特に注意してください。

! 施錠後は、ロックノブが完全に下がっていることを確認してください。

! ロックノブが完全に下がっていないドアがあるときは、そのドアをいったん開き、再度閉じてから施錠してください。

ドアごとの解錠 / 施錠

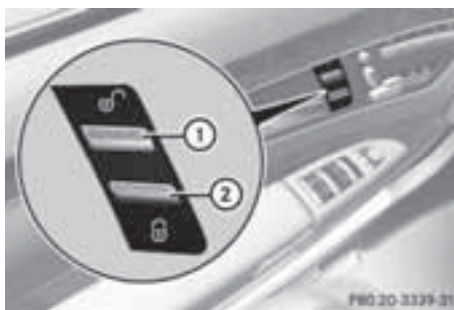
解錠する

▶ ドアレバー ② を矢印の方向に引きます。

このときドアも開きます。

施錠する

▶ ロックノブ ① を押し込みます。

ドアロックスイッチ

左側フロントドアのスイッチ

すべてのドアとトランクを解錠 / 施錠できます。

燃料給油フラップの解錠 / 施錠はできません。

ドアロックスイッチは、運転席ドアと助手席ドアにあります。

解錠する

▶ 解錠スイッチ ① を押します。

施錠する

▶ 施錠スイッチ ② を押します。

⚠ **警 告**

ドアロックスイッチの解錠スイッチを押すと、リアドアのチャイルドプルーフロック（▷56 ページ）を設定しているときでも、約 5 秒間はチャイルドプルーフロックが解除されます。子供を乗せたときは注意してください。誤ってリアドアを開き、けがをするおそれがあります。

ⓘ 以下のような場合はドアロックスイッチで解錠 / 施錠できません。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠しているとき
- 助手席ドアが開いているとき

ⓘ 運転席ドアが開いているときにドアロックスイッチで解錠 / 施錠すると、他のドアとトランクが解錠 / 施錠されます。

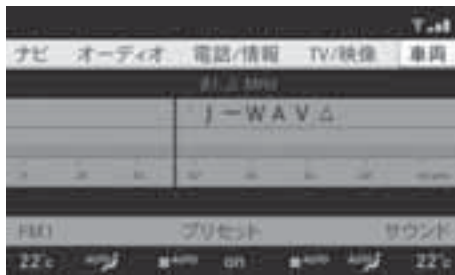
ⓘ トランクが独立施錠（▷107 ページ）されているときは、ドアロックスイッチでトランクを解錠することはできません。

車速感応ドアロック

走行速度が約 15km/h 以上になると、ドアとトランクを自動的に施錠します。

❗ 車速感応ドアロックを設定した状態で、車を押すときやタイヤ交換などで車を持ち上げるとき、シャシーダイナモに載せるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

ⓘ 車速感応ドアロックで施錠されたドアをドアロックスイッチで解錠すると、ドアを開くかエンジンを再始動するまで、車速感応ドアロックは作動しません。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ⟲◎⟳・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

車速感応ドアロックを設定する ①

▶ メインエリアに " 車速感応ドアロック " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◉。

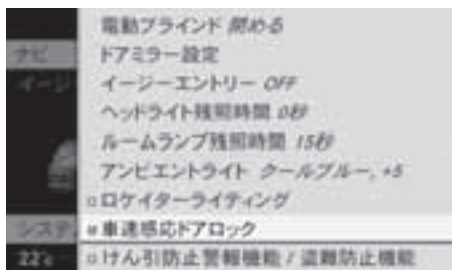
コントローラーを押すたびに、" 車速感応ドアロック *ON*" と " 車速感応ドアロック *OFF*" が切り替わります。

" 車速感応ドアロック *ON*"
車速感応ドアロックが作動します。

" 車速感応ドアロック *OFF*"
車速感応ドアロックは作動しません。

車速感応ドアロックを設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◉。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " 車速感応ドアロック " を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◉。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

車速感応ドアロックが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

クロージングサポーター *

ロックがかみ合う位置までドアまたはトランクを閉じると、クロージングサポーターが作動し、ドアまたはトランクが自動で閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警告**

ドアやトランクを閉じるときは、身体などが挟まれないように注意してください。

身体などが挟まれそうになったときは、車外のドアハンドルや車内のドアレバー、またはトランクのハンドルを引いてください。

ロック機構を改造してクロージングサポーターを作動させないでください。けがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

ドアとトランクが確実に閉じていることを確認してください。走行中にドアやトランクが開き、乗員がけがをするおそれがあります。

クロージングサポーターを作動させてドアを閉じる

▶ ドアを軽く押し込みます。

クロージングサポーターが作動して、ドアが閉じます。

クロージングサポーターを作動させてトランクを閉じる

▶ トランクを軽く押し下げます。

クロージングサポーターが作動して、トランクが閉じます。

トランク

⚠ **警告**

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

⚠ **警告**

トランクを開閉するときは、身体や物にぶつからないように十分注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! トランクルームには乗車しないでください。事故などのとき、けがをするおそれがあります。

! 子供などがトランクに閉じ込められないように注意してください。

! トランクを開くときは、トランクの周りに障害物がなく、身体や物に当たるおそれがないことを確認してください。

! トランクを開くときは、後方や上方に十分な空間があることを確認してください。

トランクをいっぱいまで開いたときの高さについては（▷472 ページ）をご覧ください。

! 強風のときにトランクを開くと、風にあおられ、トランクが不意に下がるおそれがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、トランクに雪が積もっているときも同様に注意してください。

! トランクを閉じたときは、トランクが確実に閉じていることを確認してください。

! 車が施錠されているときにリモコン操作やキーレスゴー操作、エマージェンシーキーなどでトランクを開き、再度トランクを閉じるとトランクは施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

ℹ トランクが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

ℹ 車が施錠されているときは、キーのトランクオープナーボタンを押すとトランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

ℹ 車が施錠されているときも、キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクハンドルを引くと、トランクだけが解錠されて開きます。その状態でトランクを閉じると、トランクは施錠されます。

自動開閉トランクリッド非装備車

車外からトランクを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

トランクが開きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷89 ページ）を押し続けます。

トランクが開きます。

車外からトランクを閉じる

▶ 凹部 ② に手をかけてトランクを引き下げます。

▶ 外側からトランクを軽く押さえます。

クロージングサポーター（▷102 ページ）が作動して、トランクが閉じます。

▶ 必要であれば、車を施錠します（▷89、94 ページ）。

車内からトランクを開く

左ハンドル車

停車しているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開くことができます。

▶ トランクが開きはじめるまでトランクオープナースイッチ ③ を押し続けます。

トランクが開きます。

ℹ 走行中は、ハンドル ① やトランクオープナースイッチ ③ でトランクを開くことはできません。

自動開閉トランクリッド装備車

⚠ 警告

トランクを開閉するときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。開閉操作を停止するときは、トランククローザースイッチを押すか、トランク外側のハンドルを手前に引いてください。

ℹ トランクが開閉しているときに身体や荷物などと接触すると、トランクの動きが停止し、閉じていたときは自動で開きます。

ℹ 走行中は、トランクを開閉することはできません。

ℹ トランクが自動で開閉しているときに以下の操作を行なうと、トランクの動きが停止します。

- トランクのハンドルを引く
- トランククローザースイッチを押す
- トランクのキーレスゴースイッチを押す
- キーのトランクオープナーボタンを押す
- 運転席ドアのトランクスイッチを押す

ℹ 開閉操作を繰り返すと、トランクが一時的に開閉しなくなることがあります。

車外からのトランクの開閉

トランクを開く

▶ キーの解錠ボタンを押します。

▶ ハンドル ① を手前に引きます。

トランクが自動で開きます。

または

▶ トランクが開きはじめるまで、キーのトランクオープナーボタン（▷89 ページ）を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランククローザースイッチ ② を押します。

トランクが自動で閉じます。

トランクを閉じて車を施錠する

▶ キーレスゴースイッチ ③ を押します。

トランクが自動で閉じ、ドア、トランク、燃料給油フラップが施錠され、盗難防止警報システム（▷69 ページ）が待機状態になり、非常点滅灯が 3 回点滅します。

また、アンサーバック機能を設定しているときは、確認音が鳴ります（▷96 ページ）。

ℹ キーがトランク内にあるときは、トランクのキーレスゴースイッチを押してもトランクは閉じず、車は施錠されません。ただし、もう 1 本のキーがトランク側の検知範囲にあるときは、キーレスゴースイッチを押すことで、トランクを閉じて車を施錠できます。

ℹ ドアが完全に閉じていないときは、トランクのキーレスゴースイッチでトランクを閉じることはできません。このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ドアを閉めてから ﾛｯｸしてください " と表示されます。

車内からのトランクの開閉

⚠ **警 告**

トランクを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。トランクスイッチから指を放すと、トランクは全開します。

車両が停止していて解錠されているときは、運転席ドアのスイッチでトランクを開閉できます。

左ハンドル車

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されないことがあります。

トランクを開く

▶ トランクが開きはじめるまで、トランクスイッチ ④ を押し続けます。

トランクが自動で開きます。

トランクを閉じる

▶ トランクスイッチ ④ を押し続けます。

押している間、トランクが閉じます。

トランクの独立施錠

車の解錠 / 施錠に関わらず、トランクを独立して施錠できます。

トランクを独立施錠しているときは、トランクを開くことはできません。

トランクを独立施錠する

▶ トランクを閉じます。

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷424 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠位置 2 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

! トランクを開いた状態でも、上記の操作を行なってトランクを手動で閉じると独立施錠されます。このときは、エマージェンシーキーの閉じ込みに注意してください。

i 駐車場などでキーを預ける場合に、この機能を使用してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外して携帯してください。

独立施錠を解除する

▶ トランクのキーシリンダーにエマージェンシーキー（▷424 ページ）を差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを独立施錠解除位置 1 にまわします。

▶ キーシリンダーからエマージェンシーキーを抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

トランクリッドの開口角度制限 *

上方に十分な空間のないところでトランクを開くときに、トランクリッドの開口角度をルーフの高さまでに制限することができます。

COMAND システムで設定を行ないます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

メインエリアが車両設定画面になります。

トランクリッドの開口角度を設定する ①

▶ メインエリアに " トランクリッド開口角度制限 " を表示させて ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

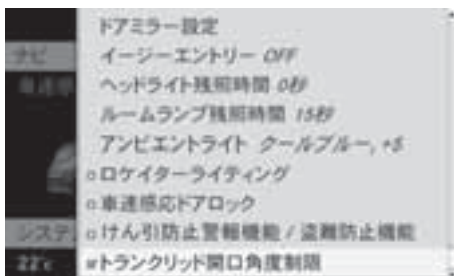
コントローラーを押すたびに " トランクリッド開口角度制限 *ON*" と " トランクリッド開口角度制限 *OFF*" が切り替わります。

" トランクリッド開口角度制限 *ON*"
トランクリッドの開口角度がルーフの高さになります。

" トランクリッド開口角度制限 *OFF*"
トランクリッドの開口角度は制限されません。

トランクリッドの開口角度を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ◎、コントローラーを押します。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " トランクリッド開口角度制限 " を選択して ◎・◎、コントローラーを押します。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

トランクリッド開口角度制限が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

イグニッション位置

⚠ **警 告**

ごく短時間でも、車から離れるときはエンジンスイッチからキーを抜いてください。また、子供だけを車内に残さないでください。いたずらから車の発進、火災などの事故が発生するおそれがあります。また、炎天下では車内が非常に高温になり、熱中症を起こすおそれがあります。

! 走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

キーによるイグニッション位置の選択

イグニッション位置を選択する

▶ エンジンスイッチに差し込んだキーをまわします。

以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーの位置	イグニッション位置
0	0：キーを差し込む／抜く位置
1	1：イグニッション位置が 1 になります。
2	2：イグニッション位置が 2 になります。
3	3：エンジンが始動します。

! バッテリーあがりを防ぐため、駐車時は必ずエンジンスイッチからキーを抜いてください。

i キーの発信部が覆われていたり、汚れていると、エンジンを始動できなくなります。

i 異なる車両のキーを差し込んだときも、エンジンスイッチをまわせることがありますが、イグニッション位置の選択や、エンジンの始動はできません。

キーレスゴースイッチによるイグニッション位置の選択

左ハンドル車

車内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチ ① を取り付けてあるとき、キーレスゴースイッチ ① を押すことにより、イグニッション位置の選択とエンジンの始動ができます。

イグニッション位置を選択する

▶ ブレーキペダルを踏んでいないときにキーレスゴースイッチ ① を押すと、以下のようにイグニッション位置が変更されます。

キーレスゴースイッチの操作	イグニッション位置
1 回押す	**0** から **1** になります。
さらに 1 回押す	**1** から **2** になります。
さらに 1 回押す	**2** から **0** になります。

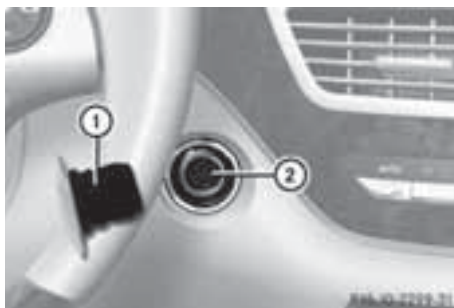
ℹ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

エンジンを始動する

▶ ブレーキペダルを踏んでいるときにキーレスゴースイッチ ① を押します。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

ℹ 車室内にキーがないときにキーレスゴースイッチを押すと、マルチファンクションディスプレイに " キーを認識できません " と表示されます。

キーレスゴースイッチの取り外し

左ハンドル車

キーレスゴースイッチ ① を取り外し、エンジンスイッチ ② にキーを差し込んでまわすことにより、イグニッション位置を選択できます。

ℹ キーレスゴースイッチは、通常は駐車時でも取り外す必要はありません。

▶ エンジンスイッチ ② からキーレスゴースイッチ ① を取り外します。

ℹ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けてから約 2 秒間は、キーレスゴー操作によるイグニッション位置の選択やエンジン始動ができません。

シート

⚠ **警告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもシート位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シート調整スイッチを操作してシートに挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

運転席シートは、必ず停車しているときに調整してください。走行中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

運転席シートの高さを不用意に調整すると、けがをするおそれがあります。特に子供は、シート調整スイッチを不用意に操作してけがをするおそれがあるため、以下のことに注意してください。

- シートを調整している間は、シートの下やシートの可動部分に手を入れないでください。
- 子供が乗車するときは、シートの下やシートの可動部分に手を入れないように注意してください。

⚠ **警告**

シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。また、エアバッグに関する注意もご覧ください。

子供を乗せるときは、（▷47 ページ）をご覧ください。

⚠ **警告**

ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストの中央部に支えられていることを確認してください。後頭部がヘッドレストに正しく支えられていないと、事故などのときに、首に重大なけがをするおそれがあります。ヘッドレストが正しい位置に調整されていないときは、決して走行しないでください。

⚠ **警告**

後席に乗車するときは、リアヘッドレストを起こしてください。事故のとき、乗員がけがをする危険性を低減することができます。

⚠ **警告**

ヘッドレストを格納するときや起こすときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。

⚠ **警 告**

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い状態で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

! シートやシートヒーターの損傷を防ぐため、以下の点に注意してください。

- シートに液体をこぼさないでください。シートに液体をこぼしたときは、すみやかに乾燥させてください。
- シートカバーが濡れたときなどは、シートを乾燥させるためにシートヒーターを使用しないでください。
- シートは定期的に清掃することをお勧めします。「日常の手入れ」をご覧ください（▷378 ページ）。
- シートの上に重い物を載せないでください。また、シートクッションの上にナイフや工具などの鋭利な物を置かないでください。シートは、できるだけ人を乗せるためだけに使用してください。
- シートヒーターの使用中は、毛布やコート、バッグ、シートカバー、チャイルドセーフティシートなどにより、シートを覆わないでください。

! 足元に物がないことを確認してください。また、バックレストを後方に倒すときはシートの後方に物がないことを確認してください。シートや物を損傷するおそれがあります。

ⓘ フロントシートのヘッドレストには、NECK PRO アクティブヘッドレストを装備しているため、ヘッドレストを取り外すことはできません。また、リアシートのヘッドレストは構造上の理由により取り外すことはできません。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

フロントシートの調整

左側フロントシートのスイッチ

矢印の方向	調整内容
①	ヘッドレストの高さ
②	シートの高さ
③	シートクッションの角度
④	シートクッションの長さ
⑤	シートの前後位置
⑥	バックレストの角度

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印 ① ～ ⑥ の方向に操作します。

PRE-SAFE® が作動すると、助手席シートはエアバッグの作動に対して適正な位置に自動的に調整されます。

シートの位置をポジションスイッチ * に記憶させることができます (▷140 ページ)。

イグニッション位置が **1** か **2** で以下のときは、助手席のヘッドレストが自動で下がります。

- 助手席に乗員がいないとき
- 助手席のシートベルトがバックルに差し込まれていないとき

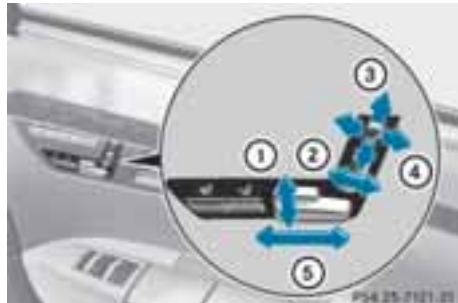
ただし、走行しているときはヘッドレストは下がりません。

助手席に乗員が検知されるか、助手席のシートベルトがバックルに差し込まれると、助手席のヘッドレストは元の位置に戻ります。

シートを調整しているときは、操作していない調整箇所も自動的に作動することがあります。

シートの前後位置を調整すると、ヘッドレストの高さも連動して調整されます。

リアシートの調整（電動シートバック装備車）

左右リアシートを電動により調整することができます。

右側リアシートのスイッチ

シートを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印 ① ～ ⑤ の方向に動かして調整します。

スイッチを矢印 ③ の方向に操作するとヘッドレストは自動的に格納 / 使用の位置になります。

矢印の方向	調整内容
①	シートクッションの角度
②	バックレストの角度 シートの前後位置も連動して動きます。
③	ヘッドレストの格納 / 使用
④	ヘッドレストの前後位置
⑤	シートの前後位置 バックレストの角度も連動して動きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 電動シートバック装備車は、PRE-SAFE®(▷46 ページ)が作動すると、左右リアシートが適正な位置に自動的に調整されます。

ⓘ ヘッドレストが格納されているときに、スイッチを矢印 ②④⑤ の方向に操作すると、ヘッドレストが自動的に起きます。

助手席コントロール機能 *

⚠ **警 告**

- 助手席に乗員がいるときに、助手席シートを調整するときは、助手席シートと助手席エアバッグの間隔を十分に確保してください。

  間隔が狭すぎると、事故などのとき、助手席エアバッグが作動する衝撃で助手席の乗員がけがをするおそれがあります。
- シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシートを動かしてけがをするおそれがあります。

左ハンドル車

運転席ドアのスイッチで助手席シートを調整することができます。

▶ 助手席コントロールスイッチ ① を押します。

▶ スイッチの表示灯が点灯します。

※ 右ハンドル車の助手席コントロールスイッチの文字は "**L**" と表記されています。

▶ 助手席コントロールスイッチの表示灯が点灯しているときに、運転席ドアのシート調整スイッチやポジションスイッチ、メモリースイッチ、シートヒータースイッチ、シートベンチレータースイッチを操作します。

助手席のシート位置やメモリー機能、シートヒーターやシートベンチレーターが操作できます。

ⓘ シートヒーターやシートベンチレーターを操作するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にしてください。

▶ 調整が終了したら、再度助手席コントロールスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

! 助手席シートの調整が終了したら、必ずスイッチを押して、スイッチの表示灯を消灯させてください。誤ってスイッチに触れると助手席シートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。

ⓘ 助手席コントロールスイッチを押してから、約 10 秒間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

後席からの助手席シート調整機能 *

助手席側のリアドアにあるスイッチで助手席シートを調整することができます。

左ハンドル車

助手席シートを調整する

▶ 助手席シート / 助手席側リアシート選択スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯が点灯し、助手席側リアドアのスイッチで助手席シートの調整ができる状態になります。

▶ 助手席シート / 助手席側リアシート選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、シート調整スイッチを矢印 ② ～ ⑤ の方向に動かして調整します。

▶ 調整が終了したら、再度助手席シート / 助手席側リアシート選択スイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯が消灯し、助手席側リアシートの調整ができる状態になります。

矢印の方向	調整内容
②	シートの高さ
③	ヘッドレストの高さ
④	バックレストの角度
⑤	シートの前後位置

⚠ 警告

- 助手席に乗員がいるときに、助手席シートを調整するときは、助手席シートと助手席エアバッグの間隔を十分に確保してください。

  間隔が狭すぎると、事故などのとき、助手席エアバッグが作動する衝撃で助手席の乗員がけがをするおそれがあります。
- シートの調整をするときは他の乗員の身体が挟まれないように注意してください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。誤ってシートを動かしてけがをするおそれがあります。

! 助手席シートを前方に動かすときは、助手席足元の収納ネットに収納している荷物に注意してください。荷物を損傷するおそれがあります。

i セーフティスイッチ（▷57 ページ）を使用して、この機能を解除できます。

i 助手席シート / 助手席側リアシート選択スイッチを押してから、約 10 秒間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドレストの調整

フロントヘッドレストの調整

ヘッドレストの高さを調整する

▶ シート調整スイッチを矢印 ① の方向（▷112 ページ）に操作して調整します。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ ヘッドレスト ① を持って矢印の方向に動かします。

ラグジュアリーヘッドレスト * の調整

⚠ 警 告

サイドクッションを広げるときは、サイドクッション後端部に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

サイドクッションの位置を調整する

▶ サイドクッションを矢印 ① の方向に動かします。

ヘッドレストの前後位置を調整する

▶ ヘッドレストのクッション部を矢印 ② の方向に動かします。

リアヘッドレストの調整

ヘッドレストを格納する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ヘッドレストスイッチ ① を押します。

ヘッドレストが格納されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

左右のヘッドレストを起こす（電動シートバック非装備車）

▶ ヘッドレストを手で引き起こしてロックさせます。

左右のヘッドレストを起こす（電動シートバック装備車）

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ヘッドレストスイッチ ① を押し続けます。

ヘッドレストが起きます。

ℹ 電動シートバック装備車は、イグニッション位置が **1** か **2** でヘッドレストが格納されているときに、後席左右の乗員がシートベルトを着用すると、左右のヘッドレストが自動で起きます。

ℹ 電動シートバック装備車は、左右のヘッドレストを手動で起こすことはできません。

中央のヘッドレスト * を起こす

▶ ヘッドレストを手で引き起こしてロックさせます。

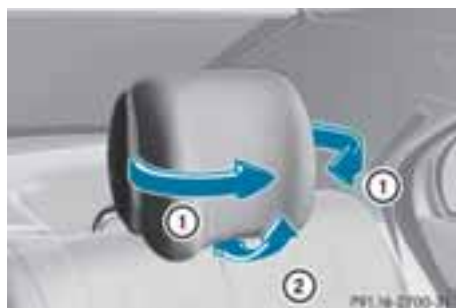
左右のヘッドレストの角度を調整する

▶ 矢印 ① の方向にヘッドレストを押して / 引いて、ヘッドレストの角度を調整します。

ラグジュアリーヘッドレスト * の調整

⚠ 警 告

サイドクッションを広げるときは、サイドクッション後端部に指をかけないでください。指を挟むおそれがあります。

左右のサイドクッションを独立して調整できます。

サイドクッションの位置を調整する

▶ サイドクッションを矢印 ① の方向に動かします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドレストの角度を調整する

▶ 矢印 ② の方向にヘッドレストを押して / 引いて、ヘッドレストの角度を調整します。

ランバーサポート（マルチコントロールシートバック非装備車）

① ランバーサポートスイッチ

腰部のサポートを調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ ランバーサポートスイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにランバーサポート調整画面が表示されます。

左ハンドル車

調整するシートを選択する

左ハンドル車

▶ サブメニューエリアで、" 運転席 " または " 助手席 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

ランバーサポートの強さを調整する

左ハンドル車

▶ メインエリアでコントローラーをまわすか 〔◎〕、左右にスライドさせます ←◎→。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

ゲージが右に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ ランバーサポートスイッチ①を押すか、他の画面を選択します。

元の画面に戻ります。

マルチコントロールシートバック *

シートクッションやバックレストの形状、サポートの強さを調整します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに調整できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

マルチコントロールシートバックでは、以下の調整を行なうことができます。

- シートクッションのサイドサポート（▷120 ページ）
- バックレストのサイドサポート（▷120 ページ）
- ランバーサポート（▷121 ページ）
- バックレストのショルダー部のサポート（▷122 ページ）

また、S 600、S 63 AMG、S 65AMG とラグジュアリーシートパッケージ装備車には、以下の機能が装備されます。

- ドライビングダイナミックシート（▷122 ページ）
- マッサージ機能（▷123 ページ）

ℹ マルチコントロールシートバックの調整を行なったときは、シートから作動音がすることがあります。

ℹ PRE-SAFE® が作動すると、フロントシートのシートクッションおよびバックレストのサイドサポートの空気圧が自動的に高くなります。

① マルチコントロールシートバックスイッチ

▶ マルチコントロールシートバックスイッチ ① を押します。

COMAND ディスプレイにマルチコントロールシートバック調整画面が表示されます。

左ハンドル車

調整するシートを選択する

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ サブメニューエリアで、" 運転席 " または " 助手席 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整する項目を選択する

▶ メインエリアでコントローラーをまわすか 〔◎〕、左右にスライドさせます ←◎→。

以下の順番で調整項目が表示されます。

シートクッションのサイドサポート
↓↑
バックレストのサイドサポート
↓↑
ランバーサポート
↓↑
バックレストのショルダー部のサポート
↓↑
ドライビングダイナミックシート
(S 600、S 63 AMG、S 65 AMG、ラグジュアリーシートパッケージ装備車)
↓↑
マッサージ機能
(S 600、S 63 AMG、S 65 AMG、ラグジュアリーシートパッケージ装備車)

ⓘ シートクッションとバックレストのサイドサポートは、どちらも " サイド " と表示されます。それぞれの画面の内容を確認してください。

シートクッションのサイドサポート

左ハンドル車

▶ " サイド "（上記画面）を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか 〔◎〕、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎

元の画面に戻ります。

バックレストのサイドサポート

左ハンドル車

▶ " サイド "（上記画面）を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか ◎、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

元の画面に戻ります。

ランバーサポート

左ハンドル車

▶ " ランバー " を表示させて ◎・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

左ハンドル車

ランバーサポートの上下位置を調整する

▶ コントローラーを上下にスライドさせて ↑◎↓、ランバーサポートの上下位置を調整します。

調整画面の " ✚ " が上下に動きます。

ランバーサポートの上下位置が数字 ① で表示されます。数字が大きくなるほど、サポート位置が高くなります。

左ハンドル車

ランバーサポートの強さを調整する

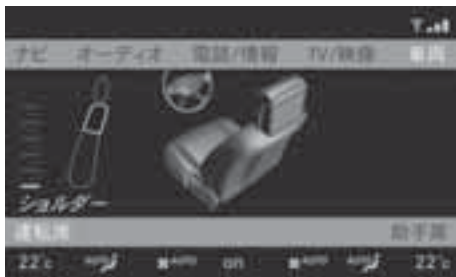
▶ コントローラーを左右にスライドさせて ←◎→、ランバーサポートの強さを調整します。

調整画面の " ✚ " が左右に動きます。

ランバーサポートの強さが数字②で表示されます。数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

元の画面に戻ります。

バックレストのショルダー部のサポート

左ハンドル車

▶ " *ショルダー* " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか 〔◎〕、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

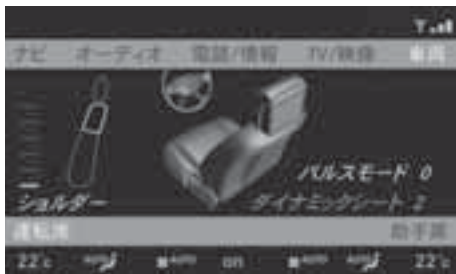
ゲージが上に動き、数字が大きくなるほど、サポートが強くなります。

▶ コントローラーを押します ◎。

元の画面に戻ります。

ドライビングダイナミックシート（S 600、S 63 AMG、S 65 AMG、ラグジュアリーシートパッケージ装備車）

カーブを曲がるときなどに、バックレストのサイドサポートを自動的に増加させ、身体を効果的に支える機能です。

ドライビングダイナミックシートのサポートのレベルを設定する

▶ 上記の画面で " *ダイナミックシート* " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

調整画面が表示されます。

▶ コントローラーをまわすか 〔◎〕、上下にスライドさせます ↑◎↓。

スケールのゲージが動き、数字が変化します。

"*0*"
ドライビングダイナミックシートは作動しません。

"*1*"
サイドサポートが作動します。

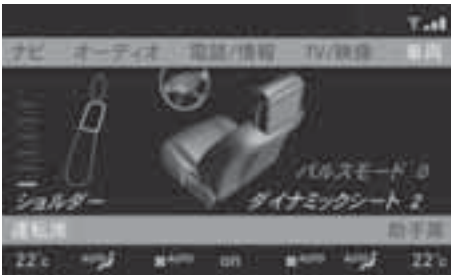
"*2*"
サイドサポートがより強く作動します。

▶ コントローラーを押します ⊙。

サポートのレベルが設定されます。

マッサージ機能（S 600、S 63 AMG、S 65 AMG、ラグジュアリーシートパッケージ装備車）

バックレストのエアクッションが膨張と収縮を繰り返し、長時間走行などの疲労を軽減できます。

マッサージのレベルを設定する

▶ 上記の画面で "*パルスモード*" を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊙。

マッサージレベル設定メニューが表示されます。

現在選択されているレベルの左側の " ○ " の中には、" • " が表示されています。

▶ レベルを選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

マッサージのレベルが設定されます。

"0：OFF"
マッサージ機能は作動しません。

"1：弱（スロー）"
エアクッションが膨張と収縮をゆっくり繰り返し、弱めにマッサージします。

"2：強（スロー）"
エアクッションが膨張と収縮をゆっくり繰り返し、強めにマッサージします。

"3：弱（クイック）"
エアクッションが膨張と収縮を早めに繰り返し、弱めにマッサージします。

"4：強（クイック）"
エアクッションが膨張と収縮を早めに繰り返し、強めにマッサージします。

ℹ マッサージ機能は約 6 ～ 20 分後に自動的に停止します。

後席のマルチコントロールシートバック *

背中を正しく支えるように、左右リアシートのバックレストのサポートを調整したり、マッサージ機能を作動させることができます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

操作スイッチはリアシートアームレストにあります。

シートを調整する

▶ 左右選択スイッチ ① または ⑦ を、前または後に操作します。

操作したスイッチの表示灯が点灯し、点灯した側のシートが調整できます。

左右選択スイッチを押してから、約 1 分間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

▶ 左右選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、スイッチ ② ～ ⑥ を前後方向に操作します。

スイッチ	調整内容
②	マッサージ機能（強） 前方に操作すると、マッサージ機能が強で作動します。後方に操作すると作動が停止します。
③	マッサージ機能（弱） 前方に操作すると、マッサージ機能が弱で作動します。後方に操作すると作動が停止します。
④	ランバーサポートの位置の調整 前方に操作するとサポートの位置が上がり、後方に操作すると位置が下がります。
⑤	ランバーサポートの強弱の調整 前方に操作するとサポートが強くなり、後方に操作すると弱くなります。
⑥	バックレスト横方向のサポートの調整 前方に操作するとサポートが強くなり、後方に操作すると弱くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シートヒーター *

シートヒーターの使用と停止

左側フロントシートのスイッチ

シートヒーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートヒータースイッチ ① を押します。

シートヒータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートヒーターの作動が切り替わります。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートヒーターが強で作動します。 約 8 分後に自動的に中に切り替わります。
2	シートヒーターが中で作動します。 約 10 分後に自動的に弱に切り替わります。
1	シートヒーターが弱で作動します。 約 20 分後に自動的に停止します。 ただし、シートベンチレーター（▷126 ページ）を作動させているときは、シートヒーターは自動的には停止しません。
0	停止しています。

シートヒーターを停止する

▶ シートヒータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させます。

⚠ **警告**

シートヒーターを強で連続して使用しないでください。また、コートや厚手の衣服などを着用している状態や、毛布などの保温性の高いものをシートにかけた状態でシートヒーターを使用しないでください。異常過熱により低温火傷（紅斑、水ぶくれ）を起こすおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警 告

以下の事項に該当する方は、熱すぎたり、低温火傷をするおそれがありますので、十分に注意してください。

- 乳幼児、お年寄り、病人、身体が不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 眠気を誘う薬を服用された方
- 飲酒した方

! シートに凸部のある重量物を置かないでください。故障の原因になります。

ⓘ 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートヒーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

ⓘ 運転席ドアの助手席コントロールスイッチ（▷114 ページ）の表示灯が点灯しているときは、運転席ドアのシートヒータースイッチを押すと助手席のシートヒーターが作動します。運転席のシートヒーターを作動させるときは、助手席コントロールスイッチの表示灯が消灯していることを確認してください。

シートヒーターのトラブル

シートヒーターが短時間で停止するときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

シートベンチレーター *

シートベンチレーターの使用と停止

左側フロントシートのスイッチ

シートベンチレーターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押します。

シートベンチレータースイッチを押すごとに点灯する表示灯の数が変わり、シートベンチレーターの作動が切り替わります。

シートベンチレーターを停止する

▶ シートベンチレータースイッチ ① を押して、表示灯を消灯させせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

点灯している表示灯の数	作動内容
3	シートベンチレーターが強で作動します。
2	シートベンチレーターが中で作動します。
1	シートベンチレーターが弱で作動します。
0	停止しています。

i コンビニエンスオープニング機能を作動させると、運転席のシートベンチレーターが強で約 5 分間作動します。

i 多くの電気装備を使用していたりバッテリーの電圧が低くなると、シートベンチレーターが停止することがあります。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

i 運転席ドアの助手席コントロールスイッチ（▷114 ページ）の表示灯が点灯しているときは、運転席ドアのシートベンチレータースイッチを押すと助手席のシートベンチレーターが作動します。運転席のシートベンチレーターを作動させるときは、助手席コントロールスイッチの表示灯が消灯していることを確認してください。

シートベンチレーターのトラブル

シートベンチレーターが短時間で停止するときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ リアデフォッガーやルームランプなど、必要のない電気装備を停止してください。

ステアリング

⚠ **警告**

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもステアリング位置を調整できるため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。ステアリング調整レバーを操作してステアリングに挟まれるおそれがあります。

⚠ **警告**

ステアリングの調整は、必ず運転前に行なってください。運転中に調整すると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警告**

- 運転中はステアリングのパッド部を持たないでください。万一のとき、運転席エアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- ステアリングのパッド部にカバーをしたり、運転席エアバッグ収納部の上にバッジ、ステッカー、オーディオのリモコンなどを貼り付けないでください。運転席エアバッグの作動を妨げたり、作動時にけがをするおそれがあります。

! ステアリングをいっぱいまでまわした状態を長く保持しないでください。ステアリング装置を損傷するおそれがあります。

! 故障などでエンジンを停止してけん引するときは、十分注意してください。エンジンが停止していると、通常のときに比べてステアリング操作に非常に大きな力が必要です。

ステアリングの調整

左ハンドル車
① 前後位置の調整
② 上下位置の調整

前後位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ① の方向に操作します。

上下位置を調整する

▶ ステアリング調整レバーを ② の方向に操作します。

ⓘ ステアリングの位置は、運転席シートの位置やドアミラーの角度、ランバーサポートの強さ、マルチコントロールシートバック * の設定と併せて記憶させることができます *（▷140 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ステアリングヒーター *

ステアリングリムのレザー部分を温めることができます。

ステアリングヒーターを使用する

イグニッション位置が **2** のときに使用できます。

▶ レバーの先端を矢印 ① の方向にまわします。

表示灯 ③ が点灯します。

ステアリングヒーターを停止する

▶ レバーの先端を矢印 ② の方向にまわします。

表示灯 ③ が消灯します。

! ステアリングヒーターに異常を感じた場合は、使用を停止し、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ℹ ステアリングのウッド部分は温まりません。

ℹ ステアリングヒーターは、使用を開始してから約 30 分以内に自動的に停止します。

イージーエントリー

⚠ **警 告**

イージーエントリーが作動しているときは、乗員の身体が挟まれないように注意してください。身体が挟まれそうになったときは、運転席のシート調整スイッチ、ステアリング調整レバー、運転席ドアのポジションスイッチやメモリースイッチのいずれかを操作してください。

子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転席ドアを開いたときなどにイージーエントリーが作動し、身体が挟まれてけがをするおそれがあります。

イージーエントリーは、運転席への乗り降りを容易にする機能です。

次のいずれかの操作をすると、ステアリングが上方に、運転席シート * が後方に移動します。

- エンジンスイッチからキーを抜く
- イグニッション位置が **0** か **1** のときに運転席ドアを開く
- 運転席ドアが開いているときに、キーレスゴースイッチでイグニッション位置を **0** にする。

ステアリングと運転席シート * は、次のいずれかの操作をすると、元の位置に戻ります。

- 運転席ドアが閉じた状態でエンジンスイッチにキーを差す
- イグニッション位置が **0** のときは、運転席を閉じてから **1** の位置にする

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- イグニッション位置が **1** のときは、運転席ドアを閉じて **2** にするか、運転席ドアを閉じてイグニッション位置を **0** にしてから **1** の位置にする

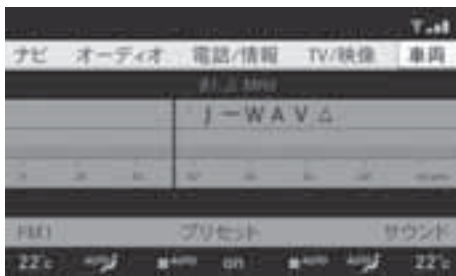
! バックレストを大きく後方に傾けているときは、イージーエントリーを作動させないでください。フロントシートやリアシートを損傷するおそれがあります。作動させる前に、バックレストを垂直位置にしてください。

ⓘ イージーエントリーの作動中に走行を開始すると、イージーエントリーは停止します。

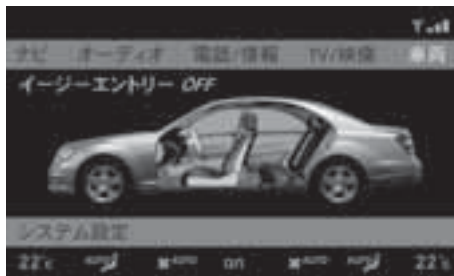
ⓘ ステアリングが上方の位置にあるときは、イージーエントリーは作動しないことがあります。

イージーエントリーの設定

ステアリングのみ、あるいはステアリングと運転席シートを同時に移動する設定を選択できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

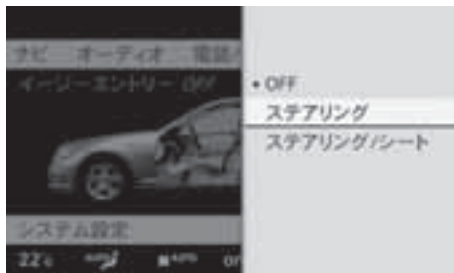
メインエリアが車両設定画面になります。

イージーエントリーを設定する ①

▶ メインエリアに " イージーエントリー " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

イージーエントリー設定メニューが表示されます。

現在選択されているイージーエントリーの設定の左側には " • " が表示されています。

▶ イージーエントリーの設定を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

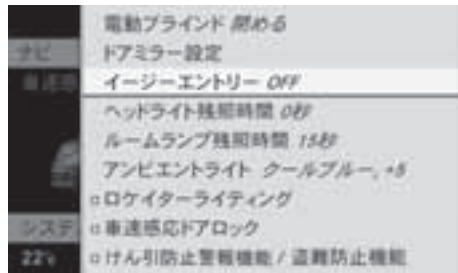
"OFF"
イージーエントリーは作動しません。

" ステアリング "
ステアリングのみが移動します。

" ステアリング / シート "
ステアリングとシートが移動します。

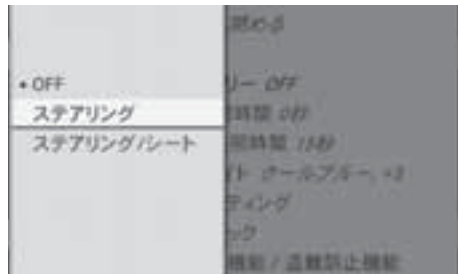
設定した内容がメインエリアに表示されます。

ⓘ S 350 のファブリックシート仕様車では、イージーエントリー設定メニューに " ステアリング / シート " が表示されますが、設定を行なってもこの機能は作動しません。

イージーエントリーを設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " イージーエントリー " を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

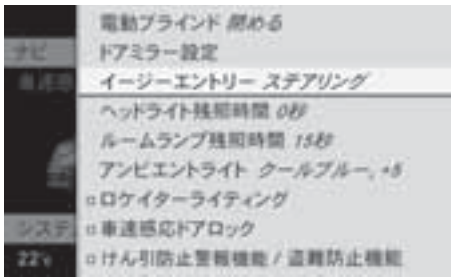
イージーエントリー設定メニューが表示されます。

現在選択されているイージーエントリーの設定の左側には " • " が表示されています。

▶ イージーエントリーの設定を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"OFF"
イージーエントリーは作動しません。

" ステアリング "
ステアリングのみが移動します。

" ステアリング / シート "
ステアリングとシートが移動します。

設定した内容が車両設定メニューに表示されます。

ℹ S 350 のファブリックシート仕様車では、イージーエントリー設定メニューに "ステアリング / シート" が表示されますが、設定を行なってもこの機能は作動しません。

クラッシュセンサー連動機能

事故などのときに、クラッシュセンサーに連動してイージーエントリー機能が作動します。イグニッション位置に関わらず、事故などのときに運転席ドアを開くと、ステアリングが上方に移動して、車外への脱出と乗員の救出を容易にします。

クラッシュセンサー連動機能は、マルチファンクションディスプレイでイージーエントリー機能を設定していて、事故などが発生したときにのみ作動します。

ミラー

⚠ 警告

ミラー類は必ず走行前に、後方が十分確認できるように調整してください。走行中に調整すると、事故を起こすおそれがあります。

ルームミラーやドアミラーには死角があります。車線変更をするときなどは、必ずルームミラーおよびドアミラーで後方を確認してください。また、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ルームミラーやドアミラーの汚れを取るときにガラスクリーナーを使用する場合は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に相談してください。ガラスクリーナーによっては、ミラーが変色するおそれがあります。

ルームミラー

ルームミラーの角度調整

▶ 手でルームミラーの角度を調整します。

ドアミラー

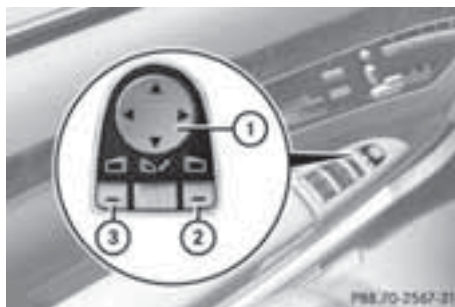
⚠ **警告**

ドアミラーに写った像は実際よりも遠くにあるように見えます。車線変更をするときなどは、肩ごしに直接斜め後方を確認してください。

! ドアミラーは車体の側面から突き出ています。すれ違いや車庫入れのとき、また、歩行者などに十分注意してください。

i より広い視界を確保するため、ドアミラーの外側部分は凸面になっています。

i ドアミラーにはヒーターが装備されています。外気温度が低いときやリアデフォッガーを使用したときは、自動的に温められ、凍結を防ぎます。

ドアミラーの角度調整

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 調整する側のドアミラー選択スイッチ ② または ③ を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

▶ ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ① を操作してドアミラーの角度を調整します。

i ドアミラー選択スイッチを押してから、約 15 秒間操作をしないと、スイッチの表示灯は消灯します。

i ドアミラーの角度は、運転席シートやステアリングの位置、ランバーサポートの強さ、マルチコントロールシートバック * の設定と併せて記憶させることができます *(▷140 ページ)。

ドアミラーの格納 / 展開

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ ① を押します。

ドアミラーが格納 / 展開します。

! ドアミラーは手で格納したり、展開しないでください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! 走行するときはドアミラーを展開してください。

! ドアミラーを格納 / 展開しているときは、身体や物が挟まれないように注意してください。車の周りに子供がいるときは、特に注意してください。

! 洗車機を使用するときはドアミラーを格納してください。ドアミラーを損傷するおそれがあります。

施錠時のドアミラー格納

車を施錠するときにドアミラーも併せて格納できます。

格納されたドアミラーは、フロントドアを開くと展開します。

COMAND システムで設定を行ないます。

ⓘ ドアミラー格納 / 展開スイッチでドアミラーを格納したときは、ドアミラーは展開しません。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ❨◎❩・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

施錠時のドアミラー格納設定 ①

▶ メインエリアに " ドアミラー設定 " を表示させて ❨◎❩・←◎→、コントローラーを押します ◎。

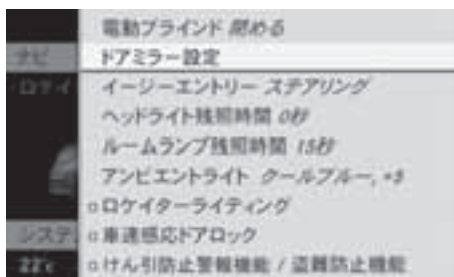
ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " ドアロック連動格納 " を選択して ❨◎❩・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

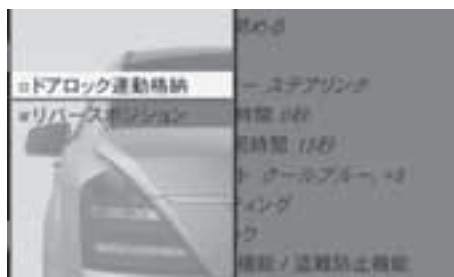
コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

施錠時のドアミラー格納が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

施錠時のドアミラー格納設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " ドアミラー設定 " を選択して ⟨◎⟩・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " ドアロック連動格納 " を選択して ⟨◎⟩・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

施錠時のドアミラー格納が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

ドアミラーが無理に外側に曲げられたとき

ドアミラーが無理に外側に曲げられたときは、以下のようにしてください。

▶ ドアミラー格納 / 展開スイッチ（▷133 ページ）を、ギアが噛み合う音が聞こえるまで押します。

ドアミラーユニットのギアが噛み合うと、通常通りドアミラーを格納 / 展開できるようになります。

自動防眩機能

⚠ 警 告

車内に高さのある荷物を積んでいるときなど、ルームミラーのセンサーに後続車のライトが当たらないときは、自動防眩機能が作動しないことがあるため、眩惑により事故を起こすおそれがあります。このときは、手動でルームミラーの角度を調整してください。

周囲が暗くイグニッション位置が **2** のときに、ルームミラーのセンサーが後続車のライトを感知すると、自動的にルームミラーと運転席側のドアミラーの色の濃度が変わり、眩しさを防止します。

シフトポジションが **R** のとき、またはフロントルームランプが点灯しているときは、自動防眩機能が解除されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能

シフトポジションを **R** にしたときに、助手席側ドアミラーの角度があらかじめ記憶させていた角度になり、車両後方の視界を確保して、後退を容易にします。

助手席側ドアミラーを記憶させていた角度にする

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能が設定されていることを確認します（▷138、139 ページ）。

▶ ブレーキペダルを踏みます。

▶ シフトポジションを **R** にします。

ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

運転席側のドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯したときは、助手席側ドアミラー選択スイッチ ② を押します。

ℹ 助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能が作動しているときは、シフトポジションを **R** にすると、いずれかのドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯し続けます。

助手席側ドアミラーの角度は以下のいずれかのときに元の角度に戻ります。

- 走行速度が約 15km/h 以上になったとき
- シフトポジションを R の位置から他の位置にして約 10 秒経過したとき
- 運転席側ドアミラー選択スイッチ ① を押して、運転席側ドアミラーを選択したとき

  このときは運転席側のドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

  再度、助手席側ドアミラー選択スイッチを押すと、助手席側ドアミラーは記憶させている角度になり、助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。
- イグニッション位置を **0** か **1** にして、再度イグニッション位置を **2** にしたとき

後退時の助手席側ドアミラー角度を記憶させる

左ハンドル車

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ① を押します。

助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

▶ シフトポジションを R にします。

助手席側ドアミラーが記憶されている角度になります。

▶ ドアミラー調整スイッチで助手席側ドアミラーの角度を新たに記憶させたい角度に調整します。

調整した角度に記憶されます。

後退時の助手席側ドアミラーの角度は、以下の方法でも記憶させることができます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ 助手席側ドアミラー選択スイッチ ① を押します。

助手席側ドアミラー選択スイッチの表示灯が点灯します。

▶ スイッチの表示灯が点灯しているときに、ドアミラー調整スイッチ ② で、後退時に後方を確認しやすい角度に助手席ドアミラーの角度を調整します。

▶ 運転席ドアのメモリースイッチ ③ を押します。

▶ 約 3 秒以内にドアミラー調整スイッチ ② をいずれかの方向に押します。

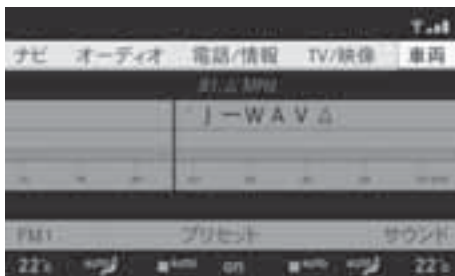
このとき助手席側ドアミラーが動かなければ、そのときの角度が記憶されます。

▶ ドアミラー調整スイッチ ② で、走行時の角度に助手席側ドアミラーを調整します。

! 走行するときは、ドアミラーを後方が十分確認できるように調整してください。

ℹ 助手席側ドアミラーが動いたときは最初からやり直してください。

ℹ 助手席側ドアミラーが後退時の角度に自動調整されているときに助手席側ドアミラーの角度を調整すると、調整した角度が新たに記憶されます。

助手席側ドアミラーのパーキングヘルプ機能の設定

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

パーキングヘルプ機能を設定する ①

▶ メインエリアに " ドアミラー設定 " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " リバースポジション " を選択して 〔◎〕・◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

この機能が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

ℹ S 350 のファブリックシート仕様車では、ドアミラー設定メニューに " リバースポジション " が表示されますが、設定を行なってもこの機能は作動しません。

パーキングヘルプ機能を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " ドアミラー設定 " を選択して 《◎》・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ドアミラー設定メニューが表示されます。

▶ " リバースポジション " を選択して 《◎》・◎↓、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

この機能が設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

ⓘ S 350 のファブリックシート仕様車では、ドアミラー設定メニューに " リバースポジション " が表示されますが、設定を行なってもこの機能は作動しません。

メモリー機能 *

シート位置の記憶

⚠ 警 告

エンジンスイッチにキーが差し込まれていなくてもメモリー機能は作動するため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。シートやステアリングが動き出し、身体が挟まれるおそれがあります。

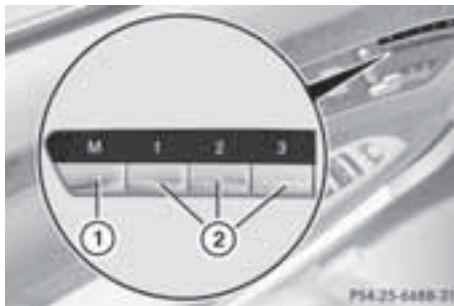
⚠ 警 告

運転席側の記憶位置の呼び出しは、必ず停車中に行なってください。走行中に行なって操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

メモリー機能では、例えば 3 人の異なる運転者のために 3 つの位置を記憶させることができます。

以下の項目がひとつの設定として記憶されます。

- シートとバックレスト、ヘッドレストの位置、およびランバーサポートの強さ
- ドライビングダイナミック機能 * の作動内容
- マルチコントロールシートバック装備車は、シートクッションおよびバックレストのサイドサポートと、バックレストのランバーサポートおよびショルダー部のサポートの設定
- 運転席側は、ステアリングの位置
- 運転席側は、運転席側および助手席側ドアミラーの角度

ⓘ 助手席コントロール機能（▷105 ページ）により、運転席ドアのスイッチで助手席シートの記憶と呼び出しができます。

左側フロントシートのスイッチ
① メモリースイッチ
② ポジションスイッチ

▶ 正しいシート位置に調整します。

運転席では、さらにステアリングの位置やドアミラーの角度を調整します。

ドアミラーの角度やランバーサポート、マルチコントロールシートバックを調整するときは、イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ メモリースイッチ ① を押します。

▶ 約 3 秒以内にポジションスイッチ ② の "1" ～ "3" のいずれかを押します。

" ピッ " という確認音が鳴り、そのポジションスイッチにシート位置などが記憶されます。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

シート位置の呼び出し

▶ 呼び出したいポジションスイッチ②の "1" ～ "3" のいずれかを押し続けます。

シートなどが動きはじめ、あらかじめ記憶させた位置になると停止します。

ℹ 安全のため、ポジションスイッチ②から指を放すとシートは停止します。ただし、ランバーサポートやマルチコントロールシートバックの設定の呼び出しは停止せず、継続されます。

シートベルト

シートベルトの着用

⚠ 警 告

- シートベルトを正しく着用していなかったり、シートベルトがバックルに確実に差し込まれていないと、シートベルトの機能が十分に発揮されずに、致命的なけがをするおそれがあります。
- 着用前に、シートベルトやバックルに損傷や汚れがないことを確認してください。
- 乗員全員が、常にシートベルトを正しく着用していることを確認してください。
- シートベルトは身体に密着させて、ねじれのないように着用してください。
- コートなどの厚手の衣類は着用しないでください。
- 肩を通るベルトは肩の中央にかけてください。絶対に首や脇の下には通さないでください。また、シートベルトを引き上げて胸に密着させてください。
- 腰を通るベルトは腰骨のできるだけ低い位置にかけてください。
- ペンや眼鏡など、衣類のポケットに入れたとがった物やこわれやすい物にシートベルトをかけないでください。
- シートベルトクリップなどを使用してシートベルトにたるみをつけないでください。

- 1 本のシートベルトを 2 人以上で共用したり、シートベルトと身体の間にバッグなどを挟み込まないでください。
- 子供を膝の上に座らせて走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに子供を保護することができず、子供と他の乗員が致命的なけがをするおそれがあります。
- 身長 150cm 未満の乗員または 12 歳未満の子供は、シートベルトを正しく着用することができません。必ずチャイルドセーフティシートを適切なシートに装着して、子供の安全を確保してください。

  詳しくは（▷47 ページ）をご覧ください。
- 子供が着用するときは、着用状態を運転者が確認してください。また、正しく着用できない体格の子供は適切なチャイルドセーフティシートを使用してください。
- チャイルドセーフティシートを装着するときは、製品に添付されている取扱説明書に従ってください。
- 妊娠中の方やけがの治療中の方は、医師に相談の上、シートベルトを着用してください。
- シートベルトを使って、重い荷物などを固定しないでください。

⚠ 警 告

シートベルトの効果は、バックレストができるだけ垂直に近い位置で、乗員が上体を起こして座っている場合にのみ発揮することができます。絶対にバックレストを大きく寝かせた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警 告

- シートベルトが以下のようなときは、機能が十分に発揮されずに致命的なけがをするおそれがあります。
  - ◇ シートベルトが損傷しているとき
  - ◇ 事故などでシートベルトに大きな衝撃がかかったとき
  - ◇ シートベルトを改造・分解したとき
- 鋭利な部分の上にシートベルトを通さないでください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトがドアやシートレールに挟まれていないことを確認してください。シートベルトを損傷するおそれがあります。
- シートベルトを改造したり分解しないでください。
- 衝突後やシートベルトが大きな衝撃を受けたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で新品と交換し、関連部品の点検を受けてください。
- 純正部品以外のシートベルトは使用しないでください。

> ⚠ **警告**
>
> - シートベルトの強度が低下し、乗員保護機能が損なわれるため、清掃するときは以下の点に注意してください。
>   - ◇ 強い酸性やアルカリ性洗剤、有機溶剤などを使用しない
>   - ◇ 乾燥時にドライヤーや直射日光を当てない
>   - ◇ シートベルトを漂白したり、染色しない
> - シートベルトに損傷がないか、定期的に点検してください。

シートベルトを着用する

▶ フロントシートは、シートを調整し、バックレストをできるだけ垂直に近い角度にします。

▶ シートベルトをベルトアンカー①からゆっくりと引き出します。

シートベルトがロックして引き出せないときは、シートベルトを少し戻してから、再びゆっくり引き出します。

▶ シートベルトにねじれがないことを確認して、肩を通るベルトが肩の中央に、腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにします。

▶ プレート②の先端をバックル③に差し込みます。

フロントシートは、テンション自動調整機能が作動します。

▶ 必要であれば、肩を通るベルトを上方に引いて、シートベルトを身体に密着させます。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能

フロントシートベルトにはテンション自動調整機能が装備されています。

イグニッション位置が **2** のときに、プレートの先端をバックルに差し込むと、シートベルトが身体に密着するように、自動的にシートベルトのテンション（締め付け具合）を調整します。

この機能の設定と解除については（▷225 ページ）をご覧ください。

フロントシートベルトの高さ調整

シートベルトが首に当たったり、肩から外れないように高さを調整します。

高さは 5 段階に調整できます。

シートベルトの高さを調整する

▶ 上げるときは、アンカー ② をそのまま上げます。

▶ 下げるときは、ロック解除ボタン ① を押しながらアンカー ② を下げます。

調整後はアンカーが確実にロックしていることを確認してください。

シートベルトを外す

▶ 手でプレート ② を持ち、バックル ③ の解除ボタン ④ を押して、シートベルトをゆっくり巻き取らせます。

! シートベルトが完全に巻き取られていることを確認してください。シートベルトやプレートがドアやシートに挟まれて、ドアや内張り、シートベルトを損傷するおそれがあります。損傷したシートベルトは乗員保護効果を十分に発揮できないため、交換する必要があります。詳しくは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

シートベルト着用警告

シートベルト警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し、エンジン始動後に消灯します。

点灯しないときは警告灯の異常ですので、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは点灯したままになります。

エンジンがかかっているときに運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト警告灯が点灯します。

シートベルト警告音

運転席の乗員がシートベルトを着用しないでエンジンを始動すると、警告音が数秒間鳴り、シートベルトの着用を促します。

走行中のシートベルト警告

走行速度が約 25km/h 以上になったときに、運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していないかシートベルトをバックルから外したときは、シートベルト警告灯が点滅して、断続的な警告音も鳴ります。

そのままの状態で約 60 秒間走行するか、または停車したときは警告灯は点灯に変わり、警告音も鳴り止みます。ただし、シートベルトを着用しないまま再び走行を始めて速度が約 25km/h 以上になると、この警告は繰り返し行なわれます。

助手席に重い荷物などを積んでいると、エンジンがかかっているときにシートベルト警告が行なわれることがあります。

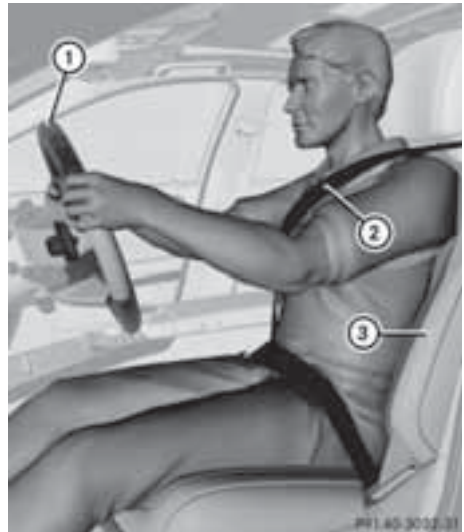
正しい運転姿勢

⚠ 警告

- バックレストと背中の間に物を挟まないでください。事故のとき、けがをするおそれがあります。
- バックレストを大きく後方に傾けた状態で走行しないでください。急ブレーキ時や衝突時などに身体がシートベルトの下を抜けてベルトの力が腹部や首にかかり、致命的なけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

運転席の乗員は必ず運転前に自分の運転姿勢に合った正しいシート位置に調整してください。

運転中に調整して操作を誤ると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

▶ 以下のことに注意して、シート③を調整します。

- 運転席エアバッグとの間隔を、できるだけ確保する
- 正しい姿勢で着座している
- シートベルトが正しく着用できる
- バックレストをできるだけ垂直に調整している
- 大腿部がシートクッションに軽く支えられている
- ペダルが楽に踏み込める

▶ 以下のことに注意して、ヘッドレストを調整します。

- ヘッドレストの中央が目の高さに調整され、後頭部がヘッドレストに支えられていることを確認する

▶ 以下のことに注意して、ステアリング ① を調整します。

- ステアリングを握ったときに、腕に適度な余裕がある
- 足を自由に動かせる
- メーターパネルのすべてのメーター類やマルチファンクションディスプレイ、警告灯や表示灯を確認できる

▶ 以下のことに注意して、シートベルト ② を着用します。

- シートベルトが身体に密着している
- 肩を通るベルトが肩の中央にかかっている
- 腰を通るベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかっている

▶ 走行する前に、道路や交通状況が十分確認できるようにルームミラーとドアミラーを調整します。

▶ メモリー付きパワーシート装備車は、メモリー機能で、シートとステアリングの位置、ドアミラーの角度を記憶させます。

! シートを調整しているときは、シートの下や横に身体を入れたり、作動部に触れないでください。挟まれてけがをするおそれがあります。

! シートの一部が他の乗員や物に当たったときは、それ以上操作しないでください。

! 誤ってシート調整スイッチに触れるとシートが動き、乗員がけがをするおそれがあります。子供を乗せているときは十分注意してください。

ライト

ライトスイッチ

左ハンドル車

1	←P≡	左側のパーキングライトが点灯
2	P≡→	右側のパーキングライトが点灯
3	0	すべてのライトが消灯
4	A	周囲の明るさに応じて、自動的に点灯 / 消灯
5	≡00≡	車幅灯、テールランプ、ライセンスライトやスイッチなどの照明が点灯し、ライトスイッチの車幅灯表示灯 ≡00≡ が点灯
6	≡D	車幅灯などに加え、ヘッドライトと LED ドライビングライトが点灯
7	0≢	リアフォグランプが点灯

車幅灯

車幅灯を点灯する

▶ ライトスイッチを [車幅灯] の位置にします。

ヘッドライト / LED ドライビングライト

ヘッドライトと LED ドライビングライトは、手動または自動で点灯 / 消灯できます。

ヘッドライト / LED ドライビングライトを手動で点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にします。

ヘッドライト / LED ドライビングライトを自動で点灯する

▶ ライトスイッチを [A] の位置にします。

周囲が暗いとき、イグニッション位置を **1** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが自動的に点灯します。

エンジンを始動すると、上記に加えてヘッドライト / LED ドライビングライトも点灯します。

⚠ **警 告**

霧のときは、ライトスイッチを [A] の位置にしているとヘッドライトは自動的に点灯しません。運転者や他の車両に危険がおよぶおそれがあります。霧の中を走行するときはライトスイッチを [ヘッドライト] の位置にしてください。

ライトのオートモードは運転者を支援する機能です。ライトの点灯 / 消灯に関する責任は運転者にあります。

⚠ **警 告**

周囲が暗いときや霧のときは、ライトスイッチを [A] から [ヘッドライト] の位置にしてください。点灯していたライトが消灯することがあるため、事故を起こすおそれがあります。

⚠ **警 告**

ライトスイッチを [A] から [ヘッドライト] の位置にするときは、必ず停車してください。

! ライトスイッチが [車幅灯] の位置のとき、エンジンスイッチにキーが差し込まれていない状態やキーレスゴーでイグニッション位置を **0** にしている状態で運転席ドアを開くと、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " ライトを 消して ください " と表示されます。このときはライトを消灯してください。バッテリーがあがるおそれがあります。

! エンジンを停止した状態で、ライトを長時間点灯しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

i ヘッドライト / LED ドライビングライトが点灯しているときに、イグニッション位置を **2** 以外にすると、ヘッドライト / LED ドライビングライトが消灯します。さらにこの状態でイグニッション位置を **0** にして運転席ドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、車幅灯なども消灯します。

i フロントウインドウの上部中央には明るさを感知するセンサーがあります。センサー部にステッカーなどを貼付すると、自動点灯機能が働かなくなります。

i ライトスイッチが A の位置のときは、トンネルなどの暗い場所や悪天候のときなどに、ライトが自動的に点灯することがあります。

リアフォグランプ

リアフォグランプを点灯する

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを ≣D の位置にします。

▶ ライトスイッチを引きます。

リアフォグランプが点灯し、リアフォグランプ表示灯 0≢ が点灯します。また、LED ドライビングライトが消灯します。

⚠ 警告

ライトスイッチが A の位置のときは、リアフォグランプは点灯できません。

霧の中を走行するときは、あらかじめライトスイッチを ≣D に合わせてヘッドライトを点灯してください。

! リアフォグランプは、霧などの悪天候で、十分な視界が確保できないとき以外には使用しないでください。後続車の迷惑になります。

パーキングライト

パーキングライトは、暗がりでの駐車時に後続車などに車の存在を知らせるため、車幅灯とテールランプだけを点灯します。

パーキングライトを点灯する

イグニッション位置が **0** のとき、またはエンジンスイッチにキーを差し込んでいないときに点灯することができます。

▶ ライトスイッチを P≤→ に合わせます。

右側のパーキングライトが点灯します。

または

▶ ライトスイッチを ←P≥ に合わせます。

左側のパーキングライトが点灯します。

ヘッドライトウォッシャー

イグニッション位置が **2** で、車外ライトが点灯しているときに、ウインドウウォッシャー（▷166 ページ）を約 10 回作動させると、ウォッシャー液が自動的にヘッドライトに向けて噴射されます。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

i イグニッション位置を **1** にするか、ヘッドライトを消灯すると、ウインドウウォッシャーを作動させた回数はリセットされます。

i 冬季にはウォッシャー液の濃度に注意し、冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

コンビネーションスイッチ

方向指示

① ヘッドライト（上向き）
② 方向指示（右側）
③ パッシング
④ 方向指示（左側）

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点滅させることができます。

方向指示灯を短時間点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に軽く操作します。

操作した側の方向指示灯が 3 回点滅します。

方向指示灯を点滅させる

▶ コンビネーションスイッチを ② または ④ の方向に操作します。

操作した側の方向指示灯が点滅します。

ステアリングを直進に戻すとコンビネーションスイッチは自動的に戻ります。戻らないときは手で戻してください。

方向指示灯が点滅しているときは、メーターパネルの方向指示表示灯も点滅します。

i 方向指示灯を使用しているときに非常点滅灯スイッチを押すと、非常点滅灯が点滅します。再度、非常点滅灯スイッチを押すと、方向指示灯に切り替わります。

ヘッドライトの上向き / 下向きの切り替え

ヘッドライトを上向きにする

▶ イグニッション位置を **2** にするか、エンジンを始動します。

▶ ライトスイッチを [ライトマーク] の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

ヘッドライトが上向きになり、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

! 対向車があるときや市街地を走行するときは、ヘッドライトを上向きにしないでください。

ヘッドライトを下向きにする

▶ コンビネーションスイッチを元の位置にします。

メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が消灯します。

パッシング

▶ イグニッション位置を **1** か **2** の位置にするか、エンジンを始動します。

▶ コンビネーションスイッチを ③ の方向に引きます。

引いている間、ヘッドライトが上向きで点灯し、メーターパネルのハイビーム表示灯 [≣D] が点灯します。

コンビネーションスイッチから手を放すと元の位置に戻ります。

非常点滅灯

故障などの非常時に、やむを得ず路上で停車するときなどに使用します。

非常点滅灯は、イグニッション位置が **0** のときやエンジンスイッチからキーを抜いているときも点滅させることができます。

また、以下のときに自動的に点滅します。

- エアバッグが作動したとき
- 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したとき

非常点滅灯を使用する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

すべての方向指示灯が点滅し、スイッチと、メーターパネルの方向指示表示灯も同時に点滅します。

ℹ 非常点滅灯を使用しているときに方向指示の操作をすると、その方向の方向指示灯の点滅に切り替わります。方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

非常点滅灯を停止する

▶ 非常点滅灯スイッチ ① を押します。

ℹ エアバッグが作動して自動的に点滅した非常点滅灯を消灯するときは、非常点滅灯スイッチを押します。

ℹ 約 70km/h 以上で走行中に急ブレーキを効かせて停車したときに自動的に点滅した非常点滅灯は、非常点滅灯スイッチを押すか、走行速度が約 10km/h 以上になると消灯します。

インテリジェントライトシステム

インテリジェントライトシステムは、走行時や天候の状況に合わせてヘッドライトを自動的に調整するシステムです。

走行速度や天候状況などに応じて路面の照射を向上させる効果があります。

システムには、アクティブライトシステム、コーナリングライト、ハイウェイモード、フォグランプ強化機能が含まれます。インテリジェントライトシステムは、周囲が暗いときにのみ作動します。

この機能の設定と解除については（▷223 ページ）をご覧ください。

アクティブライトシステム

ヘッドライトが点灯しているとき、走行中にステアリングを操作すると、操作した方向にヘッドライトの向きが変わります。

ℹ ヘッドライトの角度は、ステアリングの操作角度や走行速度に応じて変化します。

ℹ 変化するヘッドライトの角度は小さいため、変化がわかりにくいことがあります。

コーナリングライト

ヘッドライトが点灯していて、エンジンがかかっているときに方向指示灯を点滅させたりステアリングを操作すると、コーナリングライトが点灯します。

方向指示灯との連動

▶ 走行速度が約 40km/h 以下のときに方向指示灯を点滅させます。

点滅させた側のコーナリングライトが点灯します。

シフトポジションが R のときは、コーナリングライトは点灯しません。

ステアリング操作との連動

▶ 走行速度が約 40km/h から約 70km/h の間のときにステアリングを操作します。

操作した側のコーナリングライトが点灯します。

シフトポジションが R のときは、ステアリングを操作した側と逆側のコーナリングライトが点灯します。

ℹ 点滅させた方向指示灯の方向と、ステアリングの操作方向が異なるときは、方向指示灯と同じ側のコーナリングライトが点灯します。

ℹ コーナリングライトはゆっくり消灯するため、一時的に左右両側のコーナリングライトが点灯することがあります。

ℹ 点灯したコーナリングライトは約 3 分後に自動的に消灯します。

ハイウェイモード

以下のときに、ヘッドライトの照度や照射範囲を自動的に調整します。

- 約 110km/h 以上の走行速度で、ステアリングを大きく操作することなく約 1km 走行したとき
- 走行速度が約 130km/h 以上になったとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ 走行速度が約 80km/h 以下になると、ハイウェイモードは停止します。

フォグランプ強化機能

ヘッドライトが道路の脇を照射することで視界を確保し、眩しさを軽減します。

走行速度が約 70km/h 以下のときにリアフォグランプを点灯すると作動します。

ℹ 走行速度が約 100km/h を超えたとき、またはリアフォグランプを消灯したときは、フォグランプ強化機能が停止します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

アダプティブハイビームアシスト

フロントウインドウ上のカメラにより路面状況や交通状況を検知し、ヘッドライトを自動的に上向きと下向きに切り替えます。他の車を幻惑することなく、状況に応じて路上を適切に照射します。

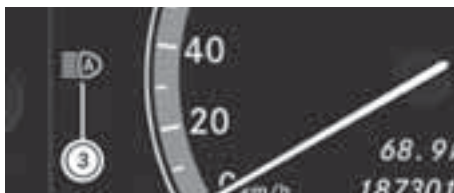
ヘッドライトが下向きから上向きに切り替わるときは、ヘッドライトの光量がゆっくり変化します。

アダプティブハイビームアシストを作動させる

▶ エンジンを始動します。

▶ マルチファンクションディスプレイで、アダプティブハイビームアシストを設定します（▷224 ページ）。

▶ ライトスイッチを A の位置にします。

▶ コンビネーションスイッチを ① の位置にします。

③ アダプティブハイビームアシストインジケーター

周囲が暗く、ヘッドライトが下向きで点灯したときは、マルチファンクションディスプレイにアダプティブハイビームアシストインジケーター ③ が表示されます。

走行速度が約 45km/h になると、アダプティブハイビームによりヘッドライトの光軸調整が開始されます。

走行速度が約 55km/h 以上で、他の車両などを検知しない場合は、自動的にヘッドライトが上向きになり、メーターパネルにハイビーム表示灯も表示されます。

走行速度が約 45km/h 以下のときや、他の車両を検知したり、道路が照明で照らされている場合は、ヘッドライトが下向きになり、ハイビーム表示灯は消灯しますが、アダプティブハイビームアシストインジケーター ③ は表示されたままになります。

アダプティブハイビームアシストを解除する

▶ コンビネーションスイッチを ② の位置にします。

アダプティブハイビームアシストインジケーター ③ が消えます。

⚠ **警 告**

- アダプティブハイビームアシストは運転者を支援する機能です。運転者は視界や道路状況、交通状況に応じて、ヘッドライトの下向き / 上向きを手動で切り替えてください。
- 以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。
  - ◇ 降雪時や降雨時、霧のときなど視界が悪いとき
  - ◇ フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されているとき
- 以下のような場合は、歩行者や自転車を検知できなかったり、検知が遅れる場合があります。
  - ◇ 歩行者がライトを持っていないときや自転車にライトが装着されていないとき
  - ◇ 歩行者がライトを持っていたり、自転車にライトが装着されていても、ライトが暗いとき
  - ◇ 荷物を持っていたり、ガードレールの後ろにいるなど、歩行者が持っているライトや自転車に装着されているライトが遮られて検知できないとき
- 車両の前を人が横切った場合や車両に近づいてくる場合は、ヘッドライトが自動的に切り替わらなかったり、不意に切り替わる場合があります。事故を起こすおそれがあるため、常に交通状況に注意し、必要であれば、手動でヘッドライトの向きを切り替えてください。

車外ライト残照時間の設定

周囲が暗いときにエンジンを停止すると、車幅灯、ヘッドライト、LED ドライビングライト、テールランプ、ライセンスライト、ドアミラー下部のライトが点灯し、ドアやトランクを開いて閉じた後、一定の時間が経過すると消灯します。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊚。

メインエリアが車両設定画面になります。

車外ライト残照時間の設定 ①

▶ メインエリアに " ヘッドライト残照時間 " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊚。

車外ライト残照時間設定メニューが表示されます。

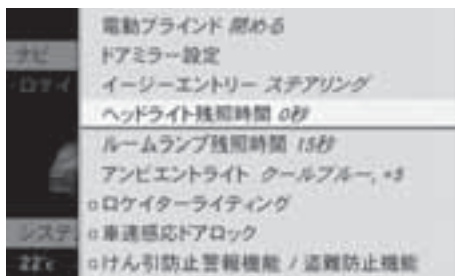
現在選択されている残照時間の左側には、" • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊚。

"0 秒 " を選択すると、車外ランプは点灯しません。

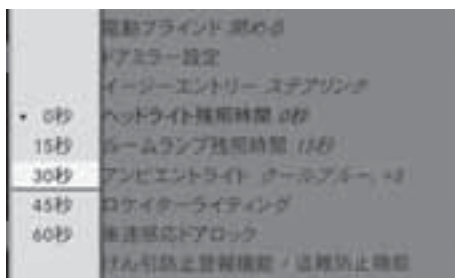
車外ライト残照時間が設定されます。

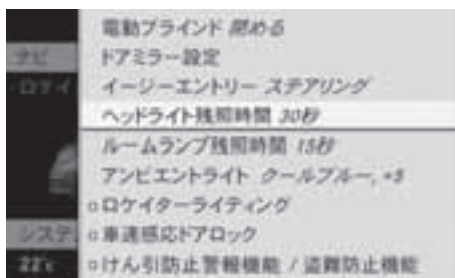
車外ライト残照時間の設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ⊚。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " ヘッドライト残照時間 " を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

車外ライト残照時間設定メニューが表示されます。

現在選択されている残照時間の左側には、" • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して ◀◎▶・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"0 秒 " を選択すると、車外ライトは点灯しません。

車外ライト残照時間が設定されます。

車外ライト残照機能を一時的に解除する

▶ エンジンを停止した後、イグニッション位置を **2** にします。

ⓘ ライトが消灯するまでの時間は、ドアやトランクを閉じてから消灯するまでのおよその時間です。

ⓘ エンジンを停止してからドアやトランクを閉じたままにするか、開いてそのままにしてから約 60 秒後に、ライトは消灯します。

ⓘ エンジンを停止してから約 60 秒以内であれば、設定した時間が経過してライトが消灯した後でも、ドアやトランクを開くたびに車外ライトは点灯します。

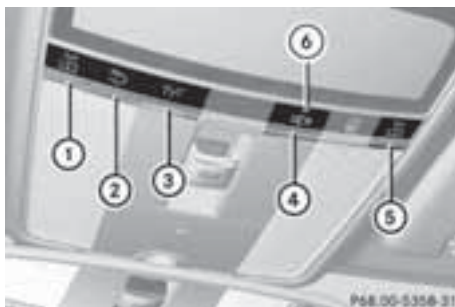
ヘッドライトの内側が曇るとき

外気の湿度が高いときは、ヘッドライトの内側が曇ることがあります。

▶ ヘッドライトを点灯して走行してください。

走行距離や天候（湿度と気温）に応じて、ヘッドライト内側の曇りは取れます。

▶ ヘッドライト内側の曇りが取れない場合は、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ルームランプ

スライディングルーフ装備車
① フロント読書灯（左側）スイッチ
② リアルームランプスイッチ
③ フロントルームランプスイッチ
④ 点灯モード選択スイッチ
⑤ フロント読書灯（右側）スイッチ
⑥ 点灯モード表示灯

ルームランプの点灯モードの選択

自動点灯モードにする

▶ スイッチ ④ を押して、点灯モード表示灯 ⑥ "**OFF**" が消灯している状態にします。

周囲が暗いときに以下の操作をすると、ルームランプが点灯 / 消灯します。

- いずれかのドアを開くと点灯します。

  ◇イグニッション位置が **2** のときは、ドアを閉じるとただちに消灯します。

  ドアを開いたままのときは消灯しません。

  ◇イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはイグニッション位置が **0** でキーが抜いてあるときは、ドアを閉じると約 10 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは約 5 分後に消灯します。

- エンジンスイッチからキーを抜くと点灯し、設定した時間が経過すると消灯します（▷159 ページ）。
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

! 車を施錠したときは、ルームランプが消灯することを確認してください。

i 点灯しているルームランプや読書灯などは、リモコン操作またはキーレスゴー操作で施錠すると、数秒後に自動的に消灯します。

常時消灯モードにする

▶ スイッチ ④ を押して、点灯モード表示灯 ⑥ "**OFF**" が点灯している状態にします。

周囲が暗いときに以下のいずれかの操作をしても、ルームランプは点灯しません。

- ドアを開く
- エンジンスイッチからキーを抜く
- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠する

フロントルームランプの手動点灯 / 消灯

フロントルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ③ を押します。

フロントルームランプが点灯 / 消灯します。

非常時の自動点灯

ルームランプが自動点灯モードのときは、シートベルトテンショナーやエアバッグが作動すると、ルームランプが自動的に点灯します。

また、このときは非常点滅灯も点滅します。

自動的に点灯したルームランプを消灯する

▶ 非常点滅灯スイッチを押します。

または

▶ リモコン操作で施錠した後、解錠します。

または

▶ スイッチ ④ を押します。

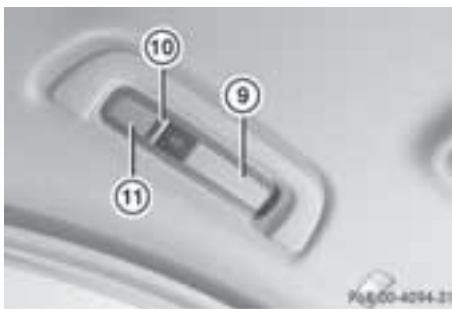
フロント読書灯

⑦ フロント読書灯（左側）
⑧ フロント読書灯（右側）

フロント読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ①⑤ を押します。

フロント読書灯 ⑦⑧ が点灯 / 消灯します。

リアルームランプ / リア読書灯

左側リアルームランプ
⑨ リアルームランプ
⑩ リアルームランプ / リア読書灯スイッチ
⑪ リア読書灯

リアルームランプを手動で点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ② を押します。

リアルームランプ ⑨ が点灯 / 消灯します。

リアルームランプ / リア読書灯を点灯 / 消灯する

▶ スイッチ ⑩ を押します。

スイッチを押すごとに、点灯状態が以下のように切り替わります。

リアルームランプ ⑨ とリア読書灯 ⑪ が点灯

↓

リア読書灯 ⑪ のみが点灯

↓

消灯

ⓘ リアルームランプスイッチ②でリアルームランプ⑨を点灯しているときは、リアルームランプ / リア読書灯スイッチ⑩を押してもリアルームランプ⑨は消灯しません。リア読書灯⑪のみが点灯 / 消灯します。

ルームランプ残照時間の設定

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのとき、エンジンスイッチからキーを抜いたときに点灯したルームランプの残照時間を設定できます。

COMAND システムで設定を行ないます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

メインエリアが車両設定画面になります。

ルームランプ残照時間の設定 ①

▶ メインエリアに " ルームランプ残照時間 " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⓢ。

ルームランプ残照時間設定メニューが表示されます。

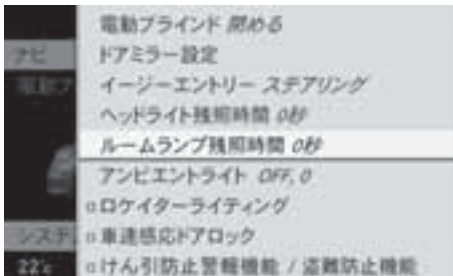
現在、選択されている残照時間の左側には " • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⓢ。

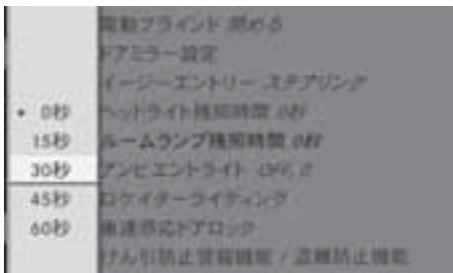
"0 秒 " を選択すると、ルームランプは点灯しません。

ルームランプ残照時間が設定されます。

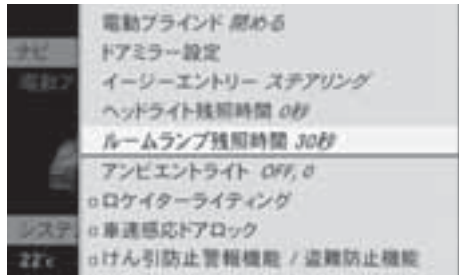
ルームランプ残照時間の設定 ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " ルームランプ残照時間 " を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

ルームランプ残照時間設定メニューが表示されます。

現在、選択されている残照時間の左側には " • " が表示されています。

▶ 残照時間を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

"0 秒 " を選択すると、ルームランプは点灯しません。

ルームランプ残照時間が設定されます。

アンビエントライト

右ハンドル車
① アンビエントライト

アンビエントライトの点灯 / 消灯

- ドアを開くと約 5 分間点灯します。

  ドアを閉じると約 10 秒間点灯し、その後約 20 秒間は COMAND システムで設定されている照度で点灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると点灯し、約 30 秒後に消灯します。

- イグニッション位置が **2** のときは、COMAND システムで設定されている照度で点灯します。

  イグニッション位置を **2** から **1** または **0** にすると、約 10 秒後に消灯します。

アンビエントライトの色調 / 照度の設定

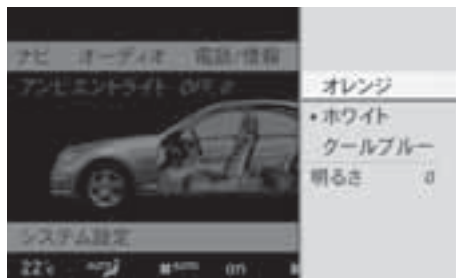
アンビエントライトは、色調と照度の設定ができます。

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して ⟲◎⟳・←◎→、コントローラーを押します ◎。

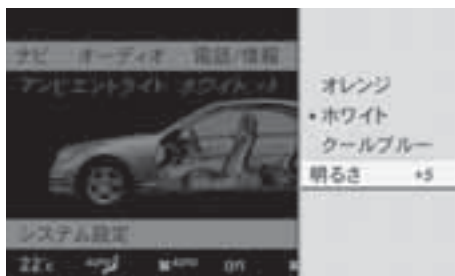
メインエリアが車両設定画面になります。

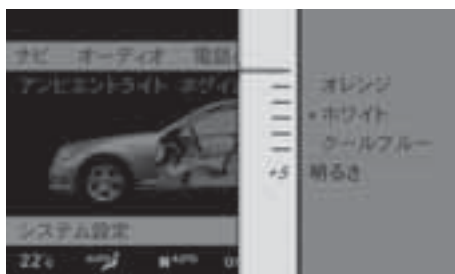
アンビエントライトの色調 / 照度を設定する ①

▶ メインエリアに " アンビエントライト " を表示させて ⟲◎⟳・←◎→、コントローラーを押します ◎。

アンビエントライト設定メニューが表示されます。

アンビエントライトの色調および明るさが設定できます。

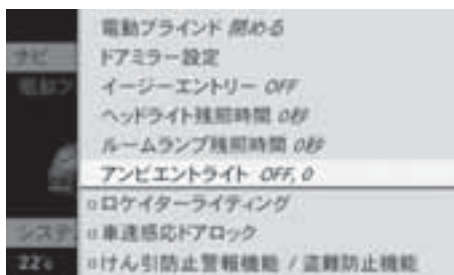
▶ アンビエントライトの色調を選択して ⟲◎⟳・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

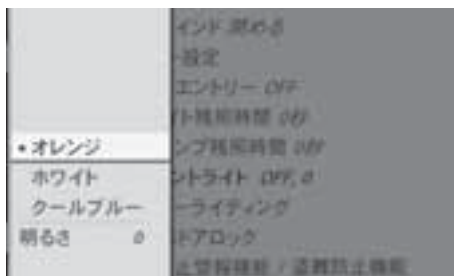
アンビエントライトの色調が設定されます。

▶ " 明るさ " を選択して {◎}・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

アンビエントライトの照度設定メニューが表示されます。

▶ アンビエントライトの照度を選択して {◎}・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

アンビエントライトの照度が設定されます。

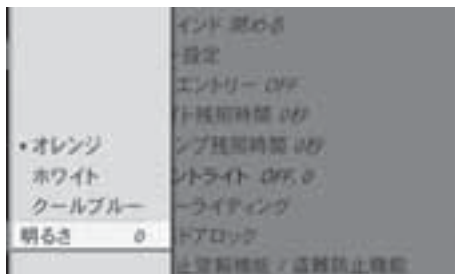
アンビエントライトの色調 / 照度を設定する ②

▶ アプリケーションエリアの " 車両 " を選択して ↑◎、コントローラーを押します ⊙。

車両設定メニューが表示されます。

▶ " アンビエントライト " を選択して {◎}・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

アンビエントライト設定メニューが表示されます。

アンビエントライトの色調および明るさが設定できます。

▶ アンビエントライトの色調を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

アンビエントライトの色調が設定されます。

▶ "明るさ"を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

アンビエントライトの照度設定メニューが表示されます。

▶ アンビエントライトの照度を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します◎。

アンビエントライトの照度が設定されます。

フットウェルライト

ダッシュボード下とフロントシート下部にフットウェルライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- イグニッション位置を **2** にすると低い照度で点灯します。

  イグニッション位置を **2** から **1** または **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜くと約 7 秒後に消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠すると低い照度で点灯し、約 30 秒後に消灯します。
- フロントまたはリアのルームランプを点灯すると、フロントまたはリアのフットウェルライトがが明るく点灯します。
- いずれかのドアを開くと明るく点灯します。

  ◇ドアを閉じると減光します。

  ◇イグニッション位置が **2** 以外のときは、ドアを閉じると減光し、約 30 秒後に消灯します。

  ドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

センターコンソールライト

ルームミラーの下部にあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに点灯し、センターコンソールを照らします。

リアコンソールライト

ルーフ内張りの中央部にあります。

車外ライトが点灯すると点灯し、車外ライトが消灯すると消灯します。

ドア下部のライト

ドア下部に乗降用のライトがあります。また、ドア後部には赤色ライトがあります。

ルームランプの点灯モードが自動点灯モードのときに、以下の操作をすると点灯 / 消灯します。

- ドアを開くと点灯します。
- イグニッション位置が **2** 以外でドアを開いたままのときは、約 5 分後に消灯します。

ドアミラー下部のライト

ドアミラー下部に乗降用のライトがあります。

ドアミラー下部のライトは、ロケイターライティングや車外ライト残照時間の設定に応じて点灯 / 消灯します。

詳しくは（▷90、154 ページ）をご覧ください。

ワイパー

ワイパーの操作

⚠ **警 告**

ワイパーブレードのゴムが劣化すると、ウインドウの水滴を十分に拭き取ることができません。視界を妨げて周囲の交通状況を把握できず、事故の原因になります。

ワイパーブレードは年に 2 回の目安で交換してください。

! フロントウインドウが乾いているときはワイパーを使用しないでください。ウインドウの表面に細かい傷が付いたり、ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。フロントウインドウが汚れているときは、必ずウォッシャー液を噴射してからワイパーを使用してください。

! 自動洗車機で洗車した後に、ワイパーを使用してもフロントウインドウに油膜が残るときは、ウインドウにワックスや洗浄液などが付着している可能性があります。自動洗車機で洗車した後は、ウォッシャー液を噴射してフロントウインドウを清掃してください。

! フロントウインドウを拭くときなどは、必ずコンビネーションスイッチを停止の位置にしてください。ワイパーが作動して、けがをするおそれがあります。

! ワイパーやウォッシャーを使用するときは、歩行者に水しぶきやウォッシャー液がかからないように注意してください。

! エンジンを停止するときは、必ずコンビネーションスイッチを 0 の位置に戻してください。コンビネーションスイッチが ━ や ☰ の位置のときにイグニッション位置を **1** にすると、ワイパーが作動し、ウインドウが濡れていないときは傷が付くおそれがあります。

! 寒冷時にはワイパーがフロントウインドウに貼り付くことがあります。作動させる前に貼り付いていないことを確認してください。貼り付いたままワイパーを作動させると、ワイパーブレードやモーターを損傷するおそれがあります。

! 雪などが付着しているときは、雪などを取り除いてからワイパーを作動させてください。作業の際には、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてください。

左ハンドル車

位置	作動内容
1 0	停止
2 •••	オートモードⅠ ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
3 ••••	オートモードⅡ オートモードⅠよりも少ない雨滴量で作動します。 ⓘ レインセンサーが感知した雨滴量や走行速度に応じて、ワイパーの作動が自動調整されます。
4 ━	低速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、間欠作動になります。
5 ☰	高速作動モード 停車時やごく低速での走行時は、低速作動になります。
⑥	ティップ機能 / ウインドウウォッシャーの噴射

ワイパーを作動させる

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、作動内容を選択します。

ワイパーを 1 回だけ作動させる（ティップ機能）

▶ コンビネーションスイッチを矢印 ⑥ の方向に軽く押します。

ウォッシャー液が噴射せずに、ワイパーが 1 回だけ作動します。

この機能はフロントウインドウが濡れているときだけ使用してください。

ℹ 停車時およびごく低速での走行時にボンネットのロックが解除されているときは、ワイパーは作動しません。

ℹ フロントウインドウが濡れていなくても、イグニッション位置が **1** か **2** のときにコンビネーションスイッチを [•••] か [••••] の位置にすると、ワイパーが 1 回作動します。

ℹ オートモードでワイパーが作動しているとき、停車時にフロントドアを開くとワイパーは停止します。ワイパーは以下のときに作動を再開します。

- シフトポジションが **P** または **N** のときは、ドアを閉じて、シフトポジションを他の位置にしたとき
- シフトポジションが **D** または **R** のときは、ドアを閉じたとき

ℹ コンビネーションスイッチが [—] の位置のときも、停車時および低速走行時のワイパーの作動は、レインセンサーにより自動調整されます。

ℹ ワイパーが作動しないときは、別のモードを選択すると作動することがあります。

レインセンサー

フロントウインドウ上部中央にレインセンサーがあります。

! フロントウインドウが濡れていないときは、コンビネーションスイッチを **0** の位置にしてください。フロントウインドウの汚れや光線の反射などでレインセンサーが誤作動し、ワイパーが作動するおそれがあります。

! レインセンサー部にステッカーなどを貼付しないでください。レインセンサーが正しく機能しなくなります。

ウォッシャー液を噴射する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチを ⑥ の方向にいっぱいまで押し続けます。

その間ウォッシャー液が噴射して、ワイパーも作動します。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

ℹ ウインドウが濡れているときでも、油膜などの汚れを防ぐため必要に応じてウォッシャー液を噴射してください。

ℹ 冬季にはウインドウウォッシャー液の濃度に注意し、冬用のウインドウウォッシャー液を使用してください。

ワイパーのトラブル

ワイパーの作動が妨げられている

雪や葉など、ウインドウに障害になる物が付着しているため、ワイパーの作動が妨げられています。ワイパーモーターの作動が停止しています。

▶ 安全のため、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ イグニッション位置を **0** にして、運転席ドアを開きます。

▶ 障害物を取り除きます。

▶ 再度、ワイパーを作動させます。

ワイパーが作動しない

ワイパーが故障しています。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、別のモードを選択します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でワイパーの点検を受けてください。

ウォッシャーノズルの角度が適切でない

ウォッシャーノズルの角度が適切でないため、ウォッシャー液がフロントウインドウの中央に噴射されません。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でウォッシャーノズルの角度を調整してください。

パワーウインドウ

パワーウインドウの開閉

⚠ **警 告**

ドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに触れたり、身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームとの間に身体が引き込まれて、けがをするおそれがあります。

⚠ **警 告**

ドアウインドウを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにドアウインドウスイッチを操作してドアウインドウを開いてください。

⚠ **警 告**

子供が車内からドアウインドウを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警 告

子供をチャイルドセーフティシートに乗車させている場合でも、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

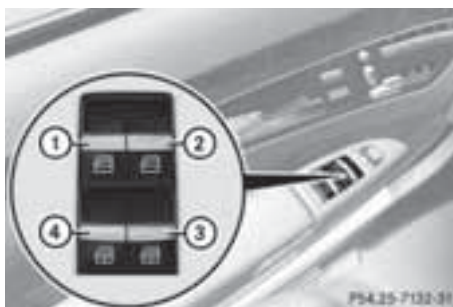
- 車内の各部に触れて、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。
- 車内が高温または低温になると、命に関わるおそれがあります。
- ドアロックスイッチの解錠スイッチを押すことにより、リアドアのチャイルドプルーフロックが一時的に解除され、誤ってリアドアを開くおそれがあります。

子供が誤ってドアを開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。子供が車外に出てけがをしたり、車にはねられて重大なけがをするおそれがあります。

子供を乗せるときは、後席に乗車させ、リアドアやリアドアウインドウのチャイルドプルーフロックを使用してください。走行中にドアやドアウインドウが開くと、子供や周囲の人がけがをするおそれがあります。

パワーウインドウスイッチは各ドアにあります。

運転席ドアには、すべてのドアウインドウのスイッチがあります。リアドアには、左右両方のリアドアウインドウのスイッチがあります。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに、ドアウインドウを開閉できます。

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
（電動ブラインド（後席左右）装備車）
① 左フロントドアウインドウスイッチ
② 右フロントドアウインドウスイッチ
③ 右リアドアウインドウスイッチ
④ 左リアドアウインドウスイッチ

左リアドアのスイッチ
（電動ブラインド（後席左右）装備車）
⑤ 左リアドアウインドウスイッチ
⑥ 右リアドアウインドウスイッチ

ドアウインドウを開く

▶ スイッチを軽く押します。

押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

ドアウインドウを閉じる

▶ スイッチを軽く引きます。

引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウが完全に閉じていることを確認してください。

i ドアウインドウが自動で開閉しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

i イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、ドアウインドウを開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、ドアウインドウの開閉はできなくなります。

i リモコン操作でドアウインドウを開くことができます（▷171 ページ）。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作でドアウインドウを閉じることができます（▷172 ページ）。

i エアコンディショナーの内気循環モードに連動して、ドアウインドウを開閉できます（▷291 ページ）。

i PRE-SAFE®（▷46 ページ）が作動したときは、ドアウインドウが自動で閉じ、わずかに開いた状態で停止します。

i 運転席ドアのスイッチで他のドアウインドウを開閉しているときは、助手席ドアやリアドアのスイッチで開閉中のドアウインドウを操作することはできません。

挟み込み防止機能

⚠ **警 告**

挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。ウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを引き続けてドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止します。スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

その状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウはより強い力で閉じます。

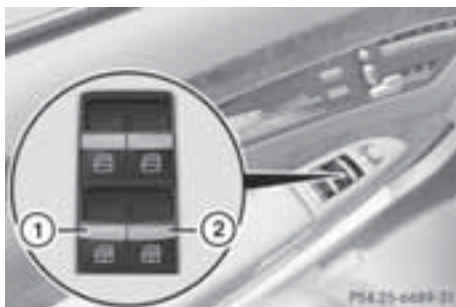
このときに、挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、スイッチから手を放すと、その位置から少し下降します。

さらに、この状態からただちにスイッチを引き続けてドアウインドウを閉じると、ドアウインドウは挟み込み防止機能が作動しない状態で閉じます。

自動でドアウインドウを閉じているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ドアウインドウはただちに停止して、その位置から少し下降します。

ただし、2 度連続して挟み込み防止機能が作動してからただちにドアウインドウを閉じたときは、ドアウインドウは自動で閉じなくなり、挟み込み防止機能も作動しません。

電動ブラインド（後席左右）*

運転席ドアのスイッチ（左ハンドル車）
①左側電動ブラインド（後席左右）スイッチ
②右側電動ブラインド（後席左右）スイッチ

左リアドアのスイッチ
①左側電動ブラインド（後席左右）スイッチ
②右側電動ブラインド（後席左右）スイッチ

リアドアウインドウが閉じているときに、運転席ドアおよび、左右リアドアのリアドアウインドウスイッチで開閉できます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

ブラインドを閉じる

▶ リアドアウインドウが閉じているときに、スイッチ①②を引きます。

ブラインドが自動で閉じます。

ブラインドを開く

▶ スイッチ①②を押します。

ブラインドが自動で開きます。

! 電動ブラインド（後席左右）を開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

! リアドアウインドウにアクセサリーなどを装着しないでください。ブラインドを作動させたときに、ブラインドやアクセサリーなどを損傷するおそれがあります。

i 運転席ドアのスイッチで電動ブラインド（後席左右）を開閉しているときは、リアドアのスイッチで開閉中の電動ブラインド（後席左右）を操作することはできません。

i 電動ブラインド（後席左右）には挟み込み防止機能があります。電動ブラインド（後席左右）が閉じているときに挟み込みなどの抵抗があると、電動ブラインド（後席左右）はただちに停止して、その位置から開きます。

i リモコン操作で電動ブラインド（後席左右）を開くことができます。

i リモコン操作またはキーレスゴー操作で電動ブラインド（後席左右）を閉じることができます（▷172ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

イグニッション位置を 0 にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、電動ブラインド（後席左右）を開閉できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、電動ブラインド（後席左右）の開閉はできなくなります。

コンビニエンスオープニング機能

車内が暑くなっているときなど、乗車する前に車内の空気を換気したいときは、リモコン操作により、以下の操作をすることができます。

- 車両を解錠する
- ドアウインドウを開く
- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * および電動サンシェード *、電動ブラインド（後席左右）* を開く
- 運転席のシートベンチレーター * を作動させる

コンビニエンスオープニング機能は、リモコン操作でのみ行なうことができます。操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの先端部を運転席ドアのドアハンドルに向けます。

▶ キーの解錠ボタンを押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

電動ブラインド（後席左右）装備車は、電動ブラインド（後席左右）が閉じているときは、ブラインドが開きます。

ブラインドが全開になった後、解錠ボタンから指を一度放し、再度押し続けると、ドアウインドウとスライディングルーフが開きます。

解錠ボタンから指を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフはその位置で停止します。

! 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下でリモコン操作を行なうと、リモコンが作動しなかったり、誤作動することがあります。

! リモコン操作でドアウインドウを開くときは、ドアウインドウに身体を寄りかけないでください。ドアウインドウとドアフレームの間に身体が引き込まれてけがをするおそれがあります。

エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、リモコン操作はできません。

リモコン操作でドアウインドウなどを開くと、運転席のシートベンチレーター * が強で約 5 分間作動します。

電動ブラインド（後席左右）装備車は、リモコン操作で電動ブラインド（後席左右）を開くと、電動ブラインド（リアウインドウ）も連動して開きます。

リモコン操作で電動ブラインド（後席左右）および電動ブラインド（リアウインドウ）を開いているときに解錠ボタン ① から指を放しても、ブラインドは停止しません。

パノラミックスライディングルーフは、スライディングルーフと同様に作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ パノラミックスライディングルーフ装備車の電動サンシェードは、電動ブラインド（後席左右）と同様に作動します。

コンビニエンスクロージング機能

リモコン操作またはキーレスゴー操作 * により、車外から以下の各部を閉じることができます。

- ドアウインドウ
- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * および電動サンシェード *、電動ブラインド（後席左右）*

車から降りた後に、ドアウインドウなどを閉じたいときに使用します。

⚠ **警 告**

車外からドアウインドウやスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフなどを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、以下の操作を行なってください。

- リモコン操作の場合は、施錠ボタンから指を放してください。そして、解錠ボタンを押し続けて、ドアウインドウやスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフ、電動ブラインドなどを開いてください。
- キーレスゴー操作の場合は、コンビニエンスクロージング操作部から指を放してください。そして、ただちにドアハンドルを引き続けてください。

  ドアウインドウやスライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフ、電動ブラインドなどが開きます。

❗ コンビニエンスクロージング機能でドアウインドウとスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * などを閉じるときは、開口部に異物がないことを確認してください。

❗ 車から離れる前に、すべてのドアウインドウとスライディングルーフまたは * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じていることを確認してください。

❗ 高圧電線や電波発信塔付近などの強電界下で操作を行なうと、作動しなかったり、誤作動することがあります。

ⓘ エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは操作はできません。

ⓘ 電動ブラインド（後席左右）装備車は、車外から電動ブラインド（後席左右）を閉じると、電動ブラインド（リアウインドウ）も連動して閉じます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 車外から電動ブラインド（後席左右）および電動ブラインド（リアウインドウ）を閉じているときに施錠ボタン①またはコンビニエンスクロージング操作部②から指を放しても、ブラインドは停止しません。

ⓘ パノラミックスライディングルーフは、スライディングルーフと同様に作動します。

ⓘ パノラミックスライディングルーフ装備車の電動サンシェードは、電動ブラインド（後席左右）と同様に作動します。

リモコン操作での作動

ⓘ 操作は運転席ドアハンドルの近くから行なってください。

▶ キーの発信部を運転席ドアのドアハンドルの受光部に向けて、施錠ボタン①を押し続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

電動ブラインド（後席左右）装備車は、ドアウインドウが全閉になった後、施錠ボタン①から一度指を放し、再度押し続けると、ブラインドが閉じます。

施錠ボタン①から指を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフはその位置で停止します。

キーレスゴー操作での作動

キーが車外にあり、すべてのドアが閉じているときに操作できます。

左フロントドア

▶ ドアハンドルのコンビニエンスクロージング操作部①に触れ続けます。

すべてのドアウインドウとスライディングルーフが閉じます。

電動ブラインド（後席左右）装備車は、ドアウインドウが全閉になった後、コンビニエンスクロージング操作部①から一度指を放し、再度触れ続けると、ブラインドが閉じます。

コンビニエンスクロージング操作部①から指を放すと、作動中のドアウインドウやスライディングルーフはその位置で停止します。

ドアウインドウのリセット

以下のときは、ドアウインドウのリセットを行なってください。

- ドアウインドウが自動で全閉しない
- ドアウインドウを閉じた後にドアウインドウが少し開いた状態になる

▶ すべてのドアを閉じます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ドアウインドウスイッチを軽く引いてドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、下記の操作を行ないます。

▶ ただちにドアウインドウスイッチを引き続けて、ドアウインドウを全閉します。

▶ スイッチを軽く引いたまま 2 秒以上保持します。

スイッチから手を放したときにドアウインドウが閉じていれば、ドアウインドウはリセットされています。

ドアウインドウが少し開いた状態になるときは、再度上記の操作を行なってください。

ドアウインドウのトラブル

ドアウインドウに障害物があり、ドアウインドウを閉じることができないとき

▶ 障害物を取り除いてください。

▶ ドアウインドウを閉じてください。

ドアウインドウを閉じることができず、原因が分からないとき

⚠ **警 告**

強い力でドアウインドウを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でドアウインドウを閉じるときは十分注意してください。閉じているドアウインドウに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているドアウインドウが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したら、ただちにドアウインドウスイッチを引き続けて、ドアウインドウを閉じます。

強い力でドアウインドウが閉じます。

閉じているドアウインドウが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ ドアウインドウが停止したら、ただちにドアウインドウスイッチを引き続けて、ドアウインドウを閉じます。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、ドアウインドウが閉じます。

走行と停車

エンジンの始動

⚠ 警告

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

少しでも車を動かすときはエンジンを始動してください。エンジンが停止していると、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警告

車庫などの換気の悪い場所ではエンジンを停止してください。排気ガスに含まれる一酸化炭素を吸い込むと、一酸化炭素中毒を起こしたり、死亡するおそれがあります。

一酸化炭素は、無色無臭のため気が付かないうちに吸い込んでいるおそれがあります。

! エンジンは、シフトポジションが N のときも始動できますが、安全のため、必ずシフトポジションを P にして、ブレーキペダルを踏んで始動してください。

! エンジンを始動するときは、アクセルペダルを踏まないでください。

ℹ エンジンが冷えた状態で始動したときは、触媒が約 30 秒間予熱されます。このときは、エンジン音が通常と異なることがあります。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行中に、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止するかイグニッション位置を **1** にすると、自動的に N になります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速 ～ 7 速（S 600 と S 65 AMG は 1 速 ～ 5 速）の範囲で自動的に変速します。

キーによるエンジンの始動

ⓘ キーレスゴーを使用しているときにエンジンスイッチにキーを差し込んでエンジンを始動するときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチにキーを差し込み、アクセルペダルを踏まずに **3** の位置までまわして手を放します。

エンジンが始動します。

タッチスタート機能

エンジンスイッチに差し込んだキーを3の位置(▷109ページ)までまわすと、手を放しても自動的にスターターが作動し続け、エンジンが始動します。

キーレスゴーによるエンジンの始動

⚠ 警告

キーが車内にあるときは、キーレスゴースイッチによりエンジンを始動できます。そのため、子供だけを車内に残して車から離れないでください。

短時間でも、車から離れるときは、エンジンを停止して車を施錠し、キーを携帯してください。

ℹ キーレスゴースイッチにより、エンジンスイッチにキーを差し込むことなく、エンジンを始動することができます。キーレスゴー操作を行なうには、車室内にキーがあり、エンジンスイッチにキーレスゴースイッチが取り付けられている必要があります。キーレスゴースイッチによるエンジン始動操作は、ECO スタート / ストップ * の作動に関わらず使用できます。

▶ 車室内にキーがあることを確認します。

▶ パーキングブレーキが確実に効いていることを確認します。

▶ シフトポジションが P になっていることを確認します。

▶ 確実にブレーキペダルを踏みます。

▶ エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押します。

エンジンが始動します。

! エンジン始動後は、キーを携帯した人が車から離れても、エンジンは停止しません。車から離れるときは、短時間でも必ずエンジンを停止して、車を施錠してください。盗難のおそれがあります。

! エンジン始動後にキーを車外に持ち出して走行を開始すると、マルチファンクションディスプレイが赤くなり、"キーを認識できません" と数秒間表示されます。この警告は、ドアを開閉し、走行を開始するたびに行なわれます。

この状態でエンジンを停止するとエンジンは再始動できません。また、車を施錠することもできません。走行前には必ずキーを携帯していることを確認してください。

! ドア付近やルーフの上、ボンネットの上などの車外にキーがあるときもエンジンは始動できることがあります。車両の盗難に注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

発進

! エンジンが暖まっていないときは、エンジン保護のため、必要以上にエンジン回転数を上げないでください。

! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

! S 63 AMG、S 65 AMG では、エンジン冷却水が約 20℃以下のときなどエンジンが暖まっていない場合は、エンジン保護のためにエンジン回転数が制限されることがあります。

i 車速感応ドアロックが設定されているときは、走行速度が約 15km/h 以上になると自動的に車が施錠されます。車速感応ドアロックの設定 / 解除については（▷101 ページ）をご覧ください。

i パーキングブレーキが効いているときに発進すると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。詳しくは（▷184 ページ）をご覧ください。

▶ ブレーキペダルを踏んで、踏みしろや踏みごたえを確認します。

▶ ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にします。

> ⚠ 警 告
>
> アクセルペダルを踏んだ状態でセレクターレバーを操作しないでください。車が急発進したり、オートマチックトランスミッションを損傷するおそれがあります。

i ギアが完全に切り替わるのを待ってください。

▶ ブレーキペダルを徐々に戻して、アクセルペダルをゆっくり踏み込みます。

パーキングブレーキが自動的に解除されて、発進します。

i エンジンが冷えているときは、より高いエンジン回転数でシフトアップが行なわれます。これにより、排気ガスを浄化する触媒がより早く適正温度に達します。

ヒルスタートアシスト

坂道での発進時に車が後退または前進するのを防ぎ、発進を容易にします。

> ⚠ 警 告
>
> • ヒルスタートアシストはパーキングブレーキに代わるものではありません。駐車するときは必ずパーキングブレーキを確実に効かせ、シフトポジションを P にしてください。
>
> • ヒルスタートアシストが作動して車が停止していても、絶対に車から離れないでください。約 1 秒後にはヒルスタートアシストは解除され、車が動き出すおそれがあります。

ヒルスタートアシストの作動

▶ 発進時に、通常通りブレーキペダルから足を放してアクセルペダルを踏みます。

ブレーキペダルから足を放しても、ヒルスタートアシストが自動的に約 1 秒間ブレーキを効かせ、車が後退または前進するのを防ぎます。

ⓘ ヒルスタートアシストは以下のときには作動しません。

- 傾斜していない路面や下り坂で発進するとき
- シフトポジションが N のとき
- パーキングブレーキが効いているとき
- ESP® が故障しているとき

ⓘ ヒルスタートアシストの機能は解除できません。

ECO スタート / ストップ *

! 傾斜のゆるい坂などで発進するときは、車両が若干後退することがあります。

ⓘ エンジンが再始動するときにエンジン音が高くなることがありますが、故障ではありません。

ECO スタート / ストップは、走行モード（▷192 ページ）が E モード（S 63 AMG は C モード）のときに使用できます。

ECO スタート / ストップは、車両が停車したときに自動的にエンジンを停止します。

エンジンは発進時に自動的に再始動します。これにより、車両の消費燃料と排出ガスが抑えられます。ECO スタート / ストップにより、車両の消費燃料と排出ガスが抑えられます。

エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になります。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、メーターパネルの ECO インジケーター ECO が黄色で表示されます。

ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろうと、メーターパネルの ECO インジケーター ECO が緑色で反転表示されます。

S 63 AMG では、ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっているときに、マルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしたときは、"Stop / Start active" と表示されます。

また、ECO スタート / ストップのすべての作動条件がそろっていないときは、"Stop / Start inactive" と表示されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警告

エンジンが停止して ECO インジケーターが緑色に反転表示しているときは、エンジンが自動的に停止している状態です。車両のすべてのシステムは機能したままです。この状態で運転席ドアを開いたときやシートベルトを外したとき、ブレーキペダルから足を放したときは、自動的にエンジンが始動します。車両が動き出して、事故やけがの原因になります。

車両が不意に動き出すことを防ぐため、発進するまではブレーキペダルから足を放さないでください。

ECO インジケーターが表示されているときは、車から離れないでください。

車から離れるときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせて車が動き出さないようにしてから、イグニッション位置を **0** にして、エンジンを停止してください。

! 車から離れるときは、必ずイグニッション位置を **0** にして、キーを携帯してください。

エンジンの自動停止

シフトポジションが D か N の状態で、ブレーキペダルを踏んで停車したとき、自動的にエンジンが停止します。

ⓘ 停車して、エンジンが自動的に停止しているときも、ブレーキペダルをさらに踏み込むことによりホールド機能を作動させることができます。このときは、ブレーキペダルから足を放しても、エンジンは停止したままになります。

また、このときにアクセルペダルを踏むと、エンジンが始動してホールド機能が解除されます。先にアクセルペダルを軽く踏んでエンジンを始動させてから、発進してください。

エンジンが自動的に停止するための条件は以下の通りです。

- 外気温度が作動温度の範囲内にあるとき
- エンジン温度が作動温度に達しているとき
- 車内の温度がエアコンディショナーの設定温度になっているとき
- バッテリーの電圧が十分なとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知していないとき
- ボンネットが確実に閉じているとき
- エンジン関係の診断を行なっていないとき
- 運転席の乗員がシートベルトを装着していて、運転席ドアが閉じているとき

エンジンの自動再始動

以下のとき、エンジンは自動的に再始動します。

- ホールド機能が作動していない状態で、シフトポジションが D か N のときに、ブレーキペダルから足を放したとき
- シフトポジションを R にしたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 走行モードをSモードまたはMモードにしたとき
- 運転席の乗員がシートベルトを外すか、運転席ドアを開いたとき

以下のときも、エンジンは自動的に再始動します。

- 車両が動き出したとき
- ブレーキシステムに異常が発生したとき
- エアコンディショナーが作動しているときに、システムがフロントウインドウの曇りを検知したとき
- 車内の温度がエアコンディショナーの設定温度から外れたとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ⓘ ECO スタート / ストップを解除するときは、走行モードをSモードまたはMモードにしてください。S 63 AMG では、このときにマルチファンクションディスプレイを AMG メニューにしているときは、"Stop/Start deactivate" と表示されます。

ECO スタート / ストップを待機状態にするときは、走行モードをEモードまたはCモードにしてください。

ⓘ エンジンを始動するたびに、ECO スタート / ストップは待機状態になります。

駐車

⚠ 警告

- 停車する前にエンジンを停止しないでください。ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- 駐車時や車を離れるときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせ、エンジンを停止してください。また、エンジンスイッチからキーを抜いてください。
- 子供だけを車内に残して車から離れないでください。運転装置に触れてけがをしたり、事故の原因になります。

⚠ 警 告

マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。

! 短時間でも車から離れるときは、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を閉じて、車を施錠してください。

車が動き出すのを防ぐため、以下のことを確認してください。

- パーキングブレーキが効いていること
- パーキングブレーキが P になっていて、エンジンスイッチからキーが抜いているか、イグニッション位置が **0** になっていること
- 坂道で駐車するときは、前輪が歩道の縁石方向に向いていること

エンジンの停止

⚠ 警 告

走行中にエンジンを停止しないでください。エンジンブレーキが効かなくなります。また、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。

! 水温が高めのときは、少しの間アイドリング状態でエンジンを冷却してから、エンジンを停止してください。

エンジンを停止する

▶ 完全に停車します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ セレクターレバーのボタンを押して、シフトポジションを P にします。

エンジンスイッチにキーが差し込まれているとき

▶ キーをまわし、イグニッション位置を **0** にして、キーを抜きます。

イモビライザーが作動します。

ⓘ シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。

さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを D か R から N にして、エンジンを停止したときは、フロントドアを開いてもシフトポジションは P になりません。

エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているとき

▶ エンジンが停止するまで、キーレスゴースイッチを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警 告

走行中にキーレスゴースイッチを約 3 秒間押すとエンジンが停止します。エンジンブレーキが効かなくなったり、ブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になりますので、走行中はエンジンを停止しないでください。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、イグニッション位置は **1** になります。また、この状態で運転席ドアを開くと、イグニッション位置が **0** になります。

ⓘ キーレスゴースイッチを押してエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に **N** になります。さらに、この状態でフロントドアを開くと、シフトポジションが **P** になります。

ⓘ 走行中にキーレスゴースイッチを押してエンジンを停止したときは、再度キーレスゴースイッチを押すとエンジンが始動します。この機能は、ECO スタート / ストップの作動に関わらず使用できます。

パーキングブレーキ

⚠ 警 告

パーキングブレーキを効かせていても、アクセルペダルを踏むとパーキングブレーキは自動的に解除され、車は発進します。周囲の状況を十分確認してから発進してください。

左ハンドル車

パーキングブレーキの操作

パーキングブレーキを効かせる

▶ パーキングブレーキスイッチ ① を押します。

メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯します。

ⓘ パーキングブレーキは、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときや、イグニッション位置が **0** のときも効かせることができます。

パーキングブレーキを解除する

▶ パーキングブレーキスイッチ ① を引きます。

ⓘ パーキングブレーキは、イグニッション位置が **2** のときにのみ解除することができます。エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、イグニッション位置が **1** のときも解除できます。

パーキングブレーキの自動作動

ホールド機能またはディストロニック・プラス * が作動しているときに以下の操作をすると、パーキングブレーキが自動的に作動します。

- エンジンを停止する
- 運転席ドアを開き、シートベルトを外す
- ボンネットのロックを解除する
- シフトポジションが R のときに、トランクを開く
- トランクが開いているときにシフトポジションを R にする
- ホールド機能を作動させたままにする

メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 (P) が点灯します。

ℹ エンジンを停止したとき、または運転席ドアを開いたときは、シフトポジションも自動的に P になります。

パーキングブレーキの自動解除

以下の作動条件をすべて満たしているときは、アクセルペダルを踏んだときにパーキングブレーキが自動的に解除されます。

- エンジンがかかっているとき
- シフトポジションが D か R のとき
- ボンネットが確実に閉じているとき
- シートベルトを着用しているとき

シフトポジションが R のときは、トランクが閉じていなければなりません。

シートベルトを着用していないときも、以下の条件をすべて満たしているときは、パーキングブレーキは自動解除されます。

- 運転席ドアが閉じているとき
- シフトポジションを P から D か R にして発進するとき、または、約 3km/h 以上の速度で走行してから停止し、パーキングブレーキを効かせてから発進するとき

緊急時のパーキングブレーキ操作

緊急時には、パーキングブレーキスイッチでブレーキを効かせることができます。

▶ 走行しているときにパーキングブレーキスイッチ ① を押し続けます。

ℹ パーキングブレーキスイッチを押し続けるに従い、ブレーキの制動力は強くなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ブレーキが作動している間は以下のようになります。

- 警告音が鳴る
- マルチファンクションディスプレイに " ﾊﾟｰｷﾝｸﾞﾌﾞﾚｰｷ 解除してください " と表示される
- メーターパネルのパーキングブレーキ表示灯 (P) が点滅する

完全に停車すると、パーキングブレーキが効いている状態になります。

長期間駐車するとき

約 4 週間以上駐車したままにすると、バッテリーが完全放電して損傷するおそれがあります。このようなときは、以下のようにしてください。

▶ バッテリーからケーブルを外すか、バッテリー充電器を接続してください。

ℹ バッテリー充電器については、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

約 6 週間以上駐車したままにすると、不具合が発生するおそれがあります。このようなときは、別途対応が必要です。

▶ 対応について、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

エンジンのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
エンジンが始動しない。 スターターモーターの音がする。	• エンジンの電気システムに異常がある。 • 燃料供給に異常がある。 ▶ エンジンを再始動する前に、エンジンスイッチを **0** の位置にまわすか、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が消灯するまで、キーレスゴースイッチを押してください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 ただし、エンジン始動操作を長時間何度も行なうと、バッテリーがあがるおそれがあります。 何度始動を試みても、エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの音がする。 燃料残量警告灯が点灯していて、燃料計の指針が 0 を示している。	燃料タンクが空になっている。 ▶ 燃料を給油してください。
エンジンが始動しない。 スターターモーターの音がしない。	バッテリーがあがっているか、充電されていないため、バッテリーの電圧が低くなっている。 ▶ 他車のバッテリーを電源として始動してください（▷450 ページ）。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	過度の負荷によりスターターモーターが過熱している。 ▶ スターターが冷えるまで、約 2 分間待ってください。 ▶ 再度、始動操作を行なってください。 エンジンが始動しないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
エンジンの回転が滑らかでなく、ミスファイアも起きている。	エンジンの電気システム、またはエンジン制御システムに異常がある。 ▶ アクセルペダルを踏みすぎないでください。 触媒を損傷するおそれがあります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
冷却水温度が約120℃を超えている。 マルチファンクションディスプレイに警告メッセージが表示されている。 警告音も鳴った。	リザーブタンクの冷却水量が非常に不足している。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ すみやかに安全に停車して、エンジンと冷却水を冷やしてください。 ▶ エンジンと冷却水が冷えてから冷却水量を点検し、必要であれば、冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください（▷355ページ）。
	冷却水量が正常なときは、ラジエターの冷却ファンが故障している可能性がある。 冷却水の温度が高すぎて、エンジンが十分に冷却されていない。 ▶ 冷却水温度が約120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行することができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。

オートマチックトランスミッション

⚠ **警 告**

運転席の足元には、物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルの下に物が入ると、ペダルを操作できなくなるおそれがあります。

フロアマットやカーペットは正しく固定し、ペダルとの間に十分な空間があることを確認してください。

フロアマットを重ねて使用しないでください。

⚠ **警 告**

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がグリップを失って車両がスリップし、事故を起こすおそれがあります。

セレクターレバー

左ハンドル車
① セレクターレバー
② パーキングポジションの選択
③ ニュートラルポジションの選択
④ ニュートラルポジションの選択
⑤ リバースポジションの選択
⑥ ドライブポジションの選択

! セレクターレバーはステアリングの右側にあります。方向指示やワイパーの操作をする際は、誤ってセレクターレバーの操作をしないように注意してください。事故を起こしたり、車を損傷するおそれがあります。

シフトポジションを P にする

▶セレクターレバー先端のボタンを ② の方向に押します。

シフトポジションを N にする

▶セレクターレバーを ③ または ④ の方向に軽く操作します。

シフトポジションを R にする

▶セレクターレバーを ⑤ の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジションを D にする

▶セレクターレバーを ⑥ の方向にいっぱいまで操作します。

シフトポジション

シフトポジション	作動内容
P	**パーキングポジション** 駐車およびエンジン始動 / 停止の位置です。 完全に停車していないときは、P にしないでください。 以下のときは、シフトポジションが自動的に P になります。 • エンジンスイッチからキーを抜いたとき • シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止し、フロントドアを開いたとき • 停車中またはごく低速で走行中に、シフトポジションが D か R の状態で運転席ドアを開いたとき
R	**リバースポジション** 後退するときの位置です。 完全に停車していないときは、R にしないでください。
N	**ニュートラルポジション** 動力が伝わらない位置です。 押したり、けん引してもらうことで、車を移動できます。 走行中はシフトポジションを N にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。 シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止するかイグニッション位置を **1** にすると、自動的に N になります。
D	**ドライブポジション** 走行するときの位置です。 1 速 ～ 7 速（S 600 と S 65 AMG は 1 速 ～ 5 速）の範囲で自動的に変速します。

⚠ 警告

走行中にシフトポジションを N にすると、エンジンブレーキがまったく効かなくなり、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! セレクターレバーを操作するときは、完全に停車して、ブレーキペダルを踏んで行なってください。

! エンジン回転数が高いときや走行中は、シフトポジションを D から R、R から D、または P にしないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

! シフトポジションを R にするときは、完全に停車してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! エンジンを停止してシフトポジションが自動的に N になったときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを効かせてください。車が動き出すおそれがあります。

! 約 10km/h 以下で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更できますが、一旦停止して、シフトポジションが変更されたことに気付かずに再度走り出すと、車が不意に後退または前進して事故を起こすおそれがあります。

i イグニッション位置が **2** で、ブレーキペダルを踏んでいるときに、P から他のシフトポジションにできます。

i イグニッション位置が **1** でブレーキペダルを踏んでいるときは、シフトポジションを P から N にできます。

i セレクターレバーから手を放すと、セレクターレバーは中立の位置に戻ります。

i シフトポジションが D か R のときにエンジンを停止すると、シフトポジションが自動的に N になります。さらに、この状態でフロントドアを開くか、エンジンスイッチに差し込まれているキーを抜くと、シフトポジションが P になります。

ただし、エンジンスイッチにキーを差し込んでいる状態で、シフトポジションを D か R から N にして、エンジンを停止したときは、フロントドアを開いても、シフトポジションは P になりません。

i シフトポジションを P から他のシフトポジションにするときにブレーキペダルが踏まれていないと、マルチファンクションディスプレイに "Pレンジ からシフト ブレーキを 踏んでください" と表示されます。

i 約 10km/h 以上で走行しているときは、D から R、または R から D にシフトポジションを変更しようとすると、N になります。

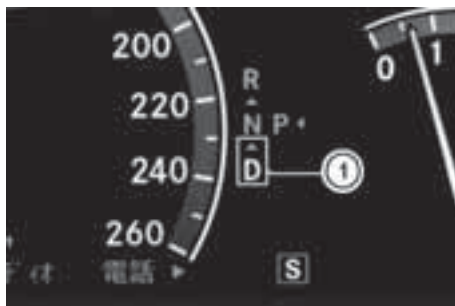
i イグニッション位置が **2** のとき、シフトポジションが N の状態で運転席ドアを開くと、マルチファンクションディスプレイに "セレクタが走行位置" と表示され、警告音が鳴ります。

i シフトポジションを R にしたときは、確認音が鳴ります。

ℹ 停車してイグニッション位置が **2** のとき、またはごく低速で走行しているとき、シフトポジションが D または R の状態で運転席ドアを開くと、シフトポジションが P になります。

ただし、運転席ドアが開いている状態でシフトポジションを D または R にしたときは、前進 / 後退することができます。

ℹ ECO スタート / ストップ装備車は、シフトポジションが D または N の状態で、ブレーキペダルを踏んで停車したとき、自動的にエンジンが停止します。

シフトポジション表示

左ハンドル車
① シフトポジション表示
（ドライブポジションが選択されている状態）

メーターパネルが点灯しているときに、シフトポジション表示 ① が表示されます。

! メーターパネルが故障してシフトポジション表示が表示されないときは、セレクターレバーを慎重に操作してゆっくりとアクセルペダルを踏み、シフトされたポジションを確認してから走行してください。なるべくシフトポジションを D にし、M 以外の走行モードにして、ティップシフトにはしないでください。また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

シフトポジションの選択

オートマチックトランスミッションは、シフトポジションが D のとき、以下の状況に合わせて自動的にギアを変速します。

- 選択されているギアレンジ
- 走行モード（▷192 ページ）
- アクセルペダルの踏み具合
- 走行速度

運転のヒント

アクセルペダルの位置

アクセルペダルの踏み加減に応じて、ギアが変速するタイミングが変化します。

- 軽く踏んだときはシフトアップするタイミングが早くなります。
- 深く踏み込んだときはシフトアップするタイミングが遅くなります。

キックダウン

急な加速が必要な場合はキックダウンを行ないます。

▶ アクセルペダルをいっぱいまで踏み込みます。

エンジン回転数に応じて自動的に低いギアに変速し、素早く加速します。

▶ 希望する速度でアクセルペダルをゆるめると、シフトアップします。

! キックダウンするときは、周囲の状況に注意しながら操作してください。事故を起こすおそれがあります。

走行モード

路面の状況や運転に合わせて、オートマチックトランスミッションのギアの変速特性を選択できます。

① 走行モード選択スイッチ

※ 車種や仕様により、走行モード選択スイッチの表記が異なります。

走行モードを選択する

▶ 走行モード選択スイッチ ① を押します。

E モードまたは C モード→ S モード→ M モード→ E モードまたは C モードと切り替わります。

② 走行モード表示

メーターパネルが点灯しているときに、走行モード表示 ② が表示されます。

走行モード	作動内容
E モード または C モード	快適性と経済性を重視したモードです。
S モード	スポーティな走行に適したモードです。
M モード *	マニュアルでギアシフトできるモードです。詳しくは（▷195 ページ）をご覧ください。

ℹ エンジンを停止すると、選択した走行モードに関わらず、次にエンジンを始動したときは E モードまたは C モードになります。

ℹ 車種や仕様により、トランスミッションが暖まっていないときは、走行モードに関わらず、変速特性が自動的に制御されます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パドルによるシフト操作

① 左側パドル
② 右側パドル

シフトポジションが D で、走行モードが M モード * 以外のときは、パドルを操作して、オートマチックトランスミッションの変速範囲を変えることができます（▷193 ページ）。

マニュアルギアシフト（▷195 ページ）を選択しているときは、パドルを操作して、マニュアルでギアを選択することができます。走行中にエンジン回転数が下がったときは、ギアは自動的にシフトダウンします。

オートマチックギアシフト

走行モードが E モードまたは C モードのときは、以下のようになります。

- 快適性を重視したエンジン制御になります。
- シフトアップが早めに行なわれるため、燃費の余分な消費が抑えられます。
- 前進・後退ともに、アクセルペダルをいっぱいまで踏み込まないときは、穏やかに発進します。
- 滑りやすい路面などでの車両操縦性や走行安定性が向上します。
- オートマチックトランスミッションが早めにシフトアップするため、エンジン回転数が低く抑えられ、車輪が空転しにくくなります。

走行モードが S モードのときは、以下のようになります。

- スポーツ性を重視したエンジン制御になります。
- 1 速で発進します。
- オートマチックトランスミッションが遅めにシフトアップします。
- シフトアップが遅めに行なわれるため、燃料をより多く消費します。

ティップシフト

オートマチックトランスミッションのギアの変速範囲（ギアレンジ）を変えることにより不必要に変速しないようにすることができます。

シフトポジションが D で、走行モードが S モードか E モードまたは C モードのときにティップシフトにできます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

レンジ	
D	1 速 ～ 7 速（S 600 と S65 AMG は 1 速～ 5 速）の範囲で変速します。
D6 *	1 速～ 6 速の範囲で変速します。
D5 *	1 速～ 5 速の範囲で変速します。
D4	1 速～ 4 速の範囲で変速します。
D3	1 速～ 3 速の範囲で変速します。 エンジンブレーキが必要なときに使用します。
D2	1 速～ 2 速の範囲で変速します。 下り坂や山道、悪路を走行するときに使用します。
D1	1 速に固定されます。 エンジンブレーキが最大に作用します。急な下り坂や長い下り坂を走行するときに使用します。

⚠ **警 告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、低いギアレンジを選択してエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。低いギアレンジを選択するときは十分注意してください。また、滑りやすい路面状況で駆動輪を空転させると、駆動系部品を損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

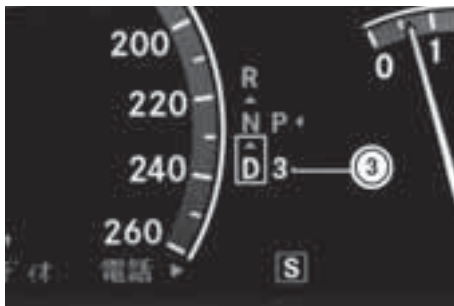
ℹ ギアレンジ表示の数字は選択したギアレンジを示しており、必ずしも実際のギアを示すものではありません。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても選択したギアレンジに変わらないことがあります。

ℹ ティップシフトにしたときに選択されるギアレンジは、そのときの走行速度やエンジン回転数などにより異なります。

ティップシフトにする

① 左側パドル（低いギアレンジを選択）
② 右側パドル（高いギアレンジを選択）

※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

③ ギアレンジ表示

▶ 左側パドル ① を引きます。

ティップシフトになり、選択されたギアレンジがメーターパネルのギアレンジ表示 ③ に表示されます。

ℹ シフトダウン操作によりエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、シフトダウンされません。

ℹ 加速時にエンジンの許容回転数を超えるおそれがあるときは、エンジン保護のため、自動的にシフトアップされ、高いギアレンジが選択されます。

低いギアレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引きます。

高いギアレンジを選択する

▶ 右側パドル ② を引きます。

ティップシフトを解除する

▶ 右側パドル ② を引いて保持します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ が消灯します。

または

▶ セレクターレバーを、シフトポジションを D にする方向に操作します。

ティップシフトが解除され、ギアレンジ表示 ③ に "D" が表示されます。

最適なシフトレンジを選択する

▶ 左側パドル ① を引いて保持します。

そのときの加速や減速に最も適したギアレンジが選択されます。

ℹ ティップシフトにしていないときに右側パドル ② を引くと、走行速度やエンジン回転数に応じてシフトアップが行なわれます。

マニュアルギアシフト *

ステアリングのパドルを操作して、マニュアルでギアを選択できます。

⚠ **警 告**

滑りやすい路面やカーブを走行しているときは、シフトダウンによってエンジンブレーキが効くと、駆動輪がグリップを失うおそれがあります。シフトダウンするときは十分注意してください。

! エンジンが暖まるまでは、エンジンやトランスミッションに大きな負担がかかるような運転をしないでください。

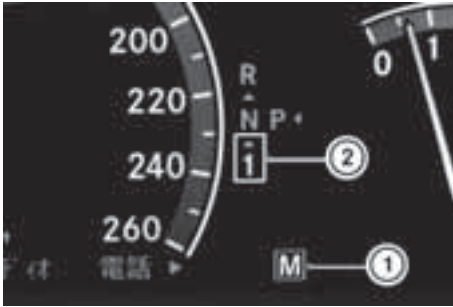
! 滑りやすい路面で発進するときは、駆動輪が空転しないようにしてください。駆動系部品を損傷するおそれがあります。

ℹ マニュアルギアシフトでは ESP® の機能を解除しないで走行することをお勧めします（▷64 ページ）。

ℹ エンジンが暖まっていないときは、操作を行なっても、シフトチェンジされないことがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 運転者がシフトアップ / ダウン操作をしても、選択したギアが適切でない場合は、エンジン保護などのため、シフトアップ / ダウンされません。

マニュアルギアシフトの選択

① 走行モード表示
② ギア表示

マニュアルギアシフトを選択する

▶ シフトポジションを D にします。

▶ 走行モード選択スイッチ（▷192 ページ）を押して、走行モード表示 ① に "M" を表示させせます

オートマチックギアシフトはオフになります。

現在選択されているギアがギア表示 ② に表示されます。

ⓘ マニュアルギアシフトではギア表示 ② の数字は実際のギアを示しています。シフトアップ / シフトダウンに応じてギア表示 ② の数字も変わります。

マニュアルギアシフトを解除する

▶ 走行モード選択スイッチ（▷192 ページ）を押して、走行モード表示 ① に S モード、E モードまたは C モードを表示させせます。

ⓘ マニュアルギアシフトが選択された状態でエンジンを停止してイグニッション位置を **0** にすると、次にエンジンを始動したときは、E モードまたは C モードになります。

ギアシフト操作

① 左側パドル（シフトダウン）
② 右側パドル（シフトアップ）
※ 車種や仕様により、パドルの色や形状は異なります。

シフトダウンする

▶ 左側パドル ① を引きます。

操作するたびに 1 段低いギアにシフトダウンします。

! S 63 AMG と S 65 AMG はエンジン回転数が上限まで近づいても自動的にシフトアップされず、燃料供給がカットされます。エンジン回転数が上限まで近づかないように注意してください。エンジンを損傷するおそれがあります。

シフトアップする

▶ 右側パドル ② を引きます。

操作するたびに 1 段高いギアにシフトアップします。

ℹ 低速で走行したとき、または停車したときは、ギアは自動的に 1 速にシフトされます。

ℹ 車種や仕様により、停車時に選択できるギアは異なります。

ℹ 運転者がシフトダウン操作をしなくても、走行速度とエンジン回転数に応じて、自動的にシフトダウンされます。

ℹ S 63 AMG、S 65 AMG を除く車種では、エンジン回転数が上昇すると、自動的にシフトアップします。

ℹ S 63 AMG、S 65 AMG を除く車種では、マニュアルギアシフトでも、キックダウンを行なうことができます。

シフトアップ表示（S 63 AMG / S 65 AMG）

① ギア表示
② シフトアップ表示

エンジン回転数が上昇し、シフトアップするタイミングになったときは、マルチファンクションディスプレイにギア表示 ① とシフトアップ表示 ② "UP" が赤く表示されます。必要に応じてシフトアップ操作を行なってください。

オートマチックトランスミッションのトラブル

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
トランスミッションが正しく変速しない。	トランスミッションオイルが減っている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。
加速性能が悪化している。 トランスミッションが変速しない。	トランスミッションに異常があり、エマージェンシーモードになっている。 2 速ギアかリバースギアで走行できる場合があります。 ▶ 停車してください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ エンジンを停止します。 ▶ 約 10 秒以上待ってから、エンジンを再始動します。 ▶ シフトポジションを D にします。 2 速ギアになります。 または ▶ シフトポジションを R にします。 リバースギアになります。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でトランスミッションの点検を受けてください。

メーターパネル

メーターパネルの各部の名称については（▷27 ページ）をご覧ください。

⚠ 警 告

メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障すると、車両の状態や速度、外気温度、故障 / 警告メッセージなどが表示できなくなることがあります。また、車両操縦性に影響を与えるおそれがあります。十分注意して走行してください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警 告

S クラス HYBRID、S クラス HYBRID ロングについては、必ず別冊「S-Class HYBRID / S-Class HYBRID long 取扱説明書 補足版」をご覧ください。

メーターパネルの点灯

メーターパネルは以下のときに点灯します。

- イグニッション位置を **1** か **2** にしたとき

  イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 30 秒後に消灯します。

- 車外ライトが点灯したとき

  車外ライトが消灯してから約 30 秒後に消灯します。

また、以下のときに点灯して約 30 秒後に消灯します。

- リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠したとき
- 運転席ドアを開いたとき
- 開いている運転席ドアを閉じたとき
- マルチファンクションステアリングの ON または ⮌ を押したとき
- パーキングブレーキスイッチを操作したとき

メーターパネルの照度を調整する

メーターパネルの照度は、周囲が暗く、車外ライトを点灯しているときに調整できます。

左ハンドル車　右ハンドル車

① メーターパネル照度調整ノブ

明るくする

▶ ノブ ① を時計回りにまわします。

暗くする

▶ ノブ ① を反時計回りにまわします。

ℹ 周囲が明るいときは、メーターパネルの照度が自動的に調整されます。手動で照度を調整することはできません。

スピードメーター

車の走行速度を表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

! 指針がエンジンの許容回転数を超えて、レッドゾーンに入らないようにしてください。エンジンを損傷するおそれがあります。

エンジン冷却水温度計

エンジンの冷却水温度を表示します。

i 指定の冷却水を適切な混合比で使用しているときは、約 120℃まではオーバーヒートは起こしません。

i 暑い日や上り坂が続くときなどに、冷却水温度の表示が 120℃付近を示すことがありますが、マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷406 ページ）が表示されない限り、問題ありません。

燃料計

燃料の残量を表示します。

燃料タンク容量は約 90 リットルです。

! 給油のときはエンジンを停止してください。

燃料残量警告灯

燃料の残量が少なくなると点灯します。

警告灯が点灯したときの残量は約 11 リットル（S 63 AMG、S 65 AMG は約 14 リットル）です。

i 走行前に燃料の残量が十分あることを確認してください。高速道路や自動車専用道路などでの燃料切れは道路交通法違反になります。

エンジン警告灯

イグニッション位置を **2** にすると点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジンがかかっているときに点灯したときはエンジンの制御システムに異常があります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i エンジン警告灯が点灯するとエンジンがエマージェンシーモードになることがあります。エマージェンシーモードではエンジンの回転数が制限されアクセルペダルを踏んでもエンジンの回転が上昇しなくなります。この場合、低速で走行できることもありますが、ただちに安全な場所に停車して、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

外気温度表示

外気温度を表示します。

外温度表示が 0℃以上でも、路面が凍結していることがあります。走行には十分注意してください。

! 外気温度の上昇や下降は、少し遅れて外気温度表示に反映されます。

i 外気温度をフロントバンパー付近で測定しているため、外気温度表示は路面からの輻射熱などの影響を受けます。したがって、外気温度表示が実際の外気温度と異なることがあります。

マルチファンクションディスプレイ

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイは道路と交通状況が許すときにのみ操作してください。注意がそれ、運転に集中することができず、事故の原因になります。

⚠ 警告

メーターパネルまたはマルチファンクションディスプレイが故障しているときは、メッセージは表示されません。

その結果、速度や外気温度、警告灯や表示灯、メッセージなどの走行状態を示す情報を得ることができなくなります。また、走行特性に変化が出る可能性もあります。運転スタイルと走行速度を状況に合わせてください。

また、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警告

マルチファンクションディスプレイは、特定のシステムの故障および警告のみを記録および表示します。そのため、車両が安全に使用できることを常にお客様自身で確認してください。安全性が確保されていない車両を運転することにより、事故の原因になります。

⚠ 警告

不適切な作業を行なうと、車両安全性に悪影響を与えるおそれがあります。その結果、車両操縦性を失い、事故の原因になります。さらに、安全装備が設計通りに乗員を保護できなくなります。

点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ 警告

走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

マルチファンクションディスプレイの操作

イグニッション位置を **1** にすると、マルチファンクションディスプレイは作動します。

マルチファンクションステアリングのスイッチを使用して、マルチファンクションディスプレイを操作します。

	名称
①	マルチファンクションディスプレイ
②	**通話終了スイッチ** • 電話の保留 / 切断 • 電話帳 / 発信履歴を閉じる **通話開始スイッチ** • 電話の発信 • 発信履歴の表示 **音量スイッチ** • 音量の調節 • レースタイマーの操作（S 63 AMG、S 65 AMG） **ミュートスイッチ** オーディオやナビの音声案内などの消音
③	**音声認識スイッチ** • 音声認識の開始
④	**リターンスイッチ / 音声認識解除スイッチ** 軽く押す： • 戻る • 音声認識の中止 • 故障 / 警告メッセージの消去、ひとつ前の画面への移動 押して保持する： • 基本画面への移動

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

⑤ **スクロールスイッチ**

- メインメニューおよびメニューリストの呼び出し

▲ ▼

軽く押す：

- リストのスクロール
- サブメニューまたは機能の選択
- オーディオメニュー：ラジオの手動選局、トラックの選択、DVD ビデオのチャプター選択
- 電話メニュー：電話帳の表示および電話帳の名前または電話番号の選択、発信履歴の選択

押して保持する：

- オーディオメニュー：ラジオの自動選局、トラックの早送り / 早戻し、DVD ビデオの早送り / 早戻し
- 電話メニュー：電話帳のスクロール

確定スイッチ

OK

- 選択している項目の確定
- 選択している設定の変更

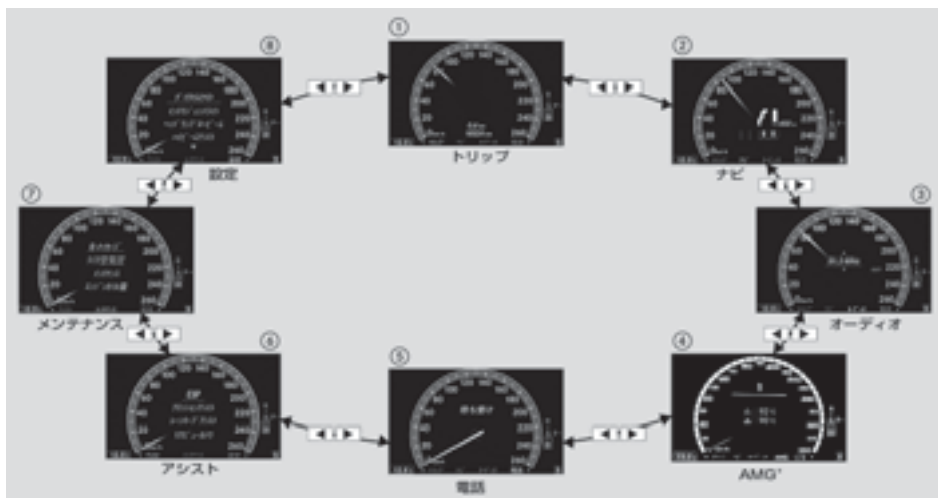
ディスプレイ表示

① マルチファンクションディスプレイのメニューリスト
② マルチファンクションディスプレイの表示エリア

マルチファンクションディスプレイはスピードメーターの内側にあります。

メニューリスト ① の選択項目に応じた内容が、表示エリア ② に表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

メインメニューとサブメニュー

	機能
①	トリップメニュー（▷206 ページ）
②	ナビメニュー（▷208 ページ）
③	オーディオメニュー（▷209 ページ）
④	AMG メニュー *（▷210 ページ）
⑤	電話メニュー（▷214 ページ）
⑥	アシストメニュー （▷216 ページ）
⑦	メンテナンスメニュー（▷219 ページ） • 故障 / 警告メッセージの表示（▷219 ページ） • タイヤ空気圧警告システムの表示（▷221 ページ） • メンテナンスインジケーターの表示（▷221 ページ） • エンジンオイル量の表示 *（▷221 ページ）
⑧	設定メニュー（▷221 ページ）

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

トリップメニュー

トリップメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

- 基本画面
- エンジン始動時からの情報表示（▷206 ページ）
- リセット時からの情報表示（▷207 ページ）
- 瞬間燃費 *・走行可能距離表示（▷208 ページ）
- 走行速度表示（▷208 ページ）

トリップメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " トリップ " を選択します。

基本画面（オドメーター / トリップメーター）

① オドメーター
② トリップメーター

オドメーター ① はこれまでに走行した距離の総合計を表示します。

トリップメーター ② はリセット後の走行距離を表示します。

基本画面を表示させる

▶ 基本画面が表示されるまで ⮌ を押すか、押して保持します。

トリップメーターをリセットする

▶ 基本画面を表示させます。

▶ OK を押します。

画面に " トリップメーター リセット " と表示されます。

▶ ▼ を押して " はい " を選択し、OK を押します。

エンジン始動時からの情報表示

① エンジン始動時からの走行距離（km）
② エンジン始動時からの経過時間（h）
③ エンジン始動時からの平均速度（km/h）
④ エンジン始動時からの平均燃費（km/l）

エンジンを始動したときを起点とした情報を表示します。

イグニッション位置を **0** にしてから、またはエンジンスイッチからキーを抜いてから約 4 時間経過すると、自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

約 4 時間以内にイグニッション位置を **1** か **2** にしたときは、前回の情報が継続して表示されます。このときは、999 時間経過後、または 9,999km 走行後に自動的にリセットされます。

エンジン始動時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ [▼] または [▲] を押して、エンジン始動時からの情報を表示させせます。

エンジン始動時からの情報を手動でリセットする

エンジン始動時からの情報は、手動でもリセットできます。

▶ エンジン始動時からの情報を表示しているときに、ステアリングスイッチの [OK] を押します。

"*数値 リセット*" と表示されます。

▶ [▼] を押して "*はい*" を選択し、[OK] を押します。

リセット時からの情報表示

① リセット時からの走行距離（km）
② リセット時からの経過時間（h）
③ リセット時からの平均速度（km/h）
④ リセット時からの平均燃費（km/l）

リセットしたときを起点とした情報を表示します。

リセット時からの情報を表示させる

▶ トリップメニューを表示させせます。

▶ [▼] または [▲] を押して、リセット時からの情報を表示させせます。

リセットする

▶ リセット時からの情報を表示しているときに、ステアリングスイッチの [OK] を押します。

"*数値 リセット*" と表示されます。

▶ [▼] を押して "*はい*" を選択し、[OK] を押します。

リセット後、9,999 時間経過後、または 99,999km 走行後に自動的にリセットされます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

瞬間燃費＊・走行可能距離表示

① 瞬間燃費
② 走行可能距離

瞬間燃費 ① は、そのときの瞬間燃費を km/l で表示します。エンジンがかかっているときに表示されます。

走行可能距離 ② は、現在の燃料残量で走行可能なおよその距離を計算し、予測値として表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示できます。

瞬間燃費・走行可能距離を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ ▼ または ▲ を押して、瞬間燃費・走行可能距離を表示させます。

! 走行可能距離は、現在までの平均燃費と燃料残量から計算した予測値です。今後の走行状況に応じて大きく変動することがありますので、燃料計を確認して、早めに給油してください。

i 燃料残量が少ないときは、走行可能距離の代わりに ⛽ が表示されます。

最寄りのガソリンスタンドですみやかに給油してください。

走行速度表示

① 走行速度表示

走行速度を表示します。

走行速度を表示させる

▶ トリップメニューを表示させます。

▶ ▼ または ▲ を押して、走行速度を表示させます。

ナビメニュー

① 進行方向の方位

COMAND システムのナビ機能でルート案内を行なっているときに、ルート案内をマルチファンクションディスプレイに表示できます。

ルート案内を行なっていないときは、進行方向の方位 ① が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

＊ オプションや仕様により、異なる装備です。

ナビメニューを表示させる

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、" ナビ " を選択します。

ナビの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

オーディオメニュー

ラジオ局の選局、CD / DVD オーディオ */ MP3 / ミュージックレジスターの選曲、DVD ビデオのチャプター / トラック番号の選択。また、iPod® の操作などができます。

ℹ COMAND システムのテレビは、ステアリングスイッチで操作できません。

ℹ オーディオの詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

ラジオ局を選局する

① ラジオの周波数
② プリセット番号、FM / AM 表示

▶ COMAND システムで "AM" または "FM" を選択します（▷ 別冊）。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " オーディオ " を選択します。

ラジオ局をプリセット選局する

▶ ▼ または ▲ を押します。

プリセットされたラジオ局が選択されます。

ラジオ局を自動選局する

▶ ▼ または ▲ を押して保持します。

受信周波数が動き、次に受信できる周波数で停止します。

音楽を選曲する

① トラック番号 / 曲名
② CD / DVD チェンジャーのスロット番号

▶ COMAND システムで "CD"、"DVD オーディオ "、"MP3"、 " ミュージックレジスター " のいずれかを選択します（▷ 別冊）。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " オーディオ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のトラックが再生されます。

ℹ 再生中の音楽ソースに文字データが含まれている場合は、① には曲名が表示されます。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

DVD ビデオのシーンを選択する

① チャプター / トラック番号
② CD / DVD チェンジャーのスロット番号

▶ COMAND システムで "DVD ビデオ " を選択します（▷ 別冊）。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押します。

次または前のチャプター / トラックが再生されます。

iPod® を操作する

① 曲名
② アーティスト名
③ アルバム名

▶ COMAND システムに iPod® を接続します（▷ 別冊）。

▶ COMAND システムで " テレビ " を選択します（▷ 別冊）。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " ｵｰﾃﾞｨｵ " を選択します。

自動的に iPod® 内のトラックが再生されます。

▶ ▼ または ▲ を押します。

別のトラックが再生されます。

トラック / ビデオの選択やカテゴリーリストの表示など、詳細については、別冊「COMAND システム 取扱説明書」をお読みください。

AMG メニュー *

ギア・油温・水温表示

ギア位置、油温、水温のそれぞれの状態を表示できます。

① ギア表示
② 油温表示
③ 水温表示

ギア・油温・水温を表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

ギア・油温・水温が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ギア表示 ① は、オートマチックトランスミッションの実際のギア位置を表示します。イグニッション位置が **2** のときに表示できます。

油温表示 ② は、エンジンオイルの油温を表示します。

水温表示 ③ は、冷却水の水温を表示します。

! 油温が青色に表示されているときは、エンジンオイルが温まっていません（油温が約 80℃未満になっています）。このときは必要以上にエンジン回転数を上げないように運転してください。

ⓘ パークトロニック（▷253 ページ）が作動しているときは、ギア表示 ① は表示されません。

ⓘ イグニッション位置が **1** のときは、油温と水温は表示されません。このときは "- - - -" が表示されます。

レースタイマー

レースタイマーでは、サーキットコースなどで周回ごとのラップタイムを計測・記録したり、その結果を一覧表示できます。

イグニッション位置が **2** のとき、またはエンジンがかかっているときに使用できます。

① ギア表示
② 計測タイム
③ 最速ラップタイム

レースタイマーを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

▶ [▼] または [▲] を押して、レースタイマーを表示させます。

ⓘ レースタイマーを表示させているときは、[＋] または [－] を押してオーディオなどの音量を調節することはできません。

タイム計測を開始する

▶ [＋] を押します。

タイム計測が開始されます。

タイム計測を停止する

▶ タイム計測中に [＋] を押します。

タイム計測が停止します。

ⓘ タイム計測を停止しているときに [＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

ⓘ タイム計測中にイグニッション位置を **0** か **1** にしたり、エンジンスイッチからキーを抜くと、タイム計測が停止します。

その後、イグニッション位置を **2** にするかエンジンを始動して [＋] を押すと、停止した時点からタイム計測が再開されます。

スプリットタイムを表示する

▶ タイム計測中に [－] を押します。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

約 5 秒経過後に、タイム計測の表示に戻ります。

ⓘ スプリットタイムを表示しているときに再度 [－] を押すと、スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

計測したタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに [－] を押します。

計測タイムが消去され、表示が 00:0000 に戻ります。

ⓘ 消去したタイムが最速ラップタイムのときは、2 番目のラップタイムが最速ラップタイムに繰り上がります。

ラップタイムを記録する

最大 16 件までの計測タイムをラップタイムとして記録できます。

▶ タイム計測中に [－] を押します。

ⓘ このときから次のラップのタイム計測が開始されます。

スプリットタイムが約 5 秒間表示されます。

▶ スプリットタイムが表示されているときに、再度 [－] を押します。

スプリットタイムがラップタイムとして記録され、次のラップのタイムが表示されます。

ⓘ 2 件以上のラップタイムが記録されているときは、最速ラップタイム ③ が表示されます。

ⓘ ラップタイムが 16 件記録されると、それ以上計測ができなくなります。新たにタイム計測を行なうときは、16 件目のラップタイムだけを消去するか、記録したラップタイムをすべて消去してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

すべてのラップタイムを消去する

▶ タイム計測が停止しているときに、[－] を約 3 秒間押し続けます。

表示が 00:00₀₀ に戻ります。

▶ [＋] を押します。

すべてのラップタイムが消去され、新たにタイム計測が開始されます。

または

▶ タイム計測が停止しているときに [OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイに "Reset Race Timer" と表示されます。

▶ [▼] を押して "Yes" を選択し、[OK] を押します。

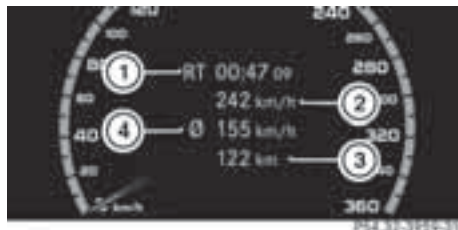
表示が 00:00₀₀ に戻ります。

▶ [＋] を押します。

すべてのラップタイムが消去され、新たにタイム計測が開始されます。

ⓘ ラップタイムは個別に消去できません。

全ラップの計測結果を確認する

ラップタイムが記録されているときは、全ラップの計測結果を表示できます。

計測結果表示（全ラップ）
① 合計時間
② 計測した全ラップでの最高速度
③ 計測した全ラップの走行距離
④ 計測した全ラップの平均速度

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

計測結果（全ラップ）を表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

▶ [▼] または [▲] を押して、計測結果（全ラップ）を表示させます。

ⓘ タイムを計測しているときは、全ラップの計測結果は確認できません。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ラップごとの計測結果を確認する

2 周以上のラップタイムが記録されているときは、ラップごとの計測結果を表示できます。

計測結果表示（ラップ別）
① ラップ表示
② ラップタイム
③ 表示されているラップでの最高速度
④ 表示されているラップの走行距離
⑤ 表示されているラップの平均速度

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

計測結果（ラップ別）を表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "AMG" を選択します。

▶ ▼ または ▲ を押して、表示させたいラップの計測結果を表示させます。

ℹ 表示されているラップが最速ラップのときは、ラップ表示 ① が点滅します。

ℹ タイムを計測しているときは、ラップごとの計測結果は確認できません。

電話メニュー

携帯電話を COMAND システムに接続することにより、ハンズフリー通話ができます。

電話機能の詳細については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をお読みください。

⚠ **警 告**

安全のため、運転者は走行中の携帯電話の接続や、携帯電話本体の使用は避けてください。

走行中は電話をかけないでください。

また、走行中に電話がかかってきたときは、あわてずに安全な場所に停車してから受けてください。

どうしても電話を受けなければならないときは、ハンズフリー機能で「かけ直す」ことを伝え、安全な場所に停車してからかけ直してください。

待機状態にする

マルチファンクションディスプレイに電話メニューを表示しているときは、電話機能に関する情報を表示できます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ 携帯電話を COMAND システムに接続します。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " 電話 " を選択します。

マルチファンクションディスプレイに " 待ち受け " と表示されます。

電話メニューをオフにする

▶ ファンクションスイッチの ON/OFF スイッチ（▷79 ページ）を押します。

マルチファンクションディスプレイに " スタンバイ " と表示され、COMAND システムの電源と電話メニューがオフになります。

着信した電話を受ける

▶ 着信呼び出し中にステアリングスイッチの [📞] を押します。

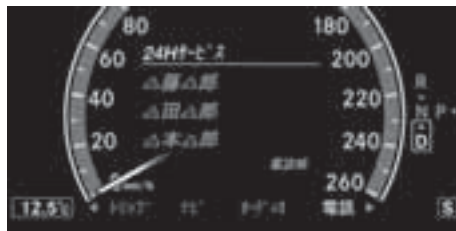
通話を終える（電話を切る）

▶ [☎] を押します。

通話を保留する

▶ 着信呼び出し中に [☎] を押します。

電話帳から電話をかける

COMAND システムに登録した電話帳データを呼び出して、電話をかけることができます。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " 電話 " を選択します。

▶ [OK]、[▼] または [▲] を押して、マルチファンクションディスプレイにリストを表示します。

▶ [▼] または [▲] を押して、電話帳データを選択します。

▶ 目的の電話帳データを選択したら、[📞] または [OK] を押します。

電話が発信されます。

ⓘ 電話帳の登録データに複数の電話番号が登録されているときは、さらに [▼] または [▲] を押して電話帳データを選択し [📞] または [OK] を押して発信します。

ⓘ [▼] または [▲] を約 2 秒以上押し続けると、電話帳データのスクロールが速くなります。

さらに [▼] または [▲] を押し続けると、電話帳登録項目の読みがなのあいうえお順にスクロールします。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アシストメニュー

アシストメニューで表示・設定できる項目は以下の通りです。

- 車間ディスプレイ *
- ESP®
- PRE-SAFE® ブレーキ *
- アテンションアシスト
- アクティブブラインドスポットアシスト *
- アクティブレーンキーピングアシスト *
- パーキングアシストリアビューカメラの起動
- パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド

アシストメニューを表示させる

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

車間ディスプレイの表示 *

車間ディスプレイは、ディストロニック・プラス装備車にのみ表示できます。

▶ アシストメニューで " 車間ディスプレイ " を選択し、[OK] を押します。

マルチファンクションディスプレイにディストロニック・プラスの車間ディスプレイ（▷242 ページ）が表示されます。

ESP® の設定

⚠ 警 告

ESP® 表示灯が点滅したときは、車輪が空転しているか、車が横滑りしています。事故につながるおそれがあるため、以下の点に注意してください。

- 状況を問わず、ESP® の機能を解除しないでください。
- アクセルペダルを踏む力を少しゆるめてください。
- 路面や天候の状況にあわせて慎重に運転してください。

ESP® は無謀な運転からの事故を防ぐものではありません。ESP® が作動しても、車両操縦性や走行安定性の確保には限界があります。

エンジンがかかっているときに、ESP® の設定ができます。

詳しくは（▷62 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

PRE-SAFE® ブレーキの設定 *

PRE-SAFE® ブレーキは、ディストロニック・プラス装備車にのみ設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

▶ アシストメニューで ▼ または ▲ を押して " プレセーフ ブレーキ " を選択し、OK を押します。

" プレセーフ ブレーキ " と表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	PRE-SAFE® ブレーキが設定されます。
オフ	PRE-SAFE® ブレーキが解除されます。

ℹ ホールド機能を作動させていないときは、PRE-SAFE® ブレーキを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに が表示されます。

詳しくは（▷66 ページ）をご覧ください。

アテンションアシストの設定 *

アテンションアシストの設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

▶ アシストメニューで ▼ または ▲ を押して " アテンションアシスト " を選択し、OK を押します。

" アテンションアシスト " と表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アテンションアシストが設定されます。
オフ	アテンションアシストが解除されます。

ℹ アテンションアシストを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに が表示されます。

詳しくは（▷266 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

アクティブブラインドスポットアシストの設定 *

アクティブブラインドスポットアシストの設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

▶ アシストメニューで ▼ または ▲ を押して " ブラインドスポット " を選択し、OK を押します。

" アクティブ　ブラインドスポット " と表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アクティブブラインドスポットアシストが設定されます。
オフ	アクティブブラインドスポットアシストが解除されます。

詳しくは（▷273 ページ）をご覧ください。

アクティブレーンキーピングアシストの設定 *

アクティブレーンキーピングアシストの設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " アシスト " を選択します。

▶ ▼ を押して、" レーンキープアシスト " を選択します。

▶ OK を押します。

" アクティブ　レーンキープアシスト " と表示されます。

▶ OK を押して、設定を変更します。

表示	設定内容
オン	アクティブレーンキーピングアシストが設定されます。
オフ	アクティブレーンキーピングアシストが解除されます。

ℹ アクティブレーンキーピングアシストを設定すると、イグニッション位置が **2** のときに、マルチファンクションディスプレイに [アイコン] が表示されます。

詳しくは（▷277 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

シフトポジションを R にしたとき、パーキングアシストリアビューカメラが COMAND ディスプレイに自動的に表示される機能を設定できます。

詳しくは（▷265 ページ）をご覧ください。

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドの設定

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドを設定できます。

詳しくは（▷265 ページ）をご覧ください。

メンテナンスメニュー

メンテナンスメニューで表示 / 設定できる項目は以下の通りです。

- 故障 / 警告メッセージ
- タイヤ空気圧警告システム *
- メンテナンスインジケーター
- エンジンオイル量の表示 *

メンテナンスメニューを表示させる

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

故障 / 警告メッセージの表示

車両に故障や異常が起きたとき、車の状況がメッセージで表示されます。

! 表示される故障や異常は一部の限られた装備についてであり、表示される内容も限られています。故障や異常の表示は運転者を支援するものです。発生した故障や異常に対処して車の安全性を確保する責任は運転者にあります。

! 故障 / 警告メッセージが表示されたときは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

i 表示される故障 / 警告メッセージについては（▷394 ページ）をご覧ください。

車両の操作

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

マルチファンクションディスプレイに "0 メッセージ " と表示されているときは、故障はありません。

ℹ マルチファンクションディスプレイに "0 メッセージ " と表示されているときに [OK] を押すと、" メッセージはありません " と表示されます。

自動表示機能

イグニッション位置が **2** のときやエンジンがかかっているときに故障や異常が発生したときは、故障 / 警告メッセージが自動的に表示されます。

複数の故障や異常があるときは、故障 / 警告メッセージが約 5 秒間隔で順番に表示されます。

メッセージを消すときは、ステアリングスイッチの [OK] または [↩] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。すべて表示されると、故障 / 警告メッセージは消えます。

故障 / 警告メッセージを手動で表示させる

イグニッション位置が **1** か **2** のときに表示されます。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " メンテナンス " を選択します。

故障件数が数字で表示されます。

▶ [OK] を押します。

▶ [▼] または [▲] を押して、故障 / 警告メッセージを順番に表示させます。故障表示に戻すときは、ステアリングスイッチの [↩] を押します。

ℹ 故障 / 警告メッセージは、イグニッション位置を **0** にすると消えます。

ただし、故障状況が変わらない場合は、次にイグニッション位置を **1** か **2** にするか、エンジンを始動したとき、再び故障 / 警告メッセージが表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

タイヤ空気圧警告システム *

タイヤ空気圧警告システムを再起動できます。

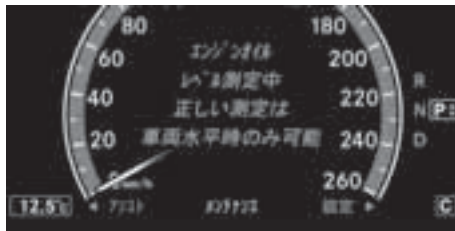
詳しくは（▷365 ページ）をご覧ください。

メンテナンスインジケーター

次回のメーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

詳しくは（▷376 ページ）をご覧ください。

エンジンオイル量の表示 *

エンジンオイルの量を表示できます。

詳しくは（▷349 ページ）をご覧ください。

設定メニュー

設定メニューで設定できる項目は以下の通りです。

- ヘッドライト点灯モード
- インテリジェントライトシステム
- ヘッドライト照射範囲 *
- アダプティブハイビームアシスト
- ウィンタータイヤスピードリミッター
- フロントシートベルトのテンション自動調整機能
- アンサーバック機能 *
- レーダーセンサーシステム *

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ヘッドライト点灯モードの設定

ヘッドライトの点灯モードを設定できます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ " デイタイムライト " を選択します。

▶ OK を押します。

" デイタイムライト " と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	内容
オフ	手動点灯モードです。 ヘッドライトなどを点灯するときはライトスイッチを操作します。 日本ではこのモードを選択してください。
オン	常時点灯モードです。 エンジンを始動すると、ヘッドライトなどが常に点灯します。 ライトスイッチが A の位置にあるときは、イグニッション位置を **1** か **2** にすると、車幅灯、テールランプ、ライセンスランプが常に点灯します。 また、エンジンを始動すると、ヘッドライトと LED ドライビングライトが常に点灯します。

ℹ 安全のため、エンジンがかかっているときは、設定の変更はできません。

ℹ 常時点灯モードは、走行中の昼間点灯が義務付けられている諸国に対応しています。日本では手動点灯モードに設定して使用してください。

ℹ 常時点灯モードで自動的に点灯するライト以外のライトを点灯するときは、各スイッチを操作してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

インテリジェントライトシステムの設定

インテリジェントライトシステムの設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ ▼ を押して、" インテリジェントライト " を選択します。

▶ OK を押します。

" インテリジェントライト システム " と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	内容
オン	インテリジェントライトシステムが作動します。
オフ	インテリジェントライトシステムは作動しません。

詳しくは（▷151 ページ）をご覧ください。

ヘッドライト照射範囲の設定 *

ヘッドライトの照射範囲を、左側通行または右側通行に適した設定に切り替えます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ ▼ を押して、" ヘッドランプ ロービーム " を選択します。

▶ OK を押します。

" ヘッドランプ ロービーム 設定 " と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	内容
左側通行用	ヘッドライトの照射設定が左側通行に適した設定になります。
右側通行用	ヘッドライトの照射設定が右側通行に適した設定になります。

! 日本では、" 左側通行用 " に設定してください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ "右側通行用" に設定すると、インテリジェントライトシステム設定画面に "ｲﾝﾃﾘｼﾞｪﾝﾄﾗｲﾄｼｽﾃﾑ ｼｽﾃﾑ故障 右側通行設定では無効" と表示され、インテリジェントライトシステムの設定が変更できなくなることがあります。また、ハイウェイモードおよびフォグランプ強化機能が解除されることがあります。

アダプティブハイビームアシストの設定

アダプティブハイビームアシストの設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "設定" を選択します。

▶ ▼ を押して、"ﾊｲﾋﾞｰﾑｱｼｽﾄ" を選択します。

▶ OK を押します。

"ｱﾀﾞﾌﾟﾃｨﾌﾞ ﾊｲﾋﾞｰﾑｱｼｽﾄ" と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	設定内容
ｵﾝ	アダプティブハイビームアシストが作動します。
ｵﾌ	アダプティブハイビームアシストは作動しません。

詳しくは（▷153 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターの設定

最高速度の制限のない国などで、ウィンタータイヤ装着時にタイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定するための機能です。

日本仕様でも設定はできますが、法定速度を守って走行してください。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで "設定" を選択します。

▶ ▼ を押して、 "可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀ" を選択します。

▶ OK を押します。

"速度制限(冬ﾀｲﾔ)" と表示されます。

▶ OK を押します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ ▼ または ▲ を押して、設定を変更します。

▶ OK を押します。

表示	設定内容
オフ	ウィンタータイヤスピードリミッターは作動しません。
240km/h 230km/h 220km/h 210km/h 200km/h 190km/h 180km/h 170km/h 160km/h	最高速度がそれぞれの速度に設定されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッター（▷231 ページ）で設定できる制限速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

フロントシートベルトのテンション自動調整機能の設定

イグニッション位置が **2** のとき、フロントシートベルトが乗員の上半身に密着するように、テンション（締め付け具合）を自動的に調整する機能の設定ができます。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ ▼ を押して、 " ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ調整 " を選択します。

▶ OK を押します。

画面に " ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ調整 " と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	設定内容
オン	イグニッション位置が **2** のときに、フロントシートベルトのテンションが自動的に調整されます。
オフ	フロントシートベルトのテンションは自動的に調整されません。

詳しくは（▷143 ページ）をご覧ください。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

アンサーバック機能の設定 *

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解錠 / 施錠したときに確認音が鳴る機能の設定ができます。

アンサーバック機能は、仕様により以下のように確認音が鳴ります。

- 車両を施錠したときに、確認音が 1 回鳴ります。

または

- 車両を解錠したときに確認音が 1 回鳴り、車両を施錠したときに確認音が 3 回鳴ります。

▶ [◀] または [▶] を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ [▼] を押して、" エレクトロニックキー アンサーバック " を選択します。

▶ [OK] を押します。

" エレクトロニックキー アンサーバック " と表示されます。

▶ [OK] を押します。

設定内容が変更されます。

表示	設定内容
オン	リモコン操作時またはキーレスゴー操作時に確認音が鳴ります。
オフ	リモコン操作時またはキーレスゴー操作時に確認音が鳴りません。

レーダーセンサーシステムの設定 *

ℹ 手動でレーダーセンサーシステムを停止することができます。レーダーセンサーシステムについて、詳しくは（▷478 ページ）をご覧ください。

電子望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

レーダーセンサーシステムを停止すると、以下の機能も解除されます

- ディストロニック・プラス（▷234 ページ）
- BAS プラス（▷60 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷66 ページ）
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷273 ページ）

※ アンサーバック機能は、日本仕様には装備されない場合があります。
※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。
* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ ◀ または ▶ を押して、メニューリストで " 設定 " を選択します。

▶ ▼ を押して、 " ﾚｰﾀﾞｰｾﾝｻｰ " を選択します。

▶ OK を押します。

" ﾚｰﾀﾞｰｾﾝｻｰ ｵﾝ（説明書を参照）" と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	設定内容
ｵﾝ	レーダーセンサーシステムが設定されます。
ｵﾌ	レーダーセンサーシステムが解除されます。

詳しくは（▷478 ページ）をご覧ください。

走行装備

クルーズコントロール *

クルーズコントロールを設定することにより、アクセルペダルを踏まなくても、設定速度を自動的に維持して走行できます。

クルーズコントロールは、主に高速道路や自動車専用道路で使用することを想定したものです。市街地では使用しないでください。

設定できる速度は約 30km/h 以上です。

⚠ 警 告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

⚠ 警 告

車の走行速度や先行車との車間距離の確保など、クルーズコントロール使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

クルーズコントロールを使用しているときは、運転者は常に道路状況に注意を払ってください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

以下のような場合はクルーズコントロールを使用しないでください。

- 一定の走行速度を維持できない道路･交通状況の場合（交通量が多い場合やカーブが連続している場合）。事故を起こすおそれがあります。
- 路面が滑りやすい場合。ブレーキや加速により駆動輪がグリップを失い、車がスリップするおそれがあります。
- 霧や激しい雨、雪などで視界が確保できない場合。

! クルーズコントロールの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

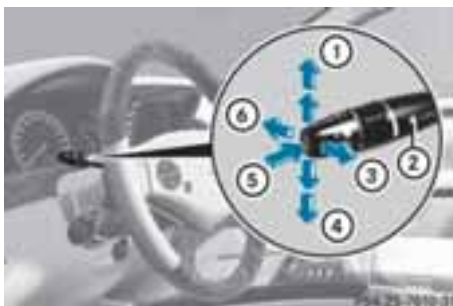
! 指定のサイズで 4 輪とも同じ銘柄のタイヤを装着しないと、クルーズコントロールが誤作動するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにクルーズコントロールに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷413 ページ）をご覧ください。

! 急な上り坂では、速度を維持するためにシフトダウンしますが、設定した速度を維持できないことがあります。このようなときはアクセルペダルを踏んで加速してください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。

このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

クルーズコントロールを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 設定速度を下げる
⑤ クルーズコントロールと可変スピードリミッターを切り替える
⑥ クルーズコントロールを解除する

クルーズコントロールは、可変スピードリミッター（▷231 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が消灯していることを確認します。

表示灯が点灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

クルーズコントロールは、約 30km/h 以上の速度で走行しているときに設定できます。

▶ 希望の速度まで加速、または減速します。

▶ 希望の速度に達したとき、レバーを ① か ④ の方向に操作します。

そのときの速度に設定されます。

または

▶ レバーを ③ の方向に引きます。

- 速度が記憶されているときは、記憶されている速度に設定されます。
- 速度が記憶されていないときは、そのときの速度に設定されます。

⚠ 警 告

記憶されている前回の速度に設定するときは、周囲が安全な状況であることを確認してください。走行中の速度と設定速度に大きな差があると、急加速や急減速して事故を起こすおそれがあります。

▶ アクセルペダルから足を放します。

自動的に設定速度を維持しながら走行します。

ℹ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

ℹ 上り坂などを走行するときは、設定した速度を維持できないことがありますが、路面が平坦になると、設定した速度に戻ります。

ℹ 以下のときは、クルーズコントロールを設定できません。このときは、マルチファンクションディスプレイに約 5 秒間 " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ " と表示され、"—km/h" が点滅します。

- ブレーキペダルを踏んでいるとき
- パーキングブレーキを効かせているとき
- シフトポジションが D 以外のとき
- ESP® の機能を解除しているとき
- 走行速度が約 30km/h 以下のとき

スピードメーターの設定速度部分にクルーズコントロールインジケーター ⑧ が表示され、設定速度より上の速度部分が点灯します。

また、マルチファンクションディスプレイに " ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ " と設定速度⑦が約 5 秒間表示されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ 追い越しなどで一時的に速度を上げるときは、アクセルペダルを踏んで速度を上げてください。アクセルペダルから足を放すと、元の設定速度に戻ります。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

ℹ レバーを ④ の方向に操作して減速しているときに、シフトダウンしたり、自動的にブレーキを効かせることがあります。

クルーズコントロールを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に軽く押します。

または

▶ ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に押します。

レバーの表示灯が点灯して、可変スピードリミッターが操作できる状態になります。

クルーズコントロールの設定を解除すると、クルーズコントロールインジケーター ⑧ が消灯し、スピードメーターのすべての速度部分が点灯します。

以下のときも、クルーズコントロールは解除されます。

- 走行速度が約 30km/h 以下になったとき
- ESP® が作動したときや、ESP® の機能を解除したとき
- シフトポジションを N にしたとき

このときは確認音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " クルーズ゛コントロール オフ " が約 5 秒間表示されます。

また、パーキングブレーキスイッチでパーキングブレーキを効かせたときもクルーズコントロールは解除されます。

⚠ **警 告**

走行中はシフトポジションを N にしないでください。エンジンブレーキが効かないため、事故を起こしたり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

可変スピードリミッター

可変スピードリミッターは、制限速度を設定すると、アクセルペダルを踏んでいても、設定した速度を超えないように走行できます。

設定できる速度は30km/hから210km/hまたは250km/hの間です。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

警告

走行しているときは、軽くブレーキを効かせ続けるなど、ブレーキペダルを踏み続けないでください。ブレーキシステムが過熱して制動距離が長くなったり、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

警告

走行時は法定速度を遵守してください。可変スピードリミッター使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。

! 可変スピードリミッターの設定速度の表示と、スピードメーターおよびマルチファンクションディスプレイの速度表示には、若干の誤差が生じることがあります。

! マルチファンクションディスプレイに可変スピードリミッターに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷412、413 ページ）をご覧ください。

! 急な下り坂などで惰性がついたときは、速度を維持するために自動的にブレーキを効かせることがありますが、設定速度を維持できないことがあります。このようなときは、ブレーキペダルを踏むか、ティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキの効きを強くして、減速してください。

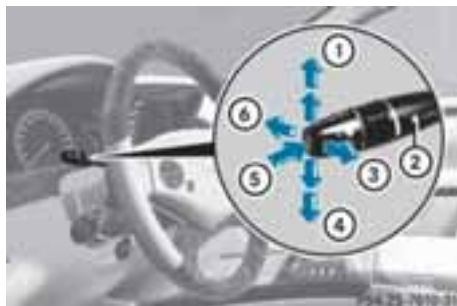
i ウィンタータイヤ装着時など、タイヤの許容最高速度に応じた最高速度を設定できるウィンタータイヤスピードリミッターが装備されています。詳しくは（▷224 ページ）をご覧ください。

ウィンタータイヤスピードリミッターを設定しているときは、可変スピードリミッターの設定速度の上限は、ウィンタータイヤスピードリミッターの設定速度になります。

i 車の最高速度以上に設定しても、最高速度以上の速度で走行することはできません。

i 車種や仕様により、設定できる速度が異なります。

ⓘ 設定速度を維持できないときは、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに " リミット超えました " と表示されることがあります。

可変スピードリミッターを設定する

① 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を上げる
② 表示灯
③ 記憶されている前回の設定速度に設定する / 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する
④ 現在の走行速度に設定する / 30km/h に設定する / 設定速度を下げる
⑤ 可変スピードリミッターとクルーズコントロールまたはディストロニック・プラス * を切り替える
⑥ 可変スピードリミッターを解除する

可変スピードリミッターは、クルーズコントロール *（▷227 ページ）またはディストロニック・プラス *（▷234 ページ）と同じレバーで操作します。

▶ 表示灯 ② が点灯していることを確認します。

表示灯が消灯しているときは、レバーを ⑤ の方向に押します。

表示灯が点灯します。

⚠ **警 告**

運転を交代するときは、必ず交代する運転者に、可変スピードリミッターの機能と設定速度を伝えてください。

可変スピードリミッターの機能を知らずに運転すると、アクセルペダルを踏んでも速度が上がらず、事故を起こすおそれがあります。

可変スピードリミッターは設定速度以上に加速する必要のないときに使用してください。

可変スピードリミッターを設定しているときは、以下の操作を行なったときにのみ、設定速度以上の速度にすることができます。

- レバーを操作する
- アクセルペダルを踏んでキックダウンさせる

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

> ⚠ **警 告**
>
> ディストロニック・プラス装備車は、可変スピードリミッターの設定速度を維持するためにシステムが自動的にブレーキを効かせます。このとき、ブレーキペダルが自動的に引き込まれます。決してブレーキペダルの動きを妨げないでください。
>
> - 足元に物を置かないでください
> - フロアマットやカーペットが確実に固定されていることを確認してください。フロアマットを重ねて使用しないでください。
> - 足が挟まれるおそれがあるため、ブレーキペダルの下には足を入れないでください。

▶ レバーを①または④の方向に操作します。

- 走行速度が約 30km/h 以上のときはそのときの速度に設定されます。
- 停車中および走行速度が約 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

または

▶ レバーを③の方向に操作します。

- 記憶されている前回の設定速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以上のときは、そのときの走行速度に設定されます。
- 前回の設定速度が消去されていて、走行速度が 30km/h 以下のときは、30km/h に設定されます。

> ⚠ **警 告**
>
> 可変スピードリミッターを設定するときは、周囲の安全、特に後方の車などに注意しながら操作してください。
>
> 記憶されている設定速度が走行速度より低いときは、記憶されている設定速度に設定すると、アクセルペダルを踏んでいても車は減速します。

ⓘ エンジンを停止すると、記憶されている前回の設定速度は消去されます。

可変スピードメーターが設定されると、マルチファンクションディスプレイに " 制限速度 " と設定速度⑦が約 5 秒間表示されます。

また、設定速度より下の部分の可変スピードリミッターインジケーター⑧が表示されます。

設定速度を変更する

設定速度を上げる

▶ レバーを①の方向に軽く操作します。

1km/h 単位で設定速度が上がります。

▶ レバーを ① の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で上がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り上がり、10km/h 単位で上がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

設定速度を下げる

▶ レバーを ④ の方向に操作します。

レバーを軽く操作すると、1km/h 単位で下がります。

レバーをいっぱいまで操作すると、1km/h 単位が切り下がり、10km/h 単位で下がります。

▶ 希望する速度になったら手を放します。

手を放したときの速度に設定されます。

可変スピードリミッターを解除する

▶ レバーを ⑥ の方向に操作します。

または

▶ レバーを ⑤ の方向に操作します。

レバーの表示灯が消灯して、クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスの操作ができる状態に切り替わります。

⚠ **警 告**

ブレーキ操作により、可変スピードリミッターを解除することはできません。

以下のときも、可変スピードリミッターは解除されます。

- アクセルペダルを踏んでキックダウンしたとき

  このときは確認音が鳴ります。

  ただし、設定速度より約 20km/h 以上低い速度までは、キックダウンしても解除されません。
- エンジンを停止したとき

ディストロニック・プラス *

⚠ **警 告**

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

ℹ ディストロニック・プラスは、S クラス HYBRID/HYBRID ロングには装備されません。

重要な安全事項

ディストロニック・プラスは速度を制御し、前方に検知された車両との距離を自動的に維持するための補助を行ないます。また、設定された速度を超えないように自動的にブレーキを効かせます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

長い急な下り坂で、特に車両に荷物を積載しているときは、適時シフトレンジを 1 、2 、3 にしてください。それによりエンジンブレーキを使用することにより、ブレーキシステムへの負荷を軽減し、ブレーキの過熱と早期の摩耗を防ぎます。

前方を走行している遅い車両を検知すると、ディストロニック・プラスは自動ブレーキを作動させ、あらかじめ設定した先行車との距離を維持します。

⚠ 警 告

ディストロニック・プラスがブレーキを効かせているときは、ブレーキペダルが引き込まれます。以下のことに注意して、ペダルの動きが妨げられないようにしてください。

- 運転席の足元には物を置かないでください。
- フロアマットやカーペットが確実に固定されていることを確認してください。特に、複数枚のフロアマットを重ねて置かないでください。
- 挟まれるおそれがありますので、ブレーキペダルの下に足を置かないでください。

事故の原因になったり、運転者や他の人が重大なけがをすることがあります。

⚠ 警 告

滑りやすい路面では、よりエンジンブレーキを効かせるためのシフトダウンは行なわないでください。駆動輪がグリップを失い、車両がスリップする原因になります。

⚠ 警 告

ディストロニック・プラスは運転の補助のみを行なうために設計されたものです。他の車両との距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

ディストロニック・プラスは、特に以下のようなものには反応しません。

- 歩行者
- 駐停車している車両など、道路上の静止している障害物
- 対向車や横切る車両

ディストロニック・プラスは、オートバイなど前方を走行している幅の狭い車両や、左または右にずれて走行している車両を検知しないことがあります。そのため、ディストロニック・プラスを作動させているときでも、交通状況には常に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

⚠ 警告

ディストロニック・プラスは道路や交通状況を考慮することはできません。ディストロニック・プラスが先行車を認識しない場合には、ディストロニック・プラスを作動させないでください。特に以下の場合です。

- カーブの前
- 車線が狭くなった場合
- 流れの速い車線に車線変更する場合
- 複雑な運転状況、または高速道路での工事など、車線が迂回している場合

ディストロニック・プラスは現在設定されている速度を維持するか、設定した速度まで加速します。

ディストロニック・プラスは天候などの条件を考慮することはできません。以下のときは、ディストロニック・プラスを作動させないでください。

- 道路が滑りやすいとき、雪で覆われているとき、または凍結しているとき。ブレーキを効かせたときや加速したときに車輪がグリップを失うことがあります。車両が滑り始めるおそれがあります。
- センサーが汚れていたり、雪、雨、または霧などで視界が悪いとき。距離の制御ができないことがあります。

ディストロニック・プラスが作動していても、交通状況には常に注意してください。 危険を適切に認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

ディストロニック・プラスの補助のためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、レーダーが作動していなければなりません。

前方に車両がいないとき、ディストロニック・プラスは、30km/h ～ 200km/h の走行速度の範囲で、クルーズコントロールと同じように作動します。前方を車両が走行しているときは、ディストロニック・プラスは、0km/h ～ 200km/h の走行速度の範囲で、前方の車両に追従して走行します。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

急な坂道を走行しているときは、ディストロニック・プラスを使用しないでください。

⚠ 警告

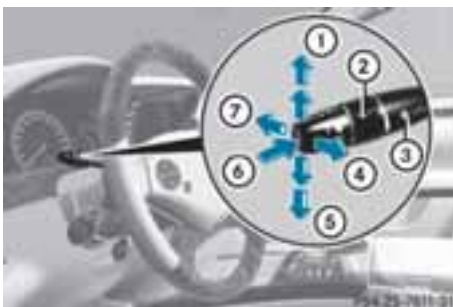
ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s² で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40%に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯 [警告灯] が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

クルーズコントロールレバー

レバーでディストロニック・プラスや可変スピードリミッターを操作できます。

レバーの LIM 表示灯は選択したシステムを示しています。

- **LIM 表示灯が消灯：**ディストロニック・プラスが選択されています。
- **LIM 表示灯が点灯：**可変スピードリミッターが選択されています。

① 現在の走行速度に設定する、または設定速度を上げる
② 車間距離を設定する
③ LIM 表示灯
④ 現在の走行速度に設定する、または最後に記憶させた速度を呼び出す
⑤ 現在の走行速度に設定する、または設定速度を下げる
⑥ ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターを切り替える
⑦ ディストロニック・プラスを解除する

ディストロニック・プラスの選択

▶ LIM 表示灯 ③ が消灯していることを確認します。

消灯しているときは、ディストロニック・プラスがすでに選択されています。

消灯していないときは、レバーを矢印 ⑥ の方向に押します。

レバーの LIM 表示灯が消灯します。ディストロニック・プラスが選択されます。

現在の速度を記憶させ、それを維持させるようにディストロニック・プラスを作動させる

⚠ 警 告

ディストロニック・プラスが作動しているときは、車両にブレーキが効くことがあります。このため、他の方法（自走式洗車機に入れたり、けん引するときなど）で車両を動かすときは、ディストロニック・プラスを解除してください。

以下の条件を満たすときに、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

- エンジンがかかっていること

  約 2 分以上走行するとディストロニック・プラスの使用準備が整います。

- パーキングブレーキが解除されていること
- ESP® が待機状態になっていて、作動していないこと

- シフトポジションが D にあること
- ボンネットが閉じていること
- シフトポジションを P から D にしたときに運転席ドアが閉じているか、運転者がシートベルトを着用していること
- 助手席側ドアとリアドアが閉じていること
- 車両がスリップしていないこと

走行中の作動

30km/h 以下の速度で走行しているときは、先行車が検知されていて、マルチファンクションディスプレイに表示されているときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。先行車が検知されなくなり、表示されなくなったときは、ディストロニック・プラスは解除され、確認音が鳴ります。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

▶ アクセルペダルから足を放します。

設定速度以下で先行車が走行している場合、自車の速度が先行車と同じ速度に調整されます。

ℹ アクセルペダルから足を完全に放していないときは、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中" というメッセージが表示されます。前方を走行している遅い車両との車間距離は維持されなくなります。アクセルペダルの踏み具合で自車の速度を調整してください。

停止している先行車に向かって走行しているときに作動させる

先行車が停車しているときは、自車が同様に停車してからのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引くか、クリックポイントまで上 ① または下 ⑤ に押します。

ディストロニック・プラスが選択されます。

ℹ 30km/h 以下では、先行車が検知されたときにのみ、ディストロニック・プラスを作動させることができます。マルチファンクションディスプレイの車間ディスプレイを表示させて確認してください。

▶ 希望の設定速度になるまで、レバーを上 ① または下 ⑤ に押したままにします。

ℹ レバーを使用して記憶速度を設定したり、レバーのダイヤル ② を使用して車間距離を設定することができます。

発進

▶ 前方の車両が発進したときは、ブレーキペダルから足を放します。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。

または

▶ 軽くアクセルペダルを踏みます。

先行車の走行速度に合わせるようにして発進します。

走行

先行車がいないときは、ディストロニック・プラスはクルーズコントロールと同じように作動します。

ディストロニック・プラスが先行車の減速を検知したときは、自動ブレーキを作動させて、設定した車間距離を維持します。

先行車が加速し、設定速度よりも速くなったときは、設定速度まで加速します。

⚠ **警 告**

ブレーキペダルを踏んだとき、自車が停止しているとき以外はディストロニック・プラスが解除されます。この後は、ディストロニック・プラスが車両にブレーキを効かせることはありません。そのような場合は、運転者のブレーキ操作のみで先行車との距離を調整することになります。事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。

車線変更

以下の状況で追い越し車線に変更する場合は、ディストロニック・プラスの加速によって運転者の車線変更操作を補助します。

- 約 60 km/h 以上で走行しているとき
- 先行車の速度が自車の設定速度よりも遅く、ディストロニック・プラスが先行車との距離を維持して追従走行しているとき
- 対応する方向指示灯を作動させたとき
- ディストロニック・プラスが衝突の危険を検知していないとき

これらの条件を満たした場合は、車両は加速します。車線変更に時間がかかりすぎたり、自車と先行車との距離が短すぎるときは、加速は中断されます。

ⓘ 車線を変更するとき、ディストロニック・プラスは追い越し車線側の車両または障害物をモニターします。

※ 上記の機能は日本仕様では作動しない場合があります。

⚠ **警 告**

ディストロニック・プラスは、運転を補助するために設計されたものです。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。他の車両との車間距離、走行速度、タイミングに合ったブレーキ操作に関するすべての責任は運転者にあります。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

停止

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスが作動しているときは車両から降りないでください。

ディストロニック・プラスを同乗者が操作したり、停車時に車外から作動または解除するような操作はしないでください。

ディストロニック・プラスは電気式パーキングブレーキの代わりになるものではありません。駐車するために使用しないでください。

以下のときには、ディストロニック・プラスの自動ブレーキの作動が中断し、車両が動き出すことがあります。

- クルーズコントロールレバーを使用してディストロニック・プラスが解除されたとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- システムに故障があるときやバッテリー故障などで電力供給が中断したとき
- エンジンルームの電気システムや、バッテリーまたはヒューズが改造されたとき
- バッテリーの接続を外したとき

車両から離れたり、駐車するときは、ディストロニック・プラスを解除し、車両が動き出さないようにしてください。

⚠ **警告**

ディストロニック・プラスは、走行速度により、最大 4m/s² で車両にブレーキを効かせます。これは、車両の最大制動力の約 40%に相当します。この制動力が不十分なときは、運転者自身でブレーキを効かせてください。

ディストロニック・プラスが車両の前方に衝突の危険性を検知したときは、断続的な警告音が鳴ります。さらに、メーターパネルの車間距離警告灯 [警告灯] が点灯します。衝突を避けるためにブレーキ操作を行なってください。

先行車が停止したことをディストロニック・プラスが検知すると、自車が停止するまでブレーキを効かせます。

一度自車が停止すると、停車したままになり、ブレーキペダルを踏む必要はありません。

ⓘ しばらくすると、電気式パーキングブレーキが作動して車両が動かなくなり、ブレーキの負担を軽減します。

ⓘ 設定した車間距離によっては、自車は先行車後方の十分な距離があるところで停止することがあります。車間距離はレバーのダイヤルを使用して設定します。

速度の設定

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に押します。

▶ 希望の速度が設定されるまで、レバーを押したままにします。

▶ レバーから手を放します。

新しい速度が記憶されます。ディストロニック・プラスが作動し、新しく記憶させた速度に車両の速度を調整します。

1km/h 単位での調整

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントまで軽く押します。

記憶される速度が 1km/h 単位で変更されます。

10km/h 単位での調整

▶ レバーを、高い速度には上 ① に、低い速度には下 ⑤ に、クリックポイントを越えて押します。

記憶される速度が 10km/h 単位で変更されます。

ⓘ ディストロニック・プラスはアクセルペダルを踏んでも解除されません。追い越しを行なうために速度を上げたときは、追い越しが完了した後に、ディストロニック・プラスは車両の速度を設定速度に調整します。

現在の速度を記憶させる、または記憶された速度を呼び出す

⚠ **警告**

記憶されている速度を認識していて、また現在の交通や走行状況に合っているときにのみ、記憶させた速度を呼び出してください。意図せずに突然の加速やブレーキ作動が起こり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

▶ レバーを運転者の方向 ④ に軽く引きます。

▶ アクセルペダルから足を放します。

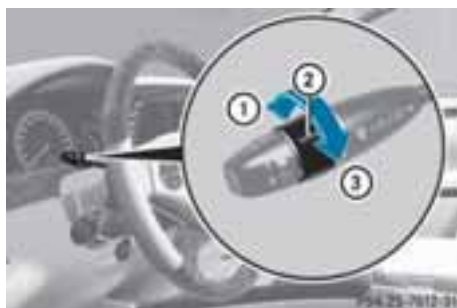
ディストロニック・プラスが作動し、現在の速度が記憶されます。または、以前に記憶されていた巡航速度に車両を設定します。

車間距離の設定

先行車との車間距離を所定の範囲で設定できます。

車間距離の設定を最短にしたとき、約 60km/h で走行しているときは約 17m の車間距離に設定されます。

車間距離の設定を最長にしたとき、約 60km/h で走行しているときは約 33m の車間距離に設定されます。

車間距離はマルチファンクションディスプレイで確認できます（▷242 ページ）。

車間距離を長くする

▶ ダイヤル ② を矢印 ③ の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より長い車間距離を維持します。

車間距離を短くする

▶ ダイヤル ② を矢印 ① の方向にまわします。

ディストロニック・プラスは、自車と先行車の間に、より短い車間距離を維持します。

ℹ 先行車と十分で安全な距離を維持していることを確認してください。必要であれば、先行車との距離を調整してください。

スピードメーターのディストロニック・プラス表示

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度に三角形 ② が表示されます。

※ 上記のイラストは車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ℹ デザイン上の理由により、スピードメーターに表示されている速度とディストロニック・プラスの設定速度が若干異なる場合があります。

ディストロニック・プラスが先行車を検知すると、先行車の速度 ① と設定速度 ② の間のスピードメーター部分が点灯します。

マルチファンクションディスプレイのディストロニック・プラス表示

一般的な注意事項

マルチファンクションディスプレイのアシストメニュー（▷216 ページ）で、車間距離表示を選択することができます。

ディストロニック・プラスが解除されているときの表示

▶ マルチファンクションディスプレイで、" 車間ディスプレイ "（▷216 ページ）を選択します。

ディストロニック・プラスが解除されているときは、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。

① PRE-SAFE® ブレーキ作動マーク
② 検知された先行車
③ 現在の先行車との距離を表示する車間距離インジケーター
④ 先行車との間に設定された車間距離（調整可能）
⑤ 自車

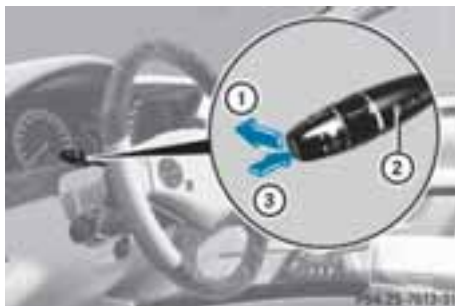
ディストロニック・プラスが作動しているときの表示

▶ マルチファンクションディスプレイで、" 車間ディスプレイ "（▷216 ページ）を選択します。

ディストロニック・プラスを作動させたときは、設定速度が約 5 秒間表示されます。この後、ディストロニック・プラスを作動させている間は、マルチファンクションディスプレイに以下の画面が表示されます。

① ディストロニック・プラス作動表示
② 自車
③ 先行車との間に設定された車間距離（調整可能）
④ 検知された先行車

※ 上記のイラストは車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

ディストロニック・プラスの解除

ディストロニック・プラスの解除には、いくつかの方法があります。

▶ レバーを前方 ① に軽く押します。

または

▶ 停車していないときに、ブレーキペダルを踏みます。

または

▶ レバーを矢印 ③ の方向に軽く押します。

可変スピードリミッターが選択されます。レバーの LIM 表示灯 ② が点灯します。

ディストロニック・プラスを解除すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ ｵﾌ" と約 5 秒間表示されます。

ℹ エンジンを停止すると、記憶された設定速度は消去されます。

以下のときはディストロニック・プラスは自動的に解除されます。

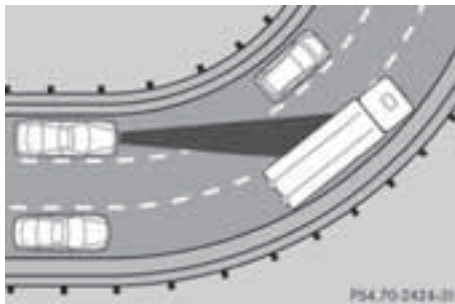
- パーキングブレーキを効かせたときや自動的にパーキングブレーキが作動したとき
- 走行速度が 25km/h 以下のときに、先行車がいなくなったときや先行車が検知されなくなったとき
- ESP® が介入したときや ESP® を解除したとき
- シフトポジションを N や P、R にしたとき
- 車両が電波望遠鏡施設の周辺にあるとき
- レーダーセンサーシステムを停止したとき
- 助手席ドアまたはいずれかのリアドアが開いている状態で、発進させるためにクルーズコントロールレバーを手前に引いたとき
- 車両がスリップしたとき

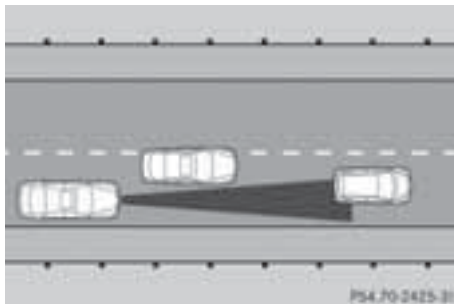
ディストロニック・プラスが解除されると、マルチファンクションディスプレイに "ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ ｵﾌ" と約 5 秒間表示されます。

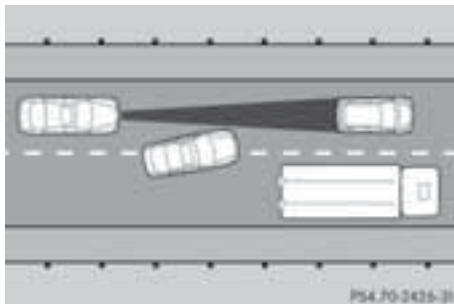
ディストロニック・プラスで走行するときのヒント

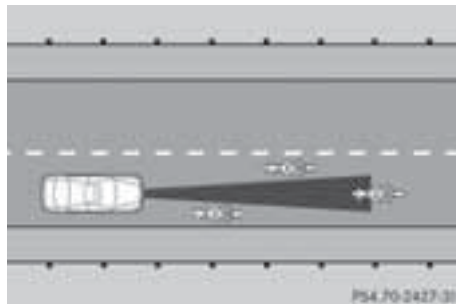
一般的な注意事項

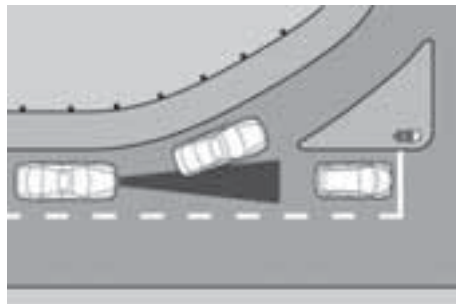
特に注意が必要な、道路と交通の特定の状況を以下に記載しています。このような状況下では、必要に応じてブレーキペダルを踏んでください。ディストロニック・プラスが解除されます。

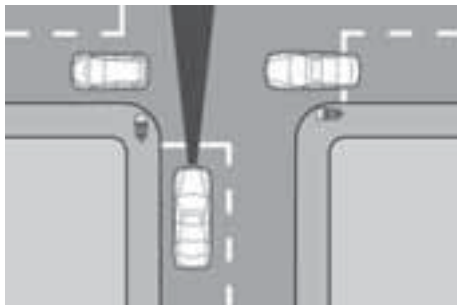
カーブでの走行、カーブに入るときやカーブを抜けるとき

カーブでは、ディストロニック・プラスの機能が制限されます。車両が予期せずにブレーキを効かせたり、ブレーキが遅れることがあります。

自車の進路から左または右に少しずれた位置に車両が走行しているとき

ディストロニック・プラスは、自車の進行方向から左または右にずれて走行している車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に車両が割り込んでくるとき

ディストロニック・プラスは割り込んでくる車両を検知できないことがあります。この車両との距離が非常に短くなることがあります。

横幅の狭い車両が前方を走行しているとき

ディストロニック・プラスは、車線の端を走行している横幅の狭い車両を検知できないことがあります。先行車との距離が非常に短くなることがあります。

自車の進路に障害物や停車車両があるとき

ディストロニック・プラスは、障害物や停車車両に対して自動ブレーキを作動させません。例えば、自車が追従していた先行車がカーブを曲がり、障害物や停車車両が現れたときは、ディストロニック・プラスはこれらに対して自動ブレーキを作動させません。

車両が横切ったとき

ディストロニック・プラスは、誤って自車の車線を横切る車両を検知することがあります。交差点でディストロニック・プラスを作動させているときは、意図せずに自車が発進することがあります。

ホールド機能

坂道での発進や信号待ちをしているときなどに、車が前進または後退することを防ぐ機能です。ブレーキペダルを踏み続けたり、パーキングブレーキを効かせなくても、通常の路面で、停車した状態を維持できます。

⚠ 警 告

- 積雪路面や凍結路面、極端な急勾配の道路などタイヤが路面をグリップしない状況では、停車した状態を維持できません。ホールド機能を使用しないでください。
- ホールド機能使用時の安全確保や危険回避については運転者に全責任があります。
- エンジンを停止するときや駐車するとき、車から離れるときは、必ずパーキングブレーキを効かせ、シフトポジションを P にしてください。
- ホールド機能はパーキングブレーキに代わるものではありません。絶対にパーキングブレーキとして使用しないでください。
- ホールド機能が作動している状態で車から降りないでください。他の乗員がペダルなどに触れることにより車が動き出すおそれがあります。
- ホールド機能は、車外から、または運転者以外の同乗者が操作したり解除しないでください。

⚠ 警 告

ホールド機能が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。洗車機に入れるときやけん引などで車を動かすときは、ホールド機能を解除してください。

ホールド機能の作動条件

ホールド機能は、以下のときに作動させることができます。

- 停車しているとき
- エンジンがかかっているとき、またはECOスタート / ストップ * によりエンジンが自動的に停止しているとき
- 運転席ドアを閉じているとき（運転席の乗員がシートベルトを着用しているときは、運転席ドアが開いているときも作動します。）
- パーキングブレーキが解除されているとき
- ボンネットのロックが解除されていないとき
- シフトポジションが D 、 N 、 R のいずれかのとき

  シフトポジションが R のときは、トランクが閉じている必要があります。
- ディストロニック・プラス * が解除されているとき

ホールド機能を作動させる

▶ ホールド機能の作動の条件を確認します。

▶ ブレーキペダルを意識的に素早く深く踏み込みます。

メーターパネルにホールド機能表示灯 ① が表示されます。

表示されないときは、ブレーキペダルを少し戻して、再度意識的に素早く深く踏み込みます。

ホールド機能が作動し、ブレーキペダルから足を放しても停車したままになります。

ホールド機能を解除する

以下のいずれかの操作をすると、ホールド機能は解除され、メーターパネルのホールド機能表示灯 ① が消灯します。

- シフトポジションが D または R で、アクセルペダルを踏んだとき
- シフトポジションを P にしたとき
- ブレーキペダルを再度踏んだとき
- パーキングブレーキを効かせたとき
- ディストロニック・プラス * を作動させたとき

! ホールド機能を解除したときは、車の動きに十分注意してください。

! パーキングブレーキを効かせてホールド機能を解除したときは、シフトポジションを P にして確実に停車してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! シフトポジションを P にしてホールド機能を解除したときは、パーキングブレーキを効かせるかブレーキペダルを踏んで、確実に停車してください。

i ホールド機能を作動させたままにすると、ブレーキシステムへの負荷を軽減するために、自動的にホールド機能が解除され、パーキングブレーキが効きます。

i ホールド機能が解除されると、ブレーキペダルが手前に戻ります。

! ホールド機能は、以下のいずれかの操作を行なったときも解除されます。

- ボンネットのロックを解除したとき
- シフトポジションが R のときに、トランクを開いたとき

これらのときは自動的にパーキングブレーキが効きますが、シフトポジションを P にして確実に停車してください。

- エンジンを停止したとき
- 運転席の乗員がシートベルトを着用していない状態で運転席ドアを開いたとき

これらのときは自動的にパーキングブレーキが効き、シフトポジションが P になります。

⚠ 警 告

以下のときは、ホールド機能が解除され、車が動きだすおそれがあります。

- アクセルペダルを踏んだときや、ブレーキペダルを再度踏んだとき
- システムまたは電力供給に異常（バッテリーあがりなど）があるとき
- エンジンルームの電気システムやヒューズなどが変更されたとき
- バッテリーの接続が断たれたとき

車から離れるときや駐車するときは、ホールド機能を解除し、車が動き出さないようにしてください。

AIR マティックサスペンション *

車高の自動調整

車高を自動的に調整することにより、燃料消費と走行安定性を向上させます。

車高は以下のように自動的に調整されます。

4MATIC 以外：

- 標準車高レベル
- 高い車高レベル

  標準車高レベルから約 30mm 車高が上がります。
- 低い車高レベル

  標準車高レベルから約 20mm 車高が下がります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

4MATIC：

- 標準車高レベル

  サスペンションモードがコンフォートモードのときは、スポーツモードから約 10mm 車高が上がります。

- 高い車高レベル

  サスペンションモードがコンフォートモードのときは、標準車高レベルから約 30mm 車高が上がります。スポーツモードのときは、標準車高レベルから約 40mm 車高が上がります。

- 低い車高レベル

  サスペンションモードがコンフォートモードのときは、標準車高レベルから約 20mm 車高が下がります。スポーツモードのときは、標準車高レベルから約 10mm 車高が下がります。

標準車高レベルと高い車高レベルは手動で選択できます。

低い車高レベルは自動的に調整されます。

以下の状況になると、車高が下がります。

- 4MATIC 以外は、走行速度が約 100km/h 以上になったとき
- 4MATIC は、走行速度が約 80km/h 以上になったとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車高の手動調整

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高を上げることができます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

エンジンを停止しても、選択した車高レベルは記憶されます。

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ ① を押します。

　スイッチの表示灯 ② が点灯します。

車高を元に戻す

▶ 再度、車高調整スイッチ ① を押します。

　スイッチの表示灯 ② が消灯します。

　標準の車高レベルに戻ります。

車高を上げたときは、以下の状況になると、車高が下がります。

- 走行速度が約 120km/h を超えたとき
- 約 80km/h 以上の速度で約 3 分間走行したとき

上記の速度域を超えずに走行したときは、高い車高レベルが維持されます。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ 警 告

車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

! 安全のため、車高の調整は停車中に行なってください。

! 連続して車高の調整を行なわないでください。ポンプの保護機能により、作動が停止することがあります。

ⓘ 車高を上げているときは、マルチファンクションディスプレイに " 車高があがります " と表示されます。

サスペンションの自動制御

アダプティブ・ダンピング・システム（ADS）が、ダンパーとサスペンションを自動的に制御します。

サスペンション制御は、以下のものに応じて各輪ごとに行なわれます。

- 運転者の運転スタイル
- 路面の凹凸などの状況

サスペンションモードの手動選択

サスペンションの特性を、スポーツモードとコンフォートモードに切り替えることができます。

ⓘ エンジンを停止しても、設定した車高は記憶されます。

スポーツモードにする

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、ステアリング操作時の路面追従性が向上します。カーブが連続する道路などを走行するときに、スポーツモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ①を押して、スイッチの表示灯②を点灯させます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "AIRMATIC SPORT" と表示されます。

コンフォートモードにする

コンフォートモードでは、快適性を重視したサスペンション制御になります。直線の多い道路や高速道路を走行するとき、より快適性を向上させたいときに、コンフォートモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ①を押して、スイッチの表示灯②を消灯させせます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "AIRMATIC COMFORT" と表示されます。

ABC*

ABC（アクティブ·ボディ·コントロール）は、走行速度や路面状況、運転スタイルなどに応じてサスペンションを自動的に制御し、走行安定性を高める装置です。

車高の自動調整

車高は走行速度に応じて自動的に調整されます。

走行速度が上がると、車高が最大約15mm 下がり、走行安定性の向上と燃料消費の軽減を図ります。

走行速度が下がると、手動で設定されている車高に戻ります。

⚠ 警告

S 63 AMG および S 65 AMG は、エンジンを停止すると車高が自動的に下がります。

エンジンを停止するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいたり物がないことを確認してください。身体や物が挟まれるおそれがあります。また、車体の下方に十分な空間があることを確認してください。

! S 63 AMG および S 65 AMG は、エンジンを停止すると車高が約10mm 下がります。駐車するときは、車の下や周りに縁石や突起物などがないことを確認してください。車高が下がったときに接触し、車を損傷するおそれがあります。

車高の手動調整

悪路を走行するときや、スノーチェーンを装着して走行するときは、車高を上げることができます。

エンジンがかかっているときに操作できます。

車高を上げる

▶ 車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が点灯します。

車高が上がります。

車高を元に戻す

▶ 再度、車高調整スイッチ①を押します。

スイッチの表示灯②が消灯します。

標準の車高に戻ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

車高調整スイッチを操作するときは、ホイールハウスの近くや車の下に人がいないことを確認してください。車高が変化するときに、身体を挟むおそれがあります。

! 安全のため、車高の調整は停車中に行なってください。

! 連続して車高の調整を行なわないでください。ポンプの保護機能により、作動が停止することがあります。

ⓘ エンジンを停止しても、選択した車高レベルは記憶されます。

ⓘ エンジンルーム内の温度が極端に上がると、車高が自動的に上下することがありますが、走行を開始すると、車高は正常に戻ります。

サスペンションの自動制御

ABC は、以下のような状況に応じて各輪ごとにサスペンションを自動的に制御し、走行安定性や快適性を高めます。

- 運転者の運転スタイル
- 路面の凹凸などの状況
- 乗車人数や積載荷物の量

サスペンションモードの手動選択

サスペンションの特性を、スポーツモードとコンフォートモードに切り替えることができます。

ⓘ エンジンを停止しても、設定した車高は記憶されます。

スポーツモードにする

スポーツモードではサスペンション制御が固くなり、ステアリング操作時の路面追従性が向上します。カーブが連続する道路などを走行するときに、スポーツモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ ① を押して、スイッチの表示灯 ② を点灯させせます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ABC Active Body Control SPORT" と表示されます。

コンフォートモードにする

コンフォートモードでは、快適性を重視したサスペンション制御になります。直線の多い道路や高速道路を走行するとき、より快適性を向上させたいときに、コンフォートモードにしてください。

▶ エンジンがかかっているときに、サスペンションモード選択スイッチ ① を押して、スイッチの表示灯 ② を消灯させます。

マルチファンクションディスプレイに数秒間 "ABC Active Body Control COMFORT" と表示されます。

4MATIC*

4MATIC は、滑りやすい路面での発進時や加速時の走行安定性を向上させ、車両操縦性を確保しようとする 4 輪駆動システムです。

⚠ **警 告**

4MATIC はスピードの出しすぎなどの無謀な運転から事故の危険性を低減するものではありません。

車輪が空転した場合は、以下の操作を行なってください。

- 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。
- 走行中はアクセルペダルをゆるめてください。
- 路面と交通状況に合わせて運転してください。

! 前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。このような場合での損傷は、保証の対象外になります。けん引を行なう場合は、すべての車輪を接地させるか、すべての車輪を持ち上げてください。

ℹ 雪道や凍結路などでは、ウィンタータイヤや、必要に応じてスノーチェーンを装着することにより、4MATIC の効果を最大限に発揮することができます。

パークトロニック *

⚠ **警 告**

パークトロニックは運転者を支援するシステムです。運転者はパークトロニックだけに頼らず、必ず周囲の状況を確認してください。

⚠ **警 告**

周囲に人や動物がいないことを確認してください。

パークトロニックは、超音波センサーによる電子式駐車補助システムです。車両と障害物との距離を視覚的、聴覚的に示します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

パークトロニックは、以下のときに自動的に作動します。

- イグニッション位置が **2** のとき
- シフトポジションが **D**、**R**、**N** のいずれかのとき
- パーキングブレーキが解除されているとき

パークトロニックは、走行速度が約 18km/h 以下のときに作動します。走行速度が約 18km/h 以上になると作動を停止します。

フロントバンパーの 6 個のセンサーとリアバンパーの 4 個のセンサーが障害物などを感知します。

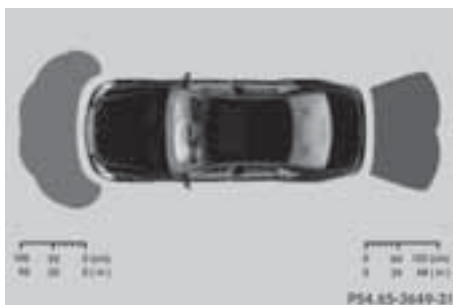
ℹ シフトポジションが **D** か **R** のときは、パーキングブレーキが効いているときにも作動します。

パークトロニックセンサー

① センサー（フロントバンパー）

❗ センサーに泥や氷、雨、水しぶきなどが付着した状態のときは、赤色インジケーターだけが点灯し、約 20 秒後にパークトロニックが停止します。センサーに損傷を与えないよう注意して、定期的に清掃してください（▷383 ページ）。

センサーの感知範囲

横方向から見た感知範囲

上方向から見た感知範囲

フロントバンパー側

	センサー感知範囲
センター部	約 100cm ～ 20cm
コーナー部	約 60cm ～ 20cm

リアバンパー側

	センサー感知範囲
センター部	約 120cm ～ 20cm
コーナー部	約 80cm ～ 20cm

! バンパーから約 20cm 以内にある障害物は感知できません。

! センサーの周辺にアクセサリーなどを取り付けないでください。パークトロニックが正常に作動せず、車を損傷したり事故につながるおそれがあります。

! 針金やロープなどの細い物や、植木鉢や建物の張り出しなどセンサーの上下にあるものに十分注意してください。これらが至近距離内にあるとき、状況によっては、センサーがこれらを感知せず、車や物を損傷するおそれがあります。

! センサーは雪などの超音波を吸収しやすい物を感知しないことがあります。

! 不整地などを走行しているときは、パークトロニックが正しく機能しないことがあります。

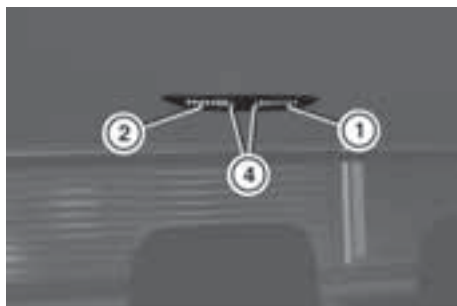
! 洗車機や大型車の排気ブレーキ、工事用のエアコンプレッサーなどが近くにあると、超音波が乱され、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 温度や湿度が高いときや超音波や低周波を発生させる機器が車の近くにあるとき、またエンジンルームの温度が高いときは、パークトロニックが正常に作動しないことがあります。

! 路面が平坦でないときは、パークトロニックは正常に作動しないことがあります。

インジケーター / 作動表示灯

フロントのインジケーターはメーターパネル内に、リアのインジケーターはルーフ後方にあります。

フロント
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
③ 作動表示灯

リア
① 左側インジケーター
② 右側インジケーター
④ 作動表示灯

フロント、リアともに右側インジケーター ② は車の右側を、左側インジケーター ① は車の左側を感知した状況を表示します。

バンパーと障害物などとのおよその距離を、インジケーターの点灯数で示します。

センサー感知範囲に障害物が入ったとき

センサー感知範囲（▷254 ページ）に障害物が入ると、黄色インジケーターが 1 個点灯します。

障害物との距離が短くなるにつれ、点灯する黄色インジケーターの数が増えていきます。

障害物との距離が近くなったとき

障害物との距離がセンサーの最短感知距離に近くなると、黄色インジケーター 5 つに加えて 1 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が断続的に約 3 秒間鳴ります。

最短感知距離（約 20cm）になると、上記のインジケーターに加えて 2 個目の赤色インジケーターが点灯し、警告音が連続的に約 3 秒間鳴ります。

パークトロニックの作動

パークトロニックは、シフトポジションに応じて、以下のように作動します。

シフトポジション	作動内容
D	フロントのセンサーが作動し、フロントの作動表示灯 ③ が点灯します。
R N	フロントとリアのセンサーが作動し、フロントとリアの作動表示灯 ③④ が点灯します。
P	パークトロニックは作動しません。

ℹ イグニッション位置を **2** にすると、リアの作動表示灯とすべてのインジケーターが一瞬点灯します。

パークトロニックの機能の解除

① パークトロニックオフスイッチ
② 表示灯

パークトロニックの機能を解除できます。

パークトロニックの機能を解除する

▶ イグニッション位置が **2** のときに、パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が点灯します。

パークトロニックを作動させる

▶ パークトロニックオフスイッチ ① を押します。

スイッチの表示灯 ② が消灯します。

ℹ パークトロニックオフスイッチでパークトロニックを停止しても、次にイグニッション位置を **2** にしたとき、パークトロニックは自動的に作動します。

パークトロニックのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯して約2秒間警告音が鳴り、約20秒後にパークトロニックの機能が解除され、パークトロニックオフスイッチの表示灯が点灯した。	パークトロニックの故障のため、機能が解除されている。 ▶ トラブルが続くようであれば、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でパークトロニックの点検を受けてください。
パークトロニックの赤色インジケーターだけが点灯し、約20秒後にパークトロニックの機能が解除された。	パークトロニックセンサーが汚れているか、付着物などがある。 ▶ パークトロニックセンサーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ 再度、イグニッション位置を **2** にしてください。
	外部の電波や超音波の干渉などにより、機能が解除されている。 ▶ 場所を変えて、パークトロニックの作動を確認してください（▷256 ページ）。

パーキングアシストリアビューカメラ

パーキングアシストリアビューカメラは、車の後方の映像と音声により、車庫入れや縦列駐車などの後退操作を補助するシステムです。

⚠ 警告

車の周辺に人や動物がいないことを確認してください。

⚠ 警告

パーキングアシストリアビューカメラは運転の補助を行なう装備です。状況によっては、障害物が歪んで表示されたり、正しく表示されなかったり、全く表示されないおそれがあります。パーキングアシストリアビューカメラは、運転者の不注意を補うものではありません。以下のものは、パーキングアシストリアビューカメラに表示されないことがあります。

- リアバンパーのすぐ近くにあるもの
- リアバンパーの下方にあるもの
- トランクの近くにあるもの

パーキングアシストリアビューカメラ使用時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。パーキングアシストリアビューカメラを使用する際も、常に車両の周囲に注意を払ってください。

絶対に COMAND ディスプレイの映像だけを見て後退や車庫入れなどをしないでください。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

⚠ 警告

以下のときは、パーキングアシストリアビューカメラが正常に作動しなかったり、機能が制限されるおそれがあります。

- トランクが完全に閉じていないとき
- 激しい雨や雪が降っているときや霧のとき
- 夜間や暗い場所にいるとき
- カメラにヘッドライトや日光の反射などの強い光が直接当たったとき（映像に白い縦線が入ることがあります）
- 蛍光灯の下で使用するとき（映像にちらつきが出ることがあります）
- 急激な温度変化があったとき（寒冷時に暖房されたガレージに入ったときやカメラに冷水や温水がかかったときなど）
- カメラが汚れていたり、付着物があるとき
- 車の後部を損傷したとき

  車の後部を損傷したときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でカメラ位置の点検と調整を行なってください。

上記のような場合は、パーキングアシストリアビューカメラを使用して後退操作を行なわないでください。人や他の車、障害物に衝突したり、事故につながるおそれがあります。

! 必ず指定されたサイズのホイールやタイヤを装着してください。指定以外のホイールやタイヤを装着すると、システムに影響を及ぼすおそれがあります。

! カメラの周囲に強い衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

! 乗員人数や荷物の積載量が多く車両が沈み込んだり傾いたりしている場合は、画面に表示されているガイドラインに誤差が生じます。必ず自分の目やミラーで後方や周囲の安全を直接確認してください。

! ガイドラインが表示されないなど故障のおそれがあるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

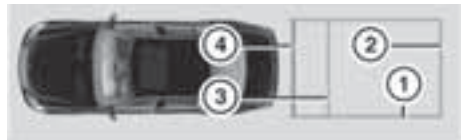
! 以下のような場合はシステムを使用しないでください。

- 積雪路面や凍結路面など、タイヤがスリップしやすいとき
- 坂道やカーブなどの平坦または直線でない道路

カメラの位置

カメラ ① はトランクハンドルの横に装備されています。

① カメラ

COMAND ディスプレイの映像

後退駐車の映像
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

COMAND ディスプレイに映し出される映像は、ルームミラーやドアミラーで見るのと同じ左右反転させた鏡像となります。

⚠ **警告**

安全のため、ガイドラインの色の識別が困難な方は、パーキングアシストリアビューカメラを使用しないでください。

! 後方に駐車している車のバンパーやトラックの荷台など、路面に接していない立体の障害物は、ディスプレイの映像では実際よりも遠くにあるように見えます。ガイドラインだけで距離を判断せず、必ず周囲の状況を直接確認してください。

! 障害物に向かって後退しているときは、障害物が 0.25m ガイドライン ④ を越えないように注意してください。障害物によっては、0.25m ガイドライン ④ まで後退する以前に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわしながら後退するときは、車のフロント部が他の車や障害物に接触しないように注意してください。

! 路面に接していない障害物や上方の空間にある障害物はガイドライン内になくても接触する可能性があります。十分に注意してください。

i トランクが開いているときにシフトポジションを R にしたときや、パーキングアシストリアビューカメラが作動しているときにトランクを開いたときは、パーキングアシストリアビューカメラは作動しません。このときは COMAND ディスプレイに " トランクが開いています ガイドできません " と数秒間表示されます。

i シフトポジションを R から D にしたときは、数秒間パーキングアシストリアビューカメラの映像が COMAND ディスプレイに表示されます。

i パーキングアシストリアビューカメラを作動させているときに、COMAND システムの他の機能を作動させると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が中断されます。

後退駐車モード

駐車場の駐車スペースに後退するときなどに補助をするモードです。

ステアリングをまわしていないとき
① 予想進路ガイドライン（黄色）
② 4.0m ガイドライン（黄色）
③ 1.0m ガイドライン（黄色）
④ 0.25m ガイドライン（赤色）

0.25m④、1.0m③、4.0m② のガイドラインは、それぞれ車の後端からのおよその距離を示します。

予想進路ガイドライン ① は、車が後退するときの予想進路を示します。

ステアリングをまわしているとき
⑤ 直進ガイドライン（青色）
⑥ 予想進路ガイドライン（黄色）

直進ガイドライン⑤は、ステアリングが直進状態で車が後退するときの進路を示します。

予想進路ガイドライン⑥は、そのときのステアリングの角度で車が後退するときの予想進路を示します。

後退駐車モードにする

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

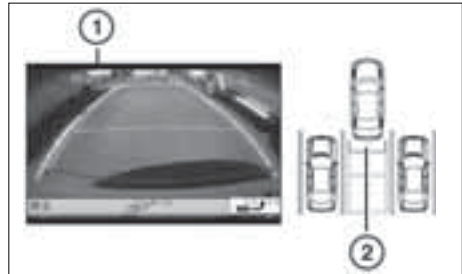
COMAND ディスプレイに後方の映像が表示されます。

▶ が表示されていないときは、を選択して ⟲◎⟳・◎→、コントローラーを押します ◎。

後退駐車時のガイドラインが表示されます。

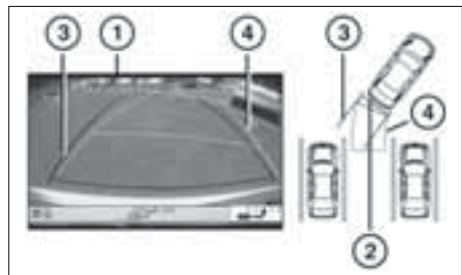
ℹ "戻る" を選択して ⟲◎⟳・←◎、コントローラーを押すと ◎、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。

パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

ステアリングをまわさないで、まっすぐ後退駐車する

① COMAND ディスプレイの表示例
② ① が表示されているときの自車位置

▶ 周囲に注意しながら、まっすぐ後退します。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

ステアリングをまわしながら、後退駐車する

① COMAND ディスプレイの表示例
② ① が表示されているときの自車位置
③ 直進ガイドライン（青色）
④ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 予想進路ガイドライン④が駐車スペースのなかに収まるようにステアリングをまわしながら、注意して後退します。

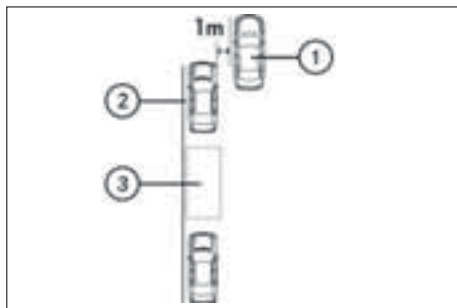
▶ 直進ガイドライン ③ が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻して、後退してください。

! ガイドライン内およびその周辺、および上方の空間に障害物などがないことを確認してください。

! ステアリングをまわして予想進路ガイドライン ④ の位置を調整しても、予想進路ガイドライン内に障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

縦列駐車モード

路上の駐車スペースなどに縦列駐車するときに、画面表示と音声案内で後退操作を補助するモードです。

縦列駐車する

① 自車
② 駐車スペース前方の駐車車両
③ 駐車スペース

▶ 駐車スペース前方の駐車車両 ② から約 1m 間隔を空けて平行に、駐車車両 ② の前端から自車が約半分ほど前に出た位置で、停車します。

ステアリングは直進状態にします。

i 駐車スペース ③ の前方に駐車車両がないときは、後退駐車モードで駐車することをお勧めします。

▶ COMAND システムをオンにします。

▶ シフトポジションを R にします。

▶ が表示されていないときは、 を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します。

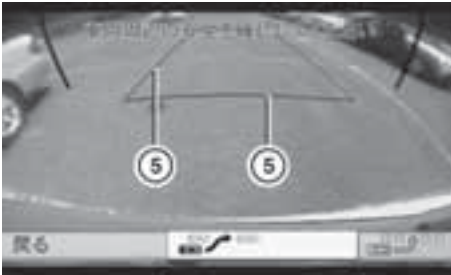
COMAND ディスプレイに後方の映像と、縦列駐車時のガイドラインが表示されます。

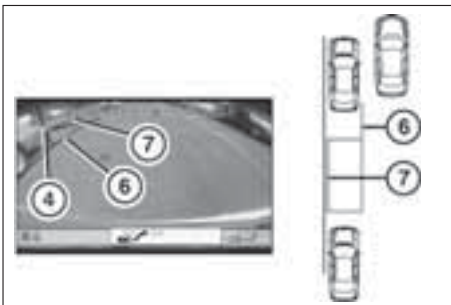
i " 戻る " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押すと、パーキングアシストリアビューカメラの映像が消え、元の画面に戻ります。パーキングアシストリアビューカメラの映像を再度表示させるには、シフトポジションを R 以外にして、再度 R にします。

② 駐車スペース前方の駐車車両
④ 垂直ガイドライン

▶ 垂直ガイドライン ④ が、駐車スペース前方の駐車車両 ② の後端に合うまでステアリングをまわさずに後退します。

▶ 垂直ガイドライン ④ が駐車車両の後端に合ったら、停車します。

! 垂直ガイドライン ④ が駐車車両 ② の後端から外れていると、正しい位置に駐車できません。

⑤ 駐車位置ガイドライン

停車すると、数秒後に駐車位置ガイドライン ⑤ が表示されます。

④ 垂直ガイドライン
⑥ 駐車位置ガイドライン（道路側）
⑦ 駐車位置ガイドライン（縁石側）

▶ 停車した状態で、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥ が駐車車両のタイヤの接地面に接するまで、ステアリングをまわします。

また、このとき駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が、駐車スペースの前後の車両や道路の縁石、塀や電柱など道路脇の障害物にかかっていないことを確認してください。

! 駐車位置ガイドライン（道路側）⑥ が駐車車両のタイヤ部分に交わっていると、正しい位置に駐車することができません。

! 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が正しい位置に合っていることを確認してください。正しい位置に合わせないまま後退すると、駐車車両や障害物に衝突するおそれがあります。

! ステアリングをまわして駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ の位置を調整しても、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ 内に駐車車両や障害物が入ってしまう場合は、駐車スペースが狭すぎます。そのスペースには駐車しないでください。

i ステアリングをまわしすぎたときは " ガイドできません ステアリングを戻してください " と表示されます。

▶ 駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ を正しい位置に合わせたら、ステアリングはそのままで、ゆっくりと後退します。

後退をはじめると、画面から垂直ガイドライン ④、駐車位置ガイドライン（道路側）⑥、駐車位置ガイドライン（縁石側）⑦ が消えます。

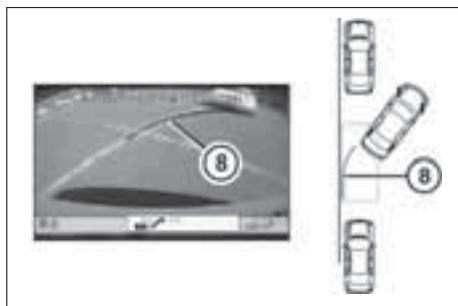
i 周囲の安全を確認しながら、ゆっくり後退してください。

ⓘ 以下のときはガイドが中止されます。

- シフトポジションを R 以外の位置にしたとき
- " 戻る "、または [アイコン] を選択したとき
- COMAND システムの他の機能を作動させたとき
- ステアリングを操作したとき

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が人や他の車、障害物などに衝突しないように注意してください。

! 後退をはじめた後は、ステアリングをまわさないでください。ステアリングをまわすとガイドが中止され、COMAND ディスプレイに " ガイドできません " または " ガイドできません ステアリングがずれました " と表示されます。

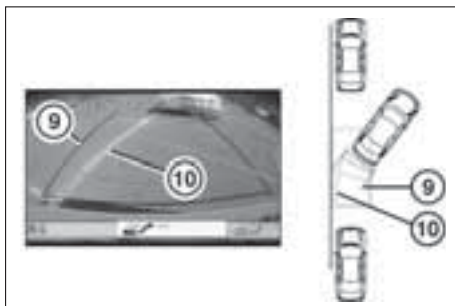
ⓘ ガイドが中止された場合は、最初から後退操作をやりなおしてください。

⑧ ステアリング角度ガイドライン

ゆっくり後退をはじめると、ステアリング角度ガイドライン ⑧ が表示されます。

▶ 縁石などの駐車スペースの縁に、ステアリング角度ガイドライン ⑧ が合うまでステアリングをまわさないで、そのままゆっくり後退します。

▶ ステアリング角度ガイドライン ⑧ が正しい位置に合ったら、停車します。

▶ ステアリングを反対方向にいっぱいまでまわします。

直進ガイドライン ⑨ と予想進路ガイドライン ⑩ が表示されます。

⑨ 直進ガイドライン（青色）
⑩ 予想進路ガイドライン（黄色）

▶ 直進ガイドライン ⑩ が縁石などの駐車スペースの縁と接するまでゆっくり後退します。

! 後退するときは必ず周囲の状況を直接確認してください。特に車のフロント部が前方の駐車車両などに衝突しないように注意してください。

▶ 車が、駐車しようとしているスペースと平行になったら、ステアリングを直進位置に戻します。

! ステアリング操作は、必ず停車した状態で行なってください。

パーキングアシストリアビューカメラの起動設定

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"アシスト" を選択します。

▶ ▼ を押して、"リアビューカメラ" を選択します。

▶ OK を押します。

画面に "リアビューカメラ" と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	作動内容
R シフト時自動起動	シフトポジションを R にすると、パーキングアシストリアビューカメラの映像が自動的に表示されます。
オフ	パーキングアシストリアビューカメラの映像は表示されません。

ℹ 工場出荷時は "R シフト時自動起動" に設定されています。

ℹ イグニッション位置を **0** にしても、設定内容は記憶されています。

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイド設定

パーキングアシストリアビューカメラの音声ガイドをオフにできます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、"アシスト" を選択します。

▶ ▼ を押して、"リアビューカメラ" を選択します。

▶ OK を押します。

画面に "リアビューカメラ" と表示されます。

▶ ▼ を押します。

画面に "リアビューカメラ ボイスガイダンス" と表示されます。

▶ OK を押します。

設定内容が変更されます。

表示	作動内容
オン	音声ガイドが行なわれます。
オフ	音声ガイドは行なわれません。

ℹ パーキングアシストリアビューカメラの起動設定をオフにしているときは、音声ガイドの設定はできません。

ℹ 音声ガイドの音量は、ステアリングスイッチの［＋］［－］、またはファンクションスイッチの音量調整ダイヤル（▷80 ページ）で調整できます。

アテンションアシスト *

アテンションアシストは、高速道路や幅の広い道路を走行するときなど、長時間にわたる単調な運転を行なっているときに運転者を補助するシステムです。

アテンションアシストは、約 80km/h ～約 180km/h で走行しているときに作動します。運転者の運転スタイルや運転時間などから、運転者が疲労していたり、注意力が低下していると思われるときに警告を行ない、休憩を促します。

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

⚠ **警 告**

アテンションアシストは、あくまで運転者の補助のみを行なうものであり、疲労や注意力低下にともなう車両の操作に対する警告が遅れたり、まったく警告が行なわれないことがあります。また、十分な休憩を取り、集中力を持つ運転者の代わりになるものではありません。

疲労により、危険な状況の認知が非常に遅れたり、また、状況の判断を誤ったり、反応が遅れることがあります。運転前や運転中は疲労していないことを確認してください。運転が長時間にわたるときは、適時かつ定期的に休憩を取ってください。危険を認知することができず、事故を起こすなど運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

アテンションアシストは、以下のような状況を考慮して、運転者の疲労や注意力低下を判断します。

- ステアリング操作などの運転スタイル
- 時刻や運転時間などの運転状況

以下のようなときは、アテンションアシストの機能が制限され、警告が遅れたり、警告がまったく行なわれないことがあります。

- 大きな凹凸や穴があるなど、道路状況が悪いとき
- 横風が強いとき
- スピードを出してカーブを曲がっているときや急加速で運転しているときなど、非常にスポーティな運転を行なっているとき

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 約 80km/h 以下や約 180km/h 以上の速度で走行していることが多いとき

※ 上記は、車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- COMAND システムを操作しているときや COMAND システムの電話機能で通話しているとき
- 車線を変えたり走行速度を変えるなど、絶えず運転状況に変化があるとき

アテンションアシストの設定と解除

アテンションアシストの設定と解除はマルチファンクションディスプレイで行ないます（▷217 ページ）。

アテンションアシストが設定されているときは、マルチファンクションディスプレイにアテンションアシストインジケーター ① が表示されます。

アテンションアシストの警告

アテンションアシストが設定されていても、運転を開始してから約 20 分以内は警告は行なわれません。

警告が行なわれると断続的な警告音とともに、マルチファンクションディスプレイに " アテンションアシスト 休憩してください " と表示されます。

このときは

▶ 必要であれば、休憩を取ります。

▶ OK を押します。

マルチファンクションディスプレイのメッセージが消えます。

長時間の運転では、適切な休息をするために、適時かつ定期的な休憩を設けてください。休憩することなく運転を続けたときは、運転者の運転パターンや運転時間などから、約 15 分経過以降に再度警告を行ないます。

以下の操作を行なうと、アテンションアシストはリセットされます。

- エンジンを停止したとき
- 運転を交代したり休憩を取るなどで、運転者がシートベルトを外して、運転席ドアを開いたとき

ナイトビューアシストプラス *

ナイトビューアシストプラスは、赤外線を利用して、通常のヘッドライトと同じように道路上を照射します。

フロントウインドウにあるカメラが赤外線の反射光を映像化して、マルチファンクションディスプレイに白黒表示で映し出します。

また、歩行者検知機能が作動しているときは、歩行者の周囲にフレームが表示され、強調して表示されます。

⚠ 警告

ナイトビューアシストプラスは、あくまで運転操作を補助するためのものであり、運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。運転者はナイトビューアシストプラスの映像に頼るのではなく、フロントウインドウを通して周囲の交通状況に注意してください。ナイトビューアシストプラス作動時の安全確保や危険回避については、運転者に全責任があります。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、システムが作動しないことがあります。

- 降雪時や降雨時、霧や小雨のときなど視界が悪いとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されているとき
- カーブや上り坂、下り坂を走行しているとき

対向車のヘッドライトからの光は、COMAND ディスプレイに表示されるナイトビューアシストプラスの映像に影響を与えることはありません。対向車がいるために、ヘッドライトを下向きで点灯しているときも同様です。このことにより、道路状況や障害物などを、適時確認することができます。

⚠ 警告

ナイトビューアシストプラスは、車の直前にある物は検知しません。運転するときは、周囲の交通状況を直接確認してください。また、周囲に人や動物がいないことを確認してください。

ℹ 赤外線は人の目には見えないため、ナイトビューアシストプラスを作動させていても対向車を眩惑させることはありません。

ナイトビューアシストプラスカメラの位置

① ナイトビューアシストプラスカメラ

ナイトビューアシストプラスカメラ ① はフロントウインドウ上部にあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ナイトビューアシストプラスの作動

左ハンドル車

※ 右ハンドル車のナイトビューアシストプラススイッチは、ライトスイッチの右側にあります。

ナイトビューアシストプラスを作動させる

ナイトビューアシストプラスは、以下の条件がすべて満たされたときに作動します。

- 周囲が暗いとき
- イグニッション位置が **2** のとき
- ライトスイッチが A または ≣D でヘッドライトが点灯しているとき
- シフトポジションが R 以外のとき

▶ ナイトビューアシストプラススイッチ ① を上または下に操作します。

マルチファンクションディスプレイにナイトビューアシストプラスの映像が表示されます。

! 赤外線は走行速度が約 10km/h 以上になると照射されます。走行速度が約 10km/h 以下のときも画像は表示されますが、赤外線が照射されているときの画像に比べると暗くなります。

ナイトビューアシストプラスを停止する

▶ 再度、ナイトビューアシストプラススイッチ ① を上または下に操作します。

i 周囲が明るいときにナイトビューアシストプラススイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに "ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ 使用は暗い場合 のみ" と表示されます。

i 周囲が暗く、ヘッドライトが点灯していないときにナイトビューアシストプラススイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに "ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ ﾗｲﾄ 確実に点灯" と表示されます。

i シフトポジションが R のときにナイトビューアシストプラススイッチを操作すると、マルチファンクションディスプレイに "ﾅｲﾄﾋﾞｭｰｱｼｽﾄ R ﾚﾝｼﾞ 以外 にｼﾌﾄ" と表示されます。

マルチファンクションディスプレイの映像

①ナイトビューアシストプラスの映像
②検知された歩行者
③検知された歩行者を囲むフレーム
④歩行者検知機能インジケーター
⑤スピードメーター

ナイトビューアシストプラスを作動させると、スピードメーター⑤はマルチファンクションディスプレイ下部に目盛りで表示されます。

歩行者検知機能

シルエットなどの特徴により、システムが歩行者を検知します。

歩行者検知機能は以下のときに作動します。

- ナイトビューアシストプラスが作動しているとき
- 走行速度が約 10km/h 以上のとき
- 街路灯がない郊外を走行するときなど、周囲が非常に暗いとき

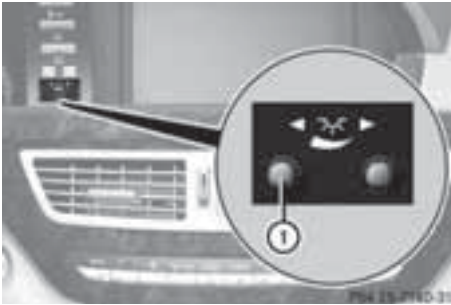
歩行者検知機能が作動すると、歩行者検知機能インジケーター④が表示されます。歩行者が検知されると、歩行者はフレームで囲まれます。このときは、マルチファンクションディスプレイの映像ではなく、フロントウインドウ越しに、直接前方の状況を確認してください。マルチファンクションディスプレイの映像では、障害物や歩行者までの距離を正確に把握することはできません。

⚠ 警告

以下のような状況下では、歩行者が正常に検知されなかったり、まったく検知されないことがあります。

- 歩行者の身体の一部または全部が駐車車両などに隠れているとき
- 強い光の反射などで、ディスプレイの映像が不完全なとき
- 歩行者が周囲の背景などに溶け込んでいるとき
- 座っていたり、かがんでいる、または横たわっているなど、歩行者が立っていない状態のとき

ℹ ナイトビューアシストプラスの歩行者検知機能では、動物を検知することはできません。

マルチファンクションディスプレイの明るさを調整する

左ハンドル車

▶ ナイトビューアシストプラスを作動させます。

▶ メーターパネル照度調整ノブ ① を左右にまわします。

フロントウインドウの曇りや汚れ

ナイトビューアシストプラスカメラ前方のフロントウインドウの内側または外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスの映像が不鮮明になります。

フロントウインドウの曇りを取る

▶ エアコンディショナーの設定を確認し、カメラのカバーを開きます。

フロントウインドウ内側の汚れを取る

▶ カメラのカバーを開いて、フロントウインドウを清掃します。

ナイトビューアシストプラスカメラの清掃については（▷385 ページ）をご覧ください。

ナイトビューアシストプラスのトラブル

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ナイトビューアシストプラスを作動させたときに画質が鮮明でない。	ワイパーに付着物がある。 ▶ ワイパーブレードを交換してください。
	洗車機で洗車した後など、フロントウインドウに付着物がある。 ▶ フロントウインドウを清掃してください。
	カメラ部分のフロントウインドウに損傷がある。 ▶ フロントウインドウを交換してください。
	フロントウインドウの内側が曇っている。 ▶ フロントウインドウ内側の曇りを取ってください。
	フロントウインドウが凍結している。 ▶ フロントウインドウを解凍してください。
	フロントウインドウの内側が汚れている。 ▶ フロントウインドウの内側を清掃してください。

アクティブブラインドスポットアシスト *

⚠ **警告**

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

重要な安全事項

アクティブブラインドスポットアシストは、レーダーセンサーシステムを使用して、車両後方約 3m までの側方の範囲をモニターします。ドアミラーの警告灯によって、モニターしている範囲で検知された車両に運転者の注意を喚起します。車線変更するために対応する方向指示灯を作動させると、衝突に対する警告灯および警告音による警告を行ないます。後側方の障害物との衝突の危険性が検知されると、修正のためのブレーキが衝突回避を補助します。進路修正ブレーキの適用を補助するために、アクティブブラインドスポットアシストは前方のレーダーセンサーシステムも使用します。アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以上の速度で運転者を補助します。

⚠ **警告**

アクティブブラインドスポットアシストは補助のみを行なうものであり、車両や障害物を正しく、またはまったく検知しないことがあります。

以下のときはシステムが影響を受けたり、機能しないことがあります。

- 雪や雨、霧や小雨などで視界が悪いとき
- リアやフロントのセンサーが汚れているとき

アクティブブラインドスポットアシストは、オートバイや自転車のような幅の狭い車両を検知しなかったり、非常に遅れて検知することがあります。至近距離で追い越して死角に入った車両を検知することはできません。

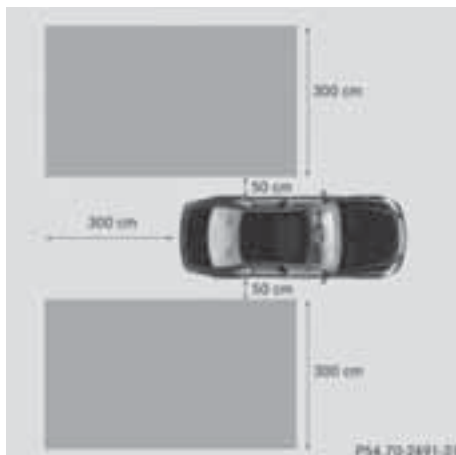
アクティブブラインドスポットアシストは道路や交通状況を検知できません。運転者の責任や注意を軽減させるものではありません。車両の速度やタイミングに合ったブレーキ操作、適切なステアリング操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲の状況に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

レーダーセンサーシステムは電波望遠鏡施設の周辺では自動的に停止します。

運転中にアクティブブラインドスポットアシストが運転者を補助するためには、レーダーセンサーシステムがオンになっていて、作動していなければなりません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

モニター範囲

アクティブブラインドスポットアシストは図に示すように、車両後方約 3m までの側方の範囲をモニターします。このために、アクティブブラインドスポットアシストはリアバンパーのレーダーセンサーを使用します。

> ⚠ **警告**
>
> アクティブブラインドスポットアシストは、車両近辺の特定の範囲をモニターします。高速で近づいて通り過ぎていく車両は検知されません。警告灯および警告音による警告は発せられず、進路を修正するためにシステムが車両にブレーキを効かせることはしません。
>
> 車線の幅が非常に広いときは、隣りの車線の幅すべてをモニターしないことがあります。このため隣りの車線の車両が特にずれた位置を走行している場合は、その車両が検知されないことがあります。これは、車両が自車からかなり離れた車線の外端部を走行している場合などです。
>
> 常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

車線が狭い場合、特に車両が車線の中央を走行していない場合は、自車の 2 車線隣りの車両を検知することがあります。これは、車線の自車寄りに車両がいる場合などです。

以下は、システムの特性に起因するものです。

- ガードレールや類似の連続している車線境界物の近くを走行しているときに、誤って警告が発せられることがあります。
- トラックのように特に長い車両の脇を長い間走行しているときに、警告が中断されることがあります。

2 つのアクティブブラインドスポットアシストのレーダーセンサーがそれぞれフロントとリアのバンパーに内蔵されています。ラジエーターグリルのカバーの裏にもレーダーセンサーがあります。センサーとその周辺に、汚れ、氷、または泥がないことを確認してください。リアセンサーが自転車用ラック、または突き出た荷物などによって覆われないようにしてください。強い衝撃を受けたり、バンパーに損傷を与えたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でレーダーセンサーの機能を点検してください。アクティブブラインドスポットアシストが正しく作動しないことがあります。

表示灯と警告表示

① 黄色表示灯 / 赤色警告灯

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているとき、ドアミラーの表示灯 ① は、約 30km/h 以下の速度では黄色に点灯します。約 30km/h 以上の速度では表示灯は消え、アクティブブラインドスポットアシストが作動可能になります。

ℹ レーダーセンサーシステムが自動的に停止したときは、ドアミラーの表示灯が黄色に点灯したままになります。

約 30km/h 以上の速度でアクティブブラインドスポットアシストのモニター範囲内に車両が検知されると、対応する側の警告灯 ① が赤色に点灯します。この警告は後方から、または側方から車両がブラインドスポットのモニター範囲に入ったときに常に行なわれます。遅い車両を追い越すときは、速度差が約 12km/h 以下の車両のみが警告の対象になります。

黄色の表示灯はリバースギアになると消灯します。アクティブブラインドスポットアシストは作動しなくなります。

表示灯 / 警告灯の明るさは周囲の明るさによって自動的に調整されます。

⚠ **警 告**

アクティブブラインドスポットアシストは約 30 km/h 以下の速度では作動しません。ドアミラーの表示灯は黄色に点灯します。モニター範囲にある車両の検知状況は表示されません。

常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

表示灯および警告音による衝突警告

側方のモニター範囲内で車両が検知され、対応する側の方向指示灯を作動させると、衝突警告が発せられます。警告音が聞こえ、赤色の警告灯 ① が点滅します。方向指示灯を作動させたままのときは、車両の検知は赤色の警告灯 ① の点滅により示されます。警告音はそれ以上鳴りません。

進路修正ブレーキの適用

アクティブブラインドスポットアシストがモニター範囲で側方衝突の危険性を検知すると、進路修正ブレーキの適用が行なわれます。これは、運転者の衝突回避を補助するために設計されています。

進路修正ブレーキの適用は、30km/h から 200km/h の範囲で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

進路修正ブレーキの適用が行なわれると、ドアミラーの赤色の警告灯 ① が点滅し、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。

表示例

⚠ 警 告

アクティブブラインドスポットアシストは、運転を補助するためだけに設計されています。運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。状況によっては、衝突を防ぐためにはシステムによる自動ブレーキでは不十分な場合があります。そのような場合は、運転者自身でステアリング操作、ブレーキ操作、またはアクセル操作を行なう必要があります。

ごくまれに、システムが誤って周辺にあるガードレール、または類似の車線境界物との衝突の危険を検知し、自動ブレーキを作動させることがあります。

アクティブブラインドスポットアシストは、すべての交通状況と車両などを検知するわけではありません。他の車両や障害物などとの側方距離が十分であることを常に確認してください。ステアリングを反対方向に軽く操作する、または加速すると、不適切なブレーキの適用を中断できます。

車両の速度、適切なステアリング操作およびタイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、進路修正ブレーキの適用は少しだけ行なわれるか、またはまったく行なわれません。

- 車両の両側に車両やガードレールなどの障害物があるとき
- 側方すぐのところに車両が接近しているとき
- 高い速度でカーブを曲がるスポーティな運転を行なっているとき
- 明確にブレーキ操作またはアクセル操作を行なっているとき
- ESP® または PRE-SAFE® ブレーキのような走行安全装備が介入しているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- タイヤ空気圧の低下やタイヤの不具合が検知されたとき

アクティブブラインドスポットアシストを設定する

▶ マルチファンクションディスプレイで、レーダーセンサーシステムが設定されていることを確認します(▷226 ページ)。

▶ アクティブブラインドスポットアシストを設定します(▷218 ページ)。

アクティブブラインドスポットアシストが設定されているときは、イグニッション位置をに **2** したときに、ドアミラーの警告灯 ① が約 1.5 秒間赤色に点灯し、黄色に変わります。

アクティブレーンキーピングアシスト *

重要な安全事項

アクティブレーンキーピングアシストは、フロントウインドウ上部のカメラにより車両前方の範囲をモニターします。アクティブレーンキーピングアシストは路面の車線マークを検知し、運転者が意図せずに車線を外れそうになったときに警告を行ないます。運転者が警告に反応しないときは、車線修正ブレーキの適用により、車両を元の車線内に戻そうとします。

① アクティブレーンキーピングアシストカメラ

アクティブレーンキーピングアシストは速度が約 60km/h 以上のときに作動します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ **警 告**

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。補助のみを行なうものであり、路面の車線マークを正確に検知できなかったり、まったく検知できないことがあります。

以下のときは、システムの作動に影響を与えたり、機能しないことがあります。

- ひとつの車線に複数のマークがあったり、マークがないとき
- 道路の照明が不十分だったり、雪や雨、霧や小雨のときなどで視界が悪いとき
- 対向車、太陽、他の車両の反射などで眩惑があるとき
- フロントウインドウが汚れていたり、曇っているとき、またはカメラ付近にステッカーなどが貼付されて覆われているとき
- 車線マークが摩耗していたり、黒ずんでいるとき、または汚れや雪などに覆われているとき
- 前方の車両との距離が短すぎて、車線マークを検知できないとき
- 工事の周辺などで、路面の車線マークが不鮮明なとき
- 車線の分流や交差、合流などで車線マークが急に変わるとき
- 道路が狭いときや曲がっているとき

アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知することはできません。安全運転の代わりになるものではありません。車両の速度、タイミングに合ったブレーキ、適切なステアリングの責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

ステアリングホイールの振動による警告

警告は、前輪が車線マークを越えたときに行なわれます。警告は、ステアリングホイールを断続的に最大 1.5 秒間振動させることにより行なわれます。

車線マークを越えたときに必要かつ適切なタイミングで警告を行なうため、システムは状況を認識し、以下のように警告を行ないます。

以下のときは、振動による警告が早めに行われます。

- カーブの外側の車線マークに接近したとき
- 高速道路などの車線が広い道路のとき
- システムが切れ目のない車線マークを認識しているとき

以下のときは、振動による警告が遅めに行なわれます。

- 道路が狭い車線のとき
- カーブの内側の車線マークを越えたとき

以下のときは警告は行なわれません。

- 明確に、かつ意図的にステアリング操作やブレーキ操作、加速操作をしたとき
- きついカーブで車線ラインを越えたとき
- ABS、BAS または ESP® などの走行安全装備が介入したとき
- 方向指示灯を点滅させたとき

  このときは、一定時間警告が停止することがあります。

車線修正ブレーキの適用

特定の状況下で車線を外れたとき、車両の片側に軽くブレーキが効きます。これは、車両を元の車線内に戻そうとするものです。

この機能は、60km/h ～ 200km/h の間で行なわれます。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

車線修正ブレーキの適用は、システムが認識できる車線マークを越えて走行した後にのみ行なわれます。これより前に、ステアリングホイールの断続的な振動による警告が必ず行なわれます。加えて、両側に車線マークがある車線であることが認識されていなければなりません。ブレーキの適用により、走行速度がわずかに下がります。

車線修正ブレーキの適用が行われたときは、マルチファンクションディスプレイに以下のイラストが表示されます。

ℹ 次の車線修正ブレーキの適用は、車両が元の車線に戻った後にのみ、行なわれます。

⚠ 警告

アクティブレーンキーピングアシストは、車両を車線内に維持させるものではありません。運転の補助を行なうためのみに設計されています。運転者の注意についての責任を軽減させるものではありません。修正ブレーキが常に、車両を元の車線に戻すために十分なものであるわけではありません。そのようなときは、車線から出ないために、運転者自身が車両のステアリング操作を行なわなければなりません。

アクティブレーンキーピングアシストは、そのときの交通状況や他の車両などは検知できません。自車と他の車両や障害物などとの間に、側面方向の十分な距離があることを常に確認してください。ごくまれに、破線のラインや道路表面にある特定の障害物が、システムに切れ目のない車線マークと検知されることがあります。切れ目のない車線マークを意図的に越えたいときなどは、反対方向に軽くステアリング操作を行なうことにより、不適切なブレーキ操作を中断させることができます。

アクティブレーンキーピングアシストは、天候状況は考慮しません。

車両の速度、適切なステアリング操作、タイミングに合ったブレーキ操作の責任は運転者にあります。常に、運転スタイルを実際の道路や天候状況に合わせてください。常に交通状況や周囲に注意してください。適切に危険を認識することができず、事故の原因になったり、運転者や他の人がけがをするおそれがあります。

以下のときは、車線修正ブレーキの適用は行なわれません。

- 明確、かつ意図的にステアリング操作、ブレーキ操作、または加速を行なったとき
- 急なカーブで車線ラインを越えたとき
- 方向指示灯を点滅させているとき
- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入しているとき
- 速い速度でカーブを走行したり、急加速を行なうなど、スポーティな走行をしているとき
- ESP® の機能が解除されているとき
- シフトポジションが D 以外のとき
- タイヤ空気圧が低下しているときや不具合のあるタイヤが検知されて表示されたとき

アクティブレーンキーピングアシストは、道路や交通状況を検知しません。不適切なブレーキの適用は、以下によりいつでも中断できます。

- 進行方向と反対方向に軽くステアリング操作を行なったとき
- 方向指示灯を点滅させたとき
- 明確なブレーキ操作または加速を行なったとき

以下のときは、車線修正ブレーキの適用が自動的に中断されます。

- ESP®、PRE-SAFE® ブレーキ、アクティブブラインドスポットアシストなどの走行安全装備が介入したとき
- 車線マークが認識されなくなったとき

アクティブレーンキーピングアシストの設定

▶ マルチファンクションディスプレイを使用して、アクティブレーンキーピングアシストを設定します(▷218 ページ)。

メーターパネルにマーク ① が表示されます。

60km/h 以上の速度で走行していて、車線マークが検知されたときは、マーク ① が緑色に表示されます。アクティブレーンキーピングアシストを使用できる準備が整っています。

エアコンディショナー

エアコンディショナーは、設定温度や外気温度、日射の強さなどに応じて、送風量や送風口の組み合わせなどを自動的に調整し、車内の温度や湿度などを快適な状態に保ちます。

環 境

- エアコンディショナーの冷媒には、新冷媒 R134a を使用しています。
- 地球環境を保護するため、フロンガスを大気放出することは法律で禁止されています。また、すべての自動車オーナーは、フロンガスが適切に処理されるよう努めなければなりません。
- エアコンディショナーの冷媒の補充、交換、廃棄などは、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

警 告

エアコンディショナーの設定は、以降の説明に従って正しく行なってください。ウインドウが曇ります。これにより交通状況を把握できず、事故の原因になります。

! ボンネットの吸気口が雪や氷で覆われないようにしてください。

! 送風口や車内の吸排気口が覆われないようにしてください。

i 外気温度が高いときは、エアコンディショナーを作動させる前に換気をしてください。リモコン操作で車外からドアウインドウとリアドアウインドウ、スライディングルーフ *、パノラミックスライディングルーフ * を開くことができます（▷171 ページ）。

i ドアウインドウやスライディングルーフ * が開いていると、設定温度を維持できません。

i 一度に大幅に設定温度を変更しても、設定温度に達するまでの時間はあまり変わりません。

i エアコンディショナーの機能やモードのなかには、併用可能な組み合わせがあります。

i エアコンディショナーのフィルター類は定期的な交換が必要です。また、交換時期は使用環境によって異なります。フィルター類が目づまりを起こしていると送風量が減ることがあります。

i エンジンスイッチからキーを抜いてから約 40 分経過すると、エアコンディショナーシステムの乾燥のため、約 30 分間自動的に送風が行なわれることがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

コントロールパネルでの操作

エアコンディショナーの基本的な操作は、センターコンソールのコントロールパネルで行ないます。

さらに詳細な設定は、COMAND システムで行ないます。

①	AUTO スイッチ（左側前席）
②	送風温度調整スイッチ（左側前席）
③	送風量調整スイッチ（左側前席）
④	デフロスタースイッチ
⑤	内気循環スイッチ
⑥	オフスイッチ
⑦	余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ
⑧	リアデフォッガースイッチ
⑨	送風量調整スイッチ（右側前席）
⑩	送風温度調整スイッチ（右側前席）
⑪	AUTO スイッチ（右側前席）

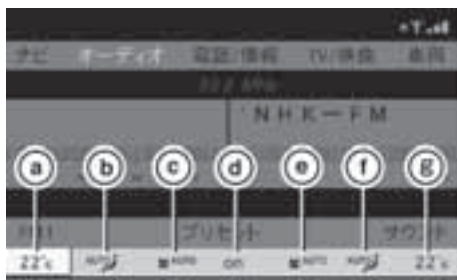
COMAND システムでの操作

COMAND システムでは以下の操作を行なうことができます。

- 送風温度の調整（▷284 ページ）
- 送風量の調整（▷286 ページ）
- 送風口の選択（▷287 ページ）
- AC モードの設定 / 解除（▷288 ページ）
- 運転席連動モードの設定 / 解除（▷294 ページ）
- 足元への送風温度の調整（▷294 ページ）
- 送風モードの設定（▷295 ページ）
- リアエアコンディショナーの操作 *（▷296 ページ）

* オプションや仕様により、異なる装備です。

COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリア

COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリアには、エアコンディショナーの作動状況が表示されています。

ⓐ	送風温度インジケーター（左側前席）
ⓑ	送風口インジケーター（左側前席）
ⓒ	送風量インジケーター（左側前席）
ⓓ	モードインジケーター
ⓔ	送風量インジケーター（右側前席）
ⓕ	送風口インジケーター（右側前席）
ⓖ	送風温度インジケーター（右側前席）

通常の使いかた（AUTO モード）

エアコンディショナーを作動させる

▶ AUTO スイッチ AUTO を上または下に操作します。

AUTO スイッチ AUTO の表示灯が点灯し、COMAND ディスプレイの送風口インジケーターⓑⓕと送風量インジケーターⓒⓔに "AUTO" と表示されます。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

または

▶ オフスイッチ OFF を上または下に操作するか、COMAND ディスプレイのエアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓの "off" を選択して ◎⬇、コントローラーを押します ◉。

エアコンディショナーが停止前の設定で作動します。

ℹ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量や送風口を手動で操作すると、操作した側の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯します。

送風温度の調整

運転席と助手席、後席または後席左側および右側で、それぞれ異なる温度を設定できます。

設定温度ゾーンのイメージ（リアエアコンディショナー装備車）

ⓘ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

ⓘ 冷却水温度が低いときは、設定した温度の送風が行なわれないことがあります。

ⓘ 送風温度の設定を高く、または低くしても、送風量が上がるとは限りません。

コントロールパネルでの操作

送風温度を上げる

▶ 送風温度調整スイッチ ▼▲ を上に操作します。

送風温度を下げる

▶ 送風温度調整スイッチ ▼▲ を下に操作します。

エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときは、設定温度に合わせて、送風口の組み合わせと送風量、送風温度が自動的に調整されます。

ⓘ AUTO モードのとき、送風温度調整スイッチ ▼▲ で低い温度に設定すると、状況によりモードインジケーターⓓに "MAX COOL on" と表示されることがあります。

COMAND システムでの操作

▶ エアコンディショナーエリアで、送風温度インジケーターⓐⓖを選択して ◎ ・ ←◎→、コントローラーを押します。

送風温度調整画面が表示されます。

▶ 送風温度を選択して ◎ ・ ↑◎↓、コントローラーを押します。

送風温度が設定されます。

ℹ 左側前席または右側前席の送風温度を LO または HI に設定すると、もう一方の席側も同様の内容に設定されます。

その後、設定した席側の送風温度を変更すると、もう一方の席側は元の送風温度に戻ります。もう一方の席側の送風温度を変更すると、設定した席側の送風温度が LO のときは 16℃に、HI のときは 28℃になります。

エアコンディショナーの停止

エアコンディショナーを停止する

▶ オフスイッチ OFF を上または下に操作します。

オフスイッチ OFF の表示灯が点灯し、COMAND ディスプレイのモードインジケーターⓓに "off" が表示されます。

再度、オフスイッチ OFF を上または下に操作すると、オフスイッチ OFF の表示灯が消灯し、停止前の設定で作動します。

ℹ ドアウインドウやスライディングルーフ * が閉じているときにエアコンディショナーを停止すると、ウインドウが曇りやすくなります。

送風量の調整

送風量を手動で調整できます。

コントロールパネルでの操作

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ を上に操作します。

COMAND ディスプレイの送風量インジケーターⓒⓔの数字が増えます。

送風量を下げる

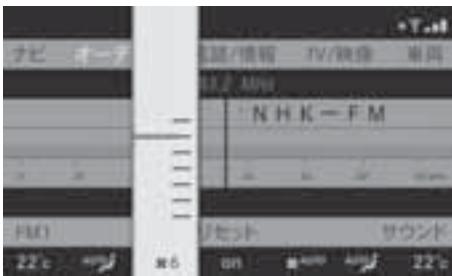
▶ 送風量調整スイッチ を下に操作します。

COMAND ディスプレイの送風量インジケーターⓒⓔの数字が減ります。

COMAND システムでの操作

▶ エアコンディショナーエリアで、送風量インジケーターⓒⓔを選択して ◎・←◎→、コントローラーを押します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

送風量調整画面が表示されます。

▶ 送風量を選択して ⟮◎⟯・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

送風量が設定されます。

ⓘ 左側前席または右側前席の送風量を 7 に設定すると、もう一方の席側も 7 に設定されます。その後、設定した席側のスイッチで送風量を変更すると、もう一方の席側は元の送風量に戻ります。もう一方の席側のスイッチで送風量を変更すると、設定した席側の送風量は 6 になります。

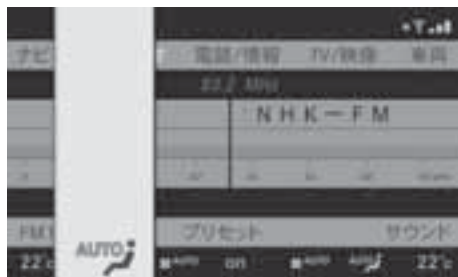
ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風量を手動で調整すると、調整した側の送風量の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチ AUTO の表示灯が消灯します。再度、AUTO モードにするときは、AUTO スイッチ AUTO を操作します。

送風口の選択

送風口を手動で選択できます。

送風口の選択は COMAND システムで行ないます。

送風口を選択する

▶ エアコンディショナーエリアで送風口インジケーターⓑⓕを選択して ⟮◎⟯・←◎→、コントローラーを押します ◎。

送風口選択画面が表示されます。

▶ 送風したい送風口の矢印を表示させて ◀◎▶、コントローラーを押します ◎。

選択した送風口に設定されます。

送風口インジケーター	主に送風される送風口
	フロントウインドウ送風口、サイド送風口、ドアウインドウ送風口
	フロントウインドウ送風口、サイド送風口、ドアウインドウ送風口、中央送風口、中央上部送風口
	中央送風口、中央上部送風口、サイド送風口
	中央送風口、中央上部送風口、サイド送風口、足元送風口
	足元送風口

ⓘ 送風口インジケーターに複数の矢印を表示させると、組み合わせた送風口から送風ができます。

ⓘ 送風口インジケーターの矢印の大きさは、各送風口から送風される割合を表しています。

ⓘ 選択した送風口以外の送風口からも、微量の送風が行なわれることがあります。

ⓘ エアコンディショナーが AUTO モードで作動しているときに、送風口を手動で選択すると、送風口の AUTO モードが解除され、AUTO スイッチの表示灯が消灯します。

再度、AUTO モードにするときは、AUTO スイッチを操作します。

AC モード

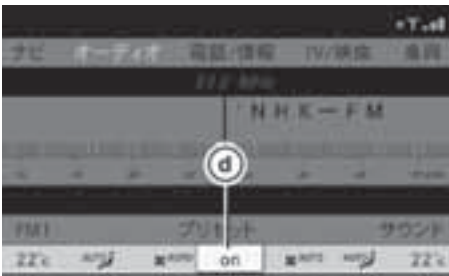
AC モードでは除湿 / 冷房された空気が送風されます。

AC モードの設定 / 解除は COMAND システムで行ないます。

> ⚠ **警 告**
>
> AC モードが解除されているときは、車内の空気が除湿または冷房されません。ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じているときに AC モードを解除すると、ウインドウの内側が曇りやすくなり、交通状況を把握できずに事故の原因になります。

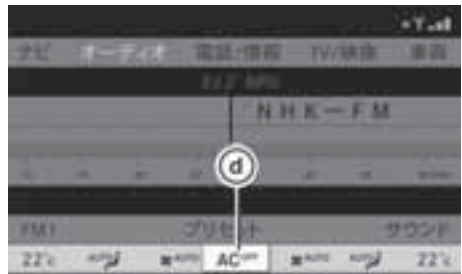
ⓘ 除湿 / 冷房された空気は、エンジンがかかっているときに送風されます。

> **環 境**
>
> AC モードを解除すると、エンジンへの負荷が軽減し、燃費が向上します。

AC モードを設定 / 解除する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで "AC OFF" を選択して 〔◎〕・↑◎、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

AC モードが解除されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

▶ コントローラーを左か右に操作します ←◎→。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ACモードが解除されているときは、モードインジケーターⓓに"AC OFF"と表示されます。

ACモードを解除しても、しばらくは除湿／冷房された空気が送風される場合があります。

ACモードのトラブル

COMANDシステムでACモードに設定できないときは、故障のためエアコンディショナーの機能が停止しています。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

デフロスターモード

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側の曇りを取るときに使用します。

フロントウインドウやフロントドアウインドウの内側が曇っているときは、曇りが取れるまでデフロスターモードを解除しないでください。

デフロスターモードに設定する

▶ デフロスタースイッチ [MAX] を上または下に操作します。

デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯が点灯し、COMANDディスプレイのモードインジケーターⓓに"[デフロスター]"が表示されます。

以下の内容でエアコンディショナーが作動します。

- 除湿／冷房された空気が送風されます。
- 外気温度によっては、送風量が上がります。
- 外気温度によっては、送風温度が高くなります。
- フロントウインドウ送風口とドアウインドウ送風口、サイド送風口を中心に送風されます。

サイド送風口が開いていることを確認してください（▷303ページ）。

- 内気循環モードに設定していたときは、内気循環モードが解除されます。

デフロスターモードを解除する

▶ 再度、デフロスタースイッチ [MAX] を上または下に操作します。

または

▶ COMANDディスプレイのエアコンディショナーエリアに表示されている"[デフロスター]"を選択して◎⬇、コントローラーを押します◎。

デフロスタースイッチ [MAX] の表示灯とモードインジケーターの"[デフロスター]"が消灯し、元の設定に戻ります。

ただし、デフロスターモードにする前に内気循環モードに設定していたときは内気循環モードが解除され、ACモードを解除していたときはACモードに設定されます。

曇りが取れたら、すみやかに解除してください。

ウインドウの外側が曇るとき

▶ ワイパーを作動させます。

▶ AUTO モードに設定します（▷284 ページ）。

ⓘ 上記の設定は、曇りが取れるまでの間にとどめてください。

リアデフォッガー

リアウインドウの曇りを取るときに使用します。

> ⚠ 警 告
>
> ウインドウに雪や氷が付着しているときは、運転前にそれらを取り除いて視界を確保してください。事故を起こすおそれがあります。

リアデフォッガーを使用する

▶ リアデフォッガースイッチ REAR を上または下に操作します。

リアデフォッガースイッチ REAR の表示灯が点灯します。

リアデフォッガーを停止する

▶ 再度、リアデフォッガースイッチ REAR を上または下に操作します。

リアデフォッガースイッチ REAR の表示灯が消灯します。

リアデフォッガーは、一定の時間が経過すると自動的に停止します。

! 消費電力が大きいため、曇りが取れたら早めに停止してください。

ⓘ 外気温度と走行速度により、リアデフォッガーが自動的に停止するまでの時間は異なります。

ⓘ バッテリーの電圧が低くなると自動的に停止します。電圧が回復すると自動的に作動を再開します。

リアデフォッガーのトラブル

リアデフォッガーが短時間で停止したり、使用することができないときは、多くの電気装備が使用されているために電圧が低下しています。

▶ 読書灯やルームランプなど、必要でない電気装備を停止してください。

バッテリーの電圧が回復すると、リアデフォッガーは自動的に作動します。

内気循環モード

トンネル内など、空気が汚れた場所で外気を車内に入れたくないときなどに使用します。

内気循環モードに切り替えると、車内の空気が循環されます。

内気循環モードの設定 / 解除に連動して、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を開閉できます。

> ⚠ 警 告
>
> 外気温度が低いときは、内気循環モードの設定は一時的にとどめてください。ウインドウが曇りやすくなり、視界が損なわれ、交通状況を把握することができずに事故の原因になります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

⚠ 警 告

ドアウインドウを開閉するときは、身体を挟まれないようにしてください。また、身体や物がドアウインドウに触れないようにしてください。ドアウインドウが作動しているときにドアウインドウに引き込まれたり、ドアウインドウとドアフレームの間に挟まれるおそれがあります。挟まれそうになったときは、ドアウインドウスイッチを反対の方向に操作してください。

スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を開閉するときは、スライディングルーフまたはパノラミックスライディングルーフ * に身体を挟まれないようにしてください。挟まれそうになったときは、スライディングルーフスイッチまたはパノラミックスライディングルーフスイッチを反対の方向に操作してください。

内気循環モードに設定する

▶ 外気導入モードのときに、内気循環スイッチ [内気循環] を上または下に操作します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯します。

または

▶ 外気導入モードのときに、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が閉じはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を上または下に操作して保持します。

開いているドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が自動で閉じます。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が点灯し、内気循環モードに設定されます。

内気循環モードに設定されていても、一定時間が経過すると以下のように自動的に外気導入をはじめます。

外気温度が 5℃以下のとき	約 5 分後
AC モードを解除しているとき	約 5 分後
外気温度が 5℃以上のとき	約 30 分後

内気循環モードを解除する（外気導入モードにする）

▶ 内気循環モードのときに、内気循環スイッチ [内気循環] を上または下に操作します。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯します。

または

▶ 内気循環モードのときに、ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が開きはじめるまで、内気循環スイッチ [内気循環] を上または下に操作して保持します。

ドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * が前回開いていた位置まで自動で開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

内気循環スイッチ [内気循環] の表示灯が消灯し、内気循環モードが解除されます。

ℹ 内気循環モードのときに、AC モードを解除するかデフロスターモードにすると、外気導入モードになります。

ℹ 内気循環スイッチで閉じたドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を別のスイッチで開いた場合、開いたドアウインドウやスライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * を内気循環モードの解除操作と連動して、前回開いていた位置まで開くことはできません。

ℹ 外気温度が非常に高いときは、自動的に内気循環モードに切り替わることがありますが、このとき内気循環スイッチの表示灯は点灯しません。約 30 分経過すると、一定の割合で外気導入をはじめます。

余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジンを停止した後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST を上または下に操作します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST の表示灯が点灯します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST を上または下に操作します。

余熱ヒーター・ベンチレーションスイッチ REST の表示灯が消灯します。

以下のときは、余熱ヒーター・ベンチレーションが自動的に停止します。

- イグニッション位置を **2** にしたとき
- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ℹ 冷却水温度が低いときや、外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ℹ エンジン停止前の設定温度により、暖気が送風される時間は異なります。

車両の操作

* オプションや仕様により、異なる装備です。

運転席連動モード

助手席および後席 * のエアコンディショナーの設定を運転席と同じ設定にできます。

運転席の設定を変更すると、助手席および後席の設定も同時に変更されます。

運転席連動モードの設定は COMAND システムで行ないます。

運転席連動モードを設定 / 解除する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで " 運転席連動 " を選択して ◎ ・ ◎、コントローラーを押します ◎。

コントローラーを押すたびに、左側のボックスのチェックマークが表示 / 消去されます。

運転席連動モードが設定されているときは、左側のボックスにチェックマークが表示されます。

ⓘ 助手席や後席の設定を変更したときは、運転席連動モードは自動的に解除されます。

ⓘ 運転席連動モードが設定されているときは、リアエアコンディショナーのコントロールパネルに "MONO" が表示されます。

足元への送風温度の調整

足元への送風温度を独立して調整できます。

足元暖房の調整は COMAND システムで行ないます。

ⓘ 設定温度や送風温度レベルにより、冷風が送風されることもあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

足元への送風温度を調整する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ⊙。

▶ サブメニューで " 足元暖房 " を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

▶ 送風温度レベルを選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ⊙。

車内の設定温度を基準にして、－ 2 ～＋ 2 まで設定できます。

足元暖房が設定されます。

送風モードの設定

エアコンディショナーを AUTO モードで作動させたときの送風のしかたを以下のように設定できます。

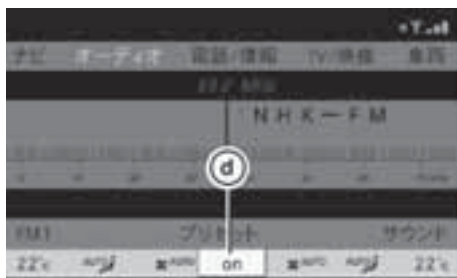
" 集中 "
主に送風されている送風口からの送風がさらに強調されます。

" 標準 "
標準の設定です。

" 拡散 "
主に送風されている送風口以外の送風口からの送風の割合を高めます。

送風モードの設定は COMAND システムで行ないます。

ⓘ 車内が非常に高温になっているときは、選択した送風モードが一時的に解除されることがあります。

送風モードを設定する

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで " 送風調整 " を選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

現在選択されている送風モードの左側には " • " が表示されています。

▶ 送風モードを選択して〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

送風モードが設定されます。

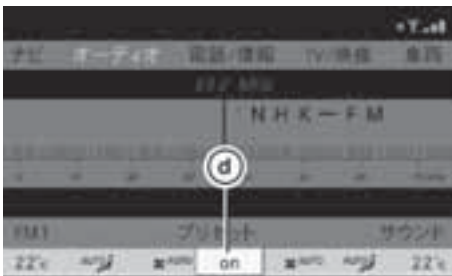
COMAND システムでのリアエアコンディショナーの操作 *

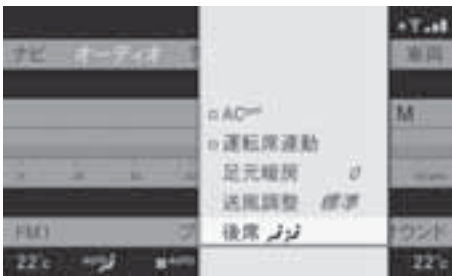
COMAND システムでリアエアコンディショナーの以下の操作を行なうことができます。

- 作動 / 停止
- AUTO モードでの作動
- AUTO モードの解除
- 送風温度の調整
- 送風量の調整
- 送風口の選択

ℹ リアエアコンディショナーの左右の送風量は独立して調整できません。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアエアコンディショナーを操作できる状態にする

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して ◎ ・ ←◎→、コントローラーを押します ◎。

サブメニューが表示されます。

▶ "後席 "を選択して ◎ ・ ◎↓、コントローラーを押します ◎。

リアエアコンディショナーが作動しているときはモードインジケーターに "後席" と表示されます。

リアエアコンディショナーが停止しているときは、"後席 OFF" と表示されます。

ⓘ COMAND システムでリアエアコンディショナーを操作しているときは、リアセンターコンソールのコントロールパネルのディスプレイ右上に "" が表示されます。

このときは、リアセンターコンソールのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作できません。

ⓘ リアエアコンディショナーの以下の操作は、フロントエアコンディショナーの操作と同様です。リアエアコンディショナーを操作できる状態にして各操作を行なってください。

操作方法は該当ページをご覧ください。

- 送風温度の調整（▷284 ページ）
- 送風量の調整（▷286 ページ）
- 送風口の選択（▷287 ページ）

COMAND システムでリアエアコンディショナーを作動させる

▶ エアコンディショナーエリアでモードインジケーターⓓを選択して◎↓、コントローラーを押します ◎。

サブメニューが表示されます。

▶ " 後席 ON" を選択して 〔◎〕・◎↓、コントローラーを押します ◎。

モードインジケーターに " 後席 " と表示され、リアエアコンディショナーが作動します。

ℹ " 前席 " を選択すると、標準画面に戻ります。

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ エアコンディショナーエリアでリアモードインジケーターⓓを選択して〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

サブメニューが表示されます。

リアエアコンディショナーの AUTO モードが解除されているときは、" 後席 AUTO 解除 " の左側に " • " が表示されています。

▶ " 後席 AUTO" を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

AUTO モードを解除するときは、" 後席 AUTO 解除 " を選択して 〔◎〕・◎↓、コントローラーを押します ◎。

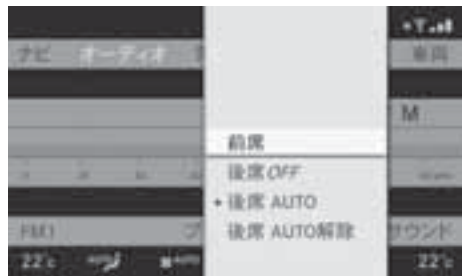
ℹ リアエアコンディショナーの送風量や送風口を手動で操作すると、AUTO モードは自動的に解除されます。

リアエアコンディショナーを停止する

▶ エアコンディショナーエリアでリアモードインジケーターⓓを選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで "後席 OFF" を選択して 〔◎〕・↑◎↓、コントローラーを押します ◎。

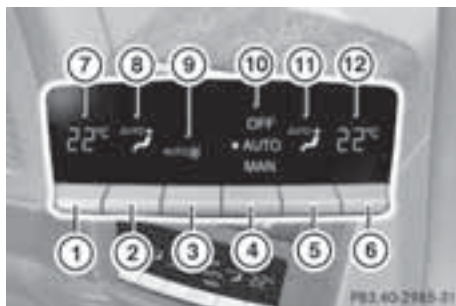
フロントエアコンディショナーを操作できる状態にする

▶ エアコンディショナーエリアでリアモードインジケーターⓓを選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

▶ サブメニューで " 前席 " を選択して 〔◎〕・↑◎、コントローラーを押します ◎。

エアコンディショナーエリアが切り替わり、フロントのエアコンディショナーが操作できる状態になります。

リアエアコンディショナー *

リアエアコンディショナーのコントロールパネルは、リアセンターコンソールにあります。

COMAND システムやフロントのコントロールパネルでリアエアコンディショナーを操作できる状態（▷296 ページ）のときは、リアセンターコンソールのコントロールパネルではリアエアコンディショナーを操作できません。このときは、コントロールパネルのディスプレイ右上に "" が表示されます。

リアセンターコンソールのコントロールパネル
① 送風温度調整スイッチ（左側）
② 送風口選択スイッチ（左側）
③ 送風量調整スイッチ
④ モード切替スイッチ
⑤ 送風口選択スイッチ（右側）
⑥ 送風温度調整スイッチ（右側）
⑦ 送風温度インジケーター（左側）
⑧ 送風口インジケーター（左側）
⑨ 送風量インジケーター
⑩ モードインジケーター
⑪ 送風口インジケーター（右側）
⑫ 送風温度インジケーター（右側）

リアエアコンディショナーを AUTO モードで作動させる

▶ モード切替スイッチ ④ を上または下に操作して、モードインジケーター ⑩ の "AUTO" の左側に " • " を表示させます。

ℹ リアエアコンディショナーが停止しているときに、①②③⑤⑥ のいずれかのスイッチを操作すると、リアエアコンディショナーが AUTO モードで作動します。

リアエアコンディショナーを停止するときは、モード切替スイッチ ④ を上に操作して、モードインジケーター ⑩ の "OFF" の左側に " • " を表示させます。

リアエアコンディショナーの AUTO モードを解除する

▶ モード切替スイッチ ④ を下に操作して、モードインジケーター ⑩ の "MAN" の左側に " • " を表示させます。

リアエアコンディショナーの送風温度を調整する

▶ 送風温度調整スイッチ ①⑥ を上または下に操作します。

ℹ 通常は 22℃に設定することをお勧めします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ 左側または右側の送風温度を LO または HI に設定すると、もう一方の席の設定も同様の内容に設定されます。

その後、設定した席側のスイッチで送風温度を変更すると、もう一方の席側は元の送風温度に戻ります。もう一方の席側のスイッチで送風温度を変更すると、設定した席の送風温度が LO のときは 16℃に、HI のときは 28℃になります。

リアエアコンディショナーの送風量を調整する

リアエアコンディショナーの送風量を手動で調整できます。

送風量を上げる

▶ 送風量調整スイッチ ③ を上に操作します。

送風量インジケーター ⑨ の点灯数が増えます。

送風量を下げる

▶ 送風量調整スイッチ ③ を下に操作します。

送風量インジケーター ⑨ の点灯数が減ります。

送風量を手動で調整すると、モードインジケーター ⑩ の "MAN" の左側に " • " が表示されます。

ℹ 左右の送風量は独立して調整できません。

リアエアコンディショナーの送風口を選択する

リアエアコンディショナーの送風口（▷304、305 ページ）を手動で選択できます。

▶ 送風口選択スイッチ ②⑤ を上または下に操作し、送風口インジケーター ⑧⑪ に送風したい送風口の矢印を表示させせます。

送風口インジケーター	主に送風される送風口
	リア中央送風口 リアサイド送風口
	リア中央送風口 リアサイド送風口 リア足元送風口
	リア足元送風口 リアサイド送風口

送風口を手動で選択すると、モードインジケーター ⑩ の "MAN" の左側に " • " が表示されます。

リア余熱ヒーター・ベンチレーション

エンジンを停止した後に車内を暖房したり、車内に外気を導入して換気を行なうときに使用します。

イグニッション位置が **0** か **1** のとき、またはキーを抜いているときに使用できます。

リア余熱ヒーター・ベンチレーションを使用する

▶ 送風口選択スイッチ ⑤ を上または下に操作します。

モードインジケーター ⑩ に "AUTO" が表示され、余熱ヒーター・ベンチレーションが作動します。

エンジンを停止する前の設定温度や外気温度により、送風口や送風温度は自動的に調整されます。

リア余熱ヒーター・ベンチレーションを停止する

▶ 再度、送風口選択スイッチ ⑤ を上または下に操作します。

ディスプレイの表示が消え、余熱ヒーター・ベンチレーションが停止します。

余熱ヒーター・ベンチレーションはイグニッション位置を **2** にしたときに自動的に停止します。

また、以下のときも自動的に停止することがあります。

- 使用を開始してから約 30 分経過したとき
- バッテリーの電圧が低下したとき

ℹ 冷却水温度が低いときや、外気温度が高いときは、暖気が送風されないことがあります。

ℹ 少ない送風量で一定に保たれます。

ℹ 外気温度が高いときは換気のみが行なわれます。このときは、中程度の送風量になります。

ℹ エンジン停止前の設定温度により、暖気が送風される時間は異なります。

送風口の調整

⚠ **警 告**

送風温度を高めに設定してあるときは、送風口が過熱して高温になることがあり、火傷をするおそれがあります。また、暖気が送風されているときは、送風口に身体を近付けたままにしていると低温火傷のおそれがあります。十分に注意してください。

送風温度を低めに設定してあるときに送風口に身体を近付けると、しもやけなどを起こすおそれがありますので十分に注意してください。

皮膚の弱い人は、送風口に身体を近付けすぎないように注意してください。

車外の空気を車内に取り入れるために、以下の点に注意してください。

- ボンネット上部の吸気口が、氷や雪、葉などで覆われていないこと
- 車内の送風口や吸排気口が覆われていないこと

ℹ 送風効率を上げるため、各送風口の向きが中央になるように調整してください。

中央送風口 / 中央上部送風口

① 中央上部送風口
② 中央送風口（右側）
③ 送風口開閉ダイヤル（右側）
④ 送風口開閉ダイヤル（左側）
⑤ 中央送風口（左側）

中央送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

中央送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③④ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

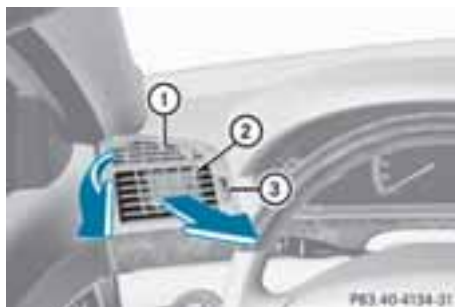
送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

ℹ 中央送風口と中央上部送風口の開閉ダイヤルは共通です。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

中央送風口の風向きを調整する

▶ 中央送風口 ② または ⑤ のノブを上下左右に動かします。

サイド送風口

左側サイド送風口
① ドアウインドウ送風口
② サイド送風口
③ 送風口開閉ダイヤル

サイド送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を上側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

サイド送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③ を下側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわすと、送風口が閉じます。

サイド送風口の風向きを調整する

▶ サイド送風口 ② のノブを上下左右に動かします。

ℹ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで下側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ℹ サイド送風口 ② を閉じても、ドアウインドウ送風口 ① を完全に閉じることはできません。

グローブボックス送風口

左ハンドル車

グローブボックス内に送風することができます。

グローブボックス送風口を開く

▶ 開閉ダイヤル ① をまわして、送風口を 2 の位置にします。

グローブボックス送風口を閉じる

▶ 開閉ダイヤル ① をまわして、送風口を 3 の位置にします。

ⓘ 送風量はエアコンディショナーの設定に連動します。

ⓘ グローブボックス内には、外気または冷気が送風されます。

! エアコンディショナーの設定温度を上げるときは、グローブボックス内の送風口を閉じてください。

! 外気温度が高いときは、グローブボックス内の送風口を開き、エアコンディショナーの AC モードを設定してください。収納物を損傷したり、ガスライターやボンベなどが入っている場合は爆発するおそれがあります。

リア中央送風口

リアエアコンディショナー装備車
① リア中央送風口（左側）
② リア中央送風口（右側）
③ 送風口開閉ダイヤル（右側）
④ リアエアコンディショナーコントロールパネル
⑤ 送風口開閉ダイヤル（左側）

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ③⑤ を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ③⑤ を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

風向きを調整する

▶ リア中央送風口のノブを上下左右に動かします。

リアサイド送風口

① リアサイド送風口
② 送風口開閉ダイヤル

送風口を開く

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を右側にまわします。

徐々に送風口が開き、送風量が上がります。

送風口を閉じる

▶ 送風口開閉ダイヤル ② を左側にまわします。

徐々に送風口が閉じ、送風量が下がります。

送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわすと、送風口が閉じます。

風向きを調整する

▶ リアサイド送風口のノブを上下左右に動かします。

ⓘ フロントシートの下にリア足元送風口があります。

ⓘ 送風口開閉ダイヤルを停止するまで左側にまわしても、送風口を完全に閉じることはできません。

ⓘ リアエアコンディショナー非装備車のリア送風口からの送風量は、対応する前席左右のエアコンディショナーの設定に連動します。

ⓘ リアエアコンディショナー非装備車は、フロントの送風口から暖気を送風しているときも、リア中央送風口からは暖気が送風されないことがあります。このときは、必要に応じてリア中央送風口を閉じてください。

スライディングルーフ *

⚠ 警告

スライディングルーフを開閉するときは、身体や物が挟まれないように注意してください。挟まれそうになったときは、ただちにスライディングルーフスイッチを操作して、スライディングルーフを開いてください。

⚠ 警告

子供が車内からスライディングルーフを開閉すると、けがをするおそれがあります。子供だけを残して車から離れないでください。短時間でも、車から離れるときは、キーを携帯してください。

⚠ 警告

スライディングルーフのガラスは事故のときに割れるおそれがあります。シートベルトを着用していないと、車が横転したときにスライディングルーフの開口部から車外に投げ出されて、致命的なけがをするおそれがあります。乗員全員がシートベルトを着用してください。

! 走行中はスライディングルーフから身体を出さないでください。けがをするおそれがあります。

! スライディングルーフの開口部に腰をかけたり、荷物を載せたりして大きな力を加えないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

! 車から離れるときや洗車のときは、ドアウインドウとスライディングルーフが完全に閉じていることを確認してください。

! スライディングルーフの開口部から、角の尖ったものを出し入れしないでください。スライディングルーフのシール部を損傷するおそれがあります。

! 降雨後や降雪後にスライディングルーフを開くときは、ルーフ上の水や雪などを取り除いてください。車内に水や雪などが入るおそれがあります。

! スライディングルーフ上に雪や氷が付着した状態で操作しないでください。スライディングルーフを損傷するおそれがあります。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作で開くことができます（▷171 ページ）。

i スライディングルーフは、車外からリモコン操作またはキーレスゴー操作で閉じることができます（▷172 ページ）。

i スライディングルーフが自動的に作動しているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ PRE-SAFE®（▷46 ページ）が作動すると、スライディングルーフはわずかに開いた状態まで自動的に閉じます。

ⓘ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、スライディングルーフを操作できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、スライディングルーフの操作はできなくなります。

ⓘ スライディングルーフを開いて走行しているとき、走行風の影響などで空気の振動を感じる場合は、スライディングルーフの開度を変えるかドアウインドウを少し開くと、解消することがあります。

ⓘ エアコンディショナーの内気循環スイッチ（▷291 ページ）の操作に連動して、スライディングルーフを開閉できます。

ガラス・スライディングルーフ *

スライディングルーフを開閉する

① チルトアップする
② 開く
③ 閉じる / チルトダウンする

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

スライディングルーフを開く

▶ スライディングルーフスイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

サンシェードが閉じている場合は連動して開きます。

② の方向にいっぱいまで操作すると、前回開いていた位置まで自動で開きます。

さらに ② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

スライディングルーフを閉じる

▶ スライディングルーフスイッチを ③ の方向に軽く操作します。

操作している間だけ閉じます。

③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

スライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

スライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スライディングルーフスイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

① の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

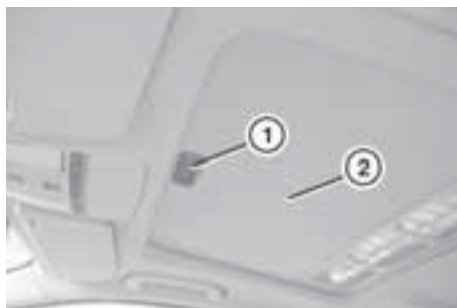
* オプションや仕様により、異なる装備です。

チルトダウンする

▶ スライディングルーフスイッチを③の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

③の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

サンシェード

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

サンシェードは、スライディングルーフが閉じているか、チルトアップしているときに開閉できます。

サンシェードを開閉する

▶ グリップ①を持って開閉します。

スライディングルーフを開くと、連動して開きます。

! スライディングルーフが開いているときに、サンシェード②とルーフ内張りとの間に身体が挟まれないように注意してください。

レインクローズ機能

スライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高いとき、または低いとき
- 約 6 時間経過したとき
- 電力供給に異常が発生したとき

i レインクローズ機能でスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知したときは、挟み込み防止機能が作動し、スライディングルーフが停止し、その位置から少し開いた状態になります。また、レインクローズ機能が解除されます。

i 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- スライディングルーフをチルトアップしているとき
- スライディングルーフの作動が妨げられたとき
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

挟み込み防止機能

スライディングルーフには挟み込み防止機能があります。

> ⚠ 警告
>
> 強い力でスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

スイッチを操作し続けてスライディングルーフを閉じるかチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、ただちに停止し、その位置から少し開きます。

ただし、挟み込み防止機能が作動した後に再度操作して、挟み込みなどの抵抗を検知したときは、より強い力で閉じます。

さらに、この状態で再度操作して挟み込みなどの抵抗を検知したときは、挟み込み防止機能は作動しません。

自動でスライディングルーフを閉じたりチルトダウンしているとき

挟み込みなどの抵抗があると、スライディングルーフはただちに停止して、その位置から少し開きます。

スライディングルーフのリセット

スライディングルーフがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、スライディングルーフのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ スイッチを ① の方向（▷307 ページ）に軽く操作して、スライディングルーフを完全にチルトアップし、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ スライディングルーフが自動で開閉することを確認します。

自動で開閉しないときは、再度リセット作業を行ないます。

! スライディングルーフをリセットしても、自動で開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

パノラミックスライディングルーフ *

パノラミックスライディングルーフを開閉する

① チルトアップする
② 開く
③ 閉じる

* オプションや仕様により、異なる装備です。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに開閉できます。

開く

▶ フロントサンシェードが全開しているときに、パノラミックスライディングルーフスイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で開きます。

閉じる

▶ パノラミックスライディングルーフスイッチを ③ の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動で閉じます。

パノラミックスライディングルーフをチルトアップ / チルトダウンする

パノラミックスライディングルーフは、後部をチルトアップすることができます。

チルトアップする

▶ スイッチを ① の方向に軽く操作します。

操作している間だけチルトアップします。

① の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトアップします。

チルトダウンする

▶ スイッチを ③ の方向に操作します。

操作している間だけチルトダウンします。

③ の方向にいっぱいまで操作すると、自動でチルトダウンします。

! パノラミックスライディングルーフを閉じているときに身体などが挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。また、スイッチを操作してパノラミックスライディングルーフを開いてください。

i フロントサンシェードが閉じているときにパノラミックスライディングルーフのチルトアップ操作をすると、最初にフロントサンシェードが開き、次にパノラミックスライディングルーフがチルトアップします。

レインクローズ機能

パノラミックスライディングルーフを開いた状態で、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いたときは、以下のときにパノラミックスライディングルーフが自動で閉じ、チルトアップした状態で停止します。

- 降雨などによりレインセンサーが雨滴を感知したとき
- 外気温度が極端に高いとき、または低いとき
- 約 6 時間経過したとき
- 電力供給に異常が発生したとき

ℹ 以下のときは、レインクローズ機能は作動しません。

- パノラミックスライディングルーフをチルトアップしているとき
- レインクローズ機能でパノラミックスライディングルーフが閉じているときに挟み込みなどの抵抗を感知したとき

  このときは、挟み込み防止機能が作動し、パノラミックスライディングルーフが停止し、その位置から少し開いた状態になります。また、レインクローズ機能が解除されます。
- レインセンサーに雨滴がかからないとき

電動サンシェード *

電動サンシェードにはフロントサンシェードとリアサンシェードがあり、それぞれ独立して開閉できます。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

⚠ **警 告**

電動サンシェードを閉じるときは、身体や物が挟まれないように注意してください。

挟まれそうになったときは、ただちにスイッチから手を放してください。さらに、スイッチを操作して、電動サンシェードを開いてください。

! 電動サンシェードを開いているときに、サンシェードとルーフ内張りとの間に身体や物が引き込まれないように注意してください。

ℹ イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いてから約 5 分間は、電動サンシェードを操作できます。約 5 分以内にフロントドアを開くと、電動サンシェードの操作はできなくなります。

フロントサンシェード

① サンシェードを開く
② サンシェードを開く
③ サンシェードを閉じる

フロントサンシェードは、パノラミックスライディングルーフが閉じているときに開閉できます。

フロントサンシェードを開く

▶ フロントサンシェードスイッチを ② の方向に軽く操作します。

操作している間だけ開きます。

② の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

または

▶ フロントサンシェードスイッチを①の方向に軽く操作します。

操作している間開き、全開した後に、パノラミックスライディングルーフがチルトアップします。

①の方向にいっぱいまで操作すると、自動で全開し、パノラミックスライディングルーフがチルトアップします。

ⓘ フロントサンシェードが自動で開いているときやパノラミックスライディングルーフが自動でチルトアップしているときに、スイッチを操作すると、その位置で停止します。

フロントサンシェードを閉じる

▶ フロントサンシェードスイッチを③の方向に操作します。

操作している間だけ閉じます。

リアサンシェード

リアサンシェードは、前席上方のスイッチ、またはリアドアのスイッチで開閉できます。

リアサンシェードを前席上方のスイッチで開閉する

前席上方のスイッチ

▶ リアサンシェードスイッチ①を押します。

リアサンシェードが自動で開閉します。

リアサンシェードをリアドアのスイッチで開く

左リアドアのスイッチ

▶ リアサンシェードスイッチ①を軽く押します。押している間だけ開きます。

スイッチをいっぱいまで押すと、自動で開きます。

リアサンシェードをリアドアのスイッチで閉じる

▶ リアサンシェードスイッチ ① を軽く引きます。引いている間だけ閉じます。

スイッチをいっぱいまで引くと、自動で閉じます。

ⓘ リアサンシェードが自動で開閉しているときに、前席または後席のリアサンシェードスイッチを操作すると、リアサンシェードはその位置で停止します。

ⓘ セーフティスイッチ（▷57 ページ）が設定されているときは、リアドアのスイッチでリアサンシェードを開閉することはできません。

フロントサンシェード / パノラミックスライディングルーフのリセット

パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードがスムーズに作動しないときや、自動で開閉しないときは、パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードのリセットを行なってください。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ スイッチを ③ の方向（▷311 ページ）に操作し続けてパノラミックスライディングルーフを全閉し、そのまま約 2 秒以上保持します。

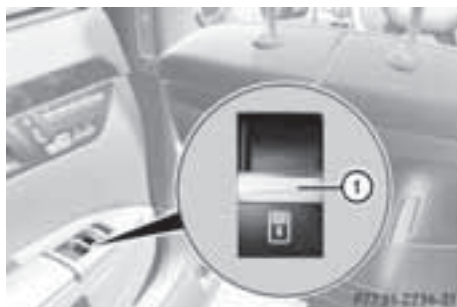
▶ 再度、スイッチを ③ の方向に操作し続けてフロントサンシェードを全閉し、そのまま約 1 秒以上保持します。

▶ パノラミックスライディングルーフおよびフロントサンシェードが自動で開閉することを確認します。

▶ 自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行ないます。

! パノラミックスライディングルーフや電動サンシェードをリセットしても、自動で開閉しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

リアサンシェードのリセット

リアサンシェードが自動で開閉しないときは、リアドアのスイッチでリアサンシェードのリセット作業を行なってください。

左リアドアのスイッチ

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ リアサンシェードスイッチ ① を引き続けてリアリアサンシェードを全閉し、そのまま約 2 秒以上保持します。

▶ リアサンシェードが自動で開閉することを確認します。

▶ 自動で開閉しないときは、再度リセット操作を行ないます。

スライディングルーフのトラブル

下記の内容は、スライディングルーフおよびパノラミックスライディングルーフに該当します。

スライディングルーフを閉じることができず、原因がわからないとき

警 告

強い力でスライディングルーフを閉じるときや、挟み込み防止機能が作動しない状態でスライディングルーフを閉じるときは十分注意してください。閉じているスライディングルーフに身体が挟まれると、致命的なけがをするおそれがあります。

閉じているスライディングルーフが停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ スライディングルーフが停止したらただちに、スライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

強い力でスライディングルーフが閉じます。

閉じているスライディングルーフが再度停止して、少し開くときは、以下のようにしてください。

▶ スライディングルーフが停止したらただちに、スライディングルーフが閉じるまでスイッチを ③ の方向に軽く操作し続けてください。

挟み込み防止機能が作動しない状態で、スライディングルーフが閉じます。

荷物の積み方 / 小物入れ

荷物を積むときの注意点

警 告

荷物を積むときは、以降に記載されている注意点を守り、確実に固定してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに前方に投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

荷物を積むときは、「荷物の固定」(▷320 ページ)もご覧ください。

また、荷物を積むときの注意点を守ったとしても、荷物を積むことにより、事故のときなどに乗員がけがをする可能性は高まります。

警 告

エンジンをかけた状態でトランクを開いたままにしないでください。排気ガスが車内に入り、意識不明になったり、中毒死するおそれがあります。

荷物を積むときは、以下の点に注意してください。

- 荷物の重量が、制限重量(▷472 ページ)を超えないようにしてください。
- 荷物はできるだけトランクに積んでください。
- 重量が偏らないよう均等に積んでください。

- 重い物は車の中心近く（トランクの前方）の低い位置に積み、確実に固定してください。確実に固定できていないと、急ブレーキ時などに荷物が動き、トランクの内部を損傷するおそれがあります。
- 燃料を入れた容器やスプレー缶などを積まないでください。引火や爆発のおそれがあります。
- 荷物を車内に積むときは、シートのバックレストより高く積み上げないでください。
- トランクに荷物を積むときは、トランクの前端に接するようにしてください。
- なるべく乗員のいない席の後方に荷物を積んでください。
- 強度の十分な荷物固定用ストラップなどを使用して、荷物を確実に固定してください。
- 鋭い角のある荷物は、角の部分にカバーをしてください。
- ウインドウに荷物が当たらないようにしてください。ウインドウガラスを損傷したり、リアデフォッガーの熱線やアンテナなどを損傷するおそれがあります。

ⓘ 荷物固定用のアクセサリーは Daimler AG の推奨品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

小物入れ

⚠ **警 告**

荷物が収納されているときは、小物入れを必ず閉じてください。また、収納ネットは重い荷物を固定するためには設計されていません。

以下のときに荷物が投げ出されて乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故のとき

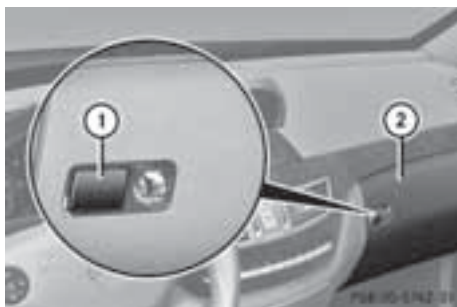
収納ネットには、鋭利な角のある物やこわれやすい物を入れて運搬しないでください。

収納ポケットには、かたい物を入れて運搬しないでください。また収納ポケットの上部から、物がはみ出ないようにしてください。

! 小物入れには貴重品を保管しないでください。

! 小物入れには食料品を収納しないでください。

! 小物入れが閉じなくなるような大きな物を小物入れに収納しないでください。小物入れや収納物を損傷するおそれがあります。

グローブボックス

左ハンドル車

グローブボックスを開く

▶ ボタン ① を押します。

グローブボックスを閉じる

▶ カバー ② を押してロックします。

左ハンドル車

キーシリンダーにエマージェンシーキーを差し込んでグローブボックスを施錠 / 解錠できます。

グローブボックスを施錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで、施錠位置 2 にまわします。

確実に施錠されていることを確認します。

グローブボックスを解錠する

▶ エマージェンシーキーを差し込んで解錠位置 1 にまわします。

ⓘ グローブボックス内部に ETC 車載器を装備しています。詳しくは、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

ⓘ 駐車場などでキーを預ける場合に、グローブボックスを開けられたくないときは、グローブボックスを施錠してください。その際は、エマージェンシーキーをキー本体から取り外し、携帯してください。

ⓘ グローブボックス内に送風することができます。

サングラスケース

サングラスケースのカバーを開く

▶ マーク ① を押します。

カバーが開きます。

! 走行中はカバーを閉じてください

前席アームレストの小物入れ

前席アームレストの小物入れのカバーを開く

▶ ボタン ① を押して、カバーを右または左の方向に開きます。

ℹ 仕様により、小物入れ内部には、可倒式の仕切り板があります。

携帯電話の接続

前席アームレストの小物入れには携帯電話用のコネクターが装備されています。

コネクターに携帯電話を接続すると、電話の発信 / 受信などができます。

電話の操作については、別冊「COMAND システム取扱説明書」をご覧ください。

! 携帯電話をコネクターに無理に取り付けないでください。携帯電話やコネクターを損傷するおそれがあります。

ドアの小物入れ

ドアの小物入れのカバーを開く

▶ カバー ① を上方に開きます。

⚠ **警 告**

ドアの小物入れのカバーは閉じておいてください。シートベルトが挟まれて、シートベルトの位置がずれるおそれがあります。

コートフック

! コートフックには軽い衣類のみをかけてください。コートフックには約 3kg 以上のものをかけないでください。

! コートフックを使用するときは、ハンガーなどを使用せず、衣類を直接かけてください。

! コートフックを使用するときは、衣服が運転者の視界の妨げにならないように注意してください。

リアドアウインドウ上方のコートフック *

リアドアウインドウの上方にコートフックがあります。

コートフックを使用する

▶ コートフックの ① の部分を押します。

コートフックが下方に開きます。

コートフックを収納する

▶ コートフックの ① の部分を押してロックします。

リアドアウインドウ前方のコートフック

リアドアウインドウの前方にコートフック ① があります。

リアシートテーブル *

⚠ 警 告

走行するときは、リアシートテーブルを収納してください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどにテーブルに載せているものが投げ出されたり、乗員がリアシートテーブルにぶつかって、けがをするおそれがあります。

リアシートテーブルを使用する

▶ ロック解除ボタン ① を押します。

▶ リアシートテーブル ② をゆっくり引き上げます。

▶ 最初に「カチッ」と音がした角度でリアシートテーブルから手を放します。

その角度でリアシートテーブルが固定されます。

さらにリアシートテーブルを引き上げると、リアシートテーブルの角度を 2 段階上げることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

リアシートテーブルを収納する

▶ リアシートテーブルをいっぱいまで引き上げてから、下ろします。

▶ リアシートテーブルを前方に押し込んでロックします。

リアシートテーブルが確実に収納されていることを確認します。

後席アームレスト下部の小物入れ

後席アームレストのコントロールパネル非装備車

小物入れのカバーを開く

▶ 後席アームレストを引き出します。

▶ レバー ① を引いて、アームレストのカバーを矢印の方向に開きます。

! 引き出したアームレストの上に座ったり、体重をかけないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

! カバーが確実に閉じていることを確認してアームレストを収納してください。次にアームレストを使用しようとしたときにカバーが引っかかり、損傷するおそれがあります。

後席アームレストのコントロールパネル装備車

小物入れのカバーを開く

▶ 後席アームレストを引き出します。

▶ ボタン ① を押して、カバー ② を矢印の方向に開きます。

後席間の小物入れ *

小物入れのカバーを開く

▶ ノブ ① を持ち、カバーを矢印の方向に開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

後席中央の小物入れ

小物入れのカバーを開く

▶ 後席アームレストを引き出します。

▶ レバー ① を引いて、カバー ② を開きます。

ℹ 電動シートバック装備車は、バックレストをもっとも起こした状態にすると、カバーが開きやすくなります。

収納ポケット *

前席シートの背面に、新聞や雑誌などを収納できるポケット ① を備えています。

① 収納ポケット

助手席足元の収納ネット

左ハンドル車
① 収納ネット

⚠ **警 告**

収納ネットには、軽い物のみを収納してください。重い物や鋭利な角のある物、こわれやすい物、かたい物やビンや缶を収納するために使用しないでください。事故のときに収納ネットが収納物を十分に固定できないおそれがあります。

荷物の固定

荷物固定用フック

⚠ **警 告**

荷物固定用フックには均等に力がかかるようにしてください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときなどに荷物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

荷物を固定するときは、以下の点に注意してください。

- 荷物固定用フックを使用して、荷物を固定してください。
- 伸縮性のあるストラップやネットは軽い荷物のずれを防ぐためのものです。これらを使用して荷物を固定しないでください。
- 固定用具が荷物のとがった部分や角に当たらないようにしてください。
- 鋭い角のあるものは、角の部分にカバーをしてください。

トランク内には 4 個の荷物固定用フックを装備しています。

トランクフック

⚠ 警告

トランクフックには、軽い物のみを掛けてください。重い物や鋭利な角のある物、こわれやすい物を掛けないでください。急ブレーキ時や急な進路変更時、事故のときにトランクフックが収納物を十分に固定できず、乗員がけがをするおそれがあります。

! トランクフックには、約 3kg 以上の荷物を掛けないでください。また、トランクフックを荷物の固定のために使用しないでください。

トランクルームの上部に、バッグなどをかけるフックがあります。

トランクフックを使用する

▶ ストラップ ① を引いて、フック ② を下げます。

トランク内の収納

トランク内のトランクフロアボードの下には、車載工具や応急用スペアタイヤなどが収納されています。

トランクフロアボードには、分割型と一枚型の 2 種類があります。

※ 車種や仕様により、トランクフロアボードの下には、ラゲッジトレイが装備されています。

トランクフロアボード（一枚型）

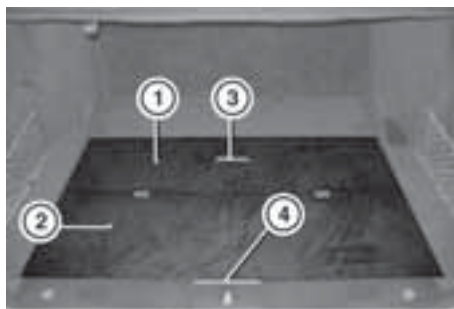
① ハンドル
② トランクフロアボード

トランクフロアボードを開く

▶ ハンドル ① を起こし、トランクフロアボード ② を引き上げます。

▶ トランクフロアボード ② を支えながら、ハンドル ① の上端部をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

! ハンドル ① をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルやシール部を損傷します。

トランクフロアボード（分割型）

① 前部トランクフロアボード
② 後部トランクフロアボード
③④ ストラップ

前部トランクフロアボードを開く

▶ ストラップ ③ を持ち、前部トランクフロアボード ① を後方に開きます。

閉じるときは、前部トランクフロアボードを前方に倒します。

後部トランクフロアボードを開く

▶ ストラップ ④ を持ち、後部トランクフロアボード ② を前方に開きます。

閉じるときは、後部トランクフロアボード裏面のストラップを持って、後方に倒します。

ラゲッジトレイ *

① 後部トランクフロアボード
② 後部ラゲッジトレイ

③ 前部ラゲッジトレイ
④ 前部トランクフロアボード

前部および後部トランクフロアボードの下にはラゲッジトレイ ②③ があります。

ラゲッジトレイの下には、車載工具や応急用スペアタイヤなどがあります（▷391 ページ）。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ルーフラック

⚠ **警 告**

- ルーフラックを取り付けるときは、製品に添付の取扱説明書に従ってください。誤った取り付け方によってルーフラックが脱落すると、乗員がけがをしたり、事故の原因になります。
- ルーフの最大積載量（約 100kg）を超えないように注意してください。また、ルーフに荷物を積んでいるときは、車の重心位置が変化し、走行安全性に影響を与えます。運転するときは十分注意してください。

! ルーフラックは Daimler AG の純正品および指定品の使用をお勧めします。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! 純正品および指定品以外のルーフラックを取り付けると車を損傷するおそれがあります。

ルーフラックを取り付けるとき、また、ルーフラックに荷物を積んだときは下記に注意してください。車を損傷するおそれがあります。

- スライディングルーフ * をチルトアップさせたときに接触しないこと
- パノラミックスライディングルーフ * をチルトアップさせたときや開いたときに接触しないこと
- トランクを開いたときに接触しないこと

ルーフラックを取り付ける

▶ カバー ① を注意しながら矢印の方向に開きます。

▶ カバー ① を開いた位置で固定します。

▶ カバー ① 内部のマウント部にルーフラックを取り付けます。

▶ 製品に添付の取扱説明書の指示に従ってください。

室内装備

カップホルダー

⚠ **警 告**

走行中はカップホルダーを閉じ、使用しないでください。以下のときに物が投げ出されて、乗員がけがをするおそれがあります。

- 急ブレーキ時
- 急な進路変更時
- 事故に巻き込まれたとき

カップホルダーのサイズに合ったフタ付きの容器を使用してください。飲み物がこぼれるおそれがあります。

熱い飲み物のためにカップホルダーを使用しないでください。火傷をするおそれがあります。

! カップホルダーに飲み物を置くときは、スイッチや電装品などに飲み物をこぼしたり、結露した水滴が垂れないように注意してください。スイッチや電装品などを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

センターコンソールのカップホルダー

カップホルダーを使用する

▶ マーク ① を押します。

カバーが開きます。

カップホルダーを閉じる

▶ カバーを押してロックさせせます。

ℹ カップホルダーを取り外して清掃することができます。カップホルダーの清掃にはぬるま湯だけを使用してください。

カップホルダーを取り外す

▶ マーク ② を押します。

カバーが開きます。

▶ ロックノブ ① を後方にスライドさせます。

▶ カップホルダーを引き上げます。

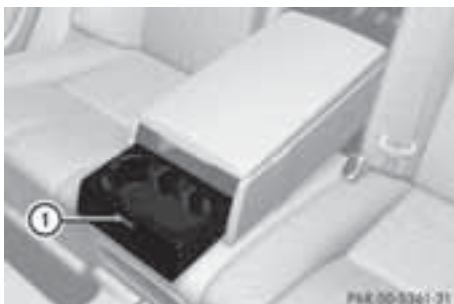
カップホルダーを取り付ける

▶ ロックノブ ① が前方にくるようにカップホルダーを取り付けます。

▶ ロックノブ ① を前方にスライドさせます。

リアアームレストのカップホルダー *

❗ 引き出したアームレストの上に座ったり、体重をかけないでください。アームレストを損傷するおそれがあります。

❗ カバーが確実に閉じていることを確認してアームレストを収納してください。次にアームレストを使用しようとしたときにカバーが引っかかり、損傷するおそれがあります。

後席アームレストのコントロールパネル非装備車

後席アームレストのコントロールパネル装備車

カップホルダーを使用する

▶ 後席アームレストを引き出します。

▶ カップホルダー ① を押します。

カップホルダーが開きます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

カップホルダーを閉じる

▶ カップホルダーを押して、ロックさせます。

リアシート下部のカップホルダー *

カップホルダーを使用する

▶ カップホルダー ① を押します。

カップホルダーが開きます。

カップホルダーを閉じる

▶ カップホルダーを押して、ロックさせます。

サンバイザー

⚠ **警 告**

走行中はバニティミラーのカバーを閉じてください。眩惑により交通状況の視認が損なわれ、事故の原因になります。

① 照明
② フック
③ カードクリップ
④ バニティミラー
⑤ バニティミラーカバー

前方からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

横方向からの眩しさを防ぐ

▶ サンバイザーを下げます。

▶ サンバイザーをフック ② から外し、横にまわします。

使用後は、サンバイザーを元の位置に戻します。

! サンバイザーを横にまわすときは、バニティミラーカバー ⑤ を閉じてください。ルーフ内張りやバニティミラーカバーを損傷するおそれがあります。

バニティミラー

バニティミラーを使用する

▶ サンバイザーを下げます。

▶ バニティミラーカバー ⑤ を上方に開きます。

照明 ① が点灯します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 照明 ① はサンバイザーがフックにかかっているときに点灯します。

ⓘ バニティミラーの横にカードクリップ ③ を備えています。

リアバニティミラー

① マーク

リアバニティミラーを使用する

▶ マーク ① を押します。

バニティミラーが下方に開き、照明が点灯します。

リアバニティミラーを収納する

▶ バニティミラーを上方に押してロックさせます。

! フロントシートを調整するときは、リアバニティミラーが収納されていることを確認してください。

リアバニティミラーが開いている状態でフロントシートを調整すると、リアバニティミラーを損傷するおそれがあります。

電動ブラインド（リアウインドウ）

電動ブラインド（リアウインドウ）は、ファンクションスイッチかリアドアのスイッチ、または COMAND システムで操作します。

イグニッション位置が **1** か **2** のときに操作できます。

! ブラインドが作動する範囲に物を置かないでください。ブラインドや物を損傷するおそれがあります。

! リアウインドウにアクセサリーなどを装着しないでください。ブラインドを作動させたときにブラインドやアクセサリーなどを損傷するおそれがあります。

ⓘ 外気温度が約－ 20℃以下のときは、ブラインドは作動しません。

ⓘ 電動ブラインド（後席左右）装備車は、リモコン操作でリアウインドウのブラインドを開くことができます（▷171 ページ）。

ⓘ 電動ブラインド（後席左右）装備車は、リモコン操作やキーレスゴー操作でリアウインドウのブラインドを閉じることができます（▷172 ページ）。

ⓘ COMAND システムまたはファンクションスイッチでブラインドを作動させているときは、リアドアのスイッチではブラインドを操作できません。ブラインドによる挟み込みには十分注意してください。

ⓘ セーフティスイッチ（▷57 ページ）を設定すると、リアドアの電動ブラインド（リアウインドウ）スイッチによる開閉操作ができなくなります。

ファンクションスイッチでの操作

ブラインドを開閉する

▶ スイッチ ① を押します。

ブラインドが自動で開閉します。

ⓘ ブラインドが自動で開閉しているときにスイッチを押すと、反対方向に作動します。

COMAND システムでの操作 ①

▶ メインエリアが車両設定画面以外のときは、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

メインエリアが車両設定画面になります。

開いているブラインドを閉じる

▶ メインエリアに " 電動ブラインド閉める " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

ブラインドが自動で閉じ、" 電動ブラインド 開ける " と表示されます。

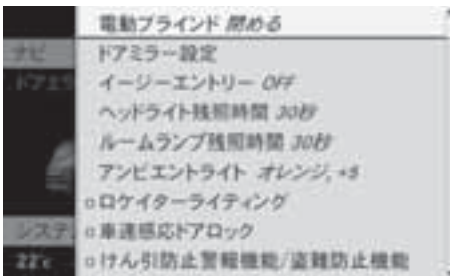
閉じているブラインドを開く

▶ メインエリアに " 電動ブラインド開ける " を表示させて 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

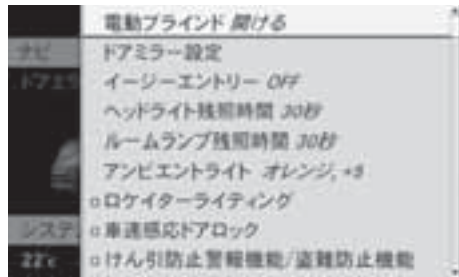
ブラインドが自動で開き、" 電動ブラインド 閉める " と表示されます。

COMAND システムでの操作 ②

▶ メインエリアが車両設定画面のときに、アプリケーションエリアで " 車両 " を選択して 〔◎〕・←◎→、コントローラーを押します ◎。

車両設定メニューが表示されます。

開いているブラインドを閉じる

▶ " 電動ブラインド閉める " を選択して 〔◎〕・↑◎、コントローラーを押します ◎。

ブラインドが自動で閉じ、" 電動ブラインド 開ける " と表示されます。

閉じているブラインドを開く

▶ " 電動ブラインド 開ける " を選択して 〔◎〕・↑◎、コントローラーを押します ◎。

ブラインドが自動で開き、" 電動ブラインド 閉める " と表示されます。

リアドアのスイッチでの操作

ブラインドを閉じる

▶ スイッチ ① を引きます。

ブラインドが自動で閉じます。

ブラインドを開く

▶ スイッチ ① を押します。

ブラインドが自動で開きます。

灰皿

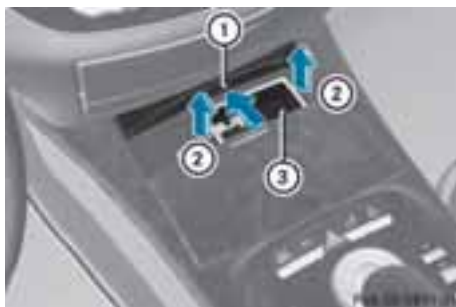
! 吸いがらやマッチの火は確実に消してください。

! 紙くずなどの燃えやすい物は入れないでください。

! 使用後は確実にカバーを閉じてください。

! 灰皿を取り外して小物入れとして使用しているときは、灰皿として使用しないでください。

! 後席用灰皿を取り外すときは、カバーに無理な力をかけないでください。カバーを損傷するおそれがあります。

前席用灰皿

灰皿カバーを開く

▶ カバー ① を前方にいっぱいまで押します。

灰皿カバーを閉じる

▶ カバー ① を前方に軽く押します。

カバーが自動で閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 灰皿 ③ の左右端部 ② を持ち、引き上げます。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿 ③ を押し込んで、ロックさせます。

後席用灰皿

灰皿カバーを開く

▶ カバー ② を上方に開きます。

閉じるときは、カバー ② を閉じます。

灰皿を取り外す

▶ 開いているカバー ② をさらに押します。

灰皿 ① のロックが解除されます。

▶ 灰皿を取り外します。

灰皿を取り付ける

▶ 灰皿を押し込んで、ロックさせます。

ライター

⚠ 警 告

ライターは必ずノブの部分を持ってください。金属部を持つと火傷をするおそれがあります。

安全のため、子供を乗車させるときはライターを抜き取ってください。

! ライターを押し込んだ後、押さえ続けないでください。ライターを損傷するおそれがあります。また、ライターが過熱して火災が発生するおそれがあります。

! 赤熱部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。火災が発生するおそれがあります。

! ライターを改造したり、純正品以外のライターを使用しないでください。ライターやコンソールを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。

! ライターが戻らなくなったときは、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチからキーを抜いて、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! アクセサリー電源としてライターソケットを使用するときは、純正アクセサリーだけを使用してください。

前席用ライター

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ライター ① を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ① を引き抜きます。

使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

後席用ライター

リアエアコンディショナー装備車

ライターを使用する

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ライター ① を押し込みます。

熱せられると、ライターは元の位置に戻ります。

▶ ライター ① を引き抜きます。

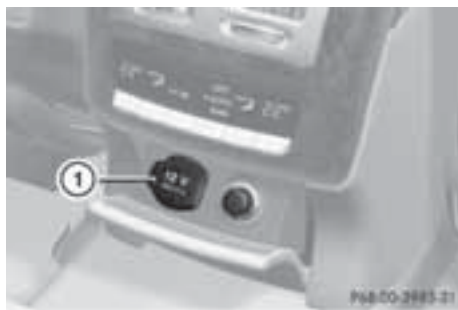
使用後は灰皿で灰を落とし、元の位置に戻します。

12V 電源ソケット *

グローブボックス内とセンターコンソール後部、トランク内に 12V 電源ソケットを装備しています。

グローブボックス内の 12V 電源ソケット

左ハンドル車

センターコンソール後部の 12V 電源ソケット

リアエアコンディショナー装備車

トランク内の 12V 電源ソケット

12V 電源ソケットを使用する

▶ ソケットカバー ① を開き、電気製品の電源コネクターを差し込みます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

! 最大消費電流 15A 以下（最大消費電力 180W 以下）の規格に合った電気製品を使用してください。規格外の製品や規格以上の大きな容量の製品を使用すると、ヒューズが切れたり、火災が発生するおそれがあります。

! 電源ソケットにライターを差し込まないでください。

! ソケット内に指などを入れないでください。感電するおそれがあります。

! 電源ソケットを使用しないときはカバーを閉じてください。異物が入ったり、水がかかると故障の原因になることがあります。

! エンジンがかかっていないときは長時間使用しないでください。バッテリーがあがるおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ℹ バッテリー電圧が低下したときは、エンジン始動のための電力を確保するため、12V 電源ソケットは自動的に作動を停止します。

クーリングボックス *

⚠ 警告

クーリングボックスを作動させているときは、トランク内のクーリングボックスユニットから温風が排気され、トランク内の温度が上昇します。トランク内に熱に弱いものや燃えやすいものを積まないでください。

また、トランクに荷物を積むときは、荷物がクーリングボックスユニットの排気口を覆わないようにしてください。

クーリングボックスの冷却機能は、周囲の温度や冷却温度の設定に応じて調整されます。

以下のときは、クーリングボックスの冷却機能が低下したり停止します。

- 多くの電気装備を使用している
- バッテリーの電圧が低下している

このときは作動スイッチの表示灯が点滅します。電圧が回復すると、再び自動的に作動します。

! クーリングボックスを作動させているときは、クーリングボックスのカバーおよびクーリングボックス手前のカバーを確実に閉じてください。リアアームレストのスイッチが結露して、スイッチを損傷したり、ショートして発火するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

クーリングボックスのカバーを開く

▶ リアアームレストを引き出します。

▶ クーリングボックス手前のカバーを開きます。

▶ レバー ② を押し下げながら、クーリングボックスのカバーを開きます。

クーリングボックスの作動

イグニッション位置が **2** のときに作動させることができます。

クーリングボックスを作動させる

▶ 作動スイッチ ③ の左側を押します。

スイッチの表示灯が点灯します。

クーリングボックスを停止する

▶ 作動スイッチ ③ の右側を押します。

スイッチの表示灯が消灯します。

ℹ クーリングボックスを作動させているときは、クーリングボックスのカバーを開くと、内部の照明が点灯します。

クーリングボックスの冷却温度を調整する

クーリングボックスを強で作動させる

▶ 温度設定スイッチ ① の左側を押します。

クーリングボックスを弱で作動させる

▶ 温度設定スイッチ ① の右側を押します。

クーリングボックスを長期間作動させないとき

クーリングボックスを長期間作動させないときは、クーリングボックスを停止して、クーリングボックス内部を清掃し、水分を拭き取ってください。

さらに、クーリングボックスカバーをしばらく開いたままにしてください。

ⓘ クーリングボックス内部のラックは取り外すことができます。

クーリングボックスユニットの取り外し

① プラグ
② スクリュー
③ フラップ

トランクルーム内のクーリングボックスユニットを取り外すことができます。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ クーリングボックスが停止していることを確認します。

▶ トランクを開きます。

▶ プラグ ① のケーブルをホルダーから外します。

▶ プラグ ① のコネクターを取り外します。

▶ 左右のスクリュー ② を反時計回りにまわしてゆるめます。

▶ クーリングボックスユニットを引き出します。

▶ フラップ ③ を閉じます。

クーリングボックスを取り付けるときは、取り外したときと反対の手順で取り付けます。

フラップ ③ には磁石が装着されていて、開いたときにリアシートバックレストの背面に固定できます。.

ⓘ 後席アームレスト奥のヒューズボックスを開くときは、クーリングボックスユニットを取り外してください。

ⓘ クーリングボックスユニットを取り付けているときは、ラゲッジトレイのフック（▷392 ページ）をトランクの縁にかけることはできません。

アシストグリップ

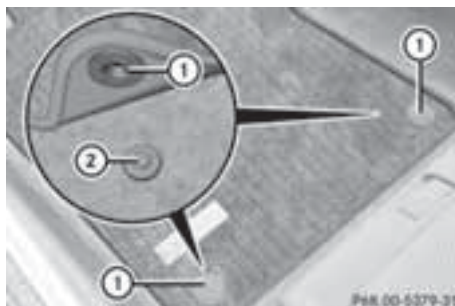
各ドアウインドウの上方にアシストグリップがあります。コーナリング時の姿勢保持などに使用します。

⚠ 警 告

アシストグリップにハンガーやアクセサリーなど物をかけないでください。SRS ウインドウバッグの作動を妨げたり、作動時に物が飛んで乗員がけがをするおそれがあります。

! アシストグリップにぶらさがったり、必要以上の大きな荷重をかけないでください。アシストグリップを損傷するおそれがあります。

! 運転者は運転中にアシストグリップを使用しないでください。

フロアマット *

左ハンドル車

⚠ 警 告

運転席のフロアマットを使用するときは、ペダルとの間に十分な空間があり、確実に固定されていることを確認してください。

運転席のフロアマットは、フロアの凸部②とフロアマットの凹部①で確実に固定してください。

走行前にフロアマットが確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、フロアマットが滑ったり、ペダル操作を妨げるおそれがあります。

運転席のフロアマットを重ねて使用しないでください。

運転席のフロアマットを取り付ける

▶ 運転席シートを後方に動かします。

▶ フロアマットを敷きます。

▶ フロアマットの凹部 ① を押し、フロアの凸部 ② にはめ込みます。

運転席のフロアマットを取り外す

▶ フロアの凸部 ② からフロアマットを取り外します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

慣らし運転

⚠ **警告**

新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動能力を完全には発揮できません。この期間は、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

また、ブレーキパッドやブレーキディスクの交換を行なったときも同様です。

新車の場合、エンジンなどの機械部分が馴染むまで「慣らし運転」することをお勧めします。

新車時に十分な慣らし運転を行なうことにより、将来にわたって安定した性能を維持することができます。

最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- エンジン回転数が許容限度の 2/3（許容限度が 6,000 回転のときは約 4,000 回転）を超えないように運転してください。
- エンジンに大きな負担のかかる運転は避けてください。
- いつも一定のエンジン回転数で走行するのではなく、負担のかからない範囲で回転数と速度を変えてください。
- キックダウンや過度のエンジンブレーキは避けてください。
- ギアレンジ位置 D3、D2、D1 および 1 ～ 3 速のギアは山道などを低速で走行するときだけ使用してください。

走行距離が 1,500km を超えたら、エンジン回転数を徐々に高回転まで上げてください。

ℹ S 63 AMG と S 65 AMG は、最初の 1,500km までは以下の注意事項を守ってください。

- 走行速度が 140km/h を超えないようにしてください。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

- エンジン回転数が 4,500 回転を超えた状態で長時間走行しないでください。

ℹ エンジンや駆動系部品の分解や交換をした後も、慣らし運転を行なってください。

ℹ **キックダウン**：走行中にアクセルペダルをいっぱいまで踏み込むと、自動的に低いギアに切り替わり、エンジンの回転数が上がって素早く加速します。これをキックダウンといいます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

燃料の給油

燃料を給油する

⚠ 警告

給油するときは、必ずエンジンを停止してください。また、周囲に燃料があるときや燃料の匂いがするときは、決して火気を近付けないでください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

⚠ 警告

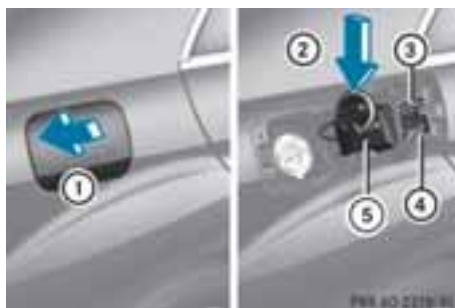
燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警告

肌や衣服に燃料が付着しないように注意してください。燃料が肌に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康を害するおそれがあります。

⚠ 警告

S クラス HYBRID については、別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書 補足版」もご覧ください。

①燃料給油フラップ
②キャップ
③タイヤ空気圧ラベル
④使用燃料表示
⑤ホルダー

燃料給油フラップは、リモコン操作やキーレスゴー操作による車の解錠 / 施錠に連動して解錠 / 施錠されます。

燃料給油口は車両の右側後方にあります。また、メーターパネル内には給油口の位置を示す ⛽ が表示されています。

給油口を開いて給油する

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチに取り付けているキーレスゴースイッチを押してイグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときは、エンジンスイッチからキーを抜きます。

または

▶ エンジンスイッチにキーレスゴースイッチを取り付けているときは、運転席側ドアを開き、イグニッション位置を **0** にします。

再び運転席側ドアを閉じても、イグニッション位置は **0** のままになります。

▶ 燃料給油フラップ ① の矢印の部分を押します。

燃料給油フラップ ① が少し開きます。

▶ 燃料給油フラップ ① を開きます。

▶ キャップ ② を反時計回りに少しゆるめて、タンク内の圧力を抜きます。

圧力が抜けたら、さらに反時計回りにまわして取り外します。

▶ 外したキャップを燃料給油フラップの裏側にあるホルダー ⑤ に置きます。

▶ 給油を開始します。

給油ノズルが最初に自動停止した時点で給油を停止してください。

! 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。

給油口を閉じる

▶ キャップを燃料給油口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわします。

キャップがロックする音が聞こえます。

▶ 燃料給油フラップ ① を閉じます。

! 燃料を給油するときは、以下の点に注意してください。

- 燃料は無鉛プレミアムガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪なガソリン、指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用したり、添加剤などを混入すると、エンジンなどを損傷するおそれがあります。
- 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。故障の原因になります。
- 燃料に軽油を使用したり、無鉛プレミアムガソリンに混ぜて使用しないでください。少量を混ぜただけでもエンジンなどを損傷するおそれがあります。また、このような場合は保証の適用外になります。
- 誤って軽油を給油してしまった場合は、決してエンジンを始動しないでください。軽油が燃料系部品全体にまわるおそれがあります。誤って給油した場合はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡し、燃料タンクや燃料系部品を交換してください。

- 目的地まで余裕をもって走れるように、十分な量を給油してください。
- 燃料給油口には、純正品以外のキャップを使用しないでください。

! セルフ式のガソリンスタンドなどで給油するときは必ず以下の点を守り、安全に十分注意して作業を行なってください。

- エンジンを停止して、ドアやドアウインドウなどを閉じてください。
- 燃料給油口を開くことからはじまる一連の給油作業は、必ずひとりで行なってください。
- 給油作業をする人以外は燃料給油口に近付かないでください。
- 給油作業をする人は、作業の前に金属部分に触れるなどして身体の静電気を除去してください。

  身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火したり、火傷をするおそれがあります。
- 作業中は車内に戻らないでください。帯電するおそれがあります。
- キャップの取り外し / 取り付けは確実に行ない、火気を近付けないようにしてください。
- 燃料が塗装面に付着しないように注意してください。塗装面を損傷するおそれがあります。
- 給油ノズルは給油口の奥まで確実に差し込んでください。
- 給油が自動的に停止したら、それ以上は給油しないでください。燃料漏れのおそれや、エンジンが不調になったり停止するおそれがあります。
- 手動で給油しているときは、状況を見ながら、給油の勢いを強くしないでゆっくりと給油してください。燃料が吹きこぼれるおそれがあります。
- ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を遵守してください。

i 燃料給油フラップの裏側に、タイヤ空気圧ラベル ③ が貼付してあります。タイヤ空気圧ラベルの見かたについては（▷363 ページ）をご覧ください。

i 車を施錠する前に燃料給油フラップを閉じてください。施錠後に燃料給油フラップを閉じようとしても、ロックピンにより、燃料給油フラップが閉じなくなります。

i リモコン操作やキーレスゴー操作で燃料給油フラップが解錠されないときは、メルセデス·ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

燃料と燃料タンク

トラブル	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
車から燃料が漏れている。	⚠ **火災や爆発のおそれがあります** 燃料供給システム、または燃料タンクに問題がある。 ▶ ただちにイグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。 ▶ 状況を問わず、エンジンを始動しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
燃料給油フラップが開かない。	燃料給油フラップが解錠されていない。 または キーの電池が消耗している。 ▶ リモコン操作またはキーレスゴー操作で解錠してください。
	燃料給油フラップは解錠されるが、給油フラップの開閉機構に異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンルーム

ボンネット

⚠ 警告

走行中はボンネットロック解除レバーを引かないでください。ボンネットが開いて視界を遮られるおそれがあります。

⚠ 警告

S クラス HYBRID については、別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書 補足版」もご覧ください。

⚠ 警告

ボンネットから炎や煙が見えたときは、ボンネットを開かないでください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警告

エンジンが停止していても、エンジンルーム内には高温になっている部分があります。エンジンルーム内に触れるときは、各部の温度が下がっていることを確認してください。

⚠ 警告

エンジンを始動しているときやエンジンがかかっているとき、イグニッション位置が **2** のときは、エンジンルーム内には手を触れないでください。

高電圧の発生部分や高温部分、回転している部分があり、それらに触れると非常に危険です。

⚠ 警告

エンジンスイッチからキーを抜いていて、イグニッション位置が **0** のときでも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部分には身体や物を近付けないでください。

ボンネットを開く

⚠ 警告

ボンネットを開くときは、エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にして、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認してください(▷165 ページ)。ボンネットを開いているときにワイパーが作動すると、けがをしたり、車やワイパーを損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! 強風のときにボンネットを開くと、風にあおられ、ボンネットが不意に下がることがあります。風の強い日は十分に注意してください。

また、ボンネットに雪が積もっているときも同様に注意してください。

▶ エンジンスイッチからキーを抜き、ワイパーのスイッチが停止の位置になっていることを確認します (▷165 ページ)。

左ハンドル車

▶ 運転席側のインストルメントパネル下にあるボンネットロック解除レバー ① を手前に引きます。

▶ ロック解除ノブ ② を矢印の方向に引きながら、ラジエターグリルを持って、ボンネットを開きます。

ボンネットを約 40cm ほど持ち上げると、ガス封入式ダンパーによりボンネットは自動的に開き、保持されます。

! ロック解除ノブ ② だけを持ち上げてボンネットを開かないでください。

ボンネットを垂直に開く

垂直位置まで開く

▶ 開いているボンネットを少し押し下げながら、向かって右側のヒンジにあるロックレバー ③ を矢印の方向に押してロックを解除します。

車種や仕様により、向かって左側のヒンジにもロックハンガーがある場合は、ロックレバーを押してロックを解除します。

▶ ボンネットを垂直の位置に開きます。

垂直位置から閉じる

▶ ボンネットを少し押し上げながら、向かって右側のヒンジにあるロックレバー ③ を押し、ロックを解除してボンネットを閉じます。

ボンネットを閉じる

⚠ 警告

走行前に、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。走行中にボンネットが開いて視界を遮られるおそれがあります。

⚠ 警告

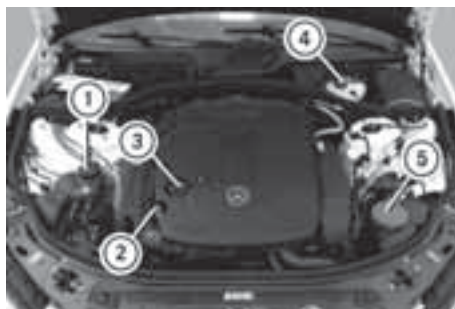
ボンネットを閉じるときは、身体や物を挟まないように十分注意してください。

! エンジンルーム内に物を置いたままボンネットを閉じると、ボンネットやエンジンルーム内の機器類などを損傷するおそれがあります。

i ボンネットが完全に閉じていない状態で走行すると、警告音が鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告マークが表示されます。

▶ ボンネットを引き下げ、約 20cm の高さから手を放して閉じます。

完全に閉じなかったときは、もう一度ボンネットを開き、同じ方法で少し強めに閉じます。

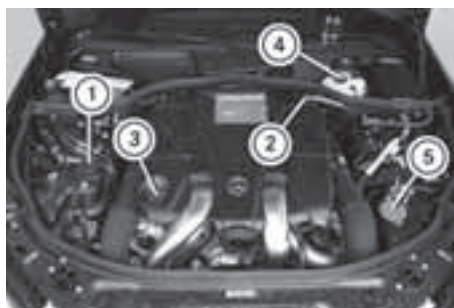
エンジンルーム

S 350（左ハンドル車）

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル レベルゲージ	350
③	エンジンオイル フィラーキャップ	353
④	ブレーキ液 リザーブタンク	357
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

※ 右ハンドル車の ④ は左右対称の位置にあります。

S 550 / S 550 long（左ハンドル車）

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル レベルゲージ	350
③	エンジンオイル フィラーキャップ	353
④	ブレーキ液 リザーブタンク	357
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

※ 右ハンドル車の ④ は左右対称の位置にあります。

S 550 4MATIC

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル レベルゲージ	350
③	エンジンオイル フィラーキャップ	353
④	ブレーキ液 リザーブタンク	357
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

S 600 long

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル フィラーキャップ	353
③	ブレーキ液 リザーブタンク	357
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

S 63 AMG long（左ハンドル車）

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル レベルゲージ	350
③	エンジンオイル フィラーキャップ	353
④	ブレーキ液 リザーブタンク	357
⑤	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

※ 右ハンドル車の ④ は左右対称の位置にあります。

S 65 AMG long

①	冷却水リザーブタンク	355
②	エンジンオイル フィラーキャップ	353
③	ブレーキ液 リザーブタンク	357
④	ウォッシャー液 リザーブタンク	358

! S 600 / S 65 AMG は、エンジン上部後方にあるキャップ ① を絶対に開かないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

S 65 AMG

i S 600 / S 65 AMG には、エンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量表示（▷350 ページ）で点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

エンジンルーム内の点検

エンジンルーム内の各所を点検するときは以下の事項を厳守してください。

⚠ 警 告

- イグニッションシステムおよびキセノンヘッドランプのバルブソケットや配線に手を触れないでください。高電圧が発生しているため、感電するおそれがあります。
- エンジンスイッチからキーを抜いていたり、イグニッション位置が **0** のときも、冷却水の温度が高いときはエンジンファンなどが自動的に回転することがあります。エンジンファンなどの回転部には身体や物を近付けないでください。

エンジンルーム内の手入れ

手作業で拭いてください。火傷や感電をしないように注意してください。

エンジンルームには多くの電気装備があり、水分や湿気を嫌います。水をかけたり、スチーム洗浄をしないでください。

環　境

環境保護のため、オイルなどの油脂類やフルード類の交換および廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 作業は安全な場所で行なってください。

! 油脂類（オイルなど）やフルード類（ブレーキ液、ウォッシャー液、冷却水など）は、十分注意して取り扱ってください。万一、目に入った場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

! 油脂類やフルード類が皮膚に付着したときは、すぐに石けんを使用して洗い流してください。放置すると皮膚に障害を起こすおそれがあります。

! 適切な工具を使用してください。

! 部品や工具をエンジンの上など、エンジンルーム内に置かないでください。中に落とすおそれがあります。

! 油脂類やフルード類の容器は、子供の手が届くところや火気の近くに保管しないでください。

V ベルト

自動調整式のため、調整の必要はありません。

亀裂や損傷がないか点検してください。

エンジンオイル

車の使用状況により、1,000km につき最大で約 0.8 リットルのエンジンオイルが消費されます。

慣らし運転中のエンジンオイルの消費量は多少増加することがあります。また、頻繁にエンジン回転数を上げて走行すると、エンジンオイル消費量は増加します。

⚠ 警 告

エンジンやエンジンオイルが熱くなっているときは、身体に触れないように注意してください。火傷をするおそれがあります。

⚠ 警 告

S クラス HYBRID については、別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書 補足版」もご覧ください。

! エンジンオイルに添加剤を使用しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

! エンジンオイルは使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給または交換してください。

! マルチファンクションディスプレイにエンジンオイル量に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷407 ページ）をご覧ください。

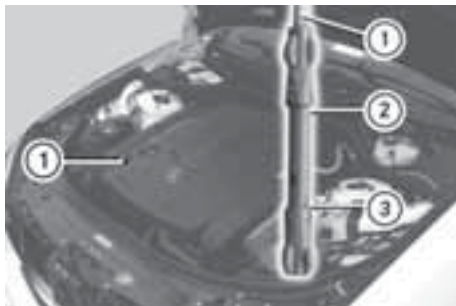
! 運転前に必ずエンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイル量の点検

S 600 / S 65 AMG には、エンジンオイルレベルゲージはありません。マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面で点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

エンジンオイル量を点検するときは、以下の点に注意してください。

- 水平な場所に停車している
- エンジンが温まっているときは、エンジンを停止してから約 5 分間経過している
- エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、エンジンを停止してから約 30 分以上経過している

エンジンオイル量を点検する（S 600/S 65 AMG を除く車種）

S 350

エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検します。

▶ エンジンオイルレベルゲージ ① を抜き取り、きれいに拭いていっぱいまで差し込みます。

▶ エンジンオイルレベルゲージを抜き取り、付着したエンジンオイル量と汚れ具合を点検します。

オイル量はエンジンオイルレベルゲージの上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

▶ エンジンオイルが下限以下のときは、エンジンオイルフィラーキャップを開いて、指定のエンジンオイルを規定の量まで補給します。

ℹ エンジンオイルレベルゲージの上限と下限の間は約 1.5 ～ 2 リットルです。

エンジンオイル量を点検する（S 600/S 65 AMG）

マルチファンクションディスプレイのエンジンオイル量点検画面でエンジンオイル量を点検します。

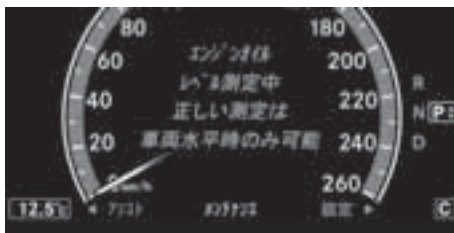
ℹ S 600 / S 65 AMG を除く車種は、エンジンオイル量点検画面は表示されません。エンジンオイルレベルゲージでエンジンオイル量を点検し、必要に応じて規定のオイル量を補給してください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ マルチファンクションステアリングの ◀ または ▶ を押して、" メンテナンス " を選択します。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

▶ ▲ または ▼ を押して、" ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 " を選択します。

▶ OK を押します。

画面に " ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ ﾚﾍﾞﾙ測定中 正しい測定は 車両水平時のみ可能 " と表示されます。

数秒後に点検結果が表示されます。

※ 画面表示や操作方法などは予告なく変更されることがあります。

ディスプレイ表示

点検結果に応じて、以下のいずれかのメッセージが表示されます。

ディスプレイ表示	可能性のある原因 / 症状および ▶ 対応
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 正常	エンジンオイル量は正常です。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙを 1 ﾘｯﾀｰ 補充して下さい	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイルを約 1 リットル補充してください。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙを 1.5 ﾘｯﾀｰ 補充して下さい	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイルを約 1.5 リットル補充してください。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙを 2 ﾘｯﾀｰ 補充して下さい	エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイルを約 2 リットル補充してください。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙを 抜いて下さい	エンジンオイル量が多すぎる。 ▶ 適正量になるまで、エンジンオイルを抜いてください。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 測定するには ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝｵﾝ	イグニッションがオンになっていない。 ▶ イグニッション位置を **2** にしてください。
もう少し待ってから ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量を 測定してください	エンジンを停止してからの待ち時間が足りない。 ▶ エンジンが温まっているときは、約 5 分間経過した後に点検を行なってください。 エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分間経過した後に点検を行なってください。
ｴﾝｼﾞﾝｵｲﾙ量 ｴﾝｼﾞﾝ停止時のみ 測定できます	エンジンがかかっているときはエンジンオイル量の点検ができない。 ▶ エンジンを停止してください。 ▶ エンジンが温まっているときは、約 5 分間経過した後に点検を行なってください。 エンジンが温まる前にエンジンを停止したときは、約 30 分間経過した後に点検を行なってください。

エンジンオイルの補給

⚠ 警 告

エンジンオイルをエンジンルーム内にこぼさないでください。エンジンが熱くなっているときにエンジンオイルが付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

環 境

環境保護のため、エンジンオイルを地面や排水溝などに流さないでください。

! 必ず車両の点検整備用として承認されたエンジンオイルとオイルフィルターだけを使用してください。

以下の原因により、エンジンや排気システムを損傷するおそれがあります。

- 車両の点検整備用として承認されていないエンジンオイルとオイルフィルターを使用すること
- 指定の交換時期を過ぎてからエンジンオイルとオイルフィルターを交換すること
- エンジンオイルに添加剤を入れること

! エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの上限を超えているときは、エンジンオイルを抜いてください。エンジンや触媒を損傷するおそれがあります。

エンジンオイルフィラーキャップの例

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 指定のエンジンオイルを補給します。

エンジンオイルレベルゲージ非装備車は、マルチファンクションディスプレイでエンジンオイル量を確認しながら作業を行なってください。

エンジンオイルレベルゲージ装備車は、エンジンオイル量がエンジンオイルレベルゲージの下限かそれ以下のときは、エンジンオイルを約 0.5 ～ 1 リットル補給します。

▶ エンジンオイルフィラーキャップ ① を補給口に合わせ、時計回りにいっぱいまでまわして取り付けます。

エンジンオイルフィラーキャップが確実に取り付けられていることを確認します。

▶ 再度エンジンオイルレベルゲージまたはマルチファンクションディスプレイで、エンジンオイル量を点検します。

! 必ず指定のエンジンオイルを使用してください。指定以外のエンジンオイルを使用して故障が発生した場合は、保証が適用されないことがあります。

! 種類の異なるエンジンオイルを混ぜないでください。エンジンオイルの特性が発揮されません。

! エンジンオイルがエンジンルーム内に付着したときは完全に拭き取ってください。

! エンジンオイルの減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジンオイル交換の時期

エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターは定期的に交換することをお勧めします。交換時期はメンテナンスインジケーターを目安としてください。

ただし、交換時期は使用状況によって異なりますので、詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルのオイル量を点検する必要はありません。

オイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! オートマチックトランスミッションオイルの交換については別冊「整備手帳」をご覧ください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

冷却水

⚠ 警 告

冷却システムには圧力がかかっています。水温が少しでも高いときは、絶対にリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や熱湯が吹き出して、火傷をするおそれがあります。

⚠ 警 告

不凍液をエンジンルームにこぼさないでください。熱くなったエンジンに不凍液が付着すると、発火して火傷をするおそれがあります。

! 冷却水の減りかたが著しいときは、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

冷却水の量を点検する

▶ 水平な場所に停車します。

冷却水の量の点検は、水平な場所に停車していて、エンジンが十分に冷えているときにのみ行なってください。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ メーターパネルのエンジン冷却水温度計で冷却水の温度が冷えていることを確認します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくりと約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりとまわして取り外します。

▶ 冷却水の液面がリザーブタンク ② 内のバー ③ の上面に達していれば適量です。

冷却水が温かいときは、液面がマーカー ③ より約 1.5cm 上にあれば適量です。

▶ 必要であれば、冷却水を補給します。

▶ キャップ ① を合わせ、いっぱいまで時計回りにまわします。

冷却水を補給する

冷却水が不足している場合は、リザーブタンクに補給します。

▶ 冷却水が冷えていることを確認します。

▶ リザーブタンク ② のキャップ ① を反時計回りにゆっくり約 1/2 回転までまわして、圧力を抜きます。

▶ 圧力が抜けたら、キャップ ① をさらに反時計回りにゆっくりまわして取り外します。

▶ 液面の高さに注意して冷却水を補給します。

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域（最低気温）によって濃度を変えます（▷471 ページ）。

▶ キャップ ① を確実に閉じます。

! 冷却水の補給は、冷却水が冷えているときに行なってください。

! 冷却水には必ず不凍液を混ぜてください。不凍液には防錆の効果もあります。

! 指定以外の不凍液や不適当な水を使用しないでください。錆や腐食などの原因になります。

! 不凍液は塗装面を損傷させます。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージ（▷406 ページ）が表示されたときは、オーバーヒートしてエンジンを損傷するおそれがあります。ただちに安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

冷却水の交換時期

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オーバーヒートしたとき

オーバーヒートしたときの症状

- 水温計の針が約 120℃以上を示している
- マルチファンクションディスプレイに冷却水に関する故障 / 警告メッセージが表示される
- エンジンルームから蒸気が出ている

⚠ **警 告**

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているときは、ただちにエンジンを停止し、十分に冷えるまで車から離れてください。エンジンルームの中に漏れた液体が発火して火災が発生するおそれがあります。

⚠ **警 告**

水温が下がるまで、絶対にボンネットやリザーブタンクのキャップを開かないでください。高温の蒸気や冷却水が吹き出して火傷をするおそれがあります。

! オーバーヒートした状態で走行したり、冷却水が吹き出している状態でエンジンをかけたままにすると、エンジンを損傷するおそれがあります。

! オーバーヒートしたときは必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

オーバーヒートしたときは、以下のように処置してください。

▶ ただちに安全な場所に停車します。

▶ エンジンをアイドリング状態で冷却します。

エンジンルームから蒸気が出ているときや冷却水が吹き出しているとき、エンジンファンが停止しているときは、エンジンを停止して冷却してください。

▶ エンジンが十分に冷えてから、冷却水量、水漏れ、エンジンファンなどを点検します。

▶ 冷却水が不足しているときは補給します（▷355 ページ）。

! 冷却水は、エンジンが熱いときに補給しないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

ブレーキ液

⚠ 警 告

マルチファンクションディスプレイにブレーキに関する故障 / 警告メッセージが表示されたり（▷402 ページ）、ブレーキ警告灯（▷420、421 ページ）が点灯したときは、むやみにブレーキ液を補給しないでください。補給によって故障が解消することはありません。

安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

⚠ 警 告

必ず指定のブレーキ液を使用してください。指定以外のブレーキ液を使用したり、他の銘柄を混ぜると、ブレーキの効き具合やブレーキシステムに悪影響を与え、安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

⚠ 警 告

ブレーキ液の補給は、エンジンが冷えてから行なってください。また、上限（MAX）を超えないように補給してください。あふれたブレーキ液がエンジンや排気系部品などに付着すると、発火して火傷をしたり、火災が発生するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷402 ページ）をご覧ください。

ブレーキ液の量を点検する

左ハンドル車

▶ ブレーキ液の液面が、ブレーキ液リザーブタンク ① のレベルインジケーター上限（MAX）② と下限（MIN）③ の間にあれば正常です。

※ 右ハンドル車のブレーキ液リザーブタンクは、エンジンルームに向かって左側にあります。

ブレーキ液の交換

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

! ブレーキ液の減りかたが著しいときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

! ブレーキ液の補給や交換は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 補給のときは、ゴミや水がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

! 補給はエンジンが冷えてから行なってください。エンジンや排気系部品などにブレーキ液が付着すると、火災が発生するおそれがあります。

! レベルインジケーターの上限を超えて補給すると、走行中に漏れて塗装面を損傷するおそれがあります。ボディに付着したときは、すみやかに水で洗い流してください。

! ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、苛酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

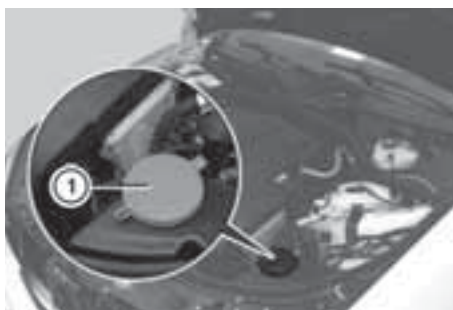
i **ベーパーロック：**長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰してブレーキパイプ内に気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

ウォッシャー液

⚠ **警 告**

ウォッシャー液は可燃性です。火気を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。また、エンジンが熱くなっているときには補給しないでください。

i ウォッシャー液には夏用と冬用の 2 種類があります。夏用には油膜の付着を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウォッシャー液を補給する

S 550

▶ リザーブタンクに補給する前に、ウォッシャー液と水を適正な混合比に混ぜます。

▶ リザーブタンクのキャップ ① を開いて補給します。

▶ ウォッシャー液を補給します。

▶ キャップ ① を取り付けます。

ウインドウウォッシャー液とヘッドライトウォッシャー液のリザーブタンクは共用です。

使用するウォッシャー液

専用の純正ウォッシャー液を水に混ぜて使用します。

! 補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! 粗悪なウォッシャー液や石けん水を使用すると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液が出なくなったときは、ウォッシャーの操作をしないでください。ウォッシャーポンプを損傷するおそれがあります。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! マルチファンクションディスプレイにウォッシャー液に関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷416 ページ）をご覧ください。

タイヤとホイール

タイヤとホイールは必ず純正品および承認されている製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

安全に関する注意

⚠ **警 告**

純正品および承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着したり、タイヤやホイールを正しく装着しないと、車両の安全性を損なうおそれがあります。

⚠ **警 告**

パンクしたタイヤにより、車両の走行、ステアリング、制動特性が著しく損なわれます。事故の危険性があります。

- パンクしたタイヤでは走行しないでください。
- ただちに応急用スペアタイヤに交換するか、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ブレーキシステムやホイールを改造しないでください。また、スペーサーやダストシールドを使用しないでください。保証の適用外になります。

走行時の注意

- 走行しているときは、振動や騒音、ステアリングが片方向にとられるなどの不自然なステアリングの動きに注意してください。ホイールやタイヤが損傷しているおそれがあります。タイヤやホイールの損傷が疑われるときは、ただちに安全な場所に停車して、タイヤとホイールを点検してください。目に見えないタイヤやホイールの損傷も、不自然なステアリングの動きの原因になります。

  異常が見つからないときも、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
- 駐車時は、タイヤやホイールが縁石や障害物に接触しないようにしてください。

  縁石などを乗り越える必要があるときは、走行速度を落とし、縁石に対してタイヤをできるだけ直角にしてください。タイヤを損傷するおそれがあります。

タイヤの点検

⚠ 警告

損傷しているタイヤは空気圧低下の原因になります。その結果、車のコントロールを失うことがあります。事故の危険性があります。損傷の兆候がないかタイヤを定期的に点検し、損傷しているタイヤはただちに交換してください。

タイヤを点検する

▶ タイヤ空気圧ゲージを使用するか、タイヤ接地部のたわみ状態(別冊「整備手帳」参照)を見て、空気圧が適切であることを点検します。

▶ タイヤに大きな傷がないこと、くぎや石などがささったり、かみ込んでいないことを点検します。

▶ タイヤが偏摩耗を起こしたり、極端にすり減っていないことを点検します。スリップサイン(別冊「整備手帳」参照)が出ているときは、新しいタイヤに交換します。

- タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを左側または右側にいっぱいまで切った状態で、タイヤの内側も点検してください。
- ほこりや水分の浸入を防ぎバルブを保護するため、ホイールバルブのキャップを必ず装着してください。また、市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。
- 応急用スペアタイヤも含め、タイヤの空気圧は定期的に点検してください。
- タイヤに空気を入れても、すぐに空気圧が低下するときは、パンクやホイールの損傷、タイヤバルブからの空気漏れなどのおそれがあります。ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

タイヤトレッド

⚠ 警告

以下の点に注意してください。

- タイヤの摩耗には十分に注意し、スリップサイン（別冊「整備手帳」参照）が現われたら、すみやかにに交換してください。タイヤの溝の深さが約 3mm 以下になると著しく滑りやすくなり、事故につながるおそれがあります。
- ウィンタータイヤの溝の深さが約 4mm 以下になったときは、必ず新品と交換してください。
- タイヤの摩耗は均一ではありません。タイヤの溝の深さや接地面の状態は定期的に点検してください。必要であれば、タイヤを片方向に向けて、タイヤの内側も点検してください。

タイヤの選択、装着と交換

- 装着するタイヤは指定されたサイズ、および 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。
- 新品のタイヤを装着したときは、走行距離が約 100km を超えるまでは速度を控えて運転することをお勧めします。
- トレッドがひどく摩耗したタイヤでは、濡れた路面を走行しないでください。タイヤのグリップが著しく低下し、ハイドロプレーニング現象を起こすおそれがあります。
- 摩耗具合にかかわらず、6 年以上経過したタイヤは新品のタイヤと交換してください。

  応急用スペアタイヤも同様に交換してください。
- 純正品または承認されている製品以外のタイヤやホイールを装着すると、車両操縦性やロードノイズ、燃料消費などに悪影響をおよぼすおそれがあります。また、乗車人数や荷物が増えた場合などには、タイヤやホイールと車体などが接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- 再生タイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。
- 大口径のホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。

ウィンタータイヤ

雪道や凍結路を走行するときや外気温度が約 7℃以下のときは、ウィンタータイヤの装着をお勧めします。

このような状況では、ウィンタータイヤを装着することで、ABS や ESP® などの効果が発揮されます。

装着するウィンタータイヤは、指定されたサイズで 4 輪とも同じ銘柄のものにしてください。

⚠ 警告

ウィンタータイヤの溝の深さが約4mm以下になったときは、必ず新品と交換してください。十分なグリップを発揮できず、雪道や凍結路の走行に適さなくなります。これにより、車両のコントロールを失い、事故の原因になります。

ウィンタータイヤを装着したときは、正しいタイヤ空気圧に調整して、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。

! ウィンタータイヤを装着していても、雪道や凍結路面では、クルーズコントロールは使用しないでください。

i ウィンタータイヤについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ 警告

ウィンタータイヤの装着時に、応急用スペアタイヤを装着すると、タイヤのサイズと種類が異なるため、事故を起こすおそれがあります。

以下の事項を守ってください。

- 状況に合わせて慎重に運転してください。
- 応急用スペアタイヤを2本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤはウィンタータイヤとはサイズが異なるため、短時間のみ使用してください。
- ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

スノーチェーン

ウィンタータイヤでも走行が困難なときは、スノーチェーンを装着してください。

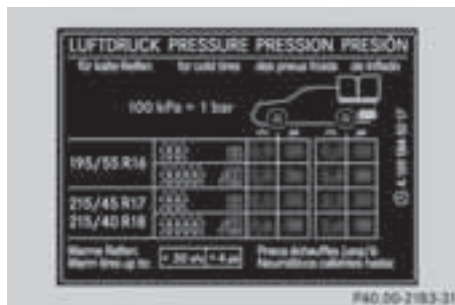
スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

スノーチェーンを装着するときは、以下のことに注意してください。

- 車種や仕様により、標準タイヤ、ホイールにスノーチェーンを装着できない場合があります。詳しくは(▷474 ～ 476 ページ)をご覧ください。
- 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。
- スノーチェーンは、4MATIC 車であっても必ず後輪に装着してください。前輪に装着すると、ボディやフェンダーの内側またはサスペンションなどに接触して、タイヤや車体を損傷するおそれがあります。
- スノーチェーン装着時は約 50km/h 以下の速度で走行してください。
- 指定品以外のスノーチェーンを装着すると、タイヤから外れたり、車体に接触するおそれがあります。
- スノーチェーンの脱着は、周囲の交通を妨げない、安全で平坦な場所で行なってください。
- 路面に雪や凍結がなくなったときは、スノーチェーンを外してください。
- AIR マティックサスペンションまたは ABC(アクティブ・ボディ・コントロール)装備車にスノーチェーンを装着したときは、車高を上げて走行してください(▷249、251 ページ)。

ℹ スノーチェーン装着中は、ESP® の機能を解除したほうが走行しやすい場合があります。

ℹ スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

タイヤ空気圧ラベル

タイヤ空気圧ラベルの例

※ タイヤ空気圧ラベルは車種により異なります。

タイヤ空気圧ラベルは燃料給油フラップ裏側に貼付されています。

装着されているタイヤのサイズや乗車人数、荷物の量などに応じて、前輪と後輪の空気圧を調整してください。

単位は「kPa(100kPa=1bar)」と「psi」で示しています。

⚠ **警 告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷したりパンクしやすくなります。また、タイヤ空気圧警告システムが正しく作動しなくなったり、車両操縦性に悪影響をおよぼすおそれがあります。

警告

市販のタイヤ空気圧計測装置をホイールバルブに装着するなど、純正品または承認されたバルブキャップ以外のものをホイールバルブに装着しないでください。それらを装着すると、バルブが常に開いた状態になるため、空気圧低下の原因になります。

! 必ず法定速度を守って走行してください。

! 空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。約 3 時間駐車したままのとき、または 1.6km 以上走行していないときは、タイヤは冷えています。周囲の気温が約 10℃変化すると、タイヤ空気圧は約 10kPa（0.1bar / 1.5psi）変化します。タイヤ空気圧を点検するときは周囲の気温に注意してください。

i 少ない荷物に対応した空気圧値は、良い乗り心地をもたらすための最低空気圧です。

荷物が少ないときも、多い荷物に対応した空気圧を使用することもできます。この空気圧値は許容されている値であり、走行性能に悪影響を与えることはありません。

環境

定期的にタイヤの空気圧を点検してください。タイヤの空気圧が低いと、燃料を余計に消費します。

i "up to 210km/h" の表示があるときは、"up to 210km/h" の空気圧に調整してください。

S 63 AMG および S 65 AMG 以外の車種では、"up to 210km/h" の空気圧から 30kPa（0.3bar / 4psi）低い空気圧までは、安全性を損なうことなく空気圧を下げることができます。これにより、乗り心地を向上させることができますが、消費燃料はやや多くなります。

※ 上記は車両の機能の説明です。公道を走行する際は、必ず法定速度や制限速度を遵守してください。

i 日頃からタイヤの空気圧を点検してください。特に重い荷物を積んで高速走行するときなどは必ず行なってください。

i 走行した直後や炎天下のようにタイヤ自体が高温になっているときは、約 0.3bar ほど空気圧が高くなります。空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。

i 応急用スペアタイヤの空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールまたはタイヤに記載されています。

タイヤ空気圧警告システム *

4 輪すべてのタイヤの回転速度をモニターし、タイヤ空気圧が低下することにより他のタイヤとの回転速度に差が生じると、マルチファンクションディスプレイに警告メッセージを表示します。

タイヤ空気圧警告システムは、以下の状況のときは作動しません。

- カーブを曲がっているとき
- 加速または減速をしているとき
- 砂地や舗装されていない地面などの滑りやすい路面を走行しているとき
- 積雪路や凍結路などを走行しているとき
- スノーチェーンを装着しているとき
- 重い荷物を積んでいるとき

上記に該当しない条件で約 20km/h 以上の速度で数分間走行した後、異常が検知されると警告が行なわれます。

⚠ **警 告**

- 空気の入れすぎなど、誤ったタイヤ空気圧の調整に対しては警告が行なわれません。燃料給油フラップの裏側にあるタイヤ空気圧ラベルを参照し、必ず規定の空気圧に調整してください。
- タイヤ空気圧警告システムは、複数のタイヤから同量の空気が漏れた場合などは検知できません。また、タイヤ空気圧の点検を行なうシステムではありません。

⚠ **警 告**

突然の空気圧低下（タイヤに異物が貫通した場合など）に対しては警告を行なうことができません。このときは、急ブレーキや急ハンドルを避け、しっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧警告システムを再起動する

以下のときは、タイヤ空気圧警告システムを再起動させてください。

- タイヤ空気圧を調整したとき
- ホイールやタイヤを交換したとき
- 新しいホイールやタイヤを装着したとき

▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動する前に、燃料給油フラップの裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベル（▷363 ページ）を参照して、すべてのタイヤが、適正な空気圧に調整されていることを確認してください。

⚠ **警 告**

タイヤ空気圧警告システムは、タイヤ空気圧が適正に調整されていないときは、正常に作動しません。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの ◀ または ▶ を押して、メインメニューから " メンテナンス " を選択します。

▶ ▲ または ▼ を押して、" タイヤ空気圧 " を選択します。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ OK を押します。

"タイヤ空気圧 警告システム 作動 OK ボタンで再起動" と表示されます。

ℹ "タイヤ空気圧 警告システム イグニッションオンで 作動できます" と表示されたときは、イグニッション位置を **2** にしてください。

▶ OK を押します。

"タイヤ空気圧は 正常ですか？" と表示されます。

▶ ▼ を押して、"はい" を選択し、OK を押します。

"タイヤ空気圧 警告システム 再始動しました" と表示されます。

数秒後に、タイヤ空気圧警告システムが作動を始めます。

再起動を中断する

▶ ステアリングスイッチの ⮌ を押します。

または

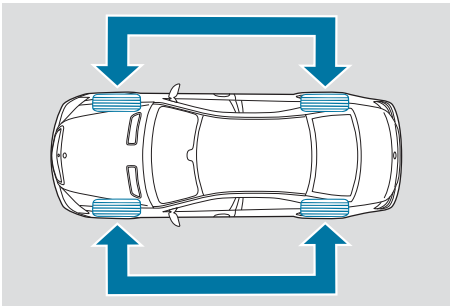
▶ "タイヤ空気圧は 正常ですか？" と表示されているときに、"キャンセル" を選択し、OK を押します。

タイヤローテーション

⚠ **警告**

- タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なるときは、タイヤローテーションを行なわないでください。前後のタイヤを入れ替えると走行安定性や車両操縦性が確保できません。
- ホイールボルトの締め付けトルクは 15kg-m（150Nm）です。タイヤローテーションを行なった後は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

タイヤの摩耗具合は、走行距離や運転方法、路面状況によって大きく異なります。

5,000 ～ 10,000km を目安に摩耗具合を点検し、偏摩耗の兆候がはっきりした時点でタイヤローテーションを行なってください。

タイヤローテーションの方法

タイヤローテーションを行なう

▶ 前後のタイヤ位置を入れ替えます。

ⓘ タイヤローテーションを適切に実施すると、タイヤの摩耗を均一化することができます。この結果、タイヤの寿命を延ばすことができます。

ⓘ タイヤを入れ替えたあとにタイヤ空気圧を調整して、タイヤ空気圧警告システム * を再起動してください。タイヤ空気圧は、燃料給油フラップの裏側に貼付してあるタイヤ空気圧ラベルで確認してください。

タイヤの回転方向について

回転方向が指定されているタイヤは、正しい方向に回転するように装着することで、ハイドロプレーニング現象などを発生しにくくし、タイヤの性能を発揮することができます。

タイヤの側面に記載された回転方向の矢印などの指示に従って装着してください。

応急用スペアタイヤは、どちらの回転方法でも装着できます。

応急用スペアタイヤを使用するときは、速度制限および使用期限に従ってください。

タイヤの保管

装着していないタイヤは、オイルやグリース類、燃料などの付着するおそれのない、乾燥した冷暗所に保管してください。

タイヤの清掃

⚠ 警 告

高圧式スプレーガンを使用してタイヤを清掃しないでください。タイヤを損傷するおそれがあります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

寒冷時の取り扱い

寒冷時には、通常とは異なった取り扱いが必要です。必ず以下の注意事項を守ってください。

冷却水 / バッテリー

メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、冷却水の不凍液の濃度が適正であることやバッテリーの液量や充電状態に不足がないことを点検してください。

エンジンオイル

車を使用する場所の外気温に合わせたグレードと粘度のエンジンオイルを使用してください。

ウォッシャー液

ウォッシャー液には、夏用と冬用があります。冬用の純正ウォッシャー液を使用してください。

ウィンタータイヤ / スノーチェーン

積雪地域では、ウィンタータイヤ、スノーチェーンが必要です（▷361、362 ページ）。

スノーチェーンは、Daimler AG の指定品を使用してください。取り扱いについては、スノーチェーンに添付されている取扱説明書に従ってください。

※ ウィンタータイヤ、スノーチェーンについて、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

冬季の手入れ

凍結防止剤がまかれた道路を走行したときは、早めに下回りの洗車をしてください。凍結防止剤が付着したまま放置すると、腐食の原因になります。凍結防止用の塩類をまく地方の場合、少なくとも 1 年に一度ボディ下回りの防錆処理をすることをお勧めします。

積雪

ボディやウインドウに雪が積もったときはすべて取り除いてください。走行中に雪が落ちて視界を妨げるおそれがあります。

ドアやトランクの凍結

ドアやトランクが凍結しているときは以下のような方法で走行する前に解凍するか、氷を取り除いてください。

- 氷を取り除くときは、樹脂製のへらなどを使用し、ボディやウインドウを傷付けないように注意してください。
- ドアやトランクが凍結して開かないときは、開口部周囲にぬるま湯をかけ、解凍してから開いてください。また、キーシリンダーにはぬるま湯がかからないようにしてください。
- 再凍結を防止するため、余分な水分はきれいに拭き取ってください。
- 凍結したまま無理にドアやトランクを開こうとすると、周囲の防水シールを損傷するおそれがあります。

ボディ下部の着氷

- 走行前にボディ下部やフェンダーの内側を点検してください。ブレーキ関連部品やステアリング関連部品、サスペンションなどに雪や氷塊が付着していたり、フェンダーの内側に雪が詰まって固まっていると、ボディを損傷したり、車のコントロールを失って事故を起こすおそれがあります。
- 雪や氷塊が付着しているときは、ぬるま湯をかけるなどして、部品やボディを損傷しないように注意しながら、雪や氷塊を取り除いてください。
- 走行中にも、はね上げた雪や水しぶきが凍結し、氷となってボディ下部やフェンダーの内側に付着します。休憩時などにこまめに点検し、雪や氷塊が付着しているときは、大きくなる前に取り除いてください。

ワイパーなどの凍結

ワイパーやドアミラー、ドアウインドウやスライディングルーフ *、自動開閉トランクリッド * などが凍結しているときに、無理に動かすとモーターを損傷するおそれがあります。

周囲にぬるま湯をかけるなどして、必ず解凍してから操作してください。

また、ドアミラーは手で動かさないでください。

乗車前に

靴底などに付着した雪や氷を取り除いてから乗車してください。ペダルを操作するときに滑ったり、車内の湿度が高くなってウインドウの内側が曇りやすくなります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

雪道で動けないとき

雪道で動けなくなったときは、先にマフラー（排気ガスの出口）と車の周囲から雪を取り除いてください。排気ガスが車内に侵入するおそれがあります。

⚠ 警告

マフラーなどが雪に埋もれた状態でエンジンをかけていると、排気ガスが車内に入り一酸化炭素中毒を起こしたり、中毒死するおそれがあります。

駐車するとき

寒冷時や積雪地での駐車時は以下の点に注意してください。

- パーキングブレーキが凍結するおそれがある場合は、パーキングブレーキを使用せず、シフトポジションを P にして、確実に輪止めをしてください。
- できるだけ風下や建物の壁、日光の当たる方向にエンジンルームを向けて駐車し、エンジンが冷えすぎないようにしてください。
- 軒下や樹木の陰には駐車しないでください。雪やつららが落ちてきてボディを損傷するおそれがあります。
- エンジンを毛布でカバーしたり、フロントグリルの内側にダンボールや新聞紙などを挟まないでください。放置したままエンジンを始動すると、火災や故障の原因になります。

走行時の注意

エンジンを停止しての走行

⚠ **警告**

走行中はエンジンを停止しないでください。

エンジンが停止しているときは、ステアリングとブレーキのパワーアシストが働きません。

ステアリングとブレーキの操作に非常に大きな力が必要になるため、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

ブレーキ

⚠ **警告**

ブレーキ操作が、後続車などに危険をおよぼすことがないように注意してください。

下り坂を走行するとき

長い下り坂や急な下り坂では必ずティップシフトで低いギアレンジを選択し、エンジンブレーキを効かせてください。

エンジンブレーキを併用することにより、ブレーキシステムへの負荷が減り、ブレーキの過熱を防ぐことができます。また、ブレーキの摩耗を防ぐことができます。

より強い制動力が必要なときは、ブレーキペダルを踏み続けるのではなく、繰り返し踏んでください。

ℹ クルーズコントロール * またはディストロニック・プラス *、可変スピードリミッターの作動中も、低いギアレンジを選択することによりエンジンブレーキを効かせることができます。

ℹ **エンジンブレーキ**：走行中、アクセルペダルを戻したときに発生するエンジンの内部抵抗を利用した減速をエンジンブレーキといいます。低いギアのときほど効きが強くなります。

ブレーキシステムに強い負荷がかかったとき

⚠ **警告**

ブレーキペダルの上に足を置いたまま運転しないでください。ブレーキパッドが早く摩耗するだけでなく、ブレーキが過熱して効かなくなったり、火災が発生するおそれがあります。

ブレーキに大きな負担がかかったときは、すぐに停車するのではなく、しばらく走行を続けてください。ブレーキシステムに風を当てることにより、より早く冷却することができます。

ブレーキを効かせずに長時間走行しているときなどは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

路面が濡れているとき

⚠ 警告

滑りやすい路面で急激なエンジンブレーキを効かせないでください。スリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

濡れた路面を走行しているときや洗車直後は、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは後続車に注意しながら低速で走行し、ブレーキの効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

凍結防止剤を散布した路面でのブレーキ性能の制限について

⚠ 警告

ブレーキディスクやブレーキパッドに塩分が付着すると、ブレーキの効きが遅れるため、制動距離が大幅に長くなり、事故につながるおそれがあります。

危険を回避するため、以下の指示に従ってください。

- 凍結防止剤を散布した道路を走行するときは、周囲の交通を妨げないように注意しながら、数回に分けてブレーキを効かせてください。ブレーキペダルを踏むことにより、ブレーキディスクやブレーキパッドに付着した塩分を除去することができます。
- 前車との車間距離を十分に確保して、慎重に運転してください。
- 駐車する前や発進直後は注意してブレーキを効かせ、ブレーキディスクから塩分を除去してください。

ブレーキパッドについて

⚠ 警告

新車時または交換した新品のブレーキパッドは、目安として走行距離が数百 km を超えるまでは制動性能を完全には発揮できません。最初の数百 km までは、必要に応じてブレーキペダルを少し強めに踏んでください。

! ブレーキが過熱している状態のときは、ブレーキに水がかからないようにしてください。ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。

必ず純正のブレーキパッドを使用してください。純正以外のブレーキパッドを使用すると、ブレーキ特性が変わって安全なブレーキ操作ができなくなるおそれがあります。

S 63 AMG、S 65 AMG のブレーキの注意事項

S 63 AMG 、S 65 AMG の AMG 強化ブレーキシステムは、走行速度やブレーキペダルの踏力、気温や湿度などの外気環境により、ブレーキノイズが発生することがあります。

また、S 63 AMG 、S 65 AMG のブレーキパッドやブレーキディスクなどブレーキシステムを構成する部品は、運転スタイルや走行状況に応じて摩耗度合いが異なってきます。走行距離は摩耗度合いを測る目安にはなりません。負荷の高い運転を行なったときは、摩耗度合いは高くなります。

! ブレーキシステムに高い負荷を与えるような走行をした後は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

(!) ブレーキ警告灯

イグニッション位置を **2** にしたときに点灯し（点灯しないときは警告灯が故障しています）、エンジン始動後に消灯します。

エンジン始動後に消灯しないときやエンジンがかかっているときに点灯する場合は、ブレーキ液の量が減っています。安全な場所に停車し、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! マルチファンクションディスプレイにブレーキ液またはブレーキパッドに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷402 ページ）をご覧ください。

タイヤグリップについて

> ⚠ **警告**
>
> 安全な走行のため、濡れた路面や凍結した路面では、乾燥した路面を走行するときよりも低い速度で走行してください。
>
> 外気温度が低いときは、路面の状態に十分注意してください。路面が凍結しているときは、ブレーキ時にタイヤと路面の間に薄い水の層が形成され、タイヤのグリップが大きく低下します。

濡れた路面での走行

ハイドロプレーニング現象

一定以上の深さがある水たまりを走行するときは、以下の状態でも、ハイドロプレーニング現象が発生するおそれがあります。

- 走行速度を落としている
- タイヤトレッドの溝の深さが十分にある

できるだけ水たまりや轍を避け、ブレーキを効かせるときは注意してください。

道路が冠水しているときや車が水没したとき

やむを得ず冠水した道路を走行するときは、以下の点に注意してください。

- 許容されている最大水深は約 25cm です。
- 波が立たないような速度で走行してください。

! 前方を走行している車両や、すれ違う車両からも波が発生します。これにより、最大水深を超えることがあります。

! 豪雨などで道路が冠水し、マフラーに水が入ったときは決してエンジンを始動しないでください。そのままエンジンを始動すると、エンジンに重大な損傷を与えるおそれがあります。

! 車が水没した場合は、水が引いた後でもエンジンを始動せずに、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

雪道や凍結路面の走行

雪道や凍結路面ではタイヤが非常に滑りやすくなっています。十分な車間距離を確保し、いつもより控えめな速度で慎重に走行してください。

安全な走行と車両操縦性を確保するため、以下の注意事項を守ってください。

- ウィンタータイヤまたはスノーチェーンを必ず使用してください。
- 走行モードをＥモードまたはＣモードに切り替えてください（▷192ページ）。
- 急ハンドル、急ブレーキ、急加速などは避けてください。
- ホールド機能やクルーズコントロール＊またはディストロニック・プラス＊は使用しないでください。
- ブレーキに付着した雪や水滴が凍結して、ブレーキの効きが悪くなることがあります。このようなときは、後続車に注意しながら低速で走行して、ブレーキの効きが回復するまでブレーキペダルを数回軽く踏んでください。

⚠ 警告

路面が滑りやすいときは、急激なエンジンブレーキを効かせないでください。駆動輪がスリップして車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

＊オプションや仕様により、異なる装備です。

走行するとき

アクセルペダルはおだやかに操作

- 発進や加速するときは、タイヤを空転させないようにおだやかにアクセルペダルを操作してください。タイヤを空転させると、タイヤだけでなくトランスミッション、駆動系部品を損傷するおそれがあります。
- 車間距離を十分に確保し、不要な急発進や急加速、急ブレーキを避けてください。

横風が強いとき

横風が強く、車が横方向に流されそうなときは、ステアリングをしっかりと握り、いつもより速度を下げて進路を保ってください。

トンネルの通過

トンネルに進入するときは、ヘッドライトを点灯してください。内部照明が暗いトンネルでは、進入直後に視界が悪くなることがありますので、十分注意してください。

走行中に異常を感じたら

警告灯が点灯したときやマルチファンクションディスプレイに故障／警告メッセージが表示されたとき

ただちに安全な場所に停車してエンジンを停止し、本書に従い対処してください。それでも警告灯や故障／警告メッセージが消灯しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。そのまま走行を続けると、事故を起こしたり、車に重大な損傷を与えるおそれがあります。

ボディ下部に強い衝撃を受けたとき

ただちに安全な場所に停車してボディの下部を点検し、ブレーキ液や燃料などが漏れていないか確認してください。漏れやボディ下部に損傷を見つけたときは、運転を中止してメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。損傷を放置したまま走行を続けると、事故を起こすおそれがあります。

走行中にタイヤがパンクしたり、破裂したとき

あわてずにしっかりステアリングを支えながら、徐々に減速して安全な場所に停車してください。急ブレーキや急ハンドル操作をすると、車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。

駐停車するとき

駐停車するときの注意事項

- マフラーは非常に高温になります。周囲に枯れ草や紙くず、油など燃えやすいものがある場所には駐停車しないでください。
- 同乗者がドアを開くときは、周囲に危険がないことを運転者が確認してください。
- 見通しの悪い場所や暗い場所では駐車しないでください。
- 炎天下での駐車時には、車内各部の温度が非常に高くなります。ステアリングやセレクターレバー、シートなどに触れると、火傷をするおそれがあります。
- 炎天下に駐車するときは、ウインドウにカバーをしたり、ステアリングやセレクターレバー、シートなどにカバーやタオルをかけて、温度の上昇を抑えてください。
- 炎天下に駐車した後は、乗車する前に換気をするなどして、車内各部の温度を下げてください。
- フロントウインドウやボンネットの周囲に枯れ葉や異物がある場合は、必ず取り除いてください。車両下部の排水口が目詰まりを起こし、車内に水が浸入するおそれがあります。

急な坂道では

急な坂道で駐車するときは、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキを確実に効かせてください。さらに輪止めをして、前輪を歩道方向に向けてください。

仮眠するとき

やむを得ず車内で仮眠するときは、安全な場所に駐車して必ずエンジンを停止してください。無意識のうちにセレクターレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込むと、車が動き出して、事故を起こすおそれがあります。

また、アクセルペダルを踏み続けると、エンジンやマフラーが異常過熱して火災の原因になります。

後退するとき

後方視界が十分に確保できないときは、車から降りて後方の安全を確認してください。

雨降りや濃霧時の運転

雨が降っていたり、濃霧が発生しているときは、以下の点に注意して、いつもより慎重に運転してください。

- 路面が滑りやすいため、タイヤの接地力が大きく低下し、通常より制動距離も長くなります。

  また、見通しが悪いため、歩行者や障害物の発見が遅れがちになります。いつもより速度を下げ、車間距離を十分に確保してください。
- 安全な視界を確保するため、必要に応じてデフロスターやリアデフォッガーを作動させてください。またはACモードでエアコンディショナーを作動させて車内を除湿してください。
- 雨降りや濃霧時は、自分の車の存在を周囲に知らせるため、ヘッドライトやリアフォグランプを点灯してください。ただし、ヘッドライトを上向きにすると、雨や霧に反射して視界を損なったり、対向車を眩惑するので、下向きで点灯してください。
- 濃霧のときはリアフォグランプを点灯し、速度を落として走行してください。危険を感じるときは、霧が晴れるまで安全な場所に停車してください。

メンテナンス

車の性能を十分に発揮させ、安全かつ快適に運転するためには、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検整備を受ける必要があります。メルセデス･ベンツ指定サービス工場では以下のような点検を行ないます。

Daimler AG 指定の点検整備

Daimler AG の指示による点検整備項目があります。これらはメンテナンスインジケーターの表示に応じて実施します。

1 年および 2 年点検整備

1 年、2 年点検整備は、車検時を含め、法律で定められ実施するものです。次の点検時期を示すステッカーがフロントウインドウに貼付してあります。詳しくはメルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

整備手帳

車には整備手帳が備えてあります。点検整備で実施された作業は整備手帳で確認してください。

日常点検

長距離走行前や洗車時、燃料補給時など、日常、車を使用するときに、お客様ご自身の判断で実施していただく点検です。

点検項目は整備手帳に記載されています。

点検を実施したときに異常が発見された場合は、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

メンテナンスインジケーター

走行距離や経過時間などに応じて、メーカー指定点検整備の実施時期を表示します。

メンテナンスインジケーターが表示されたときは、メーカー指定点検整備を行なってください。

! メンテナンスインジケーターは、エンジンオイル量表示やエンジンオイル量の警告表示ではありません。

! メーカー指定点検整備を期限までに行なわなかった場合は、保証などの対象外になることがあります。

自動表示機能

次のメーカー指定点検整備実施日の約 1 カ月前になると、イグニッション位置を **2** にしたときやエンジンがかかっているときに、メンテナンスインジケーターが自動的に表示されます。

メンテナンスインジケーターを消したいときは、ステアリングスイッチの [↩] または [OK] を押します。

手動表示

メンテナンスインジケーターは、手動でも表示できます。

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ ステアリングスイッチの [◀] または [▶] を押して、メインメニューから " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ [▲] または [▼] を押して、" ﾒﾝﾃﾅﾝｽ " を選択します。

▶ [OK] を押します。

次回のメーカー指定点検整備実施時期が表示されます。

表示メッセージ

表示メッセージは、日頃の運転スタイルなどに応じて以下のように変化します。# には "A" から "H" までのアルファベットが表示されます。

- **点検整備実施前の表示例**

  " 次回のﾒﾝﾃﾅﾝｽ # まであと XX 日です "

  " 次回のﾒﾝﾃﾅﾝｽ # まであと XX km です "

- **点検整備実施時期になったときの表示例**

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # 期限 "

- **点検整備実施時期を過ぎたときの表示例**

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # 期限 XX 日超過 "

  " ﾒﾝﾃﾅﾝｽ # 期限 XX km 超過 "

" メンテナンス A" " メンテナンス B" など、" メンテナンス " の後に表示される "A" から "H" のアルファベットは、次回のメーカー指定点検整備の範囲が、点検項目の少ない点検整備から総合的な点検整備まで、どれに該当するかを示すものです。

ただし、日本では法定点検があるため、これらの範囲は該当しません。

" メンテナンス A ＋ " " メンテナンス B ＋ " など、"A" から "H" のアルファベットの後に " ＋ " の表示があるときは、ブレーキ部品交換などの点検整備が含まれていることを示します。

ブレーキパッドは次回のメーカー指定点検整備以前に摩耗の限界に達することがあります。ブレーキパッドの交換については、メルセデス･ベンツ指定サービス工場で相談の上、以下のどちらかで対処してください。

- 今回のメーカー指定点検整備で交換する
- 後日に別途交換する

バッテリーの接続を外している間の経過日数は加算されません。

メンテナンスインジケーターのリセット

メーカー指定点検整備後に、メルセデス･ベンツ指定サービス工場でメンテナンスインジケーターをリセットしてください。

リセット後、次回メーカー指定点検整備までの基本サイクルは、走行距離では 15,000km、日数では 365 日に設定されます。いずれか先に達する距離または時期を次回のメーカー指定点検整備時期として表示します。

! メンテナンスインジケーターの表示などに異常があるときは、すみやかにメルセデス･ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

日常の手入れ

定期的に手入れをすることで、いつまでも車を美しく保つことができます。

日常の手入れには、Daimler AG が指定する用品のみを使用してください。

詳しくはメルセデス·ベンツ指定サービス工場におたずねください。

警 告

- 一部の合成クリーナーなどには、有機溶剤や可燃性物質が含まれていることがあります。カーケア用品を使用するときは、必ず添付の取り扱い上の注意を読み、指示に従ってください。
- 車内でカーケア用品を使用するときはドアやドアウインドウを開き、十分に換気してください。有機溶剤による中毒を起こしたり、静電気が可燃性ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- 車の手入れをするときに、ガソリンやシンナーなどを使用しないでください。中毒を起こしたり、気化ガスに引火して火災を起こすおそれがあります。
- カーケア用品は、子供の手が届くところや火気の近くに置いたり保管しないでください。

! 車の手入れをするときは、以下のものを使用しないでください。

- 乾いた布や目の粗い布、かたい布など
- 研磨剤を含むクリーナー
- 有機溶剤
- 有機溶剤を含むクリーナー

また、強くこすったり、スクレーパーなどのかたい物が塗装面や保護フィルムなどに触れないようにしてください。塗装面や保護フィルムなどを損傷したり、こすり傷が付くおそれがあります。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

- 走行後は、ボディに付着したほこりを毛ばたきなどで払い落としてください。
- 少なくとも月に 1 度は洗車してください。
- 飛び石などにより塗装面を損傷すると、錆の原因になります。早めに補修を行なってください。
- 保管や駐車は、風通しの良い車庫や屋根のある場所をお勧めします。
- 凍結防止剤が散布してある道路を走行したときは、すみやかに洗車し、ボディ下側やフェンダー内を洗い流してください。
- 直射日光が強く当たる場所や走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときに、塗装面の手入れをすると、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

外装

洗車時の注意

洗車をするときは、以下の点に注意してください。

- 水が凍るような寒いときや直射日光が強く当たる場所、走行した直後でボンネットが熱くなっているようなときは洗車をしないでください。
- 虫の死がいなどは、洗車前に取り除いてください。
- コールタールやアスファルトの汚れは、乾いてしまうと落としにくくなるため、早めに処理してください。
- 洗車をするときはマフラーに注意してください。マフラー後端に触れて火傷をしたり、けがをするおそれがあります。
- 走行した直後は、ブレーキディスクやホイールに直接水などをかけないでください。ブレーキディスクが熱いときに急激に冷やすと、ブレーキディスクを損傷するおそれがあります。
- ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルトが腐食するおそれがあります。
- ホイールクリーナーなどでホイールを清掃した後にそのまま放置すると、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。

  このようなときは、しばらく走行して、ブレーキディスクやブレーキパッドを乾燥させてください。

洗車

▶ ボディ全体に低圧で水をかけ、ほこりなどを洗い流します。

▶ 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を用意し、車全体にかけます。外気取り入れ口付近では少量にし、ダクト内に洗浄液が残らないように注意してください。

▶ スポンジやセーム皮などを使用して、十分な量の水で洗い流します。

▶ 洗車後は、すみやかに水滴を拭き取ります。

自動洗車機の使用

⚠ 警 告

自動洗車機で洗車したあとは、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキディスクやブレーキパッドが乾くまでは、十分注意して走行してください。

⚠ 警告

ホールド機能またはディストロニック・プラス * が作動しているときは車両にブレーキが効いています。自動洗車機で洗車するときは、ホールド機能またはディストロニック・プラスを解除してください。

! 高圧洗浄を行なう自動洗車機は使用しないでください。車内に水が浸入するおそれがあります。

! 自動洗車機が車のサイズに合っていることを確認してください。また、洗車前にドアミラーを格納してください。車体やドアミラーを損傷するおそれがあります。

! 自走式の自動洗車機を使用するときは、セレクターレバーが N に入っていることを確認してください。車を損傷するおそれがあります。

車の汚れがひどいときは、自動洗車機で洗車する前に水洗いをしてください。

! 以下の点に注意してください

- ドアウインドウとスライディングルーフ * が完全に閉じていることを確認してください。
- 余熱ヒーター / ベンチレーションを停止してください（▷293 ページ）。
- ワイパーを停止してください（▷165 ページ）。
- 洗車前にドアミラーを格納してください。
- 回転ブラシのかたさによっては、細かな傷が付き、塗装面の光沢が失われたり、劣化を早めるおそれがあります。
- リアウインドウ上部のアンテナの損傷を防ぐため、洗車機のローラーがアンテナに強く触れないよう洗車機を操作するか、ルーフからアンテナにかけてガムテープなどを貼り、アンテナ部を保護してください。

車を損傷するおそれがあります。

自動洗車機で洗車した後は、フロントウインドウやワイパーブレードに付着した洗浄液を拭き取ってください。フロントウインドウに残った残留物による汚れを防ぎ、ワイパーノイズを低減させます。

手洗いによる洗車

- 熱湯を使用しないでください。また、直射日光が当たっているときは洗車をしないでください。
- 柔らかいスポンジで洗車してください。
- 水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液を使用してください。
- ボディ全体に低圧で水をかけます。
- 外気取り入れ口付近には直接水をかけないでください。
- 十分な量の水を使用して、スポンジで洗い流します。
- きれいな水で洗い流し、セーム皮などで水滴を拭き取ります。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

- 塗装面に洗浄液がある状態で乾かないでください。

冬季に車両を使用したときは、すみやかに凍結防止剤を丁寧に取り除いてください。

高圧式スプレーガンの使用

⚠ **警告**

高圧式スプレーガンのノズルをタイヤに向けないでください。水圧が高いため、タイヤを損傷して、事故の原因になります。

! 車両と高圧式スプレーガンのノズル間には、常に最低でも約 30cm の間隔を確保してください。

高圧式スプレーガンのノズルは円を描くように動かしてください。

高圧式スプレーガンのノズルを直接、以下の物に向けないでください。

- タイヤ
- ドア接合面、ルーフ接合面、ジョイントなど
- 電気装備
- バッテリー
- コネクター
- ライト
- シール部
- トリム部品
- 吸気口
- ウインドウガラス接合面
- ボディパネルの継ぎ目部分
- サスペンション

シール部や電気装備や塗装面が損傷することにより、車内への水の浸入や故障につながります。

ホイールの清掃

! ホイールには酸性のホイールクリーナーを使用しないでください。ホイールやホイールボルト、ブレーキ構成部品を損傷するおそれがあります。

! 車を清掃した後、特にホイールクリーナーでホイールを清掃した後は、そのまま放置しないでください。ホイールクリーナーにより、ブレーキディスクやブレーキパッドなどが腐食するおそれがあります。そのため、洗車後は数分間走行してください。ブレーキ時の摩擦熱によりブレーキディスクやブレーキパッドが乾燥します。その後に車を駐車してください。

塗装面の清掃

不適切な手入れによる傷や腐食、損傷は完全に修復することはできません。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で補修することをお勧めします。

▶ 不純物は、強くこすることなく、ただちに取り除いてください。

▶ 虫の死がいはインセクトリムーバーで取り除き、周囲をよく洗い流してください。

▶ 鳥のふんは水で落とし、周囲をよく洗い流してください。

▶ 油脂類、樹液、オイル、燃料、グリースなどは、ベンジンまたはライター用オイルを染み込ませた布で軽くふいてください。

▶ タールはタールリムーバーで取り除いてください。

▶ ワックスはシリコンリムーバーで取り除いてください。

! 塗装面に以下のものを貼付しないでください。

- ステッカー
- フィルム
- マグネットなど

塗装面を損傷するおそれがあります。

マットペイント塗装車の取り扱い

マットペイント塗装車は、艶消しクリアコートで塗装されています。

非常にデリケートな塗装のため、日常の手入れなどで独特の質感を損なうおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

マットペイント塗装されたホイールについても、同様の手入れを行なってください。

! 塗装面を磨かないでください。

! 以下のことは塗装面に光沢を持たせたり、マット塗装の質感を損なわせるおそれがあります。

- 不適切な素材で力強くこすること
- 頻繁に洗車を行なうこと
- 直射日光下で洗車を行なうこと

! 塗装面の手入れには、ワックスや研磨剤、光沢剤のようなペイント保護剤は使用しないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装面に汚れが付着したときは、すみやかに取り除いてください。

! 樹脂類や油脂類などを塗装面に付着したままにしないでください。質感を損なったり、塗装面を損傷するおそれがあります。

! ワックスなどの汚れが付着したときは、シリコン除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! タールなどの汚れが付着したときは、タール除去剤を使用して、軽くたたきながら汚れを拭き取ってください。

! 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーは使用しないでください。塗装面を損傷するおそれがあります。

! 塗装の修復などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

i 洗車は、柔らかいスポンジとカーシャンプー、十分な水で、手洗いで行なうことをおすすめします。

ウインドウの清掃

⚠ 警 告

フロントウインドウを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

▶ ウインドウの外側と内側を水で湿らせた柔らかい布で清掃してください。

! ウインドウの内側を清掃するときは、乾いた布や研磨剤、有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。また、かたい物でこすらないでください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

! フロントウインドウおよびリアウインドウの排水口にたまった枯葉やほこりなどを定期的に清掃してください。排水口が目詰まりを起こし、腐食の原因になったり、電気装備を損傷するおそれがあります。

ワイパーブレードの清掃

⚠ 警 告

ワイパーブレードを清掃するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードを引っ張らないでください。ワイパーブレードを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの清掃は、頻繁には行なわないでください。また強くこすったりしないでください。表面のコーティングが損傷して異音などの原因になります。

▶ ワイパーアームを起こします。

▶ ワイパーブレードを、湿らせた柔らかい布で軽く拭きます。

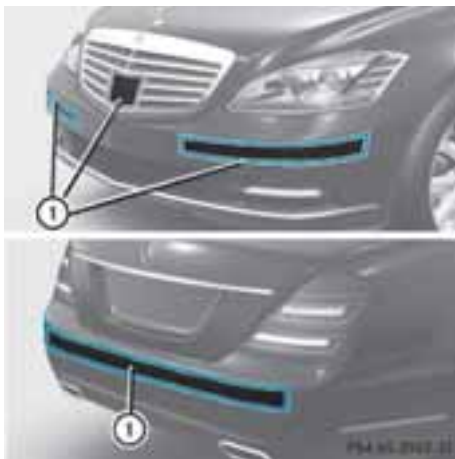
▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

! ワイパーアームを元の位置に戻すときは、ワイパーアームを持ってゆっくりと戻してください。ウインドウを損傷するおそれがあります。

ライト類の清掃

ヘッドライトを含むライト類は樹脂製レンズです。流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

! 有機溶剤や強アルカリ洗剤などを使用したり、乾いた布などで強くこすらないでください。また、ヘッドライトウォッシャーは必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。レンズを損傷するおそれがあります。

センサー * の清掃

センサー ① を清掃するときは、流水または水とカーシャンプーを混ぜた洗浄液で洗い流してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! センサーを清掃するときは、乾いた布、目の粗い布、かたい布などは使用しないでください。また、純正以外の手入れ用品を使用したり、強い力で乾拭きしないでください。センサーを損傷するおそれがあります。

! センサーには、高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用しないでください。センサーや塗装面を損傷するおそれがあります。

パーキングアシストリアビューカメラの清掃

▶ きれいな水でレンズ ① の汚れを落とし、やわらかい布で拭き取ってください。

! カメラのレンズやカメラ周辺を清掃するときは、以下のことに注意してください。カメラを損傷するおそれがあります。

- 高圧式スプレーガンやスチームクリーナーを使用するときは、ノズルをカメラやカメラの周囲に近付けないでください。
- 強い力で乾拭きしないでください。
- 有機溶剤や強アルカリ洗剤などは使用しないでください。
- ボディにワックスをかけるときは、カメラにワックスが付着しないように注意してください。付着したときは、水にカーシャンプーなどを混ぜた洗浄液で拭き取ってください。

マフラーの清掃

路面の小石や腐食性のある環境物質などの不純物の影響により、マフラーの表面にサビが発生することがあります。

特に冬場や洗車後は、定期的にマフラーを手入れすることにより、マフラーの輝きを保ち、また元の輝きを取り戻すことができます。

! ホイールクリーナーなど、アルカリ性のクリーナーでマフラーの手入れを行なわないでください。

マフラーの手入れについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

車内

⚠ **警 告**

清掃するときは、プラスチック部品の端部や、シート下部などにあるリンケージやヒンジなどの金属部分が露出した箇所に注意してください。触れるとけがをするおそれがあります。

- ウインドウに、極細の熱線やアンテナ線がプリントされている車種があります。ガラス面の内側を清掃するときは、湿った柔らかい布を使用して、熱線やアンテナ線に沿って拭き取り、傷を付けないように注意してください。

  また、乾いた布で拭いたり、研磨剤や有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。
- ウインドウに遮光フィルムなどを貼付すると、携帯電話やラジオなどの電波に影響をあたえるおそれがあります。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

COMAND ディスプレイの清掃

▶ ディスプレイの手入れを行なう前に、必ず COMAND システムをオフにして、ディスプレイの表面が熱くなっていないことを確認してください。

▶ 市販の不織布とディスプレイクリーナーを使用して、ディスプレイの表面を拭き取ります。

▶ 乾いた不織布でディスプレイを拭きます。

! ディスプレイが熱くなっているときは、冷えるまで待ってください。

! COMAND ディスプレイを清掃するときに以下のものを使用しないでください。ディスプレイを損傷するおそれがあります。

- アルコール分を含んだ溶剤や有機溶剤、燃料
- 研磨剤を含んだクリーナー
- 家庭用クリーナー

また、強い力で COMAND ディスプレイをこすらないでください。ディスプレイの表面を損傷するおそれがあります。

ナイトビューアシストプラス * の映像が不鮮明なとき

ナイトビューアシストプラスカメラ前方のフロントウインドウの内側または外側が曇っていたり汚れていると、ナイトビューアシストプラスの映像が不鮮明になります。

フロントウインドウ内側の汚れを取る

! カメラのレンズを拭かないでください。レンズが汚れているときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

! スプレー式のウインドウクリーナーなどを使用するときは、カメラのレンズにかからないように注意してください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

▶ へこみの部分からカメラカバー ① を取り外します。

▶ やわらかい布で、レンズ ② 前面のウインドウを清掃します。

プラスチックトリムの清掃

> ⚠ **警告**
>
> エアバッグの収納部分には、スプレー式の車内クリーナーや有機溶剤を含むクリーナーなどを使用しないでください。有機溶剤を含むクリーナーなどで清掃すると、収納部分の表面が劣化し、エアバッグが作動したときにプラスチック部品が損傷して車内に飛散し、重大なけがをするおそれがあります。

! プラスチックトリムに、ステッカーやフィルム、芳香剤のボトルなどを貼付しないでください。プラスチックトリムを損傷するおそれがあります。

! プラスチックトリムに、化粧品や防虫剤、日焼け止めなどが付着しないようにしてください。表面の劣化の原因になります。

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

表面の色が一時的に変化しますが、乾くと元に戻ります。

ステアリングおよびセレクターレバーの清掃

▶ 水で湿らせた布で全体を拭くか、指定のレザーケア用品を使用してください。

ウッドトリムの清掃

▶ 水で湿らせた不織布で拭き取ります。

▶ 頑固な汚れには専用のクリーナーを使用します。

! 有機溶剤を含むクリーナーや研磨剤、ワックスなどは使用しないでください。ウッドトリムを損傷するおそれがあります。

シート表皮の清掃

! 本革、人工皮革または アルカンターラ ® の表皮の清掃には、不織布を使用しないでください。 頻繁に使用すると、表皮を損傷するおそれがあります。

! 清掃するときは、以下のことに注意してください。

- 本革の表皮は、湿らせた布で注意して清掃し、その後に乾いた布で表皮を拭き取ります。 革が濡れないように注意してください。 硬化やひび割れにつながります。承認されたレザーケア用品のみを使用してください。詳細は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。
- 人工皮革の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた布で清掃します。
- 布の表皮は、1% の洗剤（洗濯液など）を含む溶液で湿らせた不織布で清掃します。拭き残しがないように、注意深くこすり、シート全体をまんべんなく拭きます。 その後、シートを乾燥させます。 清掃の効果は、汚れの種類およびどの程度の期間汚れていたかによります。
- アルカンターラ ® の表皮は、湿らせた布で清掃します。拭き残しがないように、シート全体をまんべんなく拭きます。

i 定期的な手入れを行なうことにより、表皮の見栄えと快適さを長期間維持することができます。

シートベルトの清掃

▶ ぬるま湯か薄めた石鹸水を使用して拭き取ります。

! 化学薬品を含むクリーナーを使用しないでください。また、直射日光に当てたり、80℃以上の温度で乾燥させないでください。

ルーフライニングおよびカーペットの清掃

▶ ルーフライニングは、柔らかいブラシを使用して清掃します。ひどい汚れには、指定のクリーナーを使用します。

▶ カーペットは、指定のクリーナーを使用して清掃します。

車載品の収納場所

事故・故障のとき

⚠ **警 告**

燃料などが漏れている場合は、ただちにエンジンを停止してください。また、車に火気を近付けないように注意してください。火災が発生したり、爆発するおそれがあります。

事故が起きたとき

すみやかに、以下の処置を行なってください。

- 続発事故を防ぐため、交通の妨げにならない安全な場所に停車し、エンジンを停止してください。
- 負傷者がいるときは、消防署に救急車の出動を要請するとともに、負傷者の救護を行なってください。ただし、頭部を負傷している場合は負傷者をむやみに動かさないでください。
- 警察に連絡してください。事故が発生した場所や事故状況、負傷者の有無や負傷状態などを報告してください。
- 相手の方の氏名や住所、電話番号などを確認してください。
- 自動車保険会社に連絡してください。

路上で故障したとき

安全な場所に停車して、非常点滅灯を点滅させてください。高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。追突のおそれがあるため、乗員は車内に残らず、ただちに安全な場所に避難してください。

車が動かなくなったとき

シフトポジションを N にして、同乗者や付近の人に救援を求めて、安全な場所まで車を押して移動してください。このときは、車速感応ドアロックによるキーの閉じ込みに注意してください。

シフトポジションを N にできないときは、乗員を安全な場所に避難させ、続発事故を防いでください。

! 踏切内で動けなくなったときは、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。緊急を要するときは非常信号用具も使用してください。

非常信号用具

懐中電灯をフロントドアポケットに装備しています。

ℹ 新品時は電池の自然放電を防ぐため、電池の間に紙が挟まれています。使用するときは紙を取り除いてください。

懐中電灯が十分な明るさで点灯することを定期的に点検してください。

停止表示板

停止表示板はトランクリッドの裏側に収納されています。

停止表示板を取り外す

▶ トランクを開きます。

▶ ロックノブ ② を矢印の方向に約 90 度まわして、停止表示板 ① を取り外します。

停止表示板の組み立て

▶ 左右のスタンド ① を拡げて地面に立てます。

▶ 反射板 ② を上方に引き出して、頂点のフック ③ をかみ合わせます。

救急セット

救急セットはトランクルーム内右側の収納ネットに収納されています。

▶ ストラップ ① を外します。

▶ 救急セット ② を取り出します。

ℹ 救急セットの中身が揃っていて、使用可能であることを定期的に点検してください。

車載工具

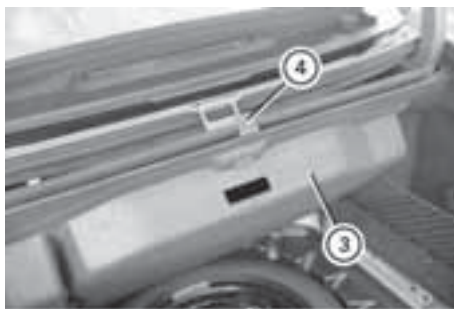
車載工具はトランク内のトランクフロアボード下に収納されています。

分割型トランクフロアボード装備車

▶ トランク内の後部トランクフロアボード ① を開きます。

※ 救急セットの車載位置は予告なく変更される場合があります。

▶ ハンドル ② を持ってラゲッジトレイ ③ を引き上げ、フック ④ をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

! フック ④ をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルを損傷します。

一枚型トランクフロアボード装備車

▶ ハンドル ② を起こし、トランクフロアボード ① を引き上げます。

▶ トランクフロアボード ① を支えながら、ハンドル ② の上端部をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけます。

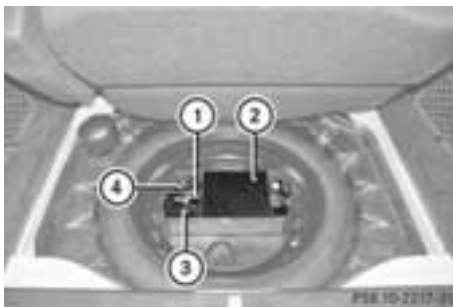
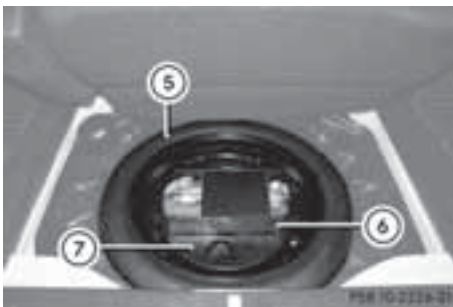
! ハンドル ② の上端部をリアウインドウ下側のトランクの縁にかけたままトランクを閉じないでください。ハンドルを損傷します。

▶ ラゲッジトレイ ③ を引き上げ、フック ④ をトランクフロアボードの縁にかけます。

! ラゲッジトレイに重い物を収納しているときは、取り出してからラゲッジトレイをかけてください。重みで落下するおそれがあります。

! フック ④ の角でけがをしないように注意してください。

※ 車種や仕様により、ラゲッジトレイは装備されません。

応急用スペアタイヤが車載されている車種

① 輪止め
② カバー
③ 車載工具
④ ジャッキ

⑤ 応急用スペアタイヤ
⑥ トレイ
⑦ ホルダー

車載工具やジャッキなどは、応急用スペアタイヤ ⑤ に取り付けられたトレイ ⑥ に収納されています。

車載工具には以下のものが収納されています。

- ホイールレンチ
- ガイドボルト
- けん引フック
- 手袋

車載工具とともに、輪止め ① とジャッキ ④ が収納されています。

応急用スペアタイヤを取り出す

▶ ホルダー ⑦ を反時計回りにまわして取り外します。

▶ 応急用スペアタイヤ ⑤ を取り出します。

※ 車種や仕様により、ホルダーの形状が異なります。

⚠ 警告

- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。
- 車が車載のジャッキだけで支えられているときは、決して車の下に身体を入れないでください。ジャッキが外れると、車に挟まれて致命的なけがをするおそれがあります。
- ジャッキは、かたくてすべりにくい、水平な場所で使用してください。また、ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした車が落下するおそれがあります。
- ジャッキアップしているときは、エンジンを始動したり、ドアやトランクを開閉したり、パーキングブレーキを解除しないでください。車が落下するおそれがあります。

タイヤフィットが車載されている車種

① 電動エアポンプ
② 輪止め
③ ジャッキ
④ タイヤフィット
⑤ 車載工具

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

※ 仕様により、車載工具の配置や内容が異なる場合があります。

輪止め

輪止めは、図の順番で組み立てます。

! 輪止めを使用するときは、図④の矢印の方向にタイヤがあたるようにします。方向に注意してください。

故障 / 警告メッセージ

車の機能やシステムに故障や異常が発生すると、マルチファンクションディスプレイに警告や注意、対応方法などが表示されます。

故障 / 警告メッセージによっては警告音が鳴ることがあります。

メッセージの色は白色、黄色、赤色で表示され、重要度の高いメッセージは赤色で表示されます。

故障 / 警告メッセージが表示された場合は、本書の指示に従ってください。

⚠ 警 告

- メーターパネルやマルチファンクションディスプレイが故障した場合は、走行速度や外気温度、表示灯 / 警告灯、故障 / 警告メッセージなどの情報が表示されません。車両操縦性に悪影響をおよぼすような故障や異常が発生した場合は内容が確認できないため、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
- 表示される故障や異常は、一部の限られた装備についてであり、また表示される内容も限られています。故障表示の機能は運転者を支援する装置です。発生した故障や異常に対処して車の安全性を維持する責任は運転者にあります。
- 走行中にステアリングのスイッチを操作するときは、直進時に行なってください。ステアリングをまわしながら操作すると、事故を起こすおそれがあります。

- 走行する前には必ずイグニッション位置を **2** にして、メーターパネルの表示灯 / 警告灯が点灯し、マルチファンクションディスプレイが表示されることを確認してください。
- 点検整備や修理などは、必要な専門知識と専用工具を備えたメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

  特に安全に関わる整備については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検整備や修理を行なってください。不適切な作業を行なうと、事故や故障の原因になります。

⚠ **警告**

S クラス HYBRID については、必ず別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書補足版」をご覧ください。

故障 / 警告メッセージを表示させる

▶ ステアリングの ◀ または ▶ スイッチを押して、メインメニューから " メンテナンス " を選択します。

故障や異常がある場合は、ディスプレイに "2 メッセージ " のように故障や異常の件数が表示されます。

故障や異常がない場合は、"0 メッセージ " と表示されます。

▶ ▼ または ▲ を押して、"2 メッセージ " などの件数表示を選択します。

▶ OK を押します。

▶ ▼ または ▲ を押して、故障 / 警告メッセージを表示します。

故障や異常がない場合は、" メッセージはありません " と表示されます。

故障 / 警告メッセージを消す

重要度の低いメッセージは表示されてから数秒後に自動的に消えます。その他のメッセージは、手動で消すまでマルチファンクションディスプレイに表示されたままになります。

ただし、重要度の高いメッセージは消すことができません。故障や異常の原因が解消するまで、故障 / 警告メッセージが繰り返し表示されます。

▶ メッセージが表示されているときに、ステアリングスイッチの OK または ↩ を押します。

メッセージが消え、故障内容が記憶されます。

※ 記載の故障 / 警告メッセージは、取扱説明書作成時点のものです。マルチファンクションディスプレイの表記などは、予告なく変更・追加されることがあります。

安全装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
現在 使用できません 取扱説明書参照	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、BAS（ブレーキアシスト）、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ **事故のおそれがあります** ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの と 、 も点灯している。 電圧が低下している可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 故障 取扱説明書参照	 ⚠ 事故のおそれがあります 故障のため、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの [ ]、[ ]、[ ] および [ ] も点灯している。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 現在使用できません 取扱説明書参照	⚠ 事故のおそれがあります ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの [ ] と [ ] も点灯している。 自己診断機能が終了していない可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えると、上記の機能は再度作動できる状態になります。 メッセージが表示されたままのとき： ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	⚠ 事故のおそれがあります メッセージが表示され、同時にメーターパネルの [ ] が点滅しているときは、ブレーキの過熱を防ぐため ETS の機能が解除されている。 ▶ メッセージが消え、メーターパネルの [ ] が消灯するまで、ブレーキを冷やしてください。 ETS は再び待機状態になります。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 故障 取扱説明書参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの と も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ｼｽﾃﾑ 故障	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの と も点灯している。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 故障 取扱説明書参照	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、EBD（エレクトロニック･ブレーキ･ディストリビューション）、ABS、ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない。 加えて、メーターパネルの と 、 も点灯し、警告音が鳴った。 アテンションアシストの機能は解除される。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などに車輪がロックするおそれがある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 解除 してください	赤色の Ⓟ が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキを効かせた状態で走行している。 ▶ 電気式パーキングブレーキを解除してください。 または ▶ 慎重に走りはじめてください。
	赤色の Ⓟ が点滅し、警告音も鳴っている。 電気式パーキングブレーキを使用して、緊急停車を行なっている（▷184 ページ）。 ▶ 緊急停車を終えたら、パーキングブレーキから手を放してください。
	赤色の Ⓟ が点滅し、黄色の Ⓟ が点灯している。警告音が鳴った。 電気式パーキングブレーキの故障により、制動力が制限されている。 **走行しているとき：** ▶ 電気式パーキングブレーキを解除してください。 **停車しているとき：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、 **1** にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを解除してください。 **メッセージが消えないときは：** ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷394 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
パ゜ーキンク゛ フ゛レーキ 取扱説明書参照	黄色の Ⓟ が点灯している。赤色の Ⓟ が点灯することがある。 電気式パーキングブレーキが故障している。 **パーキングブレーキを解除する：** ▶ 手動で電気式パーキングブレーキを解除してください。 または ▶ 慎重に走りはじめてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 **パーキングブレーキを効かせる：** ▶ イグニッション位置を **0** にしてください。 ▶ メッセージが消えるまでパーキングブレーキスイッチを約 10 秒以上押してください。 **メッセージが消えないときは：** ▶ シフトポジションを **P** にしてください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷394 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	赤色の Ⓟ が点滅している。 パーキングブレーキへの電力供給が断たれた。 ▶ パーキングブレーキスイッチを引いてください。 または ▶ 慎重に走りはじめてください。 または ▶ メッセージが消えるまで、パーキングブレーキスイッチを引いてください。
	赤色の Ⓟ が点滅し、黄色の Ⓟ が点灯している。 電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にしてください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせるか解除してください。 または ▶ 慎重に走りはじめてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(P) ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 取扱説明書参照	黄色の (P) が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後に、赤色の (P) が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電圧が高すぎるか、低すぎるために、電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ 慎重に走りはじめてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。 過電圧または電圧不足のときは： ▶ バッテリーを充電するか、エンジンを始動するなどして、電圧超過または電圧低下の原因を解消してください。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にして、電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。 電気式パーキングブレーキを解除することができないときは： ▶ 走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
	黄色の (P) が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後に、赤色の (P) が約 10 秒間点滅し、その後、消灯するか点灯し続ける。 電気式パーキングブレーキが過熱している。 ▶ システムが冷えるまで待ってください。このときは電気式パーキングブレーキを効かせたり、解除しないでください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷394 ページ）。 ▶ システムが冷えた後にイグニッション位置を **0** にしてから、**1** にして、電気式パーキングブレーキを効かせるか、解除してください。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ 故障	黄色の (P) が点灯している。電気式パーキングブレーキを効かせたか、解除した後に、赤色の (P) が約 10 秒間点滅した。その後に点滅は消灯するか、点灯したままになっている。 電気式パーキングブレーキが故障している。 ▶ イグニッション位置を **0** にしてから、**1** にして、電気式パーキングブレーキを効かせてください。 電気式パーキングブレーキを効かせることができないときは： ▶ シフトポジションを **P** にしてください。 ▶ 車が動かないように輪止めをします（▷394 ページ）。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
 ﾊﾟｰｷﾝｸﾞ ﾌﾞﾚｰｷ ｲｸﾞﾆｯｼｮﾝ ｵﾝで 解除できます	赤色または黄色の (P) が点灯している。 イグニッション位置が **0** のときに、電気式パーキングブレーキを解除しようとしている。 ▶ エンジンスイッチを **1** の位置にしてください。 または ▶ イグニッション位置を **1** にしてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 ブレーキ液レベル 点検して ください	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。加えて、メーターパネルの (!) が点灯し、警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。
 点検 取扱説明書参照	システムに異常がある。ブレーキは通常通り作動する。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ブレーキパッド 摩耗 点検してください	ブレーキパッドの摩耗が限界に達している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
プレセーフ 故障 取扱説明書参照	⚠ **けがのおそれがあります** PRE-SAFE® の重要な機能に異常がある。エアバッグなど他の乗員保護システムの機能は確保されている。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾌﾟﾚｾｰﾌ 機能が現在 制限されています 取扱説明書参照	⚠ **事故のおそれがあります** 以下により、PRE-SAFE® ブレーキが一時的に作動停止している。 • フロントグリルのディストロニック・プラスカバーが汚れている。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • バンパーのセンサーが汚れている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントグリルのディストロニック・プラスカバーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ バンパーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 PRE-SAFE® ブレーキは、再度作動可能になります。
ﾌﾟﾚｾｰﾌ 機能が制限 されています 取扱説明書参照	⚠ **事故のおそれがあります** PRE-SAFE® ブレーキが故障している。BAS プラスまたは車間距離警告も機能しない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
チャイルドシート 位置が違います 取扱説明書参照	⚠ **けがのおそれがあります** チャイルドセーフティシート検知システム装備車： センサー付き純正チャイルドセーフティシートが不適切な位置に装着されている。 ▶ センサー付き純正チャイルドセーフティシートを適切な位置に装着してください。
	⚠ **けがのおそれがあります** チャイルドセーフティシート検知システム装備車： チャイルドセーフティシート検知システムのセンサーが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 SRS システム 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** SRS（乗員保護補助装置）が故障している。 メーターパネルの も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 フロント左 故障 工場で点検 または フロント右 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 前席左側、または前席右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 リア左 故障 工場で点検 または リア右 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 後席左側、または後席右側の乗員保護補助装置に異常がある。 メーターパネルの も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
左ウインドウバッグ 故障 工場で点検 または 右ウインドウバッグ 故障 工場で点検	⚠ **けがのおそれがあります** 左側、または右側のウインドウバッグに異常がある。 メーターパネルの も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ライト

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
左ロービーム[1]	左ヘッドライト（ロービーム）が切れている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
インテリジェントライトシステム故障	インテリジェントライトシステムが故障している。インテリジェントライトシステムは作動しないが、ライトは通常通り点灯する。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障 取扱説明書を参照	車外ライトが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
オートライト 故障	ライトセンサーに異常がある。 ▶ マルチファンクションディスプレイのヘッドライト点灯モードの設定（▷222 ページ）で、常時点灯モードをオフにしてください。 ▶ ライトスイッチでライトを点灯 / 消灯してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ライトを 消して ください	ランプスイッチが [ライト] の位置にあり、イグニッション位置が 0 でエンジンスイッチにキーが差し込まれていないときに運転席ドアを開いた。警告音も鳴った。 ▶ ランプスイッチを [0] または [A] の位置にしてください。

1）他のランプが切れたときは、この例以外のメッセージが表示されます。
車外ランプのいずれかに異常が発生すると、その箇所が表示されます。

ⓘ LED ライトについては、すべての LED が切れたときにメッセージが表示されます。

エンジン

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 冷却水を点検 してください 取扱説明書参照	冷却水量が不足している。 ▶ 冷却水補給時の注意事項を読んでから、冷却水を補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁に冷却水を補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でエンジン冷却システムの点検を受けてください。
 停車して エンジンを停止	冷却水の温度が高すぎる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ 雪や泥、または氷などにより、ラジエターへの送風が遮られていないか確認してください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってからエンジンを再始動してください。エンジンを損傷します。 ▶ エンジン冷却水温度計(▷200 ページ)で冷却水温度を点検してください。 ▶ 冷却水温度が再び上昇する場合は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
	ラジエターの冷却ファンが故障している。 ▶ 冷却水温度が約 120℃以下の場合は、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行を続けることができます。 ▶ 山道の走行や発進と停止を繰り返す走行など、エンジンへの大きな負荷がかかる走行は避けてください。
	バッテリーが充電されていない。 理由として、以下の可能性がある。 • オルタネーターの故障 • V ベルトの摩耗 • 電気システムの故障 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ ボンネットを開いてください。 ▶ V ベルトが切れていないかを点検してください。 **V ベルトが摩耗しているとき：** ❗ 走行を続けないでください。エンジンがオーバーヒートするおそれがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 **V ベルトが損傷していないとき：** ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
給油の際に オイル量を点検	エンジンオイルレベルゲージ装備車： エンジンオイル量が非常に不足している。 ▶ 遅くとも、次の給油時までにエンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でオイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。
エンジンオイルを 1 リッター 補充して下さい	エンジンオイルレベルゲージ非装備車： エンジンオイル量が不足している。 ▶ エンジンオイル量を点検してください。 ▶ 必要であれば、エンジンオイルを補給してください。 ▶ 通常よりも頻繁にエンジンオイルを補給している場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でオイルが漏れていないかエンジンの点検を受けてください。
エンジンオイル量 減少 停車して エンジンを停止	エンジンオイルレベルゲージ非装備車： エンジンオイル量が不足している。エンジンを損傷するおそれがある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、ただちに停車して、エンジンを停止してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ エンジンオイルを補給し、エンジンオイル量を点検してください。
エンジンオイルを 抜いて下さい	エンジンオイルレベルゲージ非装備車： エンジンオイル量が多すぎる。エンジンや触媒を損傷するおそれがある。 ▶ 適正量になるまで、エンジンオイルを抜いてください。エンジンオイルを廃棄するときは規則に従ってください。
エンジンオイル量 測定不可能	エンジンオイルレベルゲージ非装備車： エンジンオイル量計測システムが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
給油してください	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
	燃料タンクに燃料がほとんどない。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行装備

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 アテンションアシスト 休憩してください	評価基準を基に、運転者が疲労しているか、または注意力が欠如しているとアテンションアシストが判断している。警告音も鳴った。 ▶ 必要であれば、休憩を取ってください。 長距離運転時では、定期的に休憩を取り、身体を十分に休ませてください。
 アテンションアシスト 故障	アテンションアシストが作動しない状態になっている。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ナイトビューアシスト 故障	ナイトビューアシストプラスが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
 ナイトビューアシスト 現在使用できません	ナイトビューアシストプラス用カメラの温度が高すぎる。 ▶ メルセマルチファンクションディスプレイに " ナイトビューアシスト 再び使用可能 " と表示されるまで待ってください。 以下の方法でカメラを冷やすことができます。 ▶ ナイトビューアシストプラス用カメラのカバーを開いてください。 ▶ エアコンディショナーの送風が上を向くように調整してください。
 ナイトビューアシスト ライト確実に 点灯	ナイトビューアシストプラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ライトスイッチを A か の位置にしてください。
 ナイトビューアシスト R レンジ以外にシフト	ナイトビューアシストプラスの作動条件を満たしていない。 ▶ シフトポジションを P N D のいずれかにしてください。
 ナイトビューアシスト ライト確実に点灯 R レンジ以外にシフト	ナイトビューアシストプラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ライトスイッチを A か の位置にしてください。 ▶ シフトポジションを P N D のいずれかにしてください。
 ナイトビューアシスト 使用は暗い場合のみ	周囲が明るいときにナイトビューアシストプラスを作動させようとしている。 ナイトビューアシストプラスは、周囲が暗いときにのみ作動させることができます。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
車高が あがります	車高が上昇している。
車高あがります お待ちください	停車時の車高が下がりすぎている。警告音も鳴った。 ▶ 走行しないでください。 メッセージが消えれば、車高が調整されます。
停車してください 車高が 低すぎます	車高が下がりすぎている状態で発進しようとした。 AIR マティックサスペンションが設定した車高に調整するまでには少し時間がかかる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ メッセージが消えるまで待ってから、発進してください。
	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティックサスペンションが故障している。警告音も鳴った。 ▶80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーとタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、安全に停車して、車高調整スイッチを押してください。故障内容によっては、これにより車高が上がることがあります。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
故障	⚠ **事故のおそれがあります** AIR マティックサスペンションの機能の一部が制限され、操縦安定性に影響する可能性がある。 ▶80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC 故障 停車してください	ABC（アクティブ・ボディ・コントロール）の車高が下がりすぎている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 数秒後に車高調整が終わり、メッセージは消えます。
	ABC のシステムからオイルが漏れている。 メッセージが表示され続けている。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ABC 故障 停車してください	メッセージが表示され続けている。 ABC が故障している。 80km/h を超えないように走行してください。 ▶ ステアリングを大きくまわさないでください。フロントフェンダーとタイヤを損傷するおそれがあります。 ▶ タイヤとボディの擦れる音がしないか確認してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ABC 車高があがります お待ちください	停車時の車高が下がりすぎている。 ▶ 走行しないでください。 メッセージが消えれば、車高が調整されます。
ABC 故障	ABC の機能の一部が制限され、操縦安定性に影響する可能性がある。 ▶80km/h を超えないように走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
HOLD オフ	ホールド機能が解除されている。車が横すべりしている。 警告音も鳴った。 ▶ 時間をおいてから、再度ホールド機能を作動させてください。
	ホールド機能が解除されている。作動条件を満たしていないときにブレーキペダルを強く踏み込んだ。 警告音も鳴った。 ▶ ホールド機能の作動条件を確認してください。
ﾚｰﾀﾞｰｾﾝｻｰ 自動停止されました 取扱説明書参照	電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーからの電波の発信が禁止されているため、レーダーセンサーシステムが自動的に停止する（▷478 ページ）。 ディストロニック・プラス（▷234 ページ）が作動していた場合、システムが自動的に解除され、警告音が鳴る。 アクティブブラインドスポットアシスト（▷273 ページ）が作動していた場合は、自動的に解除され、ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ が点灯する。 BAS プラス（▷60 ページ）と PRE-SAFE® ブレーキ（▷66 ページ）も機能を停止する。 ▶ 走行を続けてください。 電波望遠鏡から十分離れた場所に移動すれば、上記の機能は再び作動させることができます。
ﾚｰﾀﾞｰｾﾝｻｰ ｵﾌ 取扱説明書参照	レーダーセンサーシステムが解除されている。 ▶ レーダーセンサーシステムが作動していることを確認してください（▷226 ページ）。 ▶ レーダーセンサーシステムを作動させてください（▷226 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状／▶ 対応
ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾚｰﾝｷｰﾌﾟｱｼｽﾄ 現在使用できません 取扱説明書参照	以下の理由により、アクティブレーンキーピングアシストが一時的に停止している。 • カメラ部分のフロントウインドウが汚れている。 • 大雨や雪、霧などにより、視界が妨げられている。 • 車線ラインがない道路を長時間走行している。 • 車線ラインが汚れや雪などにより覆われている。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントウインドウを清掃してください（▷385 ページ）。 カメラが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 アクティブレーンキーピングアシストは、再度作動可能になります。
ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾚｰﾝｷｰﾌﾟｱｼｽﾄ 作動できません	アクティブレーンキーピングアシストが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄ 現在使用できません 取扱説明書参照	以下により、アクティブブラインドスポットアシストが一時的に停止している。 • センサーが汚れている。 • 豪雨や雪のため機能に支障がある。 • レーダーセンサーが作動温度外になっている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ も点灯している。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ センサーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 アクティブブラインドスポットアシストは、再度作動可能になります。
ｱｸﾃｨﾌﾞ ﾌﾞﾗｲﾝﾄﾞｽﾎﾟｯﾄ 故障	アクティブブラインドスポットアシストが故障している。 ドアミラーの黄色の表示灯 ▲ も点灯している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ ｵﾌ	ディストロニック・プラスが解除された（▷234 ページ）。自動的に解除されたときは、警告音も鳴る。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 再び作動	ディストロニック・プラスが一時的に停止した状態から再び作動可能な状態になった。ディストロニック・プラスを再度作動できます（▷234 ページ）。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 現在使用できません 取扱説明書参照	以下により、ディストロニック・プラスが解除され、一時的に作動停止している。 • フロントグリルのディストロニック・プラスカバーが汚れている。 • 豪雨や雪などのため機能に支障がある。 • バンパーのセンサーが汚れている。 • 近くのテレビ局やラジオ局からの電磁波や、その他の電磁波の発生源などにより、レーダーセンサーシステムが一時的に作動停止している。 • システムが作動温度外になっている。 • バッテリーの電圧が低くなっている。 警告音も鳴った。 メッセージが消えないとき： ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ 電気式パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ フロントグリルのディストロニック・プラスカバーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ バンパーを清掃してください（▷383 ページ）。 ▶ エンジンを再始動してください。 センサーが完全に作動可能であることをシステムが検知したときは、メッセージが消えます。 ディストロニック・プラスは、再度作動可能になります。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 故障	ディストロニック・プラスが故障している。BAS プラスと PRE-SAFE® ブレーキも機能しない。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ 制御待機中	アクセルペダルを踏んだ。ディストロニック・プラスが車両の速度の制御しなくなった。 ▶ アクセルペダルから足を放してください。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽ - - - km/h	ディストロニック・プラスの作動条件を満たしていない。 ▶ ディストロニック・プラスの作動条件を確認してください（▷234 ページ）。
ﾃﾞｨｽﾄﾛﾆｯｸﾌﾟﾗｽと 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞﾘﾐｯﾀ 故障	ディストロニック・プラスと可変スピードリミッターが故障している。 警告音も鳴った。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状／▶ 対応
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙと 可変ｽﾋﾟｰﾄﾞ ﾘﾐｯﾀ 故障	クルーズコントロールと可変スピードリミッターが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
制限速度 - - - km/h	アクセルペダルをいっぱいに踏み込んでキックダウンしているため、可変スピードリミッターを設定できない。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ 故障	クルーズコントロールが故障している。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
ｸﾙｰｽﾞ ｺﾝﾄﾛｰﾙ - - - km/h	クルーズコントロールの作動条件を満たしていない。 例えば、約 30km/h 以下の速度でクルーズコントロールを作動させようとした。 ▶ 設定可能な状況であれば、約 30km/h 以上の速度で走行し、クルーズコントロールを設定してください。 ▶ クルーズコントロールの作動条件を確認してください（▷227 ページ）。

タイヤ

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
タイヤ空気圧 タイヤを点検 してください	⚠ **事故のおそれがあります** タイヤ空気圧警告システムが空気圧の急激な低下を検知した。 警告音も鳴った。 ▶ 急ハンドルや急ブレーキを避けて停車してください。そのときは、交通状況に注意してください。 ▶ タイヤを点検し、必要であれば該当するタイヤを修理するか、交換してください。 ▶ タイヤ空気圧を点検し、必要であれば空気圧を適正にしてください。 ▶ 適正なタイヤ空気圧に調整した後に、タイヤ空気圧警告システムを再起動してください（▷365 ページ）。
タイヤ空気圧 空気圧 点検後 警告システム 再始動	タイヤ空気圧警告システムの警告が行なわれ、その後に再起動が行なわれていない。 ▶ すべてのタイヤの空気圧を適正にしてください。 ▶ タイヤ空気圧警告システムを再起動してください。
タイヤ空気圧 警告システム 故障	タイヤ空気圧警告システムに異常がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

車両

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジン始動 P または N にシフト	シフトポジションが D または R のときにキーレスゴー操作でエンジンを始動しようとした。 ▶ シフトポジションを P または N にしてください。
バックアップ バッテリ 故障 (白色で表示)	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーが充電されていない。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
バックアップ バッテリ 故障 (赤色で表示)	オートマチックトランスミッション用の補助バッテリーがあがっている。 電気システムに異常がある場合は、オートマチックトランスミッションを変速できない可能性がある。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
P レンジからシフト ブレーキを踏んで ください	ブレーキペダルを踏まずに、セレクターレバーを D、R または N にしようとした。 ▶ ブレーキペダルを踏んだ状態で、セレクターレバーを操作してください。
セレクタが 走行位置	シフトポジションが N のときに運転席ドアを開いた。 ▶ シフトポジションを P にしてください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。
ギアチェンジせず 工場で点検!	故障により、シフトポジションを変更できない。 警告音も鳴った。 シフトポジションが D のとき: ▶ シフトポジションを D から動かさないようにして、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 シフトポジションが N、R、P のいずれかのとき: ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
停止中のみ P レンジにシフトできます	約 10km/h 以上で走行しているときにシフトポジションを P にしようとした。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行しないでください。 ▶ シフトポジションを P にしてください。
(トランク表示灯)	トランクが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ トランクを確実に閉じてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
	⚠ 事故のおそれがあります ボンネットが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ボンネットを確実に閉じてください。
	ドアが完全に閉じていない状態で走行している。 ▶ ドアを確実に閉じてください。
パワーステアリング 故障 取扱説明書を参照	⚠ 事故のおそれがあります パワーステアリングのアシストが低下している。 ステアリング操作により大きな力が必要になる。 ▶ 大きな力でステアリングが操作できるか確認してください。 **安全にステアリング操作ができるとき：** ▶ 注意しながら、メルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行してください。 **安全にステアリング操作ができないとき：** ▶ 走行を続けないでください。最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。
ウォッシャ液を 補充してください	リザーブタンクのウォッシャー液量が最低レベルまで減っている。 ▶ ウォッシャー液を補給してください。

キー

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
キーが違います	エンジンスイッチに不適切なキーを差し込んでいる。 ▶ 正しいキーを使用してください。
キーを交換してください	キー交換する必要がある。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
キーの電池を交換してください	キーの電池が消耗している。 ▶ 電池を交換してください。
キーを認識できません（赤色のメッセージ）	車内にキーがない。 警告音も鳴った。 エンジンを停止すると、車の施錠やエンジン始動ができなくなる。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ キーを探してください。
	強い電波の干渉により、エンジンがかかっているときに、キーが検知されていない。 警告音も鳴った。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
キーを認識できません（白色のメッセージ）	キーが検知されていない。 ▶ 車内でキーの位置を変えてください。 それでもキーが検知されないとき： ▶ 車内でキーの位置を変えてください。 ▶ 必要であれば、エンジンスイッチにキーを差し込んで操作を行なってください。
キーが車内にあります	施錠時に車内でキーが検知されている。 ▶ 車内からキーを出してください。
スタートボタンを外しキーを入れてください	システムが一時的に故障しているか異常がある。 ▶ エンジンスイッチにキーを差し込んで、希望の位置にまわしてください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ディスプレイ表示	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
ドアを閉めてから ロックしてください	施錠時にいずれかのドアが開いている。警告音も鳴った。 ▶ すべてのドアを閉じてから、再度施錠操作を行なってください。

メーターパネルの表示灯 / 警告灯

シートベルト

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
フロントドアを閉じてエンジンを始動すると、赤色のシートベルト警告灯が点灯する。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いている。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を､別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯します。
赤色のシートベルト警告灯が点滅し、断続的な警告音も鳴る。	⚠ **けがのおそれがあります** 運転席または助手席の乗員がシートベルトを着用していない状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ シートベルトを着用してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。
	⚠ **けがのおそれがあります** 助手席シートの上に荷物を置いた状態で走行し、速度が約 25km/h を超えた。 ▶ 助手席シートに置いてある荷物を､別の場所に確実に固定してください。 シートベルト警告灯が消灯し、断続的な警告音も停止します。

安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
(!) エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** リザーブタンクのブレーキ液量が不足している。 ▶ 道路や交通状況に注意しながら、すみやかに安全に停車してください。状況を問わず、走行を続けないください。 ▶ パーキングブレーキを効かせてください。 ▶ ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ブレーキ液を補給しないでください。問題は解消しません。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS（アンチロック・ブレーキング・システム）に異常があるため機能が解除されている。そのため、BAS（ブレーキアシスト）、BAS プラス（ブレーキアシストプラス）、ESP®（エレクトロニック・スタビリティ・プログラム）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(ABS) エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS の機能が一時的に作動しない。BAS、BAS プラス、ESP®、EBD（エレクトロニック・ブレーキ・ディストリビューション）、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも解除されている。 システムの自己診断が終了していない。または、例えばバッテリーの電圧が低下している可能性がある。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 警告灯が消灯すれば、上記の機能は再度作動できる状態になります。 警告灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ABS 警告灯が点灯する。警告音も鳴った。	⚠ **事故のおそれがあります** EBD に異常がある。そのため、ABS、BAS、BAS プラス、ESP®、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプも作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに赤色のブレーキ警告灯と黄色の ESP® 表示灯、ESP® オフ表示灯、黄色の ABS 警告灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ABS と ESP® に異常がある。そのため、BAS、BAS プラス、EBD、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプなども、故障のため作動しない状態になっている。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
走行中に黄色の ESP® 表示灯が点滅する。	⚠ **事故のおそれがあります** 車が横滑りをする危険性があるか、少なくとも 1 つの車輪が空転し始めているため、ESP® やトラクションコントロールなどが作動している。 クルーズコントロールまたはディストロニック・プラスの機能は解除される。 ▶ 発進するときは、アクセルペダルを必要以上に踏み込まないでください。 ▶ 走行中はアクセル操作をより慎重に行なってください。 ▶ 道路と天候の状態に合わせて運転してください。 ▶ ESP® の機能を解除しないでください。例外は（▷64 ページ）をご覧ください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP® の機能が解除されている。車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、走行安定性を確保しようとすることができない。 ▶ ESP® を待機状態にしてください。例外は（▷64 ページ）をご覧ください。 ▶ 道路と天候の状態に合わせて運転してください。 ESP® を待機状態にできないとき： ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で、ESP® の点検を受けてください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** 故障のため、ESP®、BAS、BAS プラス、PRE-SAFE®、PRE-SAFE® ブレーキ、ホールド機能、ヒルスタートアシスト、アダプティブブレーキランプの機能が解除されている。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® により走行安定性を確保しようとすることができない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。 アテンションアシストは解除される。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の ESP® 表示灯と ESP® オフ表示灯が点灯する。	⚠ **事故のおそれがあります** ESP®、BAS、PRE-SAFE®、ホールド機能、ヒルスタートアシストが一時的に作動しない状態になっている。 アダプティブブレーキランプと BAS プラス、PRE-SAFE® ブレーキも作動しない可能性がある。 車が横滑りし始めたときや車輪が空転し始めたときに、ESP® により走行安定性を確保しようとすることができない。 システムの自己診断が終了していない。 ブレーキは通常通り作動するが、上記の機能は作動しない。そのため、急ブレーキ時などには車輪がロックする可能性がある。 アテンションアシストは解除される。 ▶ 適切な直線路で約 20km/h 以上の速度でステアリングを軽く左右に操作し、注意して走行してください。 メッセージが消えれば、上記の機能は作動できる状態になります。 表示灯や警告灯が点灯したままのとき： ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
(P) 走行中に赤色のパーキングブレーキ表示灯が点滅するか、黄色のパーキングブレーキ警告灯が点灯する。または、両方の表示灯 / 警告灯が点滅 / 点灯している。	電気式パーキングブレーキが一時的に故障しているか、作動を停止している。 ▶ マルチファンクションディスプレイの追加メッセージに従ってください。

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
エンジンがかかっているときに赤色のエアバッグシステム警告灯が点灯する。	⚠ けがのおそれがあります 乗員保護装置が故障している。エアバッグやシートベルトテンショナーが不意に作動したり、事故のときに作動しない可能性がある。 ▶ 注意して走行してください。 ▶ ただちにメルセデス·ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

エンジン

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
 エンジンがかかっているときに黄色のエンジン警告灯が点灯する。	以下のものが故障している可能性がある。 • エンジン制御システム • 燃料噴射システム • 排気システム • イグニッションシステム • 燃料システム 排出ガスの制限値を超えたために、エンジンがエマージェンシーモードになっている可能性がある。 ▶ すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。
エンジンがかかっているときに黄色の燃料残量警告灯が点灯する。	燃料の残量が少なくなっている。 ▶ 最寄りのガソリンスタンドで給油してください。

走行安全装備

トラブル	考えられる原因および症状 / ▶ 対応
走行中に赤色の車間距離警告灯が点灯する。	⚠ 事故のおそれがあります 先行車との車間距離が短すぎる。 ▶ 車間距離を長くとってください。
走行中に赤色の車間距離警告灯が点滅し、警告音も鳴る。	⚠ 事故のおそれがあります 先行車または走行車線上にある障害物に、非常に高い速度で接近している。 ▶ ただちにブレーキ操作を行なう準備を整えてください。 ▶ 交通状況に十分注意してください。必要であれば、ブレーキペダルを踏むか、回避操作を行なってください。 さらなる情報については、ディストロニック・プラス（▷234 ページ）、または PRE-SAFE® ブレーキ（▷66 ページ）をご覧ください。

非常時の解錠 / 施錠

エマージェンシーキー

リモコン操作やキーレスゴー操作で車を解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠できます。

車を施錠してから約 10 秒以上経過した後に、エマージェンシーキーで運転席ドアやトランクを解錠して開くと、盗難防止警報システムが作動します。

以下のいずれかの操作をすると、警報が停止します。

- キーをエンジンスイッチに差し込む
- キーのいずれかのボタンを押す
- キーがキーレスゴーの左右側アンテナの検知範囲にあるときはドアハンドルに触れる
- トランクのキーレスゴースイッチ * を押す
- キーがキーレスゴーのトランク側アンテナの検知範囲にあるときは、トランクのハンドルを引く
- キーが車室内またはトランク内にあるときは、エンジンスイッチに取り付けたキーレスゴースイッチを押す

  ただし、キーがトランク内にあるときは、位置によっては警報を停止することはできません。

エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠しても、他のドア、トランク、燃料給油フラップは解錠されません。

キーからエマージェンシーキーを取り出す

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を矢印の方向に抜きます。

運転席ドアの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、運転席ドアのドアハンドルのキーシリンダーに差し込みます。

左ハンドル車

▶ エマージェンシーキーを解錠の位置 1 にまわします。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ⓘ 左ハンドル車は反時計回りに、右ハンドル車は時計回りにまわします。

▶ ドアハンドルをいっぱいに引きます。

運転席ドアのロックノブが上がり、運転席ドアが解錠されます。

▶ エマージェンシーキーを元の位置にまわして、キーシリンダーから抜きます。

▶ ドアハンドルを引きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

ⓘ エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠して開いた後、エンジンスイッチにキーを差し込むと、燃料給油フラップが解錠されます。

車両の施錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作で車両を施錠できないときは、以下の操作を行なってください。

▶ リアドアを開き、リアドアのロックノブを押し込みます。

▶ リアドアを閉じます。

▶ 助手席ドアを開きます。

▶ 運転席ドアとトランクを閉じます。

▶ 運転席ドアのロックノブを押し込みます。

▶ 開いている助手席ドアのロックノブを押し込みます。

ⓘ キーを携帯していていて、キーが車内に残っていないことを確認してください。

▶ 助手席ドアを閉じます。

▶ ドアとトランクが施錠されていることを確認します。

トランクが施錠されていないときは、トランクを独立施錠します (▷107 ページ)。

! キーの閉じ込みに注意してください。

ⓘ 上記の操作で車両を施錠したときは、燃料給油フラップは施錠されません。また、盗難防止警報システムは待機状態になりません。

トランクの解錠

リモコン操作またはキーレスゴー操作でトランクを解錠できないときは、以下の操作を行なってください。

! トランクを開くときは、上方や後方に十分な空間があることを確認してください。

ⓘ エマージェンシーキーで解錠した後に、エマージェンシーキーをキーシリンダーから抜いてトランクを閉じると再び施錠されます。キーの閉じ込みに注意してください。

▶ キーからエマージェンシーキーを取り外します。

▶ エマージェンシーキーを、トランクのキーシリンダーにいっぱいまで差し込みます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置から反時計回りにまわして、2 の位置にします。

トランクが解錠して開きます。

▶ エマージェンシーキーを 1 の位置に戻して、キーシリンダーから抜きます。

▶ エマージェンシーキーをキーに収納します。

NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット

事故などのときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動した場合、リセットをしないと次に後方から衝撃を受けたときに NECK PRO アクティブヘッドレストが作動せず、頭部・頸部を保護することができません。

このときは、NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業を行なってください。

ℹ NECK PRO アクティブヘッドレストのリセット作業は非常に大きな力を必要とするため、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ℹ 車種や仕様により、リセット方法が異なる場合があります。このときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

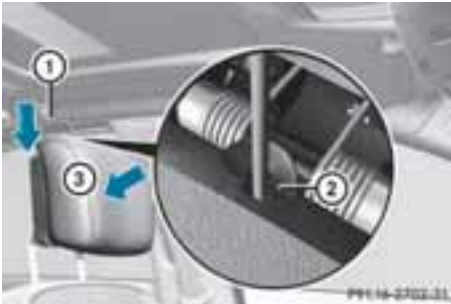
▶ ヘッドレストの下部を ② の方向に押します。

▶ ヘッドレストを ③ の方向に押し下げます。

▶ ヘッドレストの上部を ① の方向に押して、確実にロックさせます。

もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行なってください。

リセットできないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で作業を行なってください。

ラグジュアリーヘッドレスト *

▶ トランクの車載工具からリセットツールを取り出します。

▶ ラグジュアリーヘッドレストとヘッドレストのリアカバーの間にあるガイド ② の中にリセットツールを差し込みます。

▶ ロックする音が聞こえるまでリセットツールを押し込みます。

▶ リセットツール ① を抜きます。

▶ ラグジュアリーヘッドレストのクッション ③ がロックするまで押し戻します。

▶ もう一方の前席ヘッドレストでも同様の作業を行ないます。

▶ 車載工具にリセットツール ① を戻します。

! 安全のため、追突など後方からの衝撃を受けたときは、NECK PRO アクティブヘッドレストの点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

キーの電池交換

リモコンの作動可能距離が短くなったり、リモコン操作ができない場合は、電池の消耗が考えられます。メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

電池の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

⚠ 警 告

電池には毒性および腐食性を持つ物質が含まれています。子供の手の届かないところに保管してください。

誤って電池を飲み込んでしまったときは、ただちに医師の診断を受けてください。

環 境

電池には有害物質が含まれています。環境保護のため、使用済みの電池を廃棄するときは、新しい電池をお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼するか、ボタン電池専用の回収箱に廃棄してください。

キーの電池を点検する

▶ キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押します。

キーの表示灯 ① が 1 回点滅すれば電池は正常です。

ℹ 車両の近くでキーの電池の点検を行なうと、キーの解錠ボタンまたは施錠ボタンを押したときに、車両も解錠または施錠されます。

電池交換の手順

リチウム電池（CR2025 3V）を用意します。

▶ ストッパー ① を矢印の方向に押しながら、エマージェンシーキー ② を抜き取ります。

▶ エマージェンシーキー ② を図の位置に差し込み、カバー ③ が浮き上がるまで、エマージェンシーキーを矢印の方向に押します。

ℹ 指でカバー ③ を押さえないようにしてください。カバーが浮き上がりません。

▶ カバー ③ を取り外します。

▶ 電池側が下になるようにキーを手のひらの上に乗せて、電池 ④ が外れるまでキーを軽くたたきます。

▶ 電池のプラス（+）面が見えるようにして、新しい電池を取り付けます。このとき、脂分を含まないきれいな布で電池を持つようにしてください。

▶ 電池の表面に汚れや脂分が付着していないことを確認します。

▶ カバー ③ の凸部 ⑤ をキーに差し込んでから、カバーを押してロックします。

▶ エマージェンシーキー ② をキーに収納します。

▶ キーのすべての機能が作動することを確認します。

電球の交換

電球に関する注意

バイキセノンヘッドライト

バイキセノンヘッドライトはお客様ご自身で交換することはできません。電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

⚠ **警 告**

バイキセノンヘッドライトには高電圧が発生しています。バイキセノンヘッドライトのバルブソケットや配線に手を触れると感電して、重大なけがや致命的なけがをするおそれがあります。バイキセノンヘッドライトのカバーは決して取り外さないでください。

バイキセノンヘッドライトの交換は行なわないでください。交換は必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

ライト類は車両の重要な安全装備のひとつです。すべてのライト類が正しく点灯することを確認してください。

電球が切れてライトが点灯しないときは、同規格・同容量の電球と交換してください。交換したライトが点灯しない場合や、すぐに切れた場合は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

その他のライト

⚠ **警告**

- 電球は非常に熱くなります。電球の交換は電球が冷えた状態で行なってください。火傷をするおそれがあります。
- 電球は子供の手の届かないところに保管してください。電球を損傷したり、子供がけがをするおそれがあります。
- 落下したり、衝撃が加わった電球を使用しないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトには圧力のかかったガスが封入されているため、電球が熱くなっているときに電球に触れたり、電球を取り外さないでください。破裂するおそれがあります。
- ハロゲンライトを交換するときは、防護眼鏡や手袋などを着用し、直接手で電球に触れないようにしてください。

! 電球の交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。やむを得ずお客様自身で交換するときは、以下の注意を守って該当箇所の電球を交換してください。

! 電球には素手で触れないようにしてください。電球の表面に少しでも汚れや脂分が付着すると、ガラス表面で溶けて、電球の寿命が短くなります。電球に触れるときは、きれいな布や手袋などを使用するか、バルブの金属部を持つようにしてください。

! 指定以外の電球を使用しないでください。過熱してレンズを損傷したり、故障の原因になります。

! 電球は高温になるため、電球の表面に油などが付着すると切れやすくなります。触れたときは、薄めた中性洗剤を含ませた柔らかい布で電球をよく拭いてください。

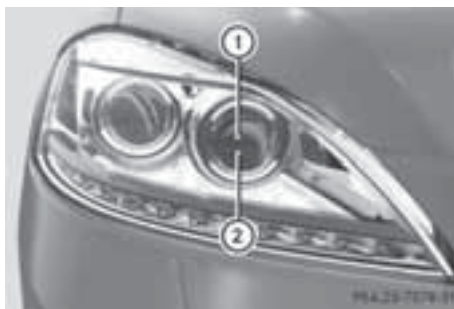
! マルチファンクションディスプレイにライトに関する故障 / 警告メッセージが表示されたときは（▷405 ページ）をご覧ください。

このときは、すみやかに電球を交換してください。

バイキセノンヘッドライト以外にもお客様自身で交換できない電球があります。お客様ご自身で交換できない場合や、その他の電球の交換については、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

交換可能な電球について

お客様自身で交換できる電球は以下の通りです。交換する場合は、必ず指定された電球を使用してください。

ヘッドライト

①	ヘッドライト（上向き）[1]	H11 55 W
②	赤外線照射ライト *[1]	H11 55 W

1） 左側ライトの電球交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

! 電球の交換を行なうときは、実際に車両に装着されている電球の規格を確認してください。

ワイパーブレードの交換

⚠ 警 告

ワイパーブレードを交換するときは、必ずエンジンスイッチからキーを抜くか、キーレスゴー操作でイグニッション位置を **0** にしてください。ワイパーが作動してけがをするおそれがあります。

! ワイパーブレードの損傷を避けるため、ワイパーブレードのゴム部分に触れないようにしてください。

! ワイパーアームを起こしたままボンネットを開かないでください。ボンネットとワイパーが当たり、損傷するおそれがあります。

! ワイパーアームが取り付けられていない状態で、ワイパーアームを元の位置に戻さないでください。

! ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーアームを確実に持ってください。ワイパーブレードが取り付けられていない状態でワイパーアームから手を放すと、ワイパーアームがフロントウインドウに当たり、フロントウインドウを損傷するおそれがあります。

! ワイパーブレードの交換はメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なうことをお勧めします。

ワイパーブレードを取り外す

▶ イグニッション位置を **1** か **2** にします。

▶ コンビネーションスイッチをまわして、ワイパースイッチを [—] の位置にします。

▶ ワイパーアームが垂直の位置になったときに、イグニッション位置を **0** にするか、エンジンスイッチにキーを差し込んでいるときはキーを抜きます。

▶ ワイパーアーム ① をいっぱいまで起こします。

! ワイパーアームを起こすときにボンネットと接触するときは、ワイパーを停止する位置が不適切です。ボンネットを損傷するおそれがありますので、再度ワイパーを作動させ、ワイパーアームが垂直の位置になったときにワイパーを停止させてください。

▶ ワイパーブレードを図の位置にまわします。

▶ ワイパーブレードを矢印の方向に動かし、ワイパーアームの固定部から取り外します。

ワイパーブレードを取り付ける

▶ 新しいワイパーブレードを、取り付けたときとは反対の方向にワイパーアームの固定部に差し込みます。

▶ ワイパーブレードをワイパーアームと平行の位置にします。

▶ ワイパーアームを元の位置に戻します。

パンクしたとき

⚠ **警告**

- パンクしたときは、あわててブレーキペダルを踏まないでください。ステアリングをしっかり握って徐々に速度を落とし、安全な場所に停車してください。
- 停車したときは、非常点滅灯を点滅させてください。また、十分注意しながら車の後方に停止表示板を置いてください。
- パンクしたタイヤで走行しないでください。車のコントロールを失い、事故を起こすおそれがあります。また、タイヤが異常に過熱し、火災が発生するおそれがあります。

タイヤ交換およびタイヤ修理の準備

▶ 安全を確保できる、かたくてすべりにくい、水平な場所に停車します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ ステアリングを直進の位置にします。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ エンジンを停止します。

▶ エンジンスイッチからキーを抜きます。キーレスゴースイッチでエンジンを停止したときは、運転席ドアを開きます。

▶ キーレスゴーを使用していたときは、エンジンスイッチからキーレスゴースイッチを取り外します(▷110 ページ)。

▶ 周囲の状況に注意しながら乗員を車から降ろして、ただちに安全な場所に避難させます。

▶ 周囲の状況に注意しながら車から降ります。

▶ 運転席ドアを閉じます。

▶ 車の後方に停止表示板を置きます。

ℹ 高速道路や自動車専用道路では、車の後方に停止表示板を置くことが法律で義務付けられています。

応急用スペアタイヤが車載されている場合

応急用スペアタイヤに交換したときは、標準タイヤとサイズが異なるため、必ず 80km/h 以下で走行してください。

⚠ **警告**

- 応急用スペアタイヤと標準タイヤのサイズが異なるため、応急用スペアタイヤを装着した場合、走行特性が大きく変化します。注意して走行してください。
- 応急用スペアタイヤを 2 本以上装着して走行しないでください。
- 応急用スペアタイヤの使用は短い時間にとどめてください。また、ESP® の機能を解除しないでください。
- 応急用スペアタイヤを交換するときは、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。交換するタイヤのサイズと種類が正しいことを確認してください。

! 応急用スペアタイヤは各車専用です。他車のものは使用しないでください。

! タイヤ交換をするときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤ交換をするときは、エンジンを始動しないでください。

! 車速感応ドアロック（▷101 ページ）を設定した状態で車を押したり、タイヤ交換などで車を持ち上げるときは、イグニッション位置を **0** にしてください。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されるおそれがあります。

タイヤ交換の準備

▶ タイヤ交換に必要な準備を行ないます（▷433 ページ）。

▶ 輪止め、ホイールレンチ、ジャッキ、ガイドボルト、応急用スペアタイヤ、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト * を準備します（▷391 ページ）。

水平な場所で輪止めをする場合

▶ 作業中に車が動き出すのを防ぐため、交換するタイヤの対角線の位置にあるタイヤの前後に輪止めをします。

傾斜地で輪止めをする場合

▶ やむを得ず傾斜地でタイヤ交換をするときは、交換するタイヤの反対側の両輪の下り側に輪止めをします。

ℹ 輪止めは 1 個車載されています。もう 1 個必要なときは、適切な大きさの木片か石を輪止めとして使用してください。

ジャッキアップする

⚠ 警 告

ジャッキが交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートに正しく取り付けられていないと、ジャッキアップした車が落下して、けがをするおそれがあります。

ジャッキは、交換するタイヤに適した位置のジャッキサポートにのみ取り付けてください。ジャッキは側面から見て垂直になるように取り付け、ジャッキの底面がジャッキサポートの真下にくるようにしてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

ジャッキアップするときは、以下の点に注意してください。

- ジャッキアップするときは、必ずメルセデス・ベンツによりテストされ承認された、車載のジャッキのみを使用してください。不適切なジャッキを使用すると、ジャッキアップしたときに車が落下するおそれがあります。
- 車載のジャッキは、この車のタイヤ交換で一時的にジャッキアップするためだけに設計されています。車の下に入って作業するには適していません。
- 上り坂や下り坂でのタイヤ交換は避けてください。
- ジャッキアップする前に、パーキングブレーキを効かせるとともに輪止めをして、車が動き出さないようにしてください。ジャッキアップしているときは、決してパーキンブレーキを解除しないでください。
- ジャッキは、かたくて滑りにくい、水平な場所で使用してください。不整地などでは、荷重を支えるものをジャッキの下に敷く必要があります。滑りやすい場所では、ラバーマットなどの滑り止めを使用してください。
- ジャッキの下に、ブロックや木材などを置いてジャッキアップしないでください。ジャッキアップした際の高さが制限されるため、本来の耐荷重を支えることができません。
- タイヤと地面との間隔が 3cm 以上離れないようにしてください。
- ジャッキアップした車の下には決して手や足を入れないでください。
- ジャッキアップした車の下には決して横たわらないでください。
- ジャッキアップしているときは、決してエンジンを始動しないでください。
- ジャッキアップしているときは、決してドアやトランクを開閉しないでください。
- ジャッキアップしているときは、車の下に人がいないことを確認してください。
- ジャッキに不具合や損傷があるときは使用しないでください。
- ジャッキを使用する前にジャッキサポートを点検し、汚れが付着している場合は取り除いてください。
- ジャッキサポートに亀裂や損傷がある場合は、作業を行なわないでください。

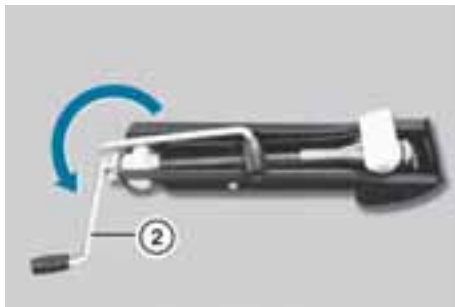
▶ ホイールレンチ ① で、交換するタイヤのホイールボルト（5 本）を約 1 回転ほどゆるめます。

この時点では、ホイールボルトを取り外しません。

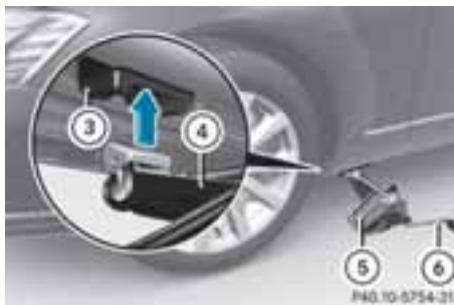
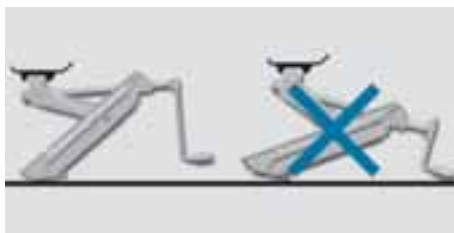
! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れるとけがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。

以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください。
- 足で踏んでまわさないでください。
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください。

ジャッキサポートは、前輪の後方、後輪の前方のボディ下部 4 カ所（矢印の位置）に設けられています。

※ ジャッキの色や形状が異なる場合があります。

▶ ジャッキハンドル ② を矢印の方向に起こしてから、時計回りにまわします。

ジャッキアームが上がります。

▶ ジャッキアーム ④ の先端を車体のジャッキサポート ③ の位置に合わせます。

（左）正しい取り付けかた
（右）間違った取り付けかた

▶ ジャッキ ⑤ の底面が、交換するタイヤに近いジャッキサポートの真下にあることを確認します。

▶ ジャッキハンドル ② を時計回りにまわして、ジャッキアーム ④ の先端をジャッキサポート ③ に合わせます。このとき、ジャッキの底面を確実に地面に接地させます。

▶ タイヤが地面から最大 3cm 離れるまで、ジャッキハンドル ② をまわします。

⚠ 警告

ジャッキアームの先端がジャッキサポートに合っていることを確認してください。ジャッキが外れると、けがをしたり、車を損傷するおそれがあります。

タイヤの取り外し

▶ 上側のホイールボルトを 1 本外します。

▶ そのネジ穴に車載工具のガイドボルト ① をねじ込みます。

▶ 残りのホイールボルトを外して、タイヤを取り外します。

! ホイールボルトを砂の上や汚れた場所に置かないでください。ホイールボルトを締めたときに、ホイールボルトのネジ山やホイールハブを損傷するおそれがあります。

! タイヤを地面に置くときは、ホイールの外側を下にしないでください。ホイールに傷が付くおそれがあります。

! ホイールを外したときは、ホイールの内側を十分に清掃し、点検をしてください。リムの凹みや曲がりはタイヤ空気圧減少の原因になり、タイヤを損傷するおそれがあります。

応急用スペアタイヤを取り付ける

⚠ 警告

ホイールボルトに損傷や錆があるときは交換してください。また、ネジ山には決してオイルやグリスを塗布しないでください。ホイールボルトがゆるむおそれがあります。

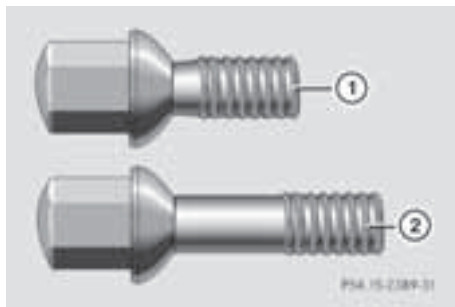
⚠ 警告

ホイールハブのネジ山が損傷しているときは、走行しないで、メルセデス･ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

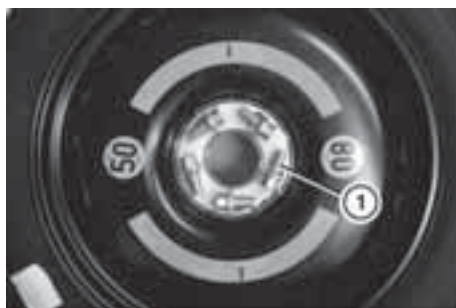
⚠ 警告

ホイールボルトは、ホイールに適合した純正品だけを使用してください。純正品以外のボルトを使用すると、ホイールが脱落して事故を起こすおそれがあります。

ジャッキアップした状態でホイールボルトを強く締め付けないでください。締め付ける勢いでジャッキが外れるおそれがあります。

S 63 AMG､S 65 AMG を除く車種

① 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト
② 標準タイヤ用ホイールボルト

▶ 応急用スペアタイヤ用ホイールボルト ①（短いホイールボルト）を用意します。

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは、応急用スペアタイヤに添付されているか、車載工具（▷391 ページ）に収納されています。

① 応急用スペアタイヤに添付された、応急用スペアタイヤ用ホイールボルト

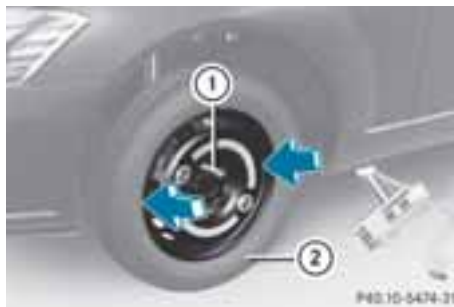
⚠ 警 告

標準タイヤ用ホイールボルトで応急用スペアタイヤを取り付けないでください。

ホイールを確実に取り付けることができず、ブレーキシステムを損傷したり、走行中に車輪が外れて事故を起こすおそれがあります。

S 63 AMG、S 65 AMG

応急用スペアタイヤ用ホイールボルトは車載されていません。標準タイヤを取り付けているホイールボルト ② で、応急用スペアタイヤを取り付けてください。

▶ 応急用スペアタイヤのホイールおよびハブの接合面を清掃します。

▶ ガイドボルト ① に合わせて応急用スペアタイヤ ② を取り付けます。

▶ 4 本のホイールボルトを取り付け、対角線の順番に軽く締め付けます。

▶ ガイドボルトを取り外し、5 本目のホイールボルトを取り付け、軽く締め付けます。

ジャッキダウンする

⚠ **警告**

- 空気圧の低いタイヤで走行しないでください。タイヤが過熱して破裂したり、火災を起こすおそれがあります。必ず規定の空気圧を守ってください。
- タイヤに空気を入れすぎないでください。空気を入れすぎたタイヤは、路上の破片や凹みなどにより損傷を受けたりパンクしやすくなります。必ず規定の空気圧を守ってください。

▶ ジャッキハンドルを反時計回りにまわし、ゆっくりボディを下げてタイヤを接地させます。

▶ ジャッキを外します。

⚠ **警告**

ホイールボルトの締め付けトルクが規定値で締め付けられていないと、ホイールが緩み、事故を起こすおそれがあります。

ホイールを交換した後は、ただちにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でホイールボルトの締め付けトルクを確認してください。

▶ 図の順番でホイールボルトを均一に締め付けます。

ホイールボルトの締め付けトルクの規定値は 15kg-m（150Nm）です。

! ホイールレンチを使用するとき、ホイールレンチがホイールボルトから外れると、けがをしたり、ホイールボルトを損傷するおそれがあります。以下の点に注意してください。

- ホイールレンチを確実に差し込んでください
- 足で踏んでまわさないでください
- 両手で握り、ホイール側に押し付けるようにしながらまわしてください

また、ホイールレンチにパイプを継ぎ足してまわすなど、必要以上にホイールボルトを締め付けないでください。ホイールボルトやネジ穴を損傷するおそれがあります。

▶ ジャッキを元の状態に戻し、車載工具や輪止めなどとともに元の位置に戻します。

▶ 取り外したタイヤはトランク内に収納してください。

ℹ 応急用スペアタイヤを装着して走行したときは、タイヤ空気圧警告システムは正常に作動しません。

タイヤフィットが車載されている車種

タイヤの傷が約 4mm 以下のときは、タイヤフィットでパンクしたタイヤを修理して、一時的に走行することができます。

タイヤフィットは外気温度が－ 20℃以上のときに使用できます。

⚠ 警 告

- タイヤフィットによるパンク修理は、応急的なものです。修理後は、空気圧が適正であっても、必ず標準タイヤに交換してください。
- 以下の状況のときはタイヤフィットでタイヤを修理することができません。他の方法で車両を移動させてください。
  - ◇ タイヤの傷が約 4mm 以上の場合や、凹み、亀裂、ひびなどがある場合
  - ◇ タイヤの接地面以外に傷がある場合
  - ◇ ホイールに損傷がある場合
  - ◇ タイヤの空気圧が非常に低かったり、空気が完全に抜けた状態のタイヤで走行した場合

  このようなときは、絶対に走行しないで、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

! タイヤを修理するときは、必ず手袋を着用してください。素手で作業を行なうとけがをするおそれがあります。

! タイヤを修理するときは、エンジンを始動しないでください。

! 異常のない適正な空気圧のタイヤには、タイヤフィットを使用しないでください。タイヤの空気圧でタイヤフィットが漏れ出すおそれがあります。

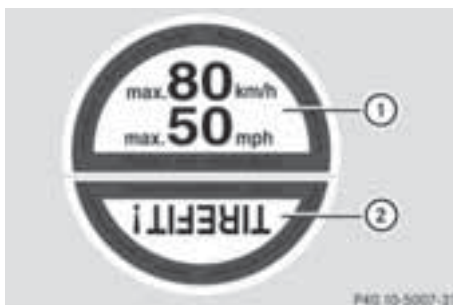
! タイヤフィットが塗装面に付着した場合は、ただちに湿らせた布で拭き取ってください。

! タイヤフィットで修理したタイヤは必ず交換してください。そのまま使用することはできません。

! タイヤフィットには使用期限があります。期限が過ぎたときは新品に交換してください。また、タイヤフィットの使用期限が過ぎている場合は使用しないでください。

タイヤフィットの準備

▶ タイヤに刺さった、パンクの原因と思われるクギまたはネジなどは取り除かないでください。

▶ トランクフロアボードの下からタイヤフィット、電動エアポンプを準備します。

▶ タイヤフィットに付属の最高速度のステッカー①をはがし、運転者の見やすい場所に貼ります。

▶ 修理するタイヤのバルブ付近にタイヤフィットのステッカー②を貼ります。

⚠ **警告**

タイヤフィットは、身体や衣服に付着しないように注意してください。

- 眼や皮膚に付着した場合は、ただちに清潔な水で十分に洗い流してください。
- 衣服に付着した場合は、ただちに付着した衣服を着替えてください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の診断を受けてください。

タイヤフィットは、子供の手が届かない場所に保管してください。

- 万一、子供がタイヤフィットを飲み込んだ場合は、ただちに水で口を十分すすぎ、水を大量に飲ませてください。
- タイヤフィットを吐かせないでください。ただちに医師の診断を受けてください。
- タイヤフィットの臭気を吸い込まないでください。

ⓘ タイヤフィットが漏れ出た場合は、そのまま乾燥させてください。乾燥すればフィルム状になり、剥がすことができます。

もし、衣類にタイヤフィットが付着した場合は、すみやかに洗濯してください。

⚠ **警告**

使用上の注意を記載したステッカーが、電動エアポンプに貼付してあります。使用する前に内容を確認してください。

車種や仕様により、車載されている電動エアポンプが異なります。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ別体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプのフラップ②を開きます。

▶ 電源プラグ⑤とエアホース⑥を取り出します。

▶ エアホース⑥をタイヤフィット①のバルブ⑦に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑦を下にして持ち、電動エアポンプの凹部③に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑨からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑨に確実に取り付けます。

▶ 空気圧調整バルブ⑩が閉じていることを確認します。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ⑤をライターソケット（▷331 ページ）または 12V 電源ソケット（▷332 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

ℹ 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa（5bar ／ 73psi）まで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar ／ 26psi）に達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa(1.8bar/26psi)に達しているときは、(▷443ページ)をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa(1.8bar/26psi)に達していないときは、(▷443ページ)をご覧ください。

空気圧が 180kPa(1.8bar / 26psi)に達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ④を **0**(停止の位置)にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

約 5 分後に、空気圧が少なくとも 180kPa(1.8bar / 26psi)に達していなければなりません。

⚠ **警告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 180kPa(1.8bar / 26psi)に達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 180kPa(1.8bar / 26psi)に達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチを **0**(停止の位置)にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグを抜きます。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

※ タイヤフィットは、日本仕様には装備されません。

⚠ **警 告**

タイヤフィットでタイヤを修理した後は、車両操縦性に変化が現れることがあります。高速での走行には適していません。事故を起こすおそれがあります。慎重な運転を心がけてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度を超えないようにしてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度は 80km/h です。必ずタイヤフィットに付属の最高速度のステッカーを運転者の見やすい場所に貼付してください。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホースを修理したタイヤのバルブに取り付けて、空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **警 告**

空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

空気圧を上げる

▶ 電動エアポンプを作動させます。

空気圧を下げる

▶ 空気圧ゲージ⑪の空気圧調整バルブ⑩を緩めて調整します。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

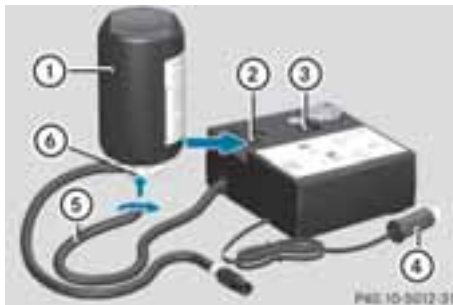
▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

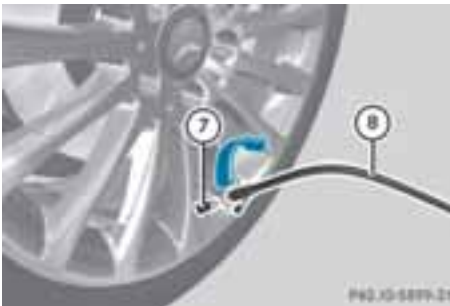
▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

タイヤを修理する（空気圧ゲージ一体型）

※ 電動エアポンプの形状や絵柄などは、イラストと異なることがあります。使用方法がわからないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

▶ 電動エアポンプの背面から電源プラグ④とエアホース⑤を取り出します。

▶ エアホース⑤をタイヤフィット①のバルブ⑥に確実に取り付けます。

! 電動エアポンプのエアホースはタイヤフィットのバルブに確実に取り付けてください。電動エアポンプの作動時に接続部からタイヤフィットが漏れ、身体や衣類に付着するおそれがあります。

▶ タイヤフィット①のバルブ⑥を下にして持ち、電動エアポンプの凹部②に差し込みます。

▶ パンクしたタイヤのバルブ⑦からバルブキャップを取り外します。

▶ タイヤフィットのホース⑧を、パンクしたタイヤのバルブ⑦に確実に取り付けます。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③が **0**（停止の位置）になっていることを確認します。

▶ 電源プラグ④をライターソケット（▷331 ページ）または 12V 電源ソケット（▷332 ページ）に差し込みます。

▶ イグニッション位置を **1** にします。

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **I**（作動の位置）にします。

電動エアポンプが作動して、タイヤが膨らみはじめます。

i 最初にタイヤフィットがパンクしたタイヤに送り込まれます。このとき、空気圧が一時的に約 500kPa（5bar ／ 73psi）まで高まることがあります。

この間は電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にしないでください。

▶ 電動エアポンプを約 5 分間作動させます。空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar ／ 26psi）に達していることを確認してください。

! 電動エアポンプを、作動時間の上限を超えて連続して作動させないでください。ポンプが過熱して損傷したり、火傷をするおそれがあります。

連続作動時間の上限は、電動エアポンプに貼付してあるステッカーに記載されています。

電動エアポンプを再び作動させるときは、ポンプが冷えた状態になっていることを確認してください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar/26psi）に達しているときは、（▷443 ページ）をご覧ください。

約 5 分後に空気圧が 180kPa（1.8bar/26psi）に達していないときは、（▷443 ページ）をご覧ください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

▶ タイヤフィットがタイヤ内に行き渡るように、低速で車を約 10m 前進または後退させます。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが収納されていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

▶ 再度、タイヤに空気を入れます。

約 5 分後に、空気圧が少なくとも 180kPa（1.8bar / 26psi）に達していなければなりません。

⚠ **警 告**

電動エアポンプを約 5 分間作動させても空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達しない場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

空気圧が 180kPa（1.8bar / 26psi）に達している場合

▶ 電動エアポンプの電源スイッチ③を **0**（停止の位置）にします。

電動エアポンプが停止します。

▶ ライターソケットまたは 12V 電源ソケットから電源プラグを抜きます。

▶ タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外します。

! タイヤのバルブからタイヤフィットのホースを取り外すときは、接続部にタイヤフィットが入っていた袋か布などを被せてください。取り外すときにタイヤフィットが漏れ、身体や衣服に付着するおそれがあります。

! タイヤフィットを使用した後は、タイヤフィットのホースからタイヤフィットが漏れることがあります。タイヤフィットはシミやサビの原因になりますので、タイヤフィットが収納されていた袋にタイヤフィットを入れてください。

▶ 修理したタイヤのバルブキャップを取り付けます。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ ただちに走行します。

タイヤフィットがタイヤ内に行き渡り、損傷箇所が固まりやすくなります。

⚠ **警 告**

タイヤフィットでタイヤを修理した後は、車両操縦性に変化が現れることがあります。高速での走行には適していません。事故を起こすおそれがあります。慎重な運転を心がけてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度を超えないようにしてください。

タイヤフィットでタイヤを修理した場合の最高速度は 80km/h です。必ずタイヤフィットに付属の最高速度のステッカーを運転者の見やすい場所に貼付してください。

▶ 約 10 分間走行した後、電動エアポンプのエアホースを修理したタイヤのバルブに取り付けて、電動エアポンプの空気圧ゲージでタイヤ空気圧を点検します。

⚠ **警 告**

空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以下になっている場合は、タイヤがかなり損傷しています。それ以上走行せず、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

▶ 空気圧が 130kPa（1.3bar / 20psi）以上の場合は、規定の空気圧に調整します。規定の空気圧は燃料給油フラップ裏側に貼付されているタイヤ空気圧ラベルを参照してください。

空気圧を上げる

▶ 電動エアポンプを作動させます。

空気圧を下げる

▶ 空気圧ゲージ⑩の横にある空気圧調整ボタン⑨を押して調整します。

▶ タイヤフィットと電動エアポンプ、停止表示板を収納します。

▶ 最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場まで走行し、パンクしたタイヤを交換します。

▶ 新しいタイヤフィットについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場でお買い求めください。

環 境

タイヤフィットやそのボトルの廃棄は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

▶ タイヤフィットは、4 年ごとにメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換してください。

バッテリー

バッテリー取り扱いの一般的な注意

バッテリーの性能を長期にわたって最大限に発揮させるためには、バッテリーが常に十分充電されていることが必要です。

車を長期間使用しないときや、短距離、短時間の走行が多いときは、通常よりも頻繁にバッテリー液量などを点検してください。

バッテリーの爆発を防ぐため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。

車を長期間使用しないときの保管方法などは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

⚠ **警 告**

S クラス HYBRID については、必ず別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書補足版」をご覧ください。

爆発の危険があります。

バッテリーを取り扱っているときは、火気や裸火、火花、タバコなどを近付けないでください。

火花が出ないように注意してください。

バッテリー液は腐食性があります。皮膚や眼、衣服に付着しないように注意してください。

手袋やエプロン、マスクを着用してください。

バッテリー液が付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

バッテリーを取り扱うときは保護眼鏡を着用してください。

子供を近付けないでください。

取扱説明書の指示に従ってください。

環 境

バッテリーは家庭用ごみとして廃棄しないでください。バッテリーは環境に配慮した適切な方法で処理してください。

環境保護のため、使用済みのバッテリーを廃棄するときは、新しいバッテリーをお買い求めになった販売店に廃棄処分を依頼してください。

⚠ 警 告

安全のため、バッテリーは必ず指定品を使用してください。指定されたバッテリーは衝撃保護性能に優れており、事故などでバッテリーが損傷した際に乗員がバッテリー液により火傷をする危険性を低減します。

爆発や火傷を防ぐため、バッテリーを取り扱うときは以下の事項を守ってください。

- バッテリーを傾けたり横倒しにしないでください。
- 金属製の工具などをバッテリーの上に置かないでください。バッテリーがショートして可燃性のガスに発火し、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- 静電気を防ぐため、合成繊維の衣服を着用しないでください。また、カーペットの上などでバッテリーを引きずらないでください。
- バッテリーに触れるときは、先に車体などに触れて、身体の静電気を放電させてください。
- 布などでバッテリーを拭かないでください。静電気や火花が発生して、バッテリーが爆発するおそれがあります。

! 安全のため、バッテリー端子をゆるめたり外すときは、イグニッション位置を **0** にして、エンジンスイッチからキーを抜いてください。電気系部品やオルタネーターを損傷するおそれがあります。

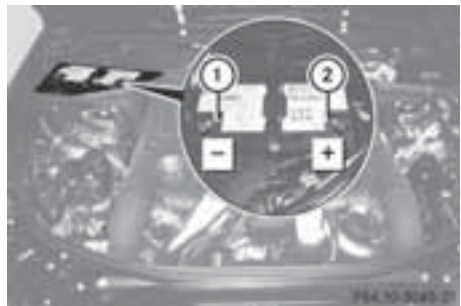
ⓘ 必要でなければ、駐車時はエンジンスイッチからキーを取り外してください。エンジンスイッチにキーが差し込まれているときはわずかに電力が消費され、バッテリーを消耗します。

ⓘ バッテリー端子の取り外し、バッテリーの取り外し、充電、交換については、メルセデス·ベンツ指定サービス工場で作業することをお勧めします。

ⓘ バッテリーの接続が一時的に断たれたときは、以下のような作業が必要になることがあります。

- スライディングルーフ * またはパノラミックスライディングルーフ * のリセット
- COMAND システムの再設定

バッテリーの位置

バッテリーは、エンジンルーム内助手席側にあります。

左ハンドル車

* オプションや仕様により、異なる装備です。

バッテリーの電圧が低下して、リモコン操作やキーレスゴー操作で解錠できないときは、エマージェンシーキーで運転席ドアを解錠します(▷424 ページ)。

VRLA バッテリー

バッテリーのケースが黒色で、上面に VRLA-BATTERY のラベルがある場合は、バッテリー液量の点検や補充はできません。また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。点検についてはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

インジケーター付きバッテリー

ケースが黒色で、上面にインジケーター ① があるバッテリーは、バッテリー液の補充はできません。

インジケーター ① は、バッテリーの液量や充電状態が適正なときは黒色に、バッテリーの交換が必要なときは白色になります。

インジケーターが白色になったときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に交換を依頼してください。

また、危険ですので分解は絶対に行なわないでください。

バッテリーがあがったとき

バッテリーの電圧が低下し、エンジンの始動が困難なときは、ブースターケーブルを使用して他車のバッテリーを電源として始動することができます。

⚠ 警告

- 作業を始める前に必ず以降に記載する説明を読んでください。説明を守らないと、電気装備を損傷したり、バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。
- 他車のバッテリーを電源として始動しているときは、バッテリーをのぞき込まないでください。万一爆発したときに、けがをするおそれがあります。

⚠ 警告

他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動しているときは、ガスが発生し、爆発の原因になります。火気や裸火、火花を近付けたり、近くで喫煙しないでください。バッテリーを取り扱うときは、安全に注意し、保護対策を取ってください。

⚠ 警告

未燃焼の燃料が排気システムに入ると、発火して火災が発生するおそれがあります。エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

⚠ **警告**

たばこなどの火気を近付けたり、火花を発生させたりしないでください。バッテリーが爆発してけがをするおそれがあります。

⚠ **警告**

S クラス HYBRID については、必ず別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書補足版」をご覧ください。

! エンジン始動操作を長時間繰り返して行なわないでください。

エンジン始動を 2 ～ 3 回試みても始動できないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場に連絡してください。

エンジンを始動できたときも、すみやかにメルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を行なってください。

! 急速充電器によりエンジン始動を行なわないでください。

! エンジンと触媒が暖まっているときは、他車のバッテリーを電源として始動しないでください。

! ブースターケーブルは、ケーブル部分や絶縁部分が損傷しているものは使用しないでください。

! ブースターケーブルをバッテリーに接続するときは、他の金属部分に触れないようにしてください。

! 救援車により接続方法が異なることがあります。接続前に救援車の取扱説明書もお読みください。

作業を始める前に、必ず以降に記載する説明を読んでください。

▶ すべての車でバッテリーにブースターケーブルを接続できるとは限りません。バッテリーにブースターケーブルを接続できないときは、補助バッテリーやエンジン始動用装置の電源を使用して、エンジンを始動してください。

▶ エンジンと触媒が冷えているときに行なってください。

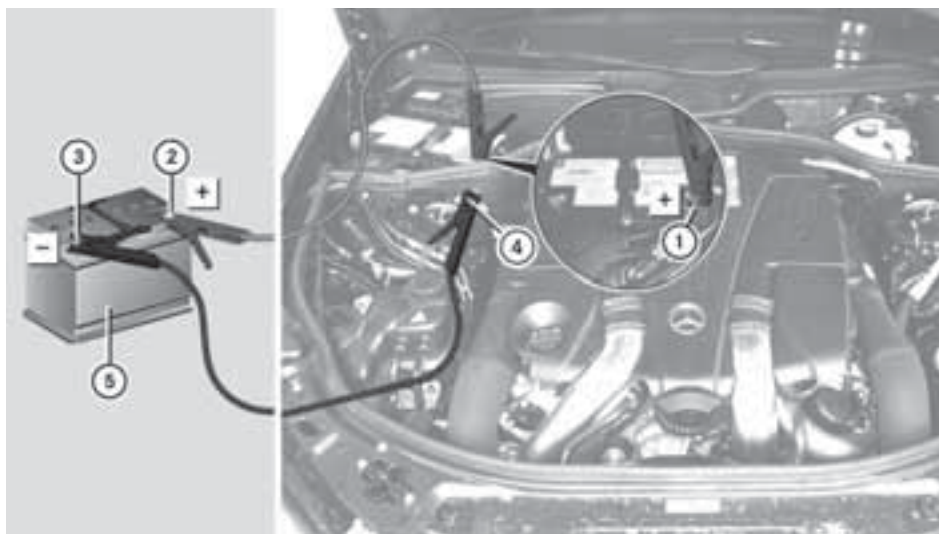
▶ バッテリーが凍結しているときは、エンジン始動を行なわないでください。火気を近付けずにバッテリー全体を暖め（約 50℃以下）、バッテリー液を解凍してから行なってください。

▶ 救援車のバッテリーが、12V バッテリーであることを確認してください。

▶ 十分な容量と太さがあり、絶縁されたクランプを持つブースターケーブルを使用してください。

▶ ブースターケーブルがラジエター冷却ファンや回転ベルトに巻き込まれないようにしてください。

▶ バッテリーが完全に放電しているときは、ケーブルを接続してすぐに始動操作を行なうのではなく、数分間経過してから行なってください。完全に放電したバッテリーに充電が行なわれます。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動について、不明な点があるときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

左ハンドル車

※ 右ハンドル車のバッテリーおよび [−] 端子 ④ は、エンジンルームに向かって右側にあります。

▶ 自車と救援車が接触していないことを確認します。

▶ パーキングブレーキを効かせます。

▶ シフトポジションを P にします。

▶ 両車の電気装備をすべて停止します。

▶ ボンネットを開きます。

▶ 自車の [+] 端子のカバーを外します。

▶ 自車のバッテリーの [+] 端子 ① に赤色ブースターケーブルを接続します。

▶ 救援車のバッテリー ⑤ の [+] 端子 ② に赤色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 救援車のエンジンを始動し、アイドリング状態にします。

▶ 救援車のバッテリーの [−] 端子 ③ に黒色ブースターケーブルを接続します。

▶ 自車のバッテリーの [−] 端子 ④ に黒色ブースターケーブルの反対側を接続します。

▶ 自車のエンジンを始動します。

▶ ブースターケーブルの接続を外すまで、数分間エンジンをかけたままにします。

▶ 自車のバッテリーの [−] 端子 ④ →救援車のバッテリーの [−] 端子 ③ →自車のバッテリーの [+] 端子 ① →救援車のバッテリーの [+] 端子 ② の順序でケーブルの接続を外します。

▶ メルセデス・ベンツ指定サービス工場でバッテリーの点検を受けてください。

ℹ 他車のバッテリーを電源としたエンジン始動は緊急の対応です。

けん引

けん引時の注意

⚠ 警告

S クラス HYBRID のけん引については、必ず別冊「S-Class HYBRID 取扱説明書 補足版」をご覧ください。

⚠ 警告

- エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。
- けん引されるときは、エンジンスイッチからキーを抜かないでください。
- ホールド機能またはディストロニック・プラス * が作動しているときは、車にブレーキがかけられています。けん引で車を動かすときは、ホールド機能またはディストロニック・プラスを解除してください。

けん引はできるだけ避けてください。自走できないときは、専門業者に依頼して車両運搬車で移送してください。

! 一般道では 30km/h 以下の速度で、距離は 50km 以内に限り、けん引走行することができます。距離が 50km を超えるときは、必ず車両運搬車を利用してください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

! パーキングブレーキが解除されていることを確認してください。パーキングブレーキが故障しているときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

! ぬかるみからの脱出などの目的に、けん引フックを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

! けん引されるときは、ゆっくり発進し、車両に過大な力をかけないでください。車を損傷するおそれがあります。

! キーレスゴー装備車は、キーレスゴースイッチではなくキーを使用してください。運転席ドアを開いたときにシフトポジションが P になり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。

けん引されるときは、必ずシフトポジションを N にしてください。

以下の理由により、けん引される前にバッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。

- イグニッション位置を **2** にすることができません
- シフトポジションを N にすることができません

! エンジンを始動できないときは、他車のバッテリーを電源とした始動を試みてください。やむを得ず、他車にけん引してもらうときは以降に記載する説明に従い、最寄りのメルセデス・ベンツ指定サービス工場に移送してください。

! フロントをつり上げてけん引するときやダイナモメーターでパーキングブレーキの検査を行なうときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

! 4MATIC 車は、前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。駆動装置などを損傷するおそれがあります。

! オートマチックトランスミッションを損傷しているときは、プロペラシャフトを外してけん引してください。

! けん引される前に、バッテリーが接続されていて、電圧が低下していないことを確認してください。イグニッション位置を **2** にすることができないため、シフトポジションを **P** から動かせなくなります。また、エンジンが停止していると、ステアリングやブレーキの操作に非常に大きな力が必要になります。

! けん引ロープを使用してけん引されるときは、以下の点に注意してください。

- ロープは両車ともできるだけ同じ側につないでください。
- ロープの長さは 5m 以内とし、ロープの中央に白布（30cm × 30cm 以上）を付けて 2 台の車がロープでつながれていることを周囲に明示してください。
- ロープに無理な力や衝撃がかからないようにしてください。
- けん引フック以外にはロープをかけないでください。
- 走行中、ロープをたるませないように前車のブレーキランプに注意しながら車間距離を調整してください。
- ワイヤーロープやチェーンを使用しないでください。車を損傷するおそれがあります。

i けん引されるときは、車速感応ドアロックを解除してください（▷101 ページ）。車輪が回転すると車が自動的に施錠され、車外に閉め出されることがあります。また、けん引防止警報も解除してください（▷70 ページ）。

けん引フックの取り付け

けん引フックを取り付ける

▶ 車載工具（▷391 ページ）からけん引フックを取り出します。

⚠ **警 告**

リアのカバーを取り外すときは、マフラーに注意してください。マフラーは高温になるため、マフラーに触れると火傷をするおそれがあります。

けん引フックの取り付け部はフロントとリアのバンパーにあります。けん引フックを取り付けるときはカバーを外します。

▶ カバー ① のマーク部を矢印の方向に押します。

▶ カバー ① を外します。

▶ 内部のネジ穴に、けん引フックを時計回りにまわしてねじ込み、停止するまで手で締め込みます。

※ 車種や仕様により、カバー ① の形状やマーク部の位置は異なります。

けん引フックを取り外す

▶ けん引フックを取り外します。

▶ カバー ① をバンパーに押し込んで取り付けます。

▶ けん引フックを車載工具に収納します。

後輪を上げてけん引する

この操作は 4MATIC 以外の車種のみ可能です。

後輪を上げてけん引するときは、（▷453 ページ）の注意事項を守ってください。

! 後輪を上げてけん引するときは、必ずイグニッション位置を **0** にしてください。ESP® が作動して接地している車輪にブレーキがかかります。また、ブレーキシステムを損傷するおそれがあります。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷150 ページ）。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 車から離れるときは、キーを携帯します。

前後輪を接地させてけん引する

前後輪を接地させてけん引するときは、(▷453 ページ) の注意事項を守ってください。

⚠ 警 告

エンジンがかかっていないときはブレーキやステアリングの操作に非常に大きな力が必要になります。注意して操作を行なってください。

運転席ドアを開くか、エンジンスイッチからキーを抜くと、シフトポジションは自動的に **P** になります。けん引するときは、以下の方法に従ってシフトポジションを **N** のままにしてください

▶ 停車して、エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **0** にします。

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** にします。

キーレスゴーを使用していた場合は、キーレスゴースイッチの代わりにキーを使用します（▷109 ページ）。

▶ ブレーキペダルを踏んで保持します。

▶ シフトポジションを **N** にします。

▶ ブレーキペダルから足を放します。

▶ パーキングブレーキを解除します。

▶ 非常点滅灯を点滅させます（▷150 ページ）

▶ エンジンスイッチのキーのイグニッション位置を **2** のままにします。

ℹ 非常点滅灯を点滅させてけん引されているときでも、コンビネーションスイッチを操作して方向指示灯を点滅させることができます。このときは、方向指示灯が消灯すると、再び非常点滅灯に切り替わります。

車両を運搬する

けん引フックは、車両運搬車に車を積載するときにも使用できます。

▶ イグニッション位置を **2** にします。

▶ ブレーキペダルを踏みながらシフトポジションを **N** にします。

車を積載したらすみやかに以下のことを行ないます。

▶ パーキングブレーキを効かせて、車が動かないようにします。

▶ シフトポジションを **P** にします。

▶ エンジンスイッチからキーを抜くか、イグニッション位置を **0** にします。

▶ 車を固定します。

! 車両運搬車に積載して車両を固定するときは、固定ロープをサスペンションなどのメンバー部分にかけないでください。車体を損傷するおそれがあります。

4MATIC 車についての注意事項

! 4MATIC 車は、前輪または後輪のみを持ち上げた状態でけん引しないでください。トランスミッションを損傷するおそれがあります。

トランスミッションまたはフロントアクスルまたはリアアクスルが損傷しているときは、車両運搬車で運搬してください。

電気システムが損傷しているとき

バッテリーに不具合があるときは、シフトポジションが P に固定されます。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動と同様に、車両の電気システムに電力を供給しなくてはなりません（▷450 ページ）。

電力が供給できない場合は、車両運搬車で運搬してください。

押しがけ

押しがけでエンジンを始動することはできません。トランスミッションを損傷します。他車のバッテリーを電源としたエンジン始動については（▷450 ページ）をご覧ください。

ヒューズ

ヒューズ交換についての注意

電気装備に異常が発生するとヒューズが切れて電気装備への接続が切断されます。これにより電気装備は作動しなくなります。

⚠ **警 告**

規格や容量の異なるヒューズ、改造や修理をしたヒューズなどを使用しないでください。電気回路に負荷がかかり、火災の原因になります。

ヒューズ切れの原因の点検や修理はメルセデス・ベンツ指定サービス工場に作業を依頼してください。

ヒューズを交換するときは、必ず同じ電流値（色）のヒューズと交換してください。ヒューズの電流値は「ヒューズ一覧」（▷460 ページ）に記載されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ヒューズを交換してもすぐに切れるときや、ヒューズには異常がなく電気装備が作動しないときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で原因を調べ、修理してください。

! 必ず車両に適合した、正しい電流値のヒューズだけを使用してください。構成部品やシステムを損傷するおそれがあります。

ヒューズを交換する

▶ 停車して、パーキングブレーキを効かせます。

▶ すべての電気装備を停止します。

▶ イグニッション位置を 0 にして、エンジンスイッチからキーを抜きます。

▶ ヒューズ一覧を参考に、作動しない電気装備に該当するヒューズを確認します。

▶ 該当ヒューズを取り外します。

▶ ヒューズを点検し、心線部が切れている（溶断）ときは同じ電流値（色）のヒューズと交換します。

ヒューズの位置

ヒューズボックスは以下の場所にあります。

- ダッシュボード左右両端
- エンジンルーム内運転席側 / 助手席側
- 後席アームレスト奥

ダッシュボード横のヒューズボックス

ヒューズボックスはダッシュボードの左右両端にあります。

! ドライバーなどの先のとがったものを使用してカバーを開かないでください。ダッシュボードを損傷するおそれがあります。

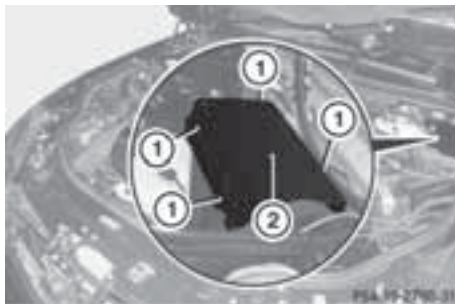
左ハンドル車

ヒューズボックスのカバーを取り外す

▶ カバー ① のすき間にヘラなどを差し込み、カバーを手前に引いて開きます。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバーを押し込んで固定します。

ヒューズボックス（エンジンルーム内運転席側）

左ハンドル車

カバー ② を外すときは、六角レンチでネジ ① を緩める必要があります。

ヒューズを交換するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

※ 右ハンドル車のエンジンルーム内のヒューズボックスは、左ハンドル車と左右対称の位置にあります。

ヒューズボックス（エンジンルーム内助手席側）

左ハンドル車

ヒューズボックスのカバーを外す

▶ ボンネットを開きます。

▶ 固定部 ① を外側に開きながら外します。

▶ カバー ② を取り外します。

! ヒューズボックスのカバーを取り外したときは、ヒューズボックスの内部に水などが入らないようにしてください。

ヒューズボックスのカバーを取り付ける

▶ カバー ② を元の位置に合わせます。

▶ カバー ② を下方に押して取り付けます。

▶ ボンネットを閉じます。

! ヒューズボックスのカバーは必ず正しく取り付けてください。水分やホコリがヒューズに付着して、ヒューズを損傷するおそれがあります。

後席アームレスト奥のヒューズボックス

▶ 後席アームレストを引き出します。

▶ レバー ① を引いて、小物入れのカバー ② を開きます。

▶ ドライバーなど ③ をすき間に差し込み、ヒューズボックスのカバー ④ を開きます。

▶ ヒューズボックスのカバーを上方に取り外します。

! ヒューズボックスのカバーを開閉するときは、カバーの端などを損傷しないよう注意してください。

ヒューズ一覧

ヒューズボックス（エンジンルーム内助手席側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
7	40A	ABS/BAS/ESP®
8	25A	ABS/BAS/ESP®
9	25A	イグニッションロック
10	—	未使用

ヒューズボックス（エンジンルーム内運転席側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
20	10A	エンジン制御 / エンジン緊急停止
21	20A	エンジン制御 / エンジン緊急停止
22	15A	エンジン制御
23	20A	エンジン制御
24	25A	エンジン制御
25	7.5A	メーターパネル / ナイトビューアシストプラス
26	10A	アクティブライトシステム / ヘッドライト光軸調整
27	10A	アクティブライトシステム / ヘッドライト光軸調整
28	7.5A	オートマチックトランスミッション
29	5A	オプション
30	7.5A	エンジン制御 / 燃料ポンプ
31	5A	オプション
32	15A	オプション
33	5A	ABS/BAS/ESP®
34	5A	オプション
35	5A	パーキングブレーキ
36	10A	診断ソケット
37	7.5A	イグニッションロック / キーレスゴー
38	7.5A	オプション
39	7.5A	メーターパネル / ナイトビューアシストプラス

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
40	7.5A	ABS/BAS/ESP®/アンビエントライト/AIRマティックサスペンション/ABC/パークトロニック/ライトスイッチ/盗難防止警報システム/非常点滅灯/リアデフォッガー/ナイトビューアシストプラス/ヘッドレストリリース（後席）/電動ブラインド(リアウインドウ)/シート調整（後席）/エアコンディショナー/リアエアコンディショナー
41	30A	ワイパー
42	30A	ワイパー
43	15A	ライター（前席）
44	—	未使用
45	5A	オプション
46	15A	AIRマティックサスペンション/ABC
47	15A	ステアリング調整
48	15A	ステアリング調整
49	10A	方向指示灯/オートマチックトランスミッション/ヘッドライト（上向き）/ワイパー/ステアリング調整/ステアリングスイッチ/ディストロニック・プラス
50	15A	エアコンディショナー/リアエアコンディショナー
51	—	未使用
52a	15A	ホーン
52b	15A	ホーン
53	—	未使用
54	40A	エアコンディショナー
55	60A	エンジン制御
56	40A	AIRマティックサスペンション
57	30A	ワイパーリセスヒーター

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
60	5A	ステアリング
61	7.5A	エアバッグシステム/チャイルドセーフティシート検知システム/NECK PROアクティブヘッドレスト
62	5A	ナイトビューアシストプラス
63	15A	オプション
64	7.5A または 10A	NECK PROアクティブヘッドレスト
65	15A	12V電源ソケット（グローブボックス）
66	7.5A	ディストロニック・プラス

ヒューズボックス（ダッシュボード右側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
70	40A	方向指示灯/ドアミラー/シートヒーター（前席）/マルチコントロールシートバック（前席）/セントラルロック/アンビエントライト/ルームランプ/パワーウインドウ（前席/後席）/トランクリッド開閉/シート調整（前席）/シートベンチレーター（前席）/ドア下部ライト/キーレスゴー
71	15A	キーレスゴー
72	—	未使用
73	5A	COMANDシステム/パーキングアシストリアビューカメラ/リアエンターテインメントシステム/電話/VICS/サウンドシステム/COMANDディスプレイ
74	30A	トランクリッド開閉
75	—	未使用
76	—	未使用
77	25A	サウンドシステム

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
78	25A	エンジン制御 / 追加ラジエターファン（AMG）
79	7.5A	盗難防止警報システム
80	40A	方向指示灯 / ドアミラー / シートヒーター（前席） / マルチコントロールシートバック（前席） / セントラルロック / アンビエントライト / パワーウインドウ（前席 / 後席） / ルームランプ / トランクリッド開閉 / シート調整（前席） / シートベンチレーター（前席） / ドア下部ライト / キーレスゴー
81	40A	シートヒーター（後席） / シート調整（後席） / セントラルロック / アンビエントライト / ルームランプ / パワーウインドウ（後席） / 電動ブラインド（リアウインドウ） / シートベンチレーター（後席） / ドア下部ライト / キーレスゴー
82	40A	シートヒーター（後席） / セントラルロック / アンビエントライト / ルームランプ / パワーウインドウ（後席） / 電動ブラインド（リアウインドウ） / シート調整（後席） / シートベンチレーター（後席） / ドア下部ライト / キーレスゴー
83	30A	オートマチックトランスミッション
84	10A	サウンドシステム
85	10A	ドアシルイルミネーション（AMG）
86	—	未使用
87	—	未使用
88	—	未使用
89	—	未使用
90	—	未使用
91	—	未使用

ヒューズボックス（ダッシュボード左側）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
92	40A	シートヒーター（前席） / シート調整（前席） / シートベンチレーター（前席） / マルチコントロールシートバック（前席） / ドライビングダイナミックシート
93	7.5A	エアバッグシステム / チャイルドセーフティシート検知システム /NECK PRO アクティブヘッドレスト
94	5A	マルチパーパスカメラ
95	—	未使用
96	—	未使用
97	7.5A	リアエンターテインメントシステム
98	—	未使用
99	7.5A	パーキングアシストリアビューカメラ /COMAND ディスプレイ / 電話
100	—	未使用
101	10A	リアエンターテインメントシステム
102	40A	シートヒーター（前席） / シート調整（前席） / シートベンチレーター（前席） / マルチコントロールシートバック（前席） / ドライビングダイナミックシート
103	7.5A	ABS/BAS/ESP®
104	40A	サウンドシステム
105	—	未使用
106	1A	ETC/COMAND システム
107	—	未使用
108	5A	リアエアコンディショナー
109	15A	リアエアコンディショナー
110	7.5A	マルチコントロールシートバック（後席）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
111	5A	マルチコントロールシートバック（後席）/ リアエンターテインメントシステム /COMAND スイッチ（後席）
112	—	未使用
113	—	未使用

ヒューズボックス（後席アームレスト奥）

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
115	50A	リアデフォッガー
116	10A	低温ポンプ
117	15A	ライター（後席）
118	15A	燃料ポンプ
119	7.5A	COMAND システム / パーキングアシストリアビューカメラ / エアコンディショナー / リアエアコンディショナー / オートマチックトランスミッション /COMAND ディスプレイ / ドライビングダイナミックシート / リアエンターテインメントシステム / 電話 /COMAND スイッチ（前席）
120	—	未使用
121	10A	COMAND システム
122	7.5A	COMAND システム / パーキングアシストリアビューカメラ /COMAND ディスプレイ / リアエンターテインメントシステム / 電話 / サウンドシステム
123	40A	PRE-SAFE®
124	40A	PRE-SAFE®
125	5A	オプション
126	25A	ドアミラー / 自動防眩機能 / 読書灯 / レインセンサー / ライトセンサー / バニティミラー照明 / ルームランプ / スライディングルーフ

ヒューズ番号	アンペア数	装置名
127	30A	マルチコントロールシートバック（前席 / 後席）/ ドライビングダイナミックシート
128	25A	燃料ポンプ
129	7.5A	電話
130	30A	パーキングブレーキ
131	7.5A	COMAND システム / トランクリッド開閉 / キーレスゴー /VICS/ サウンドシステム / アンテナ
133	—	未使用
134	15A	12V 電源ソケット（トランク）
135	—	未使用
136	—	未使用
137	—	未使用
138	5A	COMAND システム
139	15A	クーリングボックス
140	15A	12V 電源ソケット（センターコンソール後部）
141	5A	パーキングアシストリアビューカメラ
142	7.5A	パークトロニック
143	25A	シートヒーター（後席）/ シート調整（後席）/ シートベンチレーター（後席）
144	25A	シート調整（後席）
145	—	未使用
146	—	未使用
147	—	未使用
148	25A	スライディングルーフ /COMAND スイッチ（後席）
149	25A	スライディングルーフ
150	7.5A	COMAND システム
151	—	未使用
152	—	未使用

ⓘ ヒューズ配置表（英文）は、車載工具にも収納されています。ヒューズ配置表にはヒューズ容量も記載されています。

※ ヒューズ配置表（英文）の収納位置は予告なく変更される場合があります。

ⓘ 記載の内容は取扱説明書作成時点のもので、予告なく変更されることがあります。

（2010-04-19・A221 584 86 83）

純正部品 / 純正アクセサリー

Daimler AG では、点検や整備に必要な純正部品を豊富に用意しています。

純正部品は厳格な基準により品質管理されています。点検や整備、修理のときは、必ず純正部品を使用してください。

アクセサリーについても、Daimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社が指定する製品だけを使用してください。

警 告

承認されていない部品、タイヤやホイール、または安全に関するアクセサリーを使用すると、走行安全性が損なわれるおそれがあります。

これらはブレーキシステムなどの安全性に関連したシステムの故障につながる可能性があります。さらに車両操縦性を失う原因になり、事故の原因になります。

どのような場合でも、純正部品のみを使用してください。また、タイヤやホイール、アクセサリーはお客様の車両のために承認されたもののみを使用してください

警 告

どんな場合でも、ブレーキ関連部品などの重要保安部品や走行系統に使用する部品には、純正部品以外のものを使用しないでください。事故や故障の原因になります。

環 境

Daimler AG では、資源の有効利用を促進するため、リサイクル部品を積極的に導入しています。

! 以下の場所の周辺には、エアバッグやシートベルトテンショナーの本体、乗員保護装置のコントロールユニットやセンサー類が取り付けられています。これらの部位にオーディオなどを追加装備したり、修理や鈑金作業などを行なうと、乗員保護装置の作動に悪影響を与えるおそれがあります。

- ドア
- ドアピラー付近
- サイドシル付近
- シート
- シートベルト
- インストルメントパネル
- メーターパネル
- センターコンソール

詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

i 純正部品以外の部品を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

車両の電子制御部品について

⚠ **警告**

電子制御部品やその構成部品にかかわる作業は、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。

特に、安全装備や安全に関わるシステムについての作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両との適合性に影響を与えるおそれがあります。

! 電子制御部品およびそれに関わるコントロールユニットやセンサー、配線類などのメンテナンス作業は、必ずメルセデス・ベンツ指定サービス工場で行なってください。車両の構成部品が通常より早く摩耗したり、保証を適用できないことがあります。

! 車の電子制御部品やソフトウェアを改造しないでください。事故や故障の原因になります。また、関連する他の装備にも悪影響を与えるおそれがあります。

! 車載無線機など電装アクセサリーを装着するときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。装着方法などが適切でないと、車の電子制御部品に悪影響を与えるおそれがあります。また、電気配線を間違えると、火災や故障の原因になります。

! ウインドウに透明な吸盤を貼付しないでください。透明な吸盤がレンズとして作用して、火災が発生するおそれがあります。

ビークルプレート

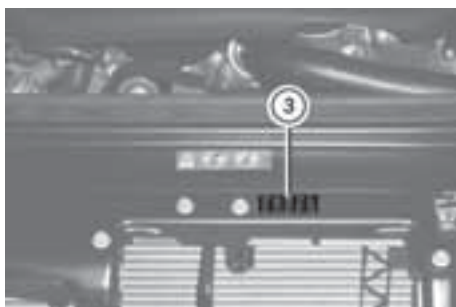
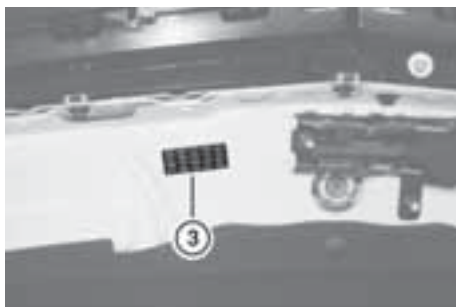
純正部品を注文するときに車台番号やエンジン番号などが必要になることがあります。車台番号やエンジン番号などは図の箇所に記されています。

ニューカープレート

運転席側または助手席側のセンターピラー下部に車台番号およびカラーコードを記載したニューカープレート①が貼付されています。

車台番号

後席アームレスト後方のカバーの下のフレームに、車台番号②が打刻されています。

オプションコードプレート

ボンネットの裏側またはエンジンルームの図の位置に、オプションコードを示すプレート ③ が貼付されています。

エンジン番号

エンジンブロックのクランクケースにエンジン番号が打刻されています。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

オイル・液類 / バッテリー

オイル・液類に関する注意

オイル・液類には以下のものが含まれます。

- 燃料
- 冷却水
- ブレーキ液
- 油脂類（エンジンオイル、オートマチックトランスミッションオイル、パワーステアリングオイルなど）
- ウォッシャー液

点検や整備、修理のときは、必ずDaimler AG またはメルセデス・ベンツ日本株式会社の指定品のみを使用してください。

詳しくは、メルセデス･ベンツ指定サービス工場におたずねください。

警 告

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。また、火気の近くには保管しないでください。

オイル・液類は子供の手の届かない場所に保管してください。

オイル・液類が目や粘膜、傷に触れないようにしてください。万一目に入ったり皮膚に付着したときは、ただちに清潔な水で十分に洗い流し、医師の診断を受けてください。

環 境

オイル・液類は、環境に配慮して廃棄してください。

! 指定品以外のオイル・液類を使用したときは、該当箇所だけでなく関連箇所に不具合が生じても、保証を適用できないことがあります。

i ABC*（アクティブ・ボディ・コントロール）のオイル量を点検する必要はありません。ABC のオイルの漏れを見つけたり、マルチファンクションディスプレイに故障 / 警告メッセージが表示されたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

燃料

燃料タンク容量

⚠ 警 告

燃料は可燃性の高い物質です。燃料を取り扱うときは、火を近付けたり、近くで喫煙をしないでください。

燃料を給油する前に、エンジンを停止してください。

⚠ 警 告

燃料が皮膚や衣類に触れないように注意してください。

燃料が皮膚に直接触れたり、気化した燃料を吸い込むと、健康に悪影響を与えます。

燃料タンク容量	約 90 ℓ
警告灯点灯時の残量	約 11 ℓ （S 63 AMG、S 65 AMG は約 14 ℓ）

! 軽油を給油しないでください。また、軽油を混ぜたガソリンを給油しないでください。ガソリンに軽油が混じると、燃料噴射システムを損傷するおそれがあります。誤って軽油を給油して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 指定以外の燃料（高濃度アルコール含有燃料など）を使用すると、燃料系部品の腐食や損傷などによりエンジンを損傷したり、火災が発生するおそれがあります。指定以外の燃料を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! 燃料の添加剤は、純正品または承認されている製品のみを使用してください。エンジン内部の摩耗が進んだり、エンジンを損傷するおそれがあります。故障が発生したときは、保証の適用外になります。

燃料消費について

以下のような状況では、燃料をより消費します。

- 気温が非常に低いとき
- 市街地を走行するとき
- 短い距離を走行するとき
- 山道や坂道を走行しているとき

環 境

CO_2（二酸化炭素）の排出は、地球温暖化の大きな原因となります。

緩やかな運転を心がけ、定期的に点検・整備を行なうことにより、CO_2 排出量を最小限に抑えることができます。

* オプションや仕様により、異なる装備です。

エンジンオイル

! エンジンオイルは、使用している間に汚れたり劣化するだけでなく、消費され減少します。定期的に点検し、必要であれば必ず補給もしくは交換してください。

エンジンオイル容量

車種	容量
S 350	約 6.5 ℓ
S 550 S 550 long S 550 4MATIC long	約 8.5 ℓ
S 600 long	約 9.0 ℓ
S 63 AMG long	約 8.5 ℓ または 約 9.5 ℓ （オイルクーラー分を含む）
S 65 AMG long	約 9.0 ℓ

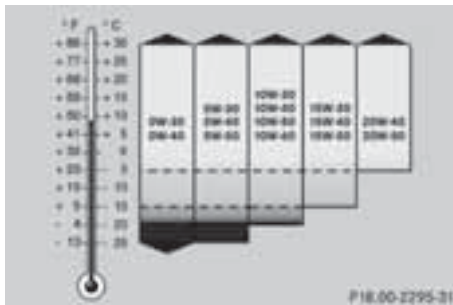
i 容量は、オイルフィルター分を含む交換時の数値です。

添加剤

! エンジンオイルには添加剤を入れないでください。エンジンを損傷するおそれがあります。

使用するエンジンオイル

指定のエンジンオイルを使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

グレードと粘度は、下図を参考にして、使用する場所の外気温度に合わせて選択してください。

オートマチックトランスミッションオイル

オートマチックトランスミッションオイルの交換については、別冊「整備手帳」を参照してください。

! オートマチックトランスミッションオイルは専用品のみを使用してください。

! オートマチックトランスミッションオイルに添加剤を使用しないでください。トランスミッション内部の摩耗が進んだり、トランスミッションを損傷するおそれがあります。添加剤を使用して故障が発生したときは、保証の対象外になります。

! オートマチックトランスミッションオイルの漏れを見つけたり、トランスミッションの作動に異常を感じたときは、メルセデス・ベンツ指定サービス工場で点検を受けてください。

ブレーキ液

定期的にメルセデス・ベンツ指定サービス工場で交換をしてください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

指定品目	純正ブレーキ液
規格	DOT 4 プラス規格

警 告

ブレーキ液を補給するときは、ゴミや水分がリザーブタンクの中に入らないようにしてください。たとえ小さなゴミでも、ブレーキが効かなくなるおそれがあります。

ブレーキ液は使用している間に大気中の湿気を吸収して劣化します。劣化した状態で使用すると、過酷な条件下ではベーパーロックが発生するおそれがあります。

ベーパーロックとは、長い下り坂や急な下り坂などでブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキ液が沸騰して気泡が発生し、ブレーキペダルを踏んでも圧力が伝わらず、ブレーキが効かなくなる現象のことです。

冷却水

冷却水は時間の経過とともに劣化しますので、整備手帳に従い定期的に交換してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

また、冷却水の補給が必要なときは必ず指定品を使用して補給してください(▷355 ページ)。

警 告

冷却水をエンジンルームにこぼさないでください。発火するおそれがあります。

不凍液の濃度

通常は水道水に純正の不凍液を混ぜて使用します。

車を使用する地域の最低気温によって濃度を変えます。

不凍液混合率	凍結温度
約 50%	− 37℃
約 55%	− 45℃

ウォッシャー液

⚠ 警告

ウォッシャー液は可燃性の高い液体です。ウォッシャー液を取り扱うときは、火気を近付けたり、近くで喫煙しないでください。

! ヘッドライトには樹脂製レンズを使用しているため、必ず専用の純正ウォッシャー液を使用してください。純正以外のウォッシャー液を使用すると、レンズを損傷するおそれがあります。

! ウォッシャー液は、リザーブタンクに補給する前に別の容器で適正な混合比に混ぜてください。

! ウォッシャー液に、蒸留水や脱イオン水を混ぜないでください。液量のセンサーを損傷するおそれがあります。

i ウォッシャー液には夏用と冬用があります。夏用には油膜を防ぐ効果があり、冬用には凍結温度を下げる効果があります。

ウインドウウォッシャー液とヘッドランプウォッシャー液のリザーブタンクは兼用です。

バッテリー

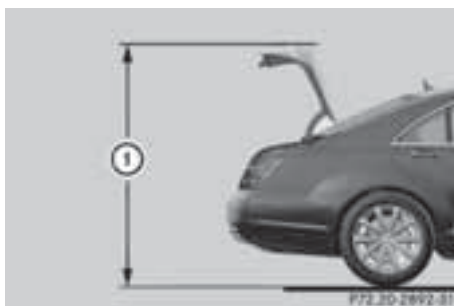
車載バッテリーの電圧 / 容量

電圧	12V
容量	95Ah

積載荷物の制限重量

車種	ルーフ	トランクルーム
全車	100 kg	100 kg

i ルーフの制限重量には、ルーフラックやアタッチメントの重量も含まれます。

トランクを開いたときの高さ

① トランクを開いたときの高さ

トランクをいっぱいまで開いたときの高さは、以下のようになります。

①	約 1776mm

i タイヤ、積載荷物、オプション装備品やサスペンションの状態などにより、数値が異なります。

タイヤとホイール

! タイヤとホイールは必ず純正品および承認された製品を使用してください。詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ABS や ESP® などの装備は、純正品および承認された製品を使用することで効果が発揮されます。

純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、安全性の保証はできません。

! 純正品および承認された製品以外のタイヤやホイールを装着した場合は、操縦性や騒音、燃料消費などに影響を与えるおそれがあります。また、指定されたサイズ以外のタイヤやホイールを装着すると、フェンダーの内側やサスペンションなどに接触し、車やタイヤを損傷するおそれがあります。

! 再生したタイヤを装着した場合、安全性の保証はできません。

! 大径ホイールを装着したときは、路面状況が悪いときに乗り心地が悪くなることがあります。また、障害物を乗り越えたときの快適性も低下し、ホイールやタイヤを損傷する危険性も高まります。

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

i 燃料給油フラップの裏側に、規定のタイヤ空気圧を記載したラベルが貼付してあります（▷363 ページ）。

i 左右に必ず同サイズのタイヤ / ホイールを装着してください。

i 標準タイヤとウィンタータイヤなど、異なる種類のタイヤを同時に装着しないでください。

i タイヤやホイールに関して、詳しくはメルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

標準タイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
S 350 S 550 S 550 4MATIC long S 550 long	255/45R18	8.5 J × 18	43mm
S 350 AMG スポーツパッケージ S 550 AMG スポーツパッケージ S 550 long AMG スポーツパッケージ	前輪 255/40R19 後輪 275/40R19	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm
S 550 4MATIC long AMG スポーツパッケージ	255/40R19	8.5 J × 19	43mm
S 600 long	前輪 255/45R18 後輪 275/45R18	前輪 8.5 J × 18 後輪 9.5 J × 18	43mm
S 63 AMG long	前輪 255/40R19 後輪 275/40R19	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm
S 63 AMG long パフォーマンスパッケージ	前輪 255/35R20 後輪 275/35R20	前輪 8.5 J × 20 後輪 9.5 J × 20	43mm
S 65 AMG long	前輪 255/35R20 後輪 275/35R20	前輪 8.5 J × 20 後輪 9.5 J × 20	43mm

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

! タイヤサイズ 275/40R19、275/35R20 の標準タイヤ / ホイールにはスノーチェーンを装着しないでください。

i 燃料給油フラップの裏側にタイヤ空気圧ラベルが貼付してあります。

オプションまたは仕様により、以下のタイヤ / ホイールが装着される場合があります。

	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
17 インチ アルミホイール	235/55R17	8.0 J × 17	43mm
18 インチ アルミホイール	255/45R18	8.5 J × 18	43mm
	前輪 255/45R18 後輪 275/45R18	前輪 8.5 J × 18 後輪 9.5 J × 18	43mm
19 インチ アルミホイール	255/40R19	8.5 J × 19	43mm
	前輪 255/40R19 後輪 275/40R19	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm
20 インチ アルミホイール	255/35R20	前輪 8.5 J × 20	43mm
	前輪 255/35R20 後輪 275/35R20	前輪 8.5 J × 20 後輪 9.5 J × 20	43mm

! タイヤサイズ 275/40R19、275/35R20 の標準タイヤにはスノーチェーンを装着できません。

! タイヤまたはホイールのサイズが前後で異なる車種は、タイヤローテーションを行なわないでください。

i 19 インチおよび 20 インチアルミホイール装着車のウィンタータイヤについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

ウィンタータイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット
S 350 S 550 S 550 4MATIC long S 550 long S 600 long	255/45R18 M+S	8.5 J × 18	43mm
S 350 AMG スポーツパッケージ S 550 AMG スポーツパッケージ S 550 long AMG スポーツパッケージ S 550 4MATIC long AMG スポーツパッケージ	255/40R19 M+S	8.5 J × 19	43mm
S 63 AMG S 65 AMG	255/40R19 M+S	8.5 J × 19	43mm
	前輪 255/40R19 M+S 後輪 275/40R19 M+S	前輪 8.5 J × 19 後輪 9.5 J × 19	43mm

! ウィンタータイヤのサイズは Daimler AG が指定するもので、日本国内で発売されているスタッドレスタイヤは、表記のサイズに対応していないことがあります。

! S 63 AMGまたはS 65 AMGの後輪に、タイヤサイズ275/40R19 M+Sのウィンタータイヤを装着したときは、スノーチェーンを装着しないでください。

i ウィンタータイヤやスノーチェーンについては、メルセデス・ベンツ指定サービス工場におたずねください。

応急用スペアタイヤ

車種	タイヤサイズ	ホイールサイズ	オフセット	ホイール材質	タイヤ空気圧
全車	T155/70 R19	4.5B × 19	35mm	スチールまたは軽合金	4.2bar/61psi/420kpa

! 応急用スペアタイヤにはスノーチェーンを装着しないでください。

i 応急用スペアタイヤのタイヤ空気圧は、応急用スペアタイヤのホイールに記載されています。

24 GHz レーダーセンサーシステム

24 GHz レーダーセンサーシステムは、各々の国により、それぞれの承認を必要とします。レーダーセンサーシステムが承認されていない国で走行するときは、マルチファンクションディスプレイを使用して、システムを停止しなければなりません（▷226 ページ）。

電波望遠鏡施設の周辺では、レーダーセンサーシステムは自動的に停止します。

したがって、作動中の以下のシステムは自動的に停止します。

- ディストロニック・プラス（▷234 ページ）
- アクティブブラインドスポットアシスト（▷273 ページ）
- PRE-SAFE® ブレーキ（▷66 ページ）

マルチファンクションディスプレイに、レーダーセンサーシステムが停止していることが表示されます（▷227 ページ）。

さらに BAS プラス（▷60 ページ）も機能しません。

マルチファンクションディスプレイを使用して、レーダーセンサーシステムを解除することもできます（▷226 ページ）。

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの周辺距離
日本	野辺山 長野県南佐久郡南牧村 野辺山 462-2	北緯 35° 56’ 40.9”	東経 138° 28’ 23.2”	約 8 km
	水沢 岩手県奥州市水沢区 星が丘町 2-12	北緯 39° 08’ 01”	東経 141° 07’ 57”	約 14 km
	入来 鹿児島県薩摩川内市入来町 浦之名 4018-3	北緯 31° 44’ 52”	東経 130° 26’ 24”	約 11 km
	小笠原 東京都小笠原村父島字旭山	北緯 27° 05’ 31”	東経 142° 13’ 00”	約 1 km
	石垣島 沖縄県石垣市登野城嵩田 2389-1	北緯 24° 24’ 44”	東経 124° 10’ 16”	約 2 km
	鹿嶋 茨城県鹿嶋市平井 893-1	北緯 35° 57’ 21”	東経 140° 39’ 36”	約 15 km
	苫小牧 北海道苫小牧市字高丘	北緯 42° 40’ 25”	東経 141° 35’ 49”	約 17 km
	岐阜大学 岐阜市柳戸 1-1	北緯 35° 28’ 03”	東経 136° 44’ 14”	約 13 km
	鹿児島大学 鹿児島県鹿児島市平川町	北緯 31° 28’ 04”	東経 130° 30’ 18”	約 5 km
	国土地理院 茨城県つくば市北郷 1	北緯 36° 06’ 11”	東経 140° 05’ 20”	約 20 km
	臼田 長野県佐久市上小田切 字大曲 1831-6	北緯 36° 07’ 57”	東経 138° 21’ 46”	約 6 km
	山口大学 山口県山口市仁保中郷 123	北緯 34° 12’ 58”	東経 131° 33’ 26”	約 3 km

国名	施設名	地理緯度	地理経度	施設からの周辺距離
日本	日立 茨城県日立市十王町大字伊師字加幸沢 3866	北緯 36°　41’　51”	東経 140°　41’　32”	約 20 km
	高萩 茨城県高萩市大字石滝字呉坪 650	北緯 36°　41’　54”	東経 140°　41’　40”	約 20 km
	内之浦 鹿児島県肝属郡肝付町南方 1791-13	北緯 31°　15’　16”	東経 131°　04’　42”	約 20 km

対象モデル

S 350 BlueEFFICIENCY
HYBRID
S 550 BlueEFFICIENCY
HYBRID long
S 550 BlueEFFICIENCY long
S 550 4MATIC BlueEFFICIENCY long
S 600 long
S 63 AMG long
S 65 AMG long

※この取扱説明書の内容は、2011 年 11 月現在のものです。

総輸入元
メルセデス・ベンツ日本株式会社
〒106-8506 東京都港区六本木一丁目9番9号 六本木ファーストビル

環境保護のため、この取扱説明書は再生紙を使用致しました。

MBJCSD 32180-111101500 P
6515 2374 20 ÄJ2011-2a, 11/11